EPSON
EXCEED YOUR VISION

取扱説明書

ビジネスプロジェクター

EB-755F
EB-750F
EB-735Fi
EB-725Wi
EB-725W

目次

マニュアル中の表示の意味 8

マニュアルの使い方と情報の探し方 10
キーワードで検索する 10
しおりから直接ジャンプする 10
必要なページだけ印刷する 10
ドキュメント類の最新バージョンを入手する 11

プロジェクターを使用する前に 12

本機の特長 13
長寿命のレーザー光源 13
インタラクティブ機能 13
かんたん投写 14
柔軟な接続性 14
コンピューターと接続する 14
モバイルデバイスと接続する 15
展示スペースで投写 16
プロジェクターの各部名称と働き 17
プロジェクターの各部名称 - 前面/側面 17
プロジェクターの各部名称 - 上面/側面 18
プロジェクターの各部名称 - 背面 19
プロジェクターの各部名称 - 底面 21
プロジェクターの各部名称 - 操作パネル 21
プロジェクターの各部名称 - リモコン 23
プロジェクターの各部名称 - インタラクティブペン 25
プロジェクターの各部名称 - ペンスタンド 26
プロジェクターの各部名称 - タッチユニット 27
磁石を搭載した製品を安全にお使いいただくために 28

プロジェクターを準備する 29

プロジェクターの設置 30
プロジェクターの設置・取り付け 32
インタラクティブ機能を使用するとき 33
タッチユニットを設置する 34
プロジェクターを接続する 35
コンピューターを接続する 35
コンピューターケーブルを接続して映像と音声を出力する 35
USBケーブルを接続して映像と音声を出力する 36
HDMIケーブルを接続して映像と音声を出力する 37
ウォールプレートに設置したミニPCを接続する 38
インタラクティブ機能を使うためにコンピューターを接続する 39
ビデオ機器を接続する 40
HDMIケーブルで接続する 40
コンポジットケーブルで接続する 40
USB機器を接続する 41
USB機器のデータを投写する 41
USB機器を接続する 42
USB機器を取り外す 42
書画カメラを接続する 42
プリンターを接続する 42
外部機器を接続する 43
VGAモニターを接続する 43
外部スピーカーを接続する 44
マイクを接続する 44
複数台のプロジェクターを接続する 45
リモコンに電池を取り付ける 47
インタラクティブペンに電池を取り付ける 48
リモコンを操作する 49

プロジェクターの基本機能を使用する 50

プロジェクターの電源を入れる 51
ホーム画面 52

プロジェクターの電源を切る 54
日時を設定する 55
メニューの言語を選択する 57
設置モードを選択する 58
リモコンで 設置モードを変更する 58
メニューから設置モードを変更する 58
スクリーンタイプを設定する 60
映像の位置を調整する（スクリーン位置） 60
ピントを調整する 62
映像の高さを調整する 65
映像の形状を補正する 66
台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する 66
Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する 67
湾曲補正で映像のゆがみを補正する 70
ポイント補正で映像のゆがみを補正する 72
保存したメモリーを呼び出す 75
コーナーマーカーを使用して映像のゆがみを補正する 75
ワイド・テレボタンで映像の大きさを調整する 77
映像の位置を調整する 78
投写映像を切り替える 79
映像のアスペクト比を設定する 81
映像のアスペクト比を切り替える 81
アスペクトモードの種類 81
各アスペクトモードの投写イメージ 82
映像を最適化する（カラーモード） 85
カラーモードを変更する 85
カラーモードの種類 85
映像の光量を調整する 86
映像の色合いを調整する 88
色相、彩度、明度を調整する 88
ガンマを調整する 89
映像の解像度を調整する 92
明るさを設定する 94
残り時間目安の見方 95
光源の使用時間 96
音量ボタンで音量を調整する 97

インタラクティブ機能を使用する 98

インタラクティブ機能でできること 99
インタラクティブ機能をご使用になる前に 101
インタラクティブ機能を安全にお使いいただくために 101
インタラクティブペンを使う 101
指を使って操作する 103
指での操作を安全に行っていただくために 105
ホワイトボードとして使用する（ホワイトボードモード） 106
ホワイトボードモードを安全にお使いいただくために 106
ホワイトボードモードを開始する 106
ホワイトボードモードのツールバー 107
ホワイトボードモードに画像を挿入する 111
ホワイトボードモードで読み込めるファイル形式 112
投写映像に描画する（アノテーションモード） 113
アノテーションモードを開始する 113
アノテーションモードのツールバー 114
描画した内容を共有する 117
描画した内容をメールで送信する 117
アドレス帳を作成する 119
利用可能なディレクトリーサービス 119
描画内容を保存する 120
ホワイトボードモードで保存できるファイル形式 121
描画した内容を印刷する 122
印刷可能なプリンター（ホワイトボードモード） 123

投写画面でコンピューターを操作する（マウス操作） 124
マウス操作機能の動作条件 124
Easy Interactive Driverをインストールする（Macのみ） 125
マウス操作機能を使う 125
ペン操作エリアを調整する 126
書画カメラを操作する 129
SDカードビューワー 129
ネットワーク経由で接続している機器の映像を投写する 130
ネットワーク経由でインタラクティブ機能を利用する 132
サブネットの異なる場所にあるプロジェクターに接続する際のご注意 132
ホワイトボードと画面を分割する 133

プロジェクターの便利な機能 134

複数の映像を同時に投写する 135
画面分割投写できない入力ソースの組み合わせ 137
画面分割投写中の制限事項 137
PC Free機能で投写する 138
サポートファイル形式 138
PC Free使用時の注意事項 139
PC Freeのスライドショーを開始する 140
PC Freeで動画を投写する 142
PC Freeの表示オプション 143
コンテンツ再生モードで投写する 144
コンテンツ再生モードに切り替える 144
プレイリストを再生する 145
Epson Web Controlを使ってプレイリストを作成する 146
映像に効果を加える（エフェクト機能） 148
コンテンツ再生モードの制限事項 149
映像と音声を一時的に遮断する 150
映像を一時的に停止する 151
画面の一部を拡大表示する 152
ユーザーロゴを設定する 153
ユーザーパターンを登録する 155
プロジェクターの設定をメモリーに保存する 157
複数台のプロジェクターから投写する（マルチプロジェクション機能） 158
プロジェクターのID設定 158
プロジェクターにIDを設定する 159
操作対象のプロジェクターIDをリモコンで選択する 159
ユニフォーミティーを調整する 160
映像のつなぎ目を補正する 162
カラーマッチングを調整する 163
黒レベルを調整する 165
黒レベル補正領域を調整する 166
RGBCMYを調整する 167
映像を切り出して表示する 169
セキュリティー機能 171
パスワードプロテクトの種類 171
パスワードを設定する 171
パスワードプロテクトの種類を設定する 172
パスワードを入力する 173
操作パネルのボタン操作を制限する 174
操作ボタンロックを解除する 175
セキュリティーケーブルを取り付ける 175

ネットワーク上のプロジェクターを使用する 176

有線LANでの映像投写 177
有線LANに接続する 177
有線LANを設定する 177
無線LANでの映像投写 181
内蔵の無線LANユニットを安全にお使いいただくために 181

さまざまなネットワーク投写に対応した接続方法 181
無線LANユニットを取り付ける 182
プロジェクターの無線LANを設定する 183
Windowsで無線LANを設定する 186
Macで無線LANを設定する 187
無線LANのセキュリティーを設定する（シンプルAPモード） 187
無線LANのセキュリティーを設定する（インフラストラクチャーモード） 187
サポートするクライアント・CA証明書の一覧 189
QRコードを使用してモバイルデバイスに接続する 190
USBキーを使って接続する（Windowsのみ） 190
モバイルデバイスからのワイヤレス投写（Screen Mirroring） 192
Screen Mirroringを設定する 192
Miracast機能を使ってScreen Mirroring接続する 194
Windows 10でScreen Mirroring接続する 195
Windows 8.1でScreen Mirroring接続する 195
セキュアHTTP 197
メニューからWebサーバー証明書を設定する 197
サポートするWebサーバー証明書の一覧 198
画面共有 199
共有された画面を受信する 199
共有された画面に描画する 199

プロジェクターを監視および制御する 201

Epson Projector Management 202
Webブラウザーを使ってネットワークプロジェクターを制御する 203
Web Controlの画面一覧 204
Webブラウザーで証明書を設定する 212
メールでプロジェクターの異常を通知する 213
異常通知メールの見方 213
SNMPを使ってプロジェクターを監視する 214
ESC/VP21コマンドを使用する 215
ESC/VP21コマンドリスト 215
ケーブル配線 215
PJLinkについて 216
Art-Netチャンネル定義 217
Crestron Connectedについて 220
Crestron Connectedを設定する 220
プロジェクターのイベントスケジュールを設定する 222

メニューの設定 225

プロジェクターメニューを操作する 226
ソフトキーボードを操作する 227
ソフトキーボードで入力可能な文字 227
映像調整メニュー 228
信号入出力メニュー 231
設置メニュー 234
表示メニュー 237
動作メニュー 239
管理メニュー 242
Event ID一覧 244
ネットワークメニュー 246
ネットワーク設定メニュー 246
ネットワーク設定 - 無線LANメニュー 247
ネットワーク設定 - 有線LANメニュー 250
ネットワーク設定 - メール通知メニュー 251
ネットワーク設定 - プロジェクター制御メニュー 251

ネットワーク設定 - ネットワーク投写メニュー 253
ペン/指タッチメニュー 255
インタラクティブメニュー 257
インタラクティブ - プリントメニュー 258
インタラクティブ - 保存メニュー 258
インタラクティブ - メールメニュー 259
インタラクティブ - ディレクトリーメニュー 260
マルチプロジェクションメニュー 262
メモリーメニュー 264
節電メニュー 265
初期・全体設定メニュー 266
メニュー設定を別のプロジェクターにコピーする（一括設定機能） 267
USBメモリーを使って一括設定する 267
コンピューターを使って一括設定する 268
一括設定でエラーが発生したときは 269

プロジェクターをメンテナンスする 270

プロジェクターのメンテナンス 271
投写窓を清掃する 272
障害物検知センサーを清掃する 273
本機を清掃する 274
エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする 275
エアフィルターを清掃する 275
エアフィルターを交換する 276
インタラクティブペンのペン先を交換する 279
ソフトペン先を交換する 279
ハードペン先に交換する 280
ファームウェアを更新する 281
USBストレージを使ってファームウェアを更新する 281
コンピューターとUSBケーブルを使ってファームウェアを更新する 282

困ったときに 285

トラブルの対処方法 286
インジケーターの見方 287
映像や音声に関するトラブル 290
映像が表示されない 290
USB Displayの映像が表示されない 290
「映像信号が入力されていません」というメッセージが表示される 291
Windowsのノートパソコンから映像を出力する 291
Macのノート型コンピューターから映像を出力する 292
「この信号は本プロジェクターでは受けられません」というメッセージが表示される 292
映像の一部が表示されない 292
映像がゆがむ 293
映像にノイズが入る、乱れる 293
映像がぼやける 294
映像の明るさや色合いが違う 294
映像に残像が残る（焼き付き） 295
音が出ない、小さい 295
マイクの音が出ない 296
PC Freeで画像ファイル名が正しく表示されない 296
プロジェクター、リモコンの操作に関するトラブル 297
電源が入らない、予期せず切れる 297
リモコンで操作できない 297
パスワードが入力できない 298
「時刻を保持する電池残量が低下しています」というメッセージが表示される 298
インタラクティブ機能に関するトラブル 299
「Easy Interactive Functionにエラーが発生しました。」というメッセージが表示される 299

インタラクティブペンが動作しない 299
投写画面上でコンピューターを操作できない 300
インタラクティブペンの位置が正しくない 300
インタラクティブペンの反応が遅い、使いにくい 300
指タッチ操作がうまくできない 301
キャプチャー、貼り付け、印刷、保存、スキャンができない 301
ホワイトボードで時刻の設定が正しくない 302
ホワイトボードが表示されない 302
コンテンツ再生モードに関するトラブル 303
ネットワークに関するトラブル 304
無線LAN認証できない 304
Webブラウザーを使って設定を変更できない 304
異常が起きたときにメール通知されない 304
ネットワーク経由で投写した映像が乱れる 305
Screen Mirroringで接続できない 305
Screen Mirroringソースを2系統使用できない 305
Screen Mirroringの映像・音声が乱れる 306
共有画面を受信できない 306
HDMIリンクで操作できない 307

付録 308

オプション・消耗品一覧 309
スクリーン 309
ケーブル 309
設置用金具 309
インタラクティブ用オプション 310
外付けオプション 310
消耗品 310
無線LAN用オプション 310
使用可能な旧オプション品 310
スクリーンサイズと投写距離 312
対応解像度 315
本機仕様 321
接続端子 322
外形寸法図 324
USB Displayのシステム要件 326
Easy Interactive Driverシステム動作条件 327
安全規格対応シンボルマークと説明 328
レーザー製品を安全にお使いいただくために 330
レーザー警告ラベル 330
用語解説 331
一般のご注意 333
使用限定について 333
本機を日本国外へ持ち出す場合の注意 333
瞬低（瞬時電圧低下）基準について 333
JIS C 61000-3-2適合品 333
表記について 333
商標について 334
ご注意 334
著作権について 335

マニュアル中の表示の意味

安全に関する表示

本製品および取扱説明書には、製品を安全にお使いいただくために絵表示が使われています。

人体への危害や財産への損害を防ぐために、次の絵表示で表記された説明は、内容をよくお読みいただいた上で、説明に従ってお取り扱いください。

⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する表示

注意	注意して取り扱わないと、本機の故障や損傷の原因となるおそれがある内容を記載しています。
	知っておくと便利な関連情報を記載しています。
【ボタン名】	リモコンまたは操作パネルのボタン名称を示しています。 例：【戻る】ボタン
［メニュー/設定名］	プロジェクターのメニューや設定の名称を示しています。 例： ［画質］メニューを選択する ☛ ［画質］ > ［アドバンスト］
▸▸	関連事項を記載しているページを示しています。
☛	プロジェクターのメニューの階層を示しています。

▸▸ 関連項目

- 「マニュアルの使い方と情報の探し方」 p.10

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

PDFマニュアルでは、探したい情報のキーワードから該当箇所を検索したり、しおりから直接ジャンプしたりすることができます。また、必要なページだけ印刷することもできます。ここでは、PDFマニュアルをコンピューターのAdobe Reader Xで開いた場合の使い方を説明します。

関連項目

- 「キーワードで検索する」 p.10
- 「しおりから直接ジャンプする」 p.10
- 「必要なページだけ印刷する」 p.10

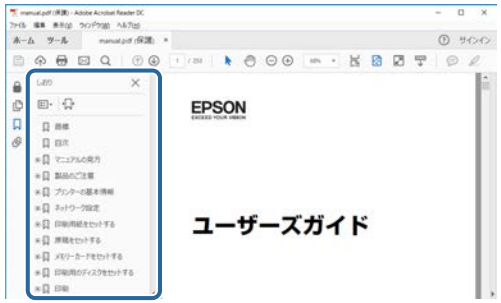
キーワードで検索する

［編集］メニューの［高度な検索］をクリックします。検索ボックスに探したい情報のキーワード（語句）を入力して、［検索］をクリックします。キーワードの該当箇所が一覧で表示されます。表示された文字列をクリックすると、該当ページにジャンプします。

しおりから直接ジャンプする

タイトルをクリックするとそのページにジャンプします。［+］または［>］をクリックすると下の階層のタイトルが表示されます。ジャンプ前のページに戻りたいときは、キーボードで以下の操作をします。

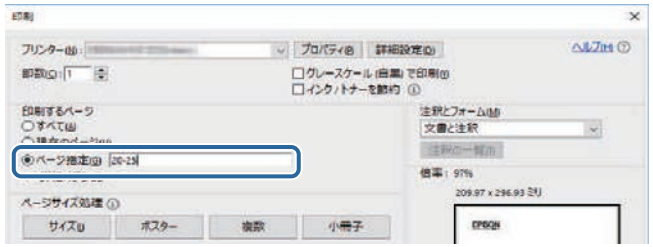
- Windows：［Alt］キーを押したまま［←］キーを押します。
- Mac OS：commandキーを押したまま［←］キーを押します。



必要なページだけ印刷する

紙で読みたいページだけを抜き出して印刷できます。［ファイル］メニューの［印刷］をクリックして、［印刷するページ］の［ページ指定］で印刷したいページを指定します。

- 連続したページの指定は、開始ページと終了ページの間にハイフンを入れます。
  例：20-25
- 連続していない複数ページの指定は、ページをカンマで区切ります。
  例：5,10,15



ドキュメント類の最新バージョンを入手する

説明書や仕様書の最新バージョンは、EPSONのWebサイトからダウンロードできます。

epson.jp/lcp/doc/にアクセスし、機種名を入れてください。

プロジェクターを使用する前に

本機の特長と各部の名称について説明します。

関連項目

- 「本機の特長」 p.13
- 「プロジェクターの各部名称と働き」 p.17

本機は、すばやく簡単に投写準備をすることができ、状況に応じてさまざまな機器と接続できる柔軟性を備えたプロジェクターです。各機能の特長と各部の名称について説明します。

関連項目

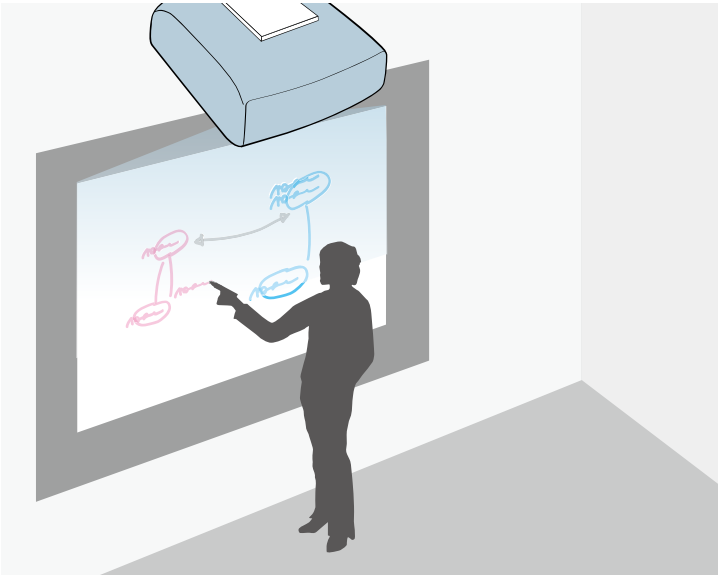
- 「長寿命のレーザー光源」 p.13
- 「インタラクティブ機能」 p.13
- 「かんたん投写」 p.14
- 「柔軟な接続性」 p.14
- 「展示スペースで投写」 p.16

長寿命のレーザー光源

レーザーダイオードを使用しているため、メンテナンスの手間が少なく、突然の光源切れによる中断のリスクを削減できます。

インタラクティブ機能

投写画面に描画などの書き込みができます（EB-735Fi/EB-725Wi）。



- 投写画面に描画できます。
- 2本のペンで同時に描画できます。
- 投写画面からプロジェクターを操作できます。
- スキャナーで読み込んだ内容を投写できます。
- コンピューターを使わずに、描画した内容をメール送信・保存・印刷できます。
- USBドライブのデータを読み込んで投写できます。
- 投写画面からコンピューターを操作できます。
- 指でも描画やコンピューターの操作ができます。 （オプションのタッチユニットが必要です。）

関連項目
- 「インタラクティブ機能を使用する」 p.98

かんたん投写

- 電源コードをコンセントに差し込むだけで本機の電源をオンにします（ダイレクトパワーオン）。
- 映像信号を検出して、自動的に本機の電源をオンにします（オートパワーオン）。
- ホーム画面を使って、入力ソースやよく使う機能を簡単に選択できます。

関連項目
- 「ホーム画面」 p.52
- 「プロジェクターの電源を入れる」 p.51

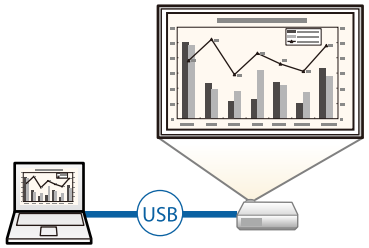
柔軟な接続性

本機はさまざまな機器と簡単に接続ができます。

関連項目
- 「コンピューターと接続する」 p.14
- 「モバイルデバイスと接続する」 p.15

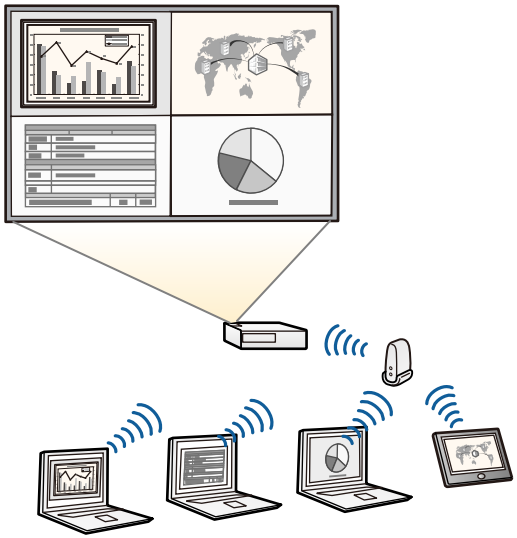
コンピューターと接続する

- USBケーブルを接続して、映像の投写と音声の出力ができます（USB Display）。



- Epson iProjection (Windows/Mac) を使うと、投写画面を分割して最大4つの画面を同時に投写できます。ネットワーク上のコンピューターの画面や、Epson iProjectionがインストールされているスマートフォンやタブレット端末内のデータを投写できます。

詳しくは、『Epson iProjection操作ガイド (Windows/Mac)』をご覧ください。



- 必要なソフトウェアおよび取扱説明書は以下のWebサイトからダウンロードできます。
  epson.jp/download

関連項目

- 「有線LANでの映像投写」 p.177
- 「無線LANでの映像投写」 p.181
- 「USBケーブルを接続して映像と音声を出力する」 p.36

モバイルデバイスと接続する

- Screen Mirroringを使うと、Miracastに対応のモバイルデバイスと本機を無線で接続します。

- Epson iProjection (iOS/Android)を使うと、本機とモバイルデバイスを無線で接続できます。Epson iProjectionはApp Store、Google Playからダウンロードできます。

App Store、Google Playへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。

- Epson iProjection (Chromebook)を使うと、本機とChromebookを無線で接続できます。Epson iProjectionは、Chromeウェブストアからダウンロードできます。

Chromeウェブストアへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。

関連項目

- 「モバイルデバイスからのワイヤレス投写（Screen Mirroring）」 p.192

展示スペースで投写

コンテンツ再生モードでは、美術館、ショールーム、店舗などでのデジタルサイネージに適した映像を投写できます（EB-755F/EB-750F）。

- コンテンツ再生モードでは、USBメモリーに保存したプレイリストを再生できます。エフェクト機能で映像の色や形を変えることもできます。
- 以下の方法で、コンテンツ再生モードで再生するプレイリストを作成できます。
  - Epson Projector Content Managerを使うと、画像や動画をプレイリストに追加して外付けデバイスに保存できます。エフェクト機能を使って投写映像の色や形を変えたり、タイムテーブルを設定することもできます。
    詳しくは『Epson Projector Content Manager操作ガイド』をご覧ください。
  - Epson Web Controlを使うと、Webブラウザーを使ってプレイリストを作成して、ネットワークプロジェクターに接続されているUSBメモリーに保存できます。エフェクト機能を使って投写映像の色や形を変えることもできます。
  - Epson Creative Projectionを使うと、iOSのモバイルデバイスでデジタルサイネージコンテンツを作成できます。プロジェクターにコンテンツをワイヤレスに転送することもできます。
    Epson Creative Projectionは、App Storeから無料でダウンロードできます。App Storeへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。

必要なソフトウェアおよび取扱説明書は以下のWebサイトからダウンロードできます。
epson.jp/download

関連項目

- 「コンテンツ再生モードで投写する」 p.144

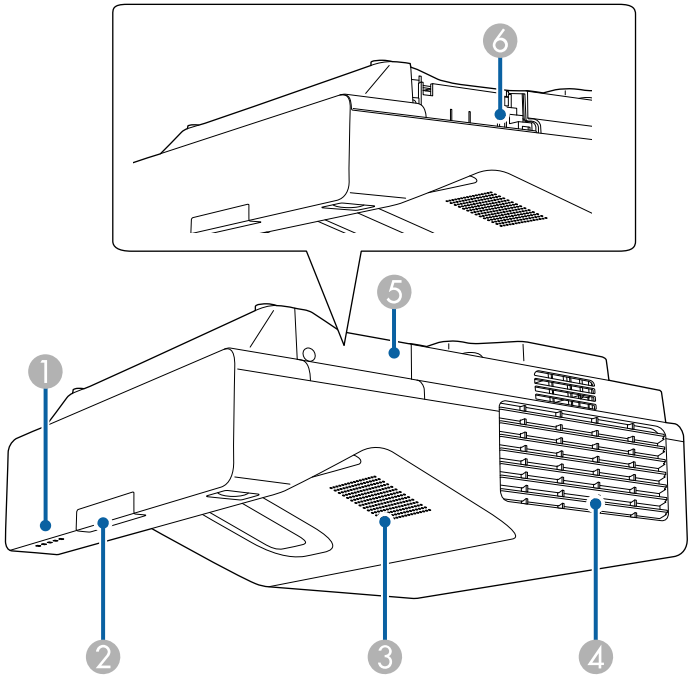
本機の各部名称とその働きについて説明します。

本書では断りがない限りEB-735Fiのイラストを用いて説明しています。

関連項目

- 「プロジェクターの各部名称 - 前面/側面」 p.17
- 「プロジェクターの各部名称 - 上面/側面」 p.18
- 「プロジェクターの各部名称 - 背面」 p.19
- 「プロジェクターの各部名称 - 底面」 p.21
- 「プロジェクターの各部名称 - 操作パネル」 p.21
- 「プロジェクターの各部名称 - リモコン」 p.23
- 「プロジェクターの各部名称 - インタラクティブペン」 p.25
- 「プロジェクターの各部名称 - ペンスタンド」 p.26
- 「プロジェクターの各部名称 - タッチユニット」 p.27
- 「磁石を搭載した製品を安全にお使いいただくために」 p.28

プロジェクターの各部名称 - 前面/側面



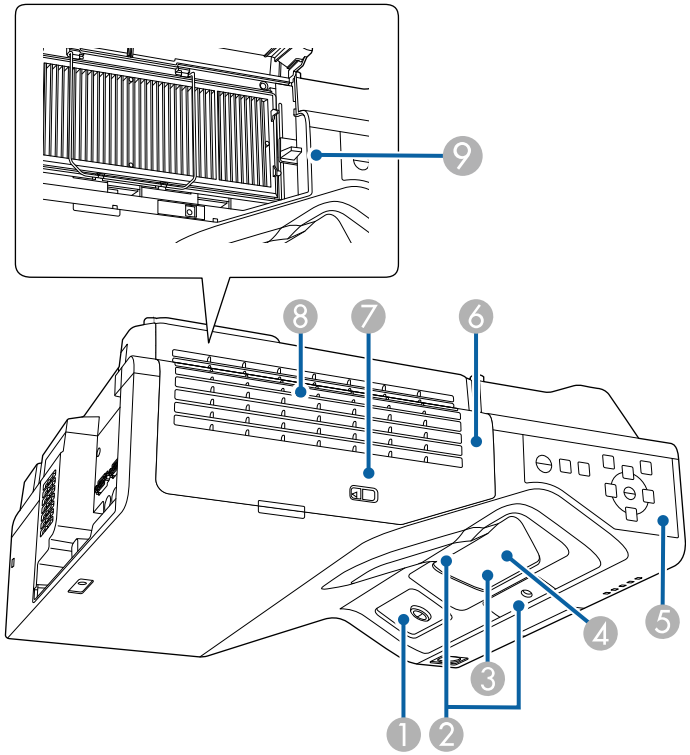
名称		働き
1	インジケーター	本機の状態を表示します。
2	リモコン受光部	リモコン信号を受信します。
3	スピーカー	音声を出力します。

名称		働き
④	排気口	本機内部を冷却した空気の吐き出し口です。 **⚠ 注意** 投写中は手や顔を排気口に近づけたり、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置かないでください。排気口から温風が出るため、やけどや変形、事故の原因となります。
⑤	無線LANユニットカバー	無線LANユニットを取り付けるときはこのカバーを開きます。
⑥	無線LANユニット装着部	オプションの無線LANユニットを装着します。 USBメモリーを接続して、エラーログや操作ログを保存します。（事前に［管理］メニューの［無線LAN電源］をオンにします。）

関連項目

- 「インジケーターの見方」 p.287

プロジェクターの各部名称 - 上面/側面



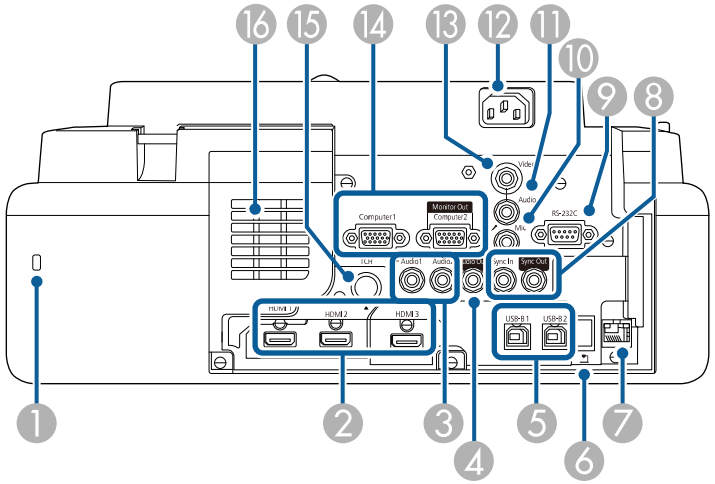
名称		働き
①	インタラクティブペン受光部（EB-735Fi/EB-725Wi）	インタラクティブペンの信号を受信します。
②	障害物検知センサー	投写窓付近の障害物を検知します。

名称		働き
❸	投写窓	ここから映像を投写します。 **⚠ 警告** • 投写中は投写窓をのぞかないでください。 • 投写窓にものを置いたり、手を近付けたりしないでください。投写光が集束するため高温になり、やけどや変形、火災の原因になります。
❹	リモコン受光部	リモコン信号を受信します。
❺	操作パネル	本機の操作をします。
❻	エアフィルターカバー	エアフィルターの清掃・交換時に開閉します。
❼	エアフィルターカバー操作つまみ	エアフィルターカバーの開閉時に操作します。
❽	吸気口（エアフィルター）	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
❾	フォーカスレバー	映像のピントを合わせます。

関連項目

- 「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 p.275
- 「プロジェクターの各部名称 - 操作パネル」 p.21
- 「インタラクティブペンを使う」 p.101
- 「ピントを調整する」 p.62

プロジェクターの各部名称 - 背面



名称		働き
❶	セキュリティースロット	Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティーシステムに対応したセキュリティースロットです。
❷	HDMI1/HDMI2/HDMI3端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。 この端子はHDCP2.3に対応しています。
❸	Audio 1/Audio 2端子	Audio 1：Computer1端子に接続された機器の音声を入力します。 Audio 2：Computer2端子に接続された機器の音声を入力します。オプションの書画カメラから映像を投写するときは、この端子から入力した音声が出力されます。
❹	Audio Out端子	投写中の入力ソースの音声を外部スピーカーに出力します。

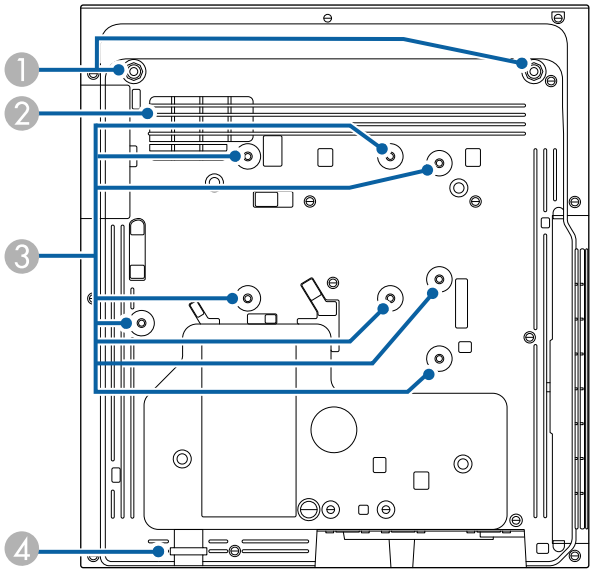
名称		働き
⑤	USB-B1/USB-B2端子（EB-735Fi/EB-725Wi） USB-B端子（EB-755F/EB-750F/EB-725W）	USB-B1：USBケーブルでコンピューターと接続して、インタラクティブペンでマウス操作をします。 USBケーブルでコンピューターと接続して、映像を投写します。（事前に［信号入出力］メニューの［USB Display］をオンにします。） USB-B2：USBケーブルでミニPCなど常設のコンピューターと接続して、インタラクティブ機能を使用します。この端子を使用するときは、［ペン/指タッチ］メニューの［USB-B2］で、映像を入力する端子を設定してください。 ☛ ［ペン/指タッチ］ > ［PC操作］ > ［USB-B2］ USB-B：USBケーブルでコンピューターと接続して、映像を投写します。
⑥	USB-A端子	USBメモリーやデジタルカメラを接続して、動画や画像をPC Freeまたはコンテンツ再生モード（EB-755F/EB-750Fのみ）で投写します。 オプションの書画カメラを接続します。 USBメモリーを接続して、エラーログや操作ログを保存します。 無線LANユニットを取り付けることはできません。
⑦	LAN端子	LANケーブルを接続して、ネットワークに接続します。
⑧	SYNC IN/OUT端子（EB-735Fi/EB-725Wi）	同じ部屋で本機を2台以上設置してインタラクティブ機能を使用するときに、オプションのワイヤードリモコンケーブルでプロジェクター同士を接続します。接続するとインタラクティブペンの動作が安定します。
⑨	RS-232C端子	RS-232Cケーブルを接続して、コンピューターから本機を制御します。（制御用の端子で通常は使用しません。）

名称		働き
⑩	Mic端子（EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W）	マイクの音声を入力します。
⑪	Audio端子	Video端子に接続された機器の音声を入力します。
⑫	電源端子	電源コードを接続します。
⑬	Video端子	ビデオ機器のコンポジットビデオ信号を入力します。
⑭	Computer1/Computer2/Monitor Out端子	コンピューターから映像信号を入力します。 ［信号入出力］メニューの［モニター出力端子］の設定を変更すると、Computer1端子から入力しているアナログRGB信号をComputer2/Monitor Out端子から出力できます。
⑮	TCH端子（EB-735Fi/EB-725Wi）	タッチユニット接続ケーブルでタッチユニットと接続します。
⑯	吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。

関連項目

- 「プロジェクターを接続する」 p.35
- 「セキュリティーケーブルを取り付ける」 p.175

プロジェクターの各部名称 - 底面

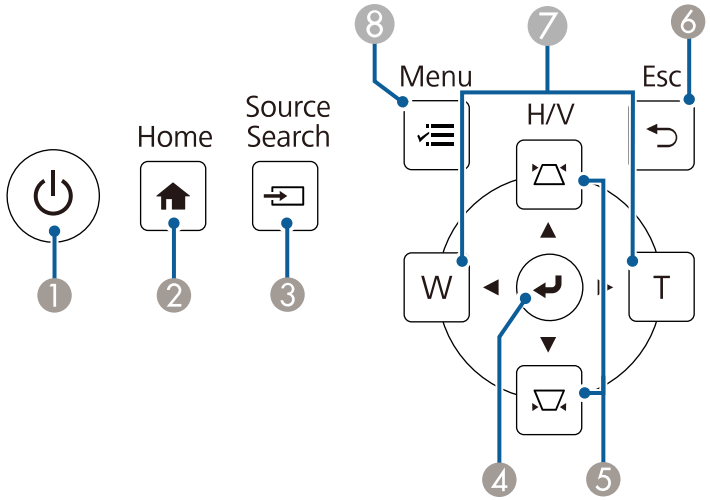


名称		働き
1	フロントフット取付け部（2箇所）	机などに置いて使用するときに、フットを取り付けます（フット同梱機種のみ）。
2	吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。 **⚠ 警告** 本機の下に布や紙などを置かないでください。投写中に本機底面の吸気口に吸着され、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
3	金具固定部（8箇所）	壁や天井に取り付けるとき、または縦置きするときは、オプションの金具またはVESA規格（100 × 100 mm）に準拠した金具をここに取り付けます。
4	セキュリティーケーブル取付け部	盗難防止用ワイヤーロックをこの部分に通して施錠します。 また、落下防止用のセーフティーワイヤーを取り付けることができます。

関連項目

- 「セキュリティーケーブルを取り付ける」 p.175

プロジェクターの各部名称 - 操作パネル



プロジェクター本体には英語の名称が印字されていますが、本書では日本語で表記しています。

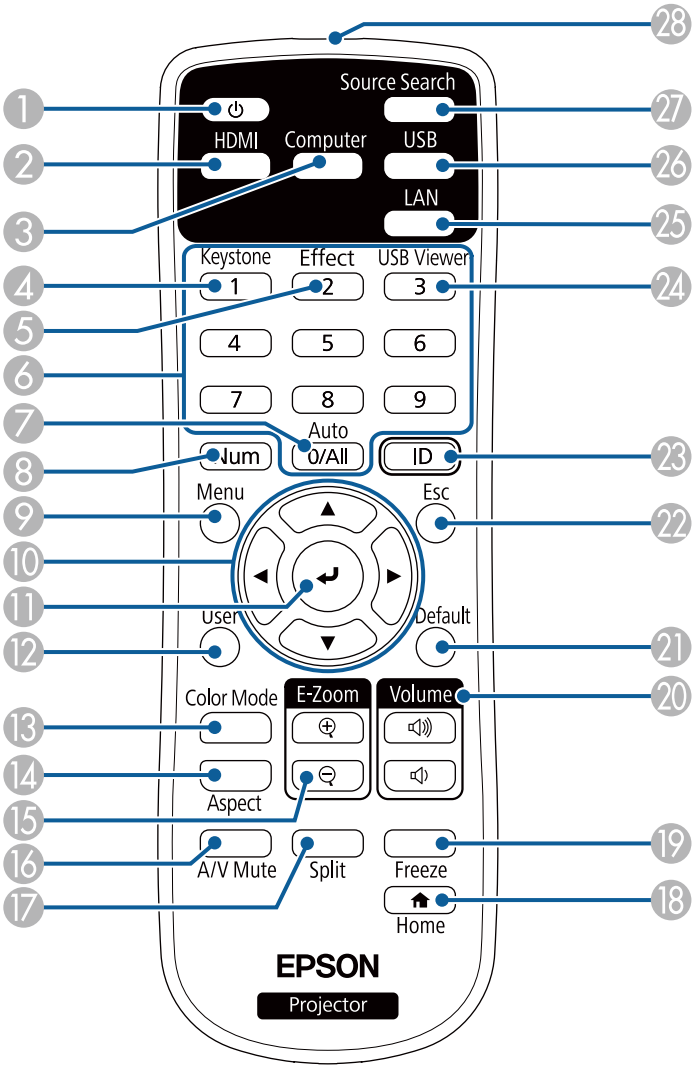
名称		働き
❶	電源ボタン 【⏻】	プロジェクターの電源をオン/オフします。
❷	【ホーム】ボタン	ホーム画面を表示/終了します。
❸	【入力検出】ボタン	映像信号が入力されている入力ソースに順番に切り替えます。
❹	【決定】ボタン【↵】	メニューの表示中に押すと、選択項目を決定して、次の階層に進みます。 Computer端子からアナログRGB信号を投写しているときに押すと、［アナログ信号調整］（［トラッキング］、［同期］、［表示位置］）の設定を最適にします。
❺	台形補正ボタン/上下ボタン	台形補正画面を表示して、タテヨコ方向の台形ゆがみを補正します。 メニューの表示中に押すと、メニュー項目を選択します。
❻	【戻る】ボタン	実行中の機能を終了します。 メニューの表示中に押すと、前のメニュー階層に戻ります。
❼	ワイド・テレ/左右ボタン	【W】：投写映像のサイズを大きくします。 【T】：投写映像のサイズを小さくします。 台形補正画面を表示中は、ヨコ方向のゆがみを補正します。 メニューの表示中に押すと、メニュー項目を選択します。
❽	【メニュー】ボタン	メニュー画面を表示/終了します。

関連項目

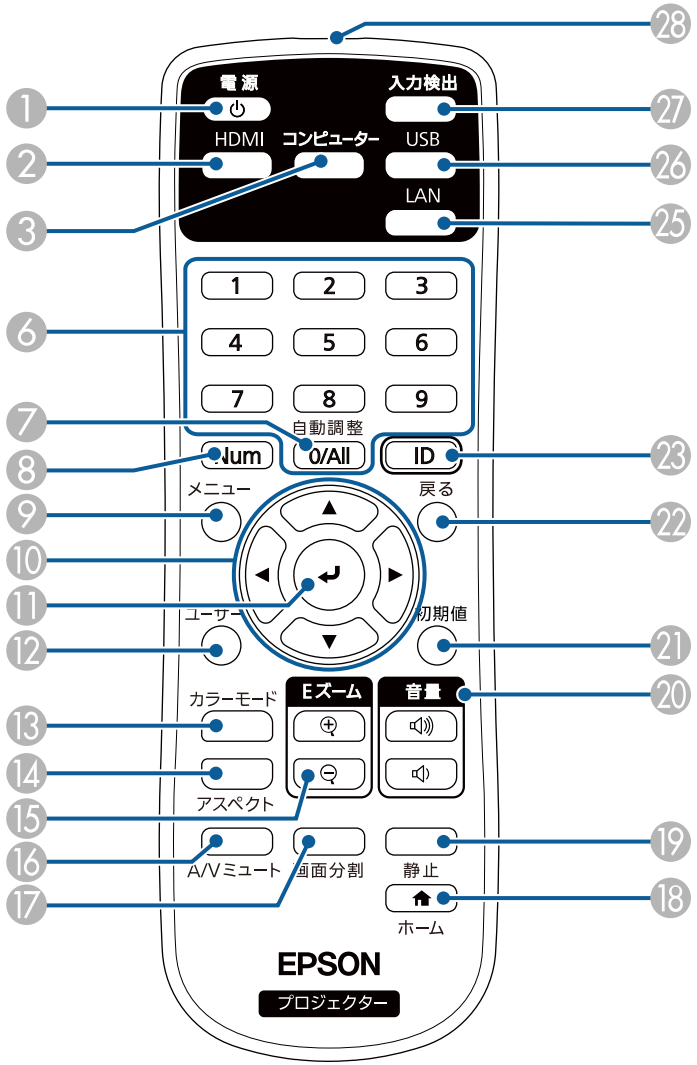
- 「ホーム画面」 p.52
- 「台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する」 p.66
- 「投写映像を切り替える」 p.79
- 「ワイド・テレボタンで映像の大きさを調整する」 p.77
- 「メニューの設定」 p.225

プロジェクターの各部名称 - リモコン

EB-755F/EB-750F



EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W



EB-755F/EB-750Fをお使いの場合、リモコン本体には（）内の名称が印字されています。

名称		働き
❶	電源ボタン【⏻】	本機の電源をオン/オフします。
❷	【HDMI】ボタン	HDMI端子からの映像に切り替えます。
❸	【コンピューター】ボタン（Computer）	コンピューター端子からの映像に切り替えます。
❹	【台形補正】ボタン（EB-755F/EB-750F）	［幾何学歪み補正］画面を表示して、投写映像のゆがみを補正します。
❺	【Effect】ボタン（EB-755F/EB-750F）	コンテンツ再生モードで［エフェクト］メニューを表示します。
❻	テンキーボタン	【Num】ボタンを押しながらテンキーボタンを押して、メニュー内で数字を入力します。 コンテンツ再生モードで、【Num】ボタンを押しながらテンキーボタンを押して、お気に入りプレイリストを再生します（EB-755F/EB-750F）。
❼	【自動調整】ボタン（Auto）	Computer端子からアナログRGB信号を投写しているときに押すと、［アナログ信号調整］（［トラッキング］、［同期］、［表示位置］）の設定を最適にします。
❽	【Num】ボタン	数字を入力するときに、このボタンを押しながらテンキーボタンを押します。
❾	【メニュー】ボタン（Menu）	メニュー画面を表示/終了します。

名称		働き
❿	上下左右ボタン	メニューの表示中に押すと、メニュー項目を選択します。
⓫	【決定】ボタン【↵】	メニューの表示中に押すと、選択項目を決定して、次の階層に進みます。
⓬	【ユーザー】ボタン（User）	［管理］メニューの［ユーザーボタン］で設定した機能を実行します。
⓭	【カラーモード】ボタン（Color Mode）	カラーモードを変更します。
⓮	【アスペクト】ボタン（Aspect）	アスペクトモードを切り替えます。
⓯	【Eズーム】+/–ボタン（E-Zoom）	投写映像のサイズを調整します。
⓰	【A/Vミュート】ボタン（A/V Mute）	映像と音声を一時的に遮断します。
⓱	【画面分割】ボタン（Split）	投写画面を分割して、最大4つの異なる機器の画面を同時に投写します。
⓲	【ホーム】ボタン（Home）	ホーム画面を表示/終了します。
⓳	【静止】ボタン（Freeze）	映像を一時停止します。
⓴	【音量】上げ/下げボタン（Volume）	スピーカーの音量を調整します。

名称		働き
㉑	【初期値】ボタン（Default）	選択した設定を初期値に戻します。
㉒	【戻る】ボタン（Esc）	実行中の機能を終了します。 メニューの表示中に押すと、前のメニュー階層に戻ります。
㉓	【ID】ボタン	リモコンで操作対象のプロジェクターのIDを選択するときに、このボタンを押しながらテンキーボタンを押します。
㉔	【USB Viewer】ボタン（EB-755F/EB-750F）	コンテンツ再生モードで［USBビューアー］を起動します。
㉕	【LAN】ボタン	ネットワーク経由で接続している機器からの映像に切り替えます。
㉖	【USB】ボタン	USB DisplayとUSB-A端子からの映像に切り替えます。
㉗	【入力検出】ボタン（Source Search）	映像信号が入力されている入力ソースに順番に切り替えます。
㉘	リモコン発光部	リモコン信号を出力します。

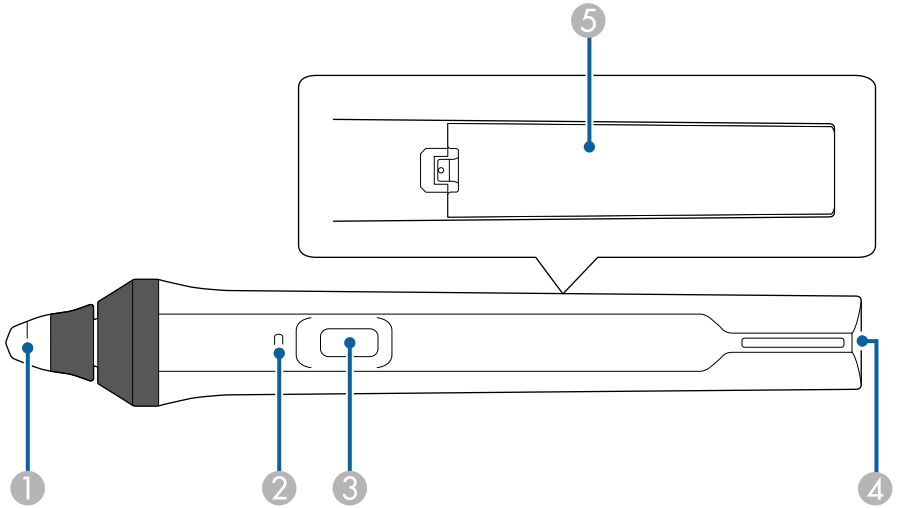
関連項目

- 「コンテンツ再生モードで投写する」 p.144
- 「映像を最適化する（カラーモード）」 p.85
- 「映像のアスペクト比を設定する」 p.81
- 「ホーム画面」 p.52
- 「投写映像を切り替える」 p.79
- 「画面の一部を拡大表示する」 p.152
- 「映像と音声を一時的に遮断する」 p.150
- 「複数の映像を同時に投写する」 p.135
- 「映像を一時的に停止する」 p.151
- 「音量ボタンで音量を調整する」 p.97
- 「プロジェクターにIDを設定する」 p.159
- 「メニューの設定」 p.225

プロジェクターの各部名称 - インタラクティブペン

インタラクティブペンはEB-735Fi/EB-725Wiにのみ同梱されています。

ペンを持つと自動で電源が入ります。使い終わったら元の場所に戻してください。ペンを置いてから15秒後に自動で電源がオフになります。



名称		働き
❶	ペン先	交換できるソフトペン先です。 投写画面によってソフトペン先が使いづらいときは、ハードペン先と交換してください。

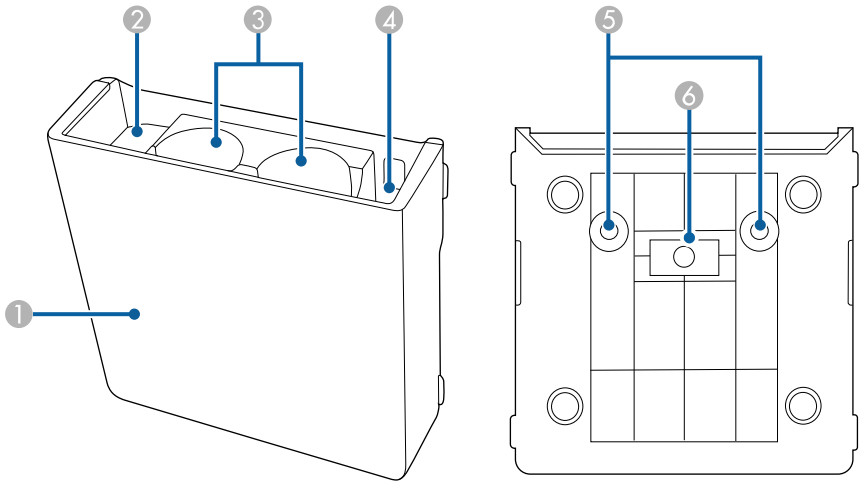
名称		働き
❷	バッテリーインジケーター	ペン側面にあるボタンを押したときに、電池残量をお知らせします。 • 電池残量がある場合は、ボタンを離すまで青色に点灯します。 • 電池残量が少ない場合は、ボタンを離すまで青色に点滅します。 • 電池残量がない場合は、点灯しません。電池を交換してください。
❸	ボタン	［インタラクティブ］メニューの［ペンボタン動作］で設定した機能を実行します。 マウス操作時に押すと、マウス操作の右クリックができます。
❹	ストラップホール	市販のストラップを取り付けるときは、この穴に通します。
❺	電池カバー	電池交換時にこのカバーを開けます。

関連項目

- 「インタラクティブペンのペン先を交換する」 p.279
- 「インタラクティブペンを使う」 p.101
- 「インタラクティブペンに電池を取り付ける」 p.48

プロジェクターの各部名称 - ペンスタンド

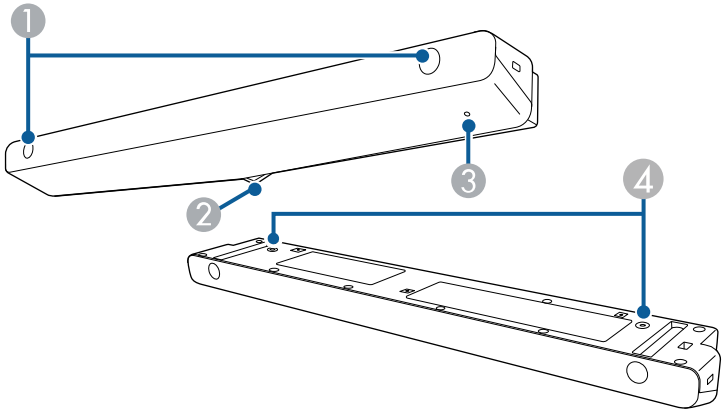
ペンスタンドはEB-735Fi/EB-725Wiにのみ同梱されています。

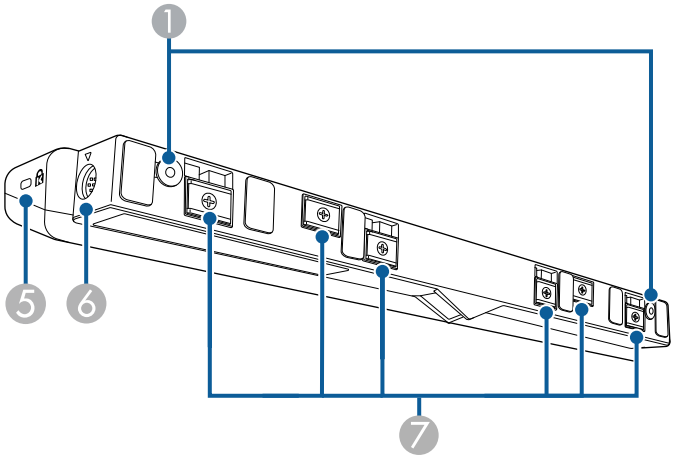


名称		働き
❶	前面カバー	壁に設置した後、カバーを取り付けます。
❷	ペン先保管スペース	ペン先をここに保管します。
❸	ペン保管スペース	ペン先が下になるように、インタラクティブペンをここに保管します。
❹	電池保管スペース	単三電池をここに保管します。
❺	ネジ穴（設置用）	ペンスタンドを固定するためのネジ穴です。
❻	設置用マグネット	設置に使うマグネットです。

プロジェクターの各部名称 - タッチユニット

タッチユニットはEB-735Fi/EB-725Wiのみのオプション品です。





名称		働き
❶	ネジ穴（設置用）	タッチユニットを固定するためのネジ穴です。 ネジ固定するときはゴムキャップを取り外します。固定後にゴムキャップを装着して、固定ネジを隠します。
❷	レーザー照射口	指の位置を検出するためのレーザーが照射されます。
❸	インジケーター	タッチユニットの電源がオンになると点灯します。
❹	ネジ穴（設置用）	机上に縦置き設置するときに、タッチユニットを市販の金具に固定するためのネジ穴です。
❺	セキュリティースロット	Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティーシステムに対応したセキュリティースロットです。
❻	TCH端子	タッチユニットとプロジェクターをタッチユニット接続ケーブルで接続します。
❼	設置用マグネット	設置に使うマグネットです。

注意

- EB-735Fi/EB-725Wi以外の機器にタッチユニットを接続しないでください。機器の故障や制限以上のレーザー光が放出される可能性があります。
- 必ず同梱のタッチユニット接続ケーブルをお使いください。市販のケーブルでは正しく動作しません。
- タッチユニットを廃棄するときは分解しないでください。国や地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

タッチユニットの設置方法、角度調整方法は本機の『設置工事説明書』をご覧ください。

関連項目

- 「指での操作を安全に行っていただくために」 p.105
- 「指を使って操作する」 p.103
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

磁石を搭載した製品を安全にお使いいただくために

ペンスタンドとタッチユニットには強力な磁石が取り付けられています。以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

⚠ 警告

心臓ペースメーカー等の医療機器を装着している方は、製品に近づかないでください。また、製品を取り扱うときは、近くに心臓ペースメーカー等の医療機器を装着している方がいないことを確認してください。電磁妨害が生じ、医療機器が誤動作する可能性があります。

⚠ 注意

- 磁気カードなどの磁気記憶媒体や、コンピューター、電子腕時計、携帯電話などの精密電子機器を製品に近づけないでください。データの破損や故障の原因となる可能性があります。
- マグネットが使える設置面に製品を設置するときは、マグネットと設置面の間に指や体の一部をはさまないようご注意ください。

プロジェクターを準備する

プロジェクターの準備方法を説明します。

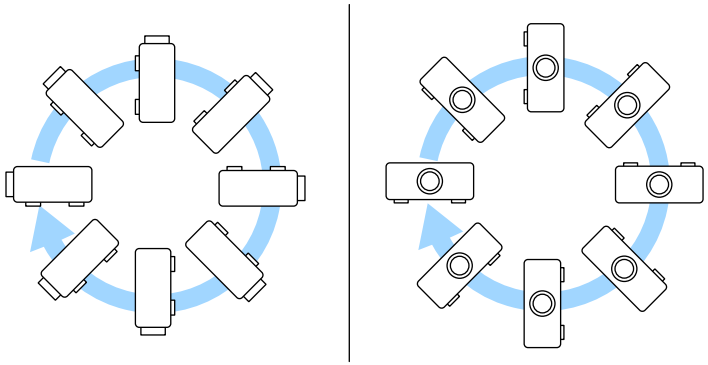
関連項目

- 「プロジェクターの設置」 p.30
- 「プロジェクターを接続する」 p.35
- 「リモコンに電池を取り付ける」 p.47
- 「インタラクティブペンに電池を取り付ける」 p.48
- 「リモコンを操作する」 p.49

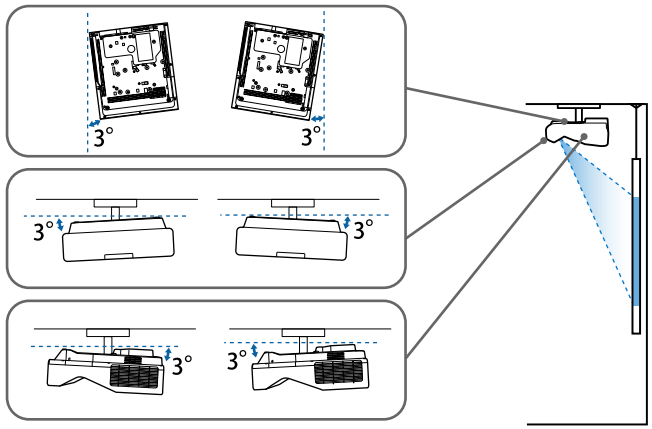
プロジェクターは、壁や天井に取り付けたり、机に置いたりして使います。

壁や天井に取り付けるとき、または縦置きするときは、オプションの金具またはVESA規格（100 × 100 mm）に準拠した金具を使用できます。

インタラクティブ機能を使用しないときは、本機はさまざまな角度で映像を投写できます。垂直、水平方向ともに設置角度に制限はありません。

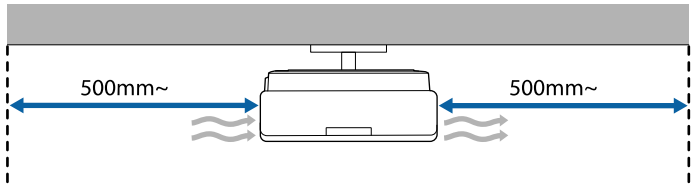


インタラクティブ機能を使用するときは、プロジェクターの設置位置に関わらず、3°以上傾けて使用しないでください（EB-735Fi/EB-725Wi）。



プロジェクターの設置位置を決めるときは、以下の点に注意してください。

- プロジェクターは水平で安定した場所に置くか、本製品に対応した金具を使用して取り付けます。
- 通気のためにプロジェクターの周囲に十分なスペースを確保します。通気の妨げになるものをプロジェクター上面や周囲に置かないでください。



- 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。

投写面に対して平行に設置できないときは、台形補正機能を使って映像を補正します。投写映像の画質を維持するためには、プロジェクターの設置位置を調整して映像サイズや形状を調整することをお勧めします。

- プロジェクターを固定の位置に設置するときは、［設置］メニューの［固定設置］をオンにします。
- プロジェクターを縦置きするときは、［設置］メニューの［縦置き］を設定してください。

⚠ 警告

- 壁や天井への取り付け工事は、特別な技術が必要となります。プロジェクターを正しく設置しないと、落下により破損やけがの原因となることがあります。
- プロジェクターの壁掛け金具用プレート固定部・その他の金具固定部に、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。プロジェクターにそれらの溶剤が付着すると、プロジェクターのケースが割れ、プロジェクターが落下するおそれがあります。
- 天吊り金具とプロジェクターの取り付け不備は、プロジェクターの落下事故につながるおそれがあります。本機に対応したエプソン指定の金具を使用し、プロジェクターの天吊り固定部全てに確実に固定してください。また、十分強度のあるワイヤーなどを使ってプロジェクターと金具を固定してください。
- 湿気やホコリの多い場所や、油煙や湯気が当たる場所（調理場所、ご家庭のキッチン、加湿器の近くなど）にプロジェクターを設置しないでください。火災・感電の原因となることがあります。また、油によりプロジェクターの外装ケースが劣化し、天吊り設置したプロジェクターが落下するおそれがあります。

  外装ケースの劣化・破損によりプロジェクターの落下が想定される環境例
  - 油煙が多い場所（工場、調理場所、ご家庭のキッチンなど）
  - 溶剤、薬品が揮発している空間（工場、実験室など）
  - 油、洗剤、薬品などが付着する場所（工場、調理場所、ご家庭のキッチンなど）
  - アロマオイルを頻繁に焚く場所（リラクゼーションルームなど）
  - イベント演出などのスモーク（油成分以外も含む）や、泡が多い場所（イベント演出装置の周辺など）

⚠ 警告

- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- ホコリや塵の多い場所で使用・保管はしないでください。投写映像の品質が劣化したり、エアフィルターにホコリが詰まって、故障や火災につながることがあります。
- 不安定な場所や荷重範囲を超える場所には設置しないでください。落下や転倒によりけがや事故の原因となります。
- 高い場所に設置するときは、地震などの非常時の安全確保と事故防止のため、ワイヤーなどを用いて落下防止策を施してください。正しく設置しないと、落下によりけがや事故の原因となります。
- 塩害が発生する場所や、温泉の硫黄ガスなどの腐食性ガスが発生する場所には設置しないでください。腐食による落下の原因となることがあります。また、本機の故障の原因となることがあります。

注意

- 本機を標高1,500 m以上の場所で使用するときは、［設置］メニューの［高地モード］を［オン］にして、本機の内部温度が適切に調節されるようにしてください。
- 湿気やホコリの多い場所、たばこなどの煙が当たる場所への設置は、できるだけ避けてください。

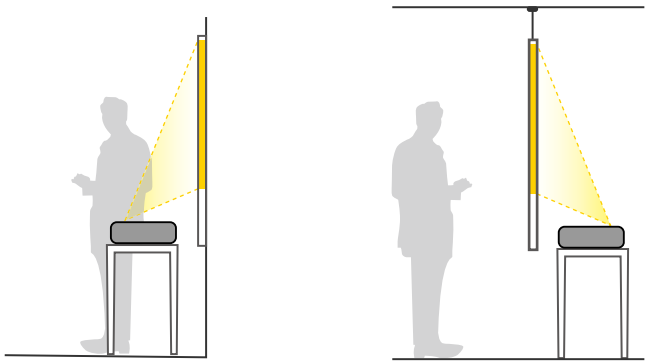
関連項目

- 「プロジェクターの設置・取り付け」 p.32
- 「インタラクティブ機能を使用するとき」 p.33

プロジェクターの設置・取り付け

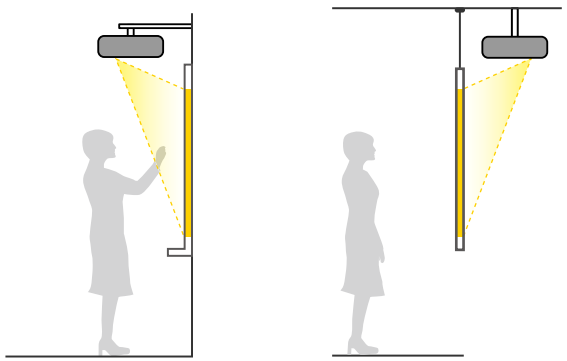
本機は以下の方法で設置・取り付けできます。

フロント/リア

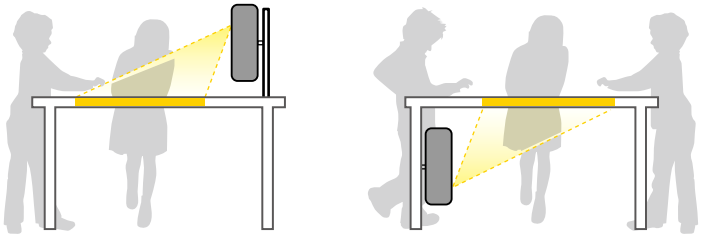


机などに置いて使用するときは、フットを取り付けます（フット同梱機種のみ）。

フロント・上下反転/リア・上下反転



フロント・上下反転/リア・上下反転（縦置き）



設置する場所や方法に合わせて、［設置］メニューで［設置モード］を選択します。必要に応じて、［動作］メニューの［方向ボタン反転］と［表示］メニューの［メニュー回転］の設定を変更してください。

- ［設置モード］の初期設定は［フロント・上下反転］です。
- リモコンの【A/Vミュート】ボタンを約5秒間押し続けると、［設置モード］を次のように切り替えることができます。
  - ［フロント］ - ［フロント・上下反転］
  - ［リア］ - ［リア・上下反転］

関連項目

- 「設置モードを選択する」 p.58

インタラクティブ機能を使用するとき

インタラクティブ機能を使用するときは、スクリーンの正面から投写します（EB-735Fi/EB-725Wi）。

［設置モード］を［フロント・上下反転］または［フロント］に設定してください。

注意

インタラクティブ機能は赤外線通信により動作します。プロジェクターを設置するときは、以下の点に注意してください。

- 3°以上傾けて設置しないでください。インタラクティブ機能が正しく動作しないことがあります。
- インタラクティブペン受光部、投写画面、本体側面、背面などに、強い光や太陽光が直接当たらないようにしてください。
- 太陽光が直接入るような窓の近くに本機を設置しないでください。インタラクティブ機能の誤動作の原因となります。
- インタラクティブペン受光部と蛍光灯の距離を離して本機を設置してください。周囲が明るすぎると、インタラクティブ機能が正しく動作しないことがあります。
- インタラクティブペン受光部にホコリが付着すると、赤外線受信の妨げとなり正常に使用できないことがあります。本機が汚れたら掃除をしてください。
- インタラクティブペン受光部のカバーには、塗装やシールの貼付けをしないでください。
- インタラクティブ機能を使用するときは、赤外線リモコンや赤外線マイクを同じ室内で使用しないでください。インタラクティブペンが誤動作することがあります。
- 回転機や変圧器など、強いノイズを発生する機器を本機に近づけないでください。インタラクティブ機能が正しく動作しないことがあります。

- 凹凸のない平らなボードタイプのスクリーンの使用をお奨めします。投写面に凹凸があると、投写画面にゆがみが生じることがあります。
- 使用するスクリーンの材質や固定方法により、投写映像にゆがみが生じることがあります。
- インタラクティブ機能を使用するときは、投写画面がゆがみのない長方形になるように設置してください。
- 同じ部屋にプロジェクターを2台以上設置してインタラクティブ機能を使用するときは、インタラクティブペンの動作が不安定になることがあります。そのときは、プロジェクター同士をオプションのワイヤードリモコンケーブルで接続して、［ペン/指タッチ］メニューの［複数台同期］を［有線接続］に変更してください。
  ☛ ［ペン/指タッチ］ > ［複数台設置］ > ［複数台同期］

関連項目

- 「タッチユニットを設置する」 p.34
- 「インタラクティブ機能を使うためにコンピューターを接続する」 p.39

タッチユニットを設置する

タッチユニットを使用するときは、次のいずれかの方法でプロジェクターを設置してください。他の方法で設置すると、タッチユニットは使用できません。

- 壁掛けまたは天吊りして、スクリーンの正面から投写する（セッティングプレートまたは市販の天吊り金具が必要です）
- 机上に縦置き設置して、机の正面から投写する（市販のテーブル投写金具が必要です）

タッチユニットの設置方法、角度調整方法は本機の『設置工事説明書』をご覧ください。

関連項目

- 「指での操作を安全に行っていただくために」 p.105
- 「指を使って操作する」 p.103
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

コンピューター、モバイルデバイス、ビデオ機器、オーディオ機器をプロジェクターに接続して、プレゼンテーション資料を投写したり、動画や画像を投写したりできます。また、音声をプロジェクターから出力することもできます。

注意
接続する前に、使用するケーブルのコネクターの形状と向きを確認してください。形状が合わないコネクターを無理に端子に押し込まないでください。お使いの機器、プロジェクターの破損や故障の原因となります。

本機に同梱されているケーブルは、『かんたん操作ガイド』で確認できます。同梱されていないケーブルは、オプション品または市販品をお買い求めください。

- USB端子、映像出力端子、またはHDMI端子を搭載したコンピューターを接続できます。
- DVDプレーヤー、ゲーム機器、デジタルカメラ、スマートフォンなどの機器を接続して、動画を投写できます。
- プレゼンテーション資料や動画に音声が入っているときは、オーディオケーブルを接続して本機から音声を出力できます。
- USB機器（USBメモリーやデジタルカメラ）、オプションのエプソン製書画カメラを接続すると、コンピューターを使用せずに映像を投写できます。

関連項目

- 「コンピューターを接続する」 p.35
- 「ビデオ機器を接続する」 p.40
- 「USB機器を接続する」 p.41
- 「書画カメラを接続する」 p.42
- 「プリンターを接続する」 p.42
- 「外部機器を接続する」 p.43
- 「複数台のプロジェクターを接続する」 p.45
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

コンピューターを接続する

プロジェクターとコンピューターを接続します。

関連項目

- 「コンピューターケーブルを接続して映像と音声を出力する」 p.35
- 「USBケーブルを接続して映像と音声を出力する」 p.36
- 「HDMIケーブルを接続して映像と音声を出力する」 p.37
- 「ウォールプレートに設置したミニPCを接続する」 p.38
- 「インタラクティブ機能を使うためにコンピューターを接続する」 p.39

コンピューターケーブルを接続して映像と音声を出力する

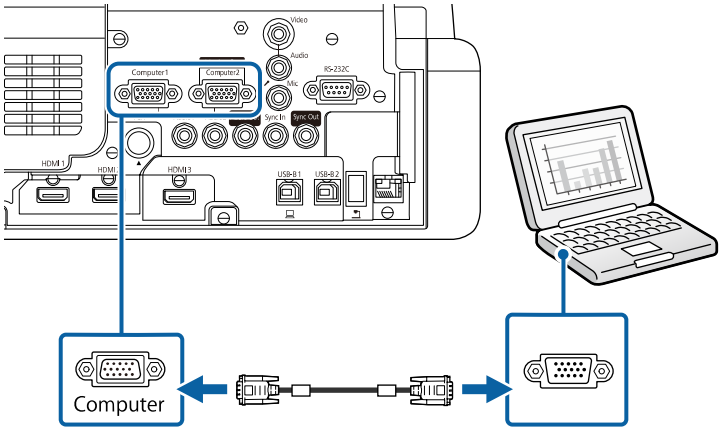
プロジェクターとコンピューターをコンピューターケーブルで接続します。

ステレオミニプラグオーディオケーブルを接続することで、本機のスピーカーから音声を出力できます。

- 映像出力用のVGA端子を搭載していないコンピューターをお使いのときは、VGA変換アダプターが必要です。
- Computer2/Monitor Out端子に接続して投写するときは、［信号入出力］メニューの［モニター出力端子］を［コンピューター2］に設定します。
- 音声入力として使用する端子は、［信号入出力］メニューの［音声出力］で設定することもできます。
- 「抵抗なし」と表記されているオーディオケーブルをお使いください。

1 コンピューターの映像出力端子にコンピューターケーブルを接続します。

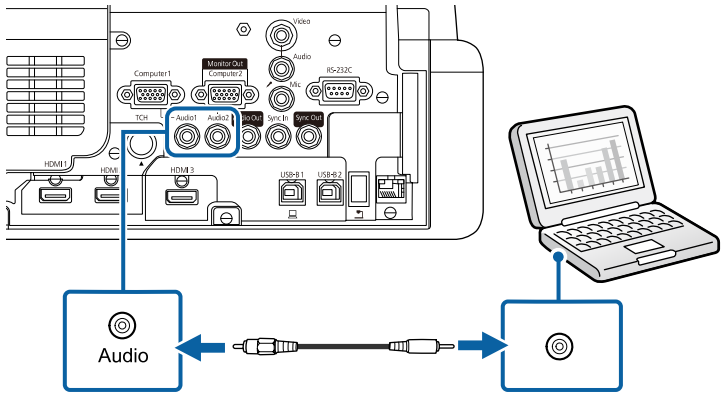
2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のComputer端子に接続します。



3 VGAコネクターのネジを締めます。

4 オーディオケーブルをコンピューターのヘッドフォン/スピーカージャックまたは音声出力端子に接続します。

5 オーディオケーブルのもう一方のコネクターを、コンピューターケーブルを接続したComputer端子に対応するAudio端子に接続します。

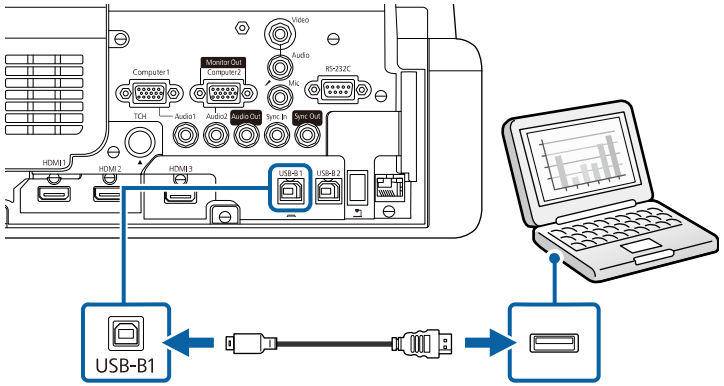


USBケーブルを接続して映像と音声を出力する

お使いのコンピューターがシステム要件を満たしている場合は、コンピューターのUSB端子から映像と音声をプロジェクターに送信できます。この機能をUSB Displayといいます。プロジェクターとコンピューターをUSBケーブルで接続します。

- USBハブを使用すると正しく動作しません。USBケーブルを直接本機に接続してください。
- USB Displayを使用するときは、［信号入出力］メニューの［USB Display］を［オン］に設定します（EB-735Fi/EB-725Wi）。

1 本機のUSB-B1またはUSB-B端子にUSBケーブルのType Bコネクターを接続します。



2 USBケーブルのTypeAコネクターをコンピューターのUSB端子に接続します。

3 本機の電源を入れます。

4 以下のいずれかの操作でドライバーをインストールします。

> 本機とコンピューターを初めてUSBケーブルで接続したときは、ドライバーのインストールが必要です。

- Windowsの場合：ダイアログボックスが表示されたら、［EMP_UDSE.EXEの実行］を選択します。
- Macの場合：Epson USB Displayのセットアップフォルダーが表示されます。［USB Display Installer］を選択して画面の指示に従います。自動的に表示されないときは、［EPSON_PJ_UD］ > ［USB Display Installer］の順にダブルクリックします。

5 画面の指示に従います。

映像が投写されるまでは、USBケーブルを抜いたり、プロジェクターの電源を切ったりしないでください。

コンピューターの映像が投写されます。映像に音声が入っているときは、音声も出力されます。

> - 映像が投写されないときは、以下のいずれかの操作を行います。
> - Windowsの場合：［すべてのプログラム］ > ［EPSON Projector］ > ［Epson USB Display］ > ［Epson USB Display Ver.x.xx］の順にクリックします。
> - Macの場合：［アプリケーション］フォルダーの［USB Display］をダブルクリックします。
> - 投写が終了したら、以下のいずれかの操作を行います。
> - Windowsの場合：USBケーブルを取り外します。［ハードウェアの安全な取り外し］を使用する必要はありません。
> - Macの場合：メニューバーまたは［Dock］の［USB Display］アイコンメニューから［切断］を選択し、USBケーブルを取り外します。

関連項目

- 「USB Displayのシステム要件」 p.326

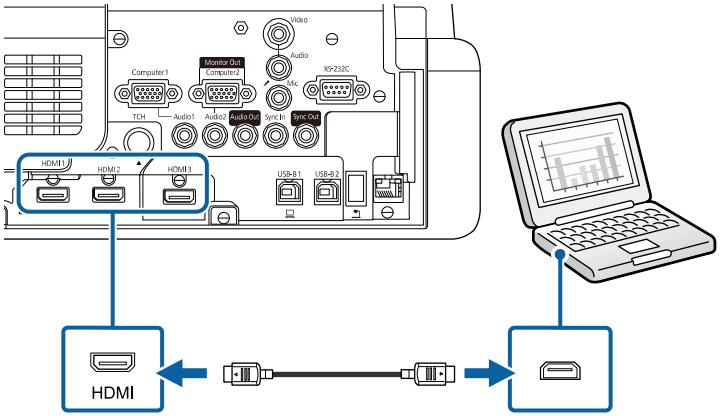
HDMIケーブルを接続して映像と音声を出力する

HDMI端子を搭載したコンピューターを使用しているときは、HDMIケーブルでプロジェクターとコンピューターを接続して映像と音声を出力できます。

映像出力用HDMI端子を搭載していないMacをお使いのときは、HDMI変換アダプターが必要です。お使いのMacに対応した変換アダプターは、Appleにお問い合わせください。2009年以前に発売されたMacは、HDMI端子からの音声出力に対応していないことがあります。

1 コンピューターのHDMI出力端子にHDMIケーブルを接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI端子に接続します。



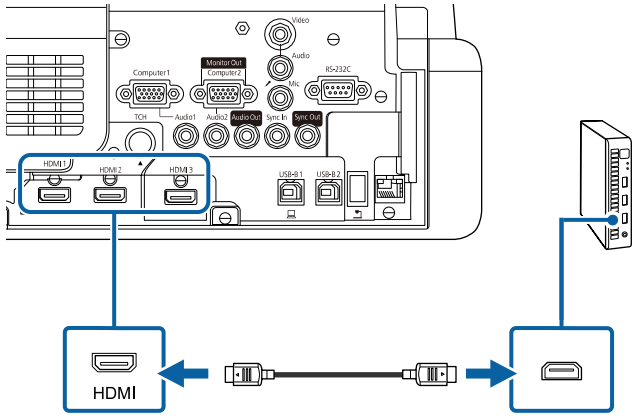
HDMI接続で出力される音声に問題があるときは、ステレオミニプラグオーディオケーブルで本機のAudio端子とコンピューターの音声出力端子を接続します。［信号入出力］メニューの［HDMI音声出力］で、接続している音声入力端子を選択します。

ウォールプレートに設置したミニPCを接続する

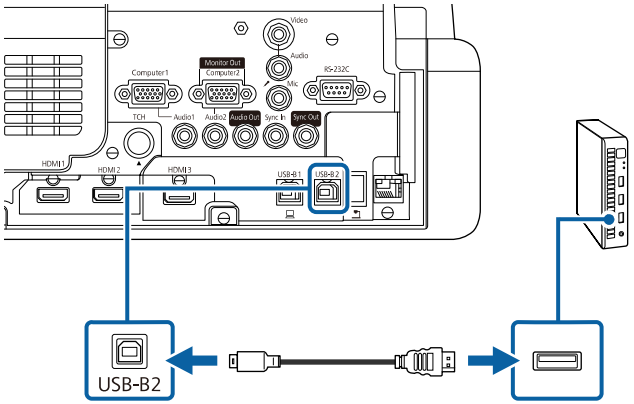
ウォールプレートに設置したミニPCをプロジェクターに接続して、常設のコンピューターとして使用します（EB-735Fi/EB-725Wi）。

注意
ミニPCの吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、故障の原因となることがあります。

1 HDMIケーブルで、ミニPCと本機のHDMI端子を接続します。



2 インタラクティブ機能を使用するときは、本機のUSB-B2端子にUSBケーブルを接続します。



3 USBケーブルのTypeAコネクターをコンピューターのUSB端子に接続します。

4 本機の電源を入れます。

5 USBケーブルを接続したときは、［ペン/指タッチ］メニューの［USB-B2］でミニPCを接続したHDMI端子を設定してください。

☛ ［ペン/指タッチ］ > ［PC操作］ > ［USB-B2］

> HDMI接続で出力される音声に問題があるときは、ステレオミニプラグオーディオケーブルで本機のAudio端子とコンピューターの音声出力端子を接続します。［信号入出力］メニューの［HDMI音声出力］で、接続している音声入力端子を選択します。

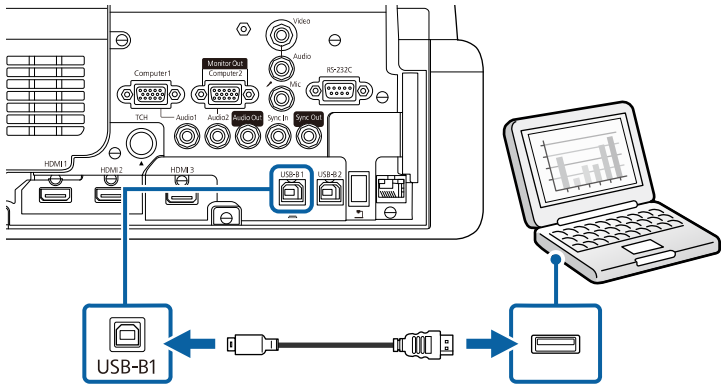
インタラクティブ機能を使うためにコンピューターを接続する

本機とコンピューターをUSBケーブルで接続すると、インタラクティブペンまたは指を使って、投写画面上でコンピューターを操作できます（EB-735Fi/EB-725Wi）。コンピューターのマウスと同じように、クリックやドラッグ＆ドロップなどができます。

> USBハブを使用すると正しく動作しません。USBケーブルを直接本機に接続してください。

1 映像信号ケーブルでコンピューターとプロジェクターを接続します。

2 本機のUSB-B1端子にUSBケーブルのType Bコネクターを接続します。



3 USBケーブルのType Aコネクターをコンピューターの USB端子に接続します。

ビデオ機器を接続する

プロジェクターにビデオ機器を接続します。

- 接続する機器の端子が特有の形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続してください。
- 使用するケーブルは、接続するビデオ機器の出力信号によって異なります。
- ビデオ機器によっては、数種類の信号を出力できます。出力できる信号の種類は、お使いのビデオ機器に同梱の取扱説明書で確認してください。

関連項目

- 「HDMIケーブルで接続する」 p.40
- 「コンポジットケーブルで接続する」 p.40

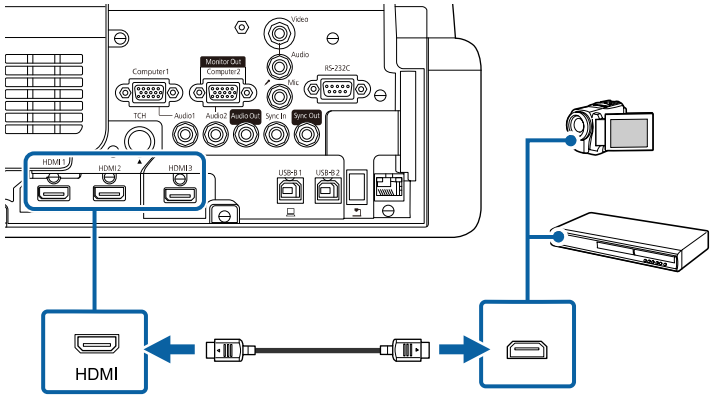
HDMIケーブルで接続する

HDMI端子を搭載したビデオ機器を使用しているときは、HDMIケーブルでプロジェクターとビデオ機器を接続して映像と音声を出力できます。

注意
あらかじめビデオ機器の電源を切ってください。ビデオ機器の電源が入った状態で接続すると、故障の原因となります。

1 ビデオ機器のHDMI出力端子にHDMIケーブルを接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI端子に接続します。



HDMI接続で出力される音声に問題があるときは、ステレオミニプラグオーディオケーブルで本機のAudio端子とビデオ機器の音声出力端子を接続します。［信号入出力］メニューの［HDMI音声出力］で、接続している音声入力端子を選択します。

コンポジットケーブルで接続する

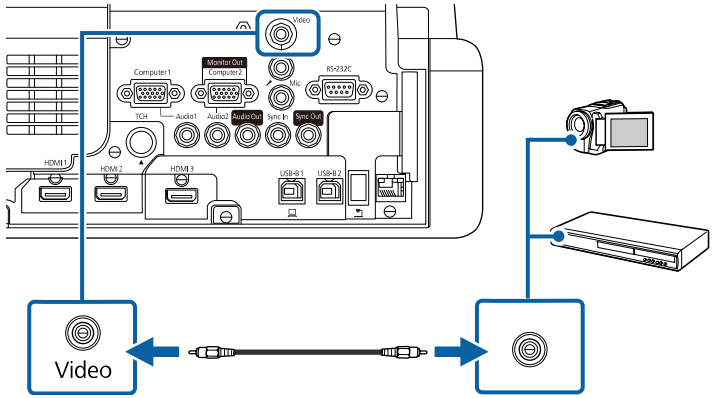
コンポジットビデオ端子を搭載したビデオ機器を使用しているときは、RCAビデオケーブルまたはA/Vケーブルでプロジェクターとビデオ機器を接続します。

ステレオミニプラグオーディオケーブルを接続することで、本機のスピーカーから音声を出力できます。

「抵抗なし」と表記されているオーディオケーブルをお使いください。

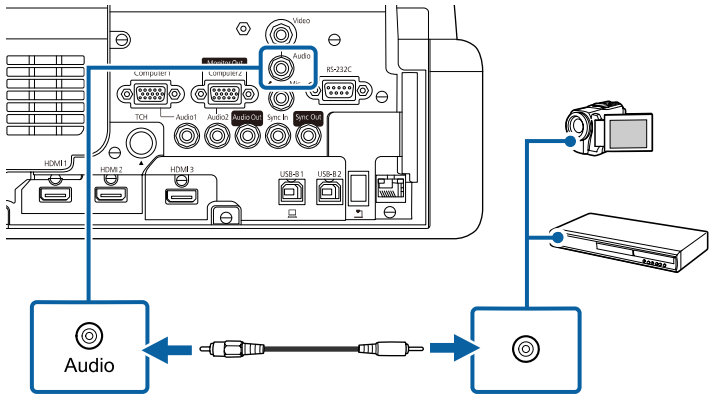
1 コンポジットケーブルの黄色のコネクターをビデオ機器のビデオ出力端子（黄）に接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のVideo端子に接続します。



3 ビデオ機器の音声出力端子にオーディオケーブルを接続します。

4 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のAudio端子に接続します。



USB機器を接続する

プロジェクターにUSB機器を接続します。

関連項目

- 「USB機器のデータを投写する」 p.41
- 「USB機器を接続する」 p.42
- 「USB機器を取り外す」 p.42

USB機器のデータを投写する

以下のUSB機器をプロジェクターに接続すると、コンピューターやビデオ機器を接続しなくても映像を投写できます。

- USBメモリー
- デジタルカメラ、スマートフォン
- USBハードドライブ

- デジタルカメラ、スマートフォンはUSBマスストレージクラスに準拠したUSB機能が搭載されている必要があります。TWAIN準拠の機器では投写できません。
- USBハードドライブは以下の要件を満たしている必要があります。
  - USBマスストレージクラスに準拠していること（対応していないUSBマスストレージクラスの機器もあります）
  - フォーマット形式がFAT16/32であること
  - USBハードドライブに付属のACアダプターから電源供給ができること（USBケーブルから電源供給を受けるハードドライブは推奨しません）
  - ハードドライブのパーティションは1つのみであること

USB機器内の映像ファイルを投写できます。

コンテンツ再生モードでは、USBメモリーにプレイリストとして保存した写真や動画を投写できます（EB-755F/EB-750F）。

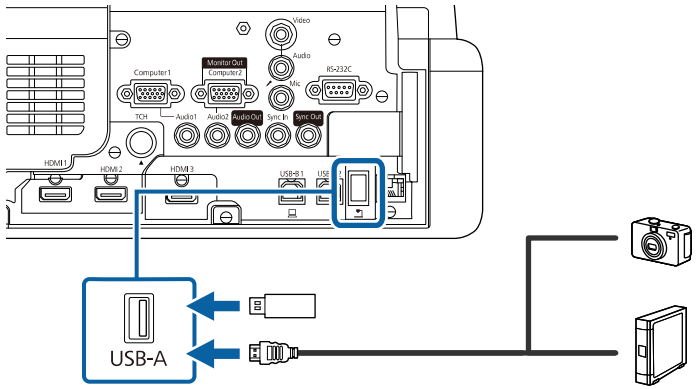
関連項目

- 「コンテンツ再生モードで投写する」 p.144
- 「PC Free機能で投写する」 p.138

USB機器を接続する

USB機器をプロジェクターのUSB-A端子に接続して、映像を投写します。

1. USB機器に電源アダプターが付属しているときは、USB機器をコンセントに接続します。
2. 本機のUSB-A端子にUSBケーブル（またはUSBメモリー）を接続します。



注意

- USB機器に付属のUSBケーブル、または指定されたUSBケーブルを使用してください。
- USBハブや長さが3メートル以上のUSBケーブルを使用しないでください。機器が正しく動作しないことがあります。

3. USBケーブルのもう一方のコネクターをUSB機器に接続します。

USB機器を取り外す

USB機器による投写が終了したら、プロジェクターから機器を取り外します。

1. USB機器の電源を切り、必要に応じて電源アダプターを抜きます。
2. プロジェクターからUSB機器を取り外します。

書画カメラを接続する

エプソン製書画カメラをプロジェクターに接続して、カメラから読み込んだ映像を投写します。

接続方法は、お使いの書画カメラの機種によって異なります。詳しくは、書画カメラの取扱説明書をご覧ください。

お使いのプロジェクターと書画カメラの機種によっては、インタラクティブ機能を使って書画カメラを操作できます。

関連項目

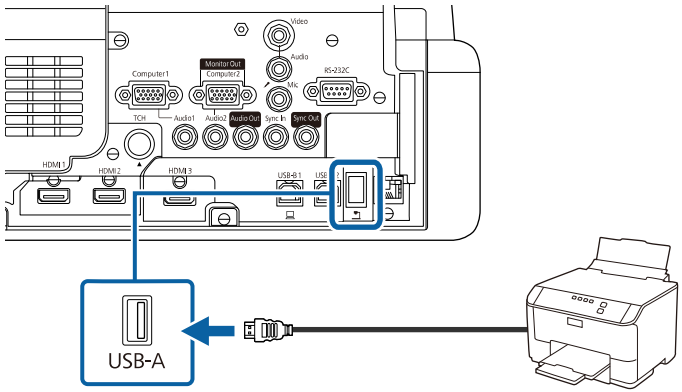
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11
- 「書画カメラを操作する」 p.129

プリンターを接続する

プロジェクターのUSB-A端子にエプソン製のプリンターや複合機を接続して、ホワイトボードの画面を印刷できます（EB-735Fi/EB-725Wi）。

- プリンターが制御コマンドの要件を満たしている必要があります。
- ［インタラクティブ］メニューの［プリント］設定で、ネットワークプリンターに接続することもできます。

1 本機のUSB-A端子にUSBケーブルを接続します。5m以下のケーブルをお使いください。



2 ケーブルのもう一方のコネクターを、プリンターのUSB-B端子に接続します。

関連項目
- 「描画した内容を印刷する」 p.122

外部機器を接続する

プロジェクターに外部出力機器を接続します。

関連項目
- 「VGAモニターを接続する」 p.43
- 「外部スピーカーを接続する」 p.44
- 「マイクを接続する」 p.44

VGAモニターを接続する

プロジェクターのComputer端子にコンピューターを接続しているときに、接続した外部モニター（VGA）に映像を表示します。これにより、本機からの投写映像が見えないときでも、外部モニターに表示した映像を見ることができます。

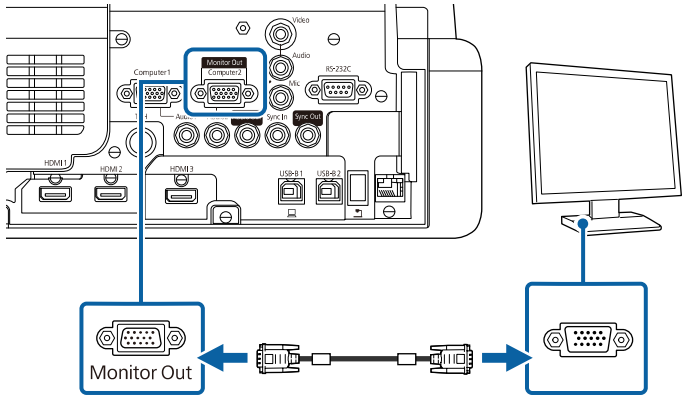
映像を外部モニターに出力するには、［信号入出力］メニューの［モニター出力端子］を［モニター出力］に設定します。

- 本機で投写していないときに、外部モニターに映像を出力する場合は、［信号入出力］メニューの［A/V出力］を［常時］に設定します。
- インタラクティブ機能で描画した内容は外部モニターに表示されません（EB-735Fi/EB-725Wi）。Easy Interactive Toolsを使用して描画した内容は外部モニターに表示できます。
- リフレッシュレートが60Hz以下のモニターを使用しているときは、映像が正しく表示できないことがあります。

1 本機のComputer端子にコンピューターを接続します。

- コンピューター端子が2つ以上ある機種では、Computer1端子に接続してください。
- Computer1端子からのアナログRGB信号のみを、外部モニターに出力できます。他の端子から入力している信号は出力できません。

2 本機のMonitor Out端子に外部モニターのケーブルを接続します。



外部スピーカーを接続する

外部スピーカーをプロジェクターに接続して、投写映像の音質を向上できます。本機のリモコンで音量を調整できます。

外部スピーカーから音声を出力するときは、［信号入出力］メニューの［音声出力機器］を［AVアンプ］に設定します。［音声出力機器］が［AVアンプ］に設定されていても、アンプが接続されていなければ、音声はプロジェクターから出力されます。

☛ ［信号入出力］ > ［HDMIリンク］ > ［音声出力機器］

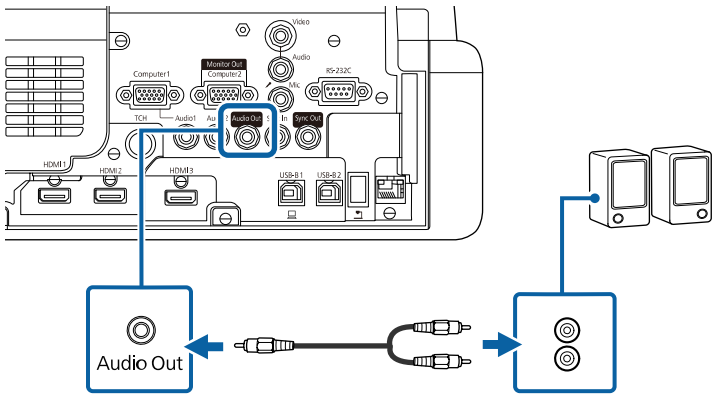
- 本機で投写していないときに、外部スピーカーから音声を出力する場合は、［信号入出力］メニューの［A/V出力］を［常時］に設定します。
- スピーカー付きのアンプも本機に接続できます。
- 外部スピーカーを接続しているときは、本機の内蔵スピーカーから音声は出力されません。

1 必要に応じてオーディオケーブル、ビデオケーブルを使用して、お使いのコンピューターやビデオ機器と本機が接続されていることを確認します。

2 ステレオミニプラグオーディオケーブル、またはその他のケーブル、アダプターなど、外部スピーカーに接続するケーブルを用意します。

3 必要に応じて、接続ケーブルを外部スピーカーに接続します。

4 接続ケーブルのもう一方のコネクターを本機のAudio Out端子に接続します。

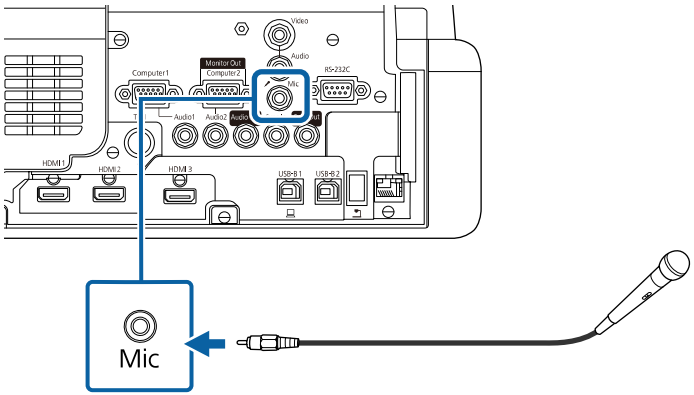


マイクを接続する

プロジェクターのMic端子にマイクを接続して、本機のスピーカーから音声を出力できます（EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W）。

- プラグインパワー方式には対応していません。
- 本機で投写していないときに、マイクの音声を出力する場合は、［信号入出力］メニューの［A/V出力］を［常時］に設定します。
- マイクの音声が小さくて聞き取りにくいときや、マイクの音声が大きすぎて割れてしまうときは、［信号入出力］メニューの［マイク入力レベル］を調整します。

1 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のMic端子に接続します。

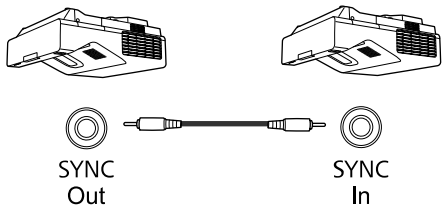


2 必要に応じて、マイクの電源を入れます。

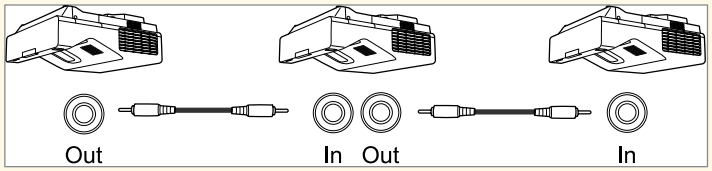
複数台のプロジェクターを接続する

同じ部屋で本機を2台以上設置してインタラクティブ機能を使用するときは、オプションのワイヤードリモコンケーブルでプロジェクター同士を接続します（EB-735Fi/EB-725Wi）。接続するとインタラクティブペンの動作が安定します。

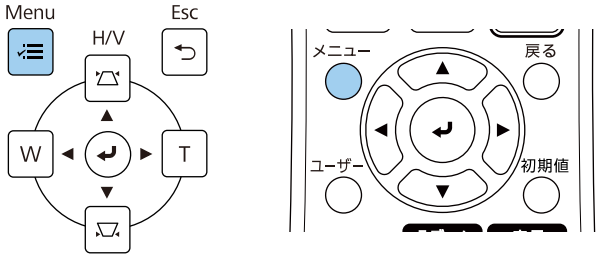
1 ワイヤードリモコンケーブルを、1台目のプロジェクターのSYNC OUT端子と2台目のプロジェクターのSYNC IN端子に接続します。



3台以上のプロジェクターを接続するときは、プロジェクター同士を以下のように接続します。



2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



3 ［ペン/指タッチ］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［複数台設置］を選択して、【決定】ボタンを押します。

5 ［複数台同期］を選択して、［有線］を選択します。

6 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

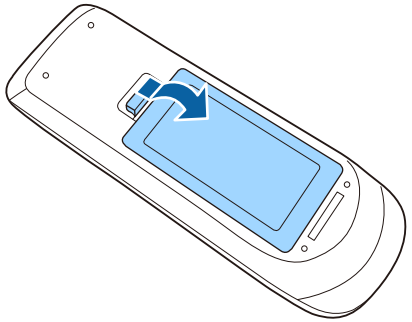
リモコンに電池を取り付ける

本機に付属の単3形電池2個をリモコンに取り付けます。

注意
電池を取り扱う前に、『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。

電池がなくなったら電池を交換してください。リモコンには、単三マンガン電池またはアルカリ電池2個を使用します。

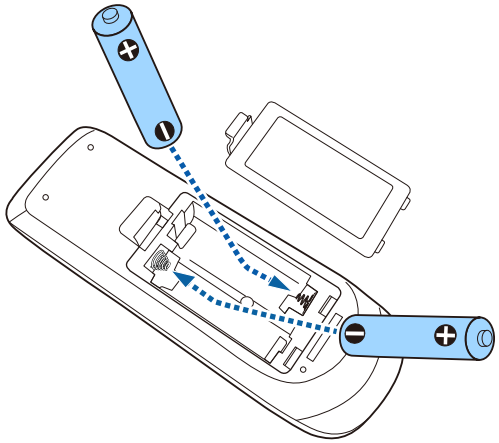
1 電池カバーを外します。



2 古い電池が入っていれば取り外します。

使用済みの電池は、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

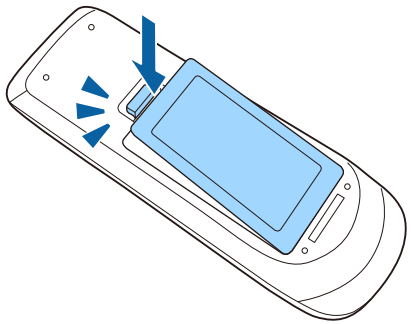
3 電池の + と – の向きを確認してリモコンにセットします。



⚠ 警告

電池ホルダー内の表示を確認して、（+）（−）を正しく入れてください。電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

4 電池カバーを閉め、カチッと音がするまで押し込みます。



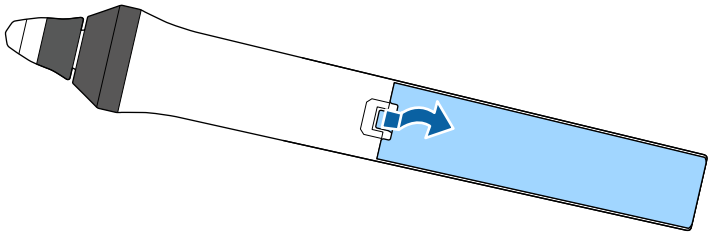
インタラクティブペンに電池を取り付ける

ペンは本機に付属の単3形電池を使用します。

注意
電池を取り扱う前に、『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。

電池残量が少ない場合は、ペン側面のボタンを押したときにバッテリーインジケーターが点滅します。
電池残量がない場合は、点灯・点滅しません。電池がなくなったら電池を交換してください。インタラクティブペンの交換用電池は、単3形マンガン乾電池、単3形アルカリ乾電池、またはeneloop（BK-3MCC）充電池を用意してください。

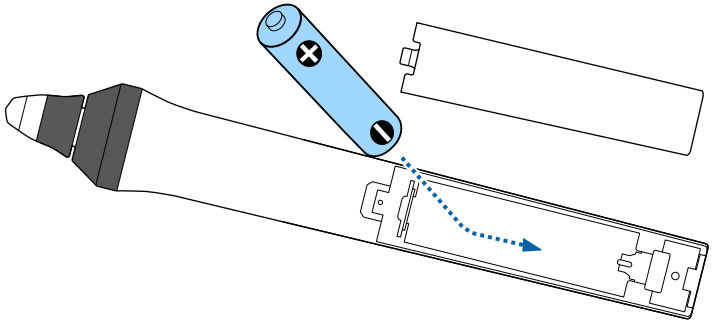
1 電池カバーを開きます。



2 古い電池が入っていれば取り外します。

使用済みの電池は、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

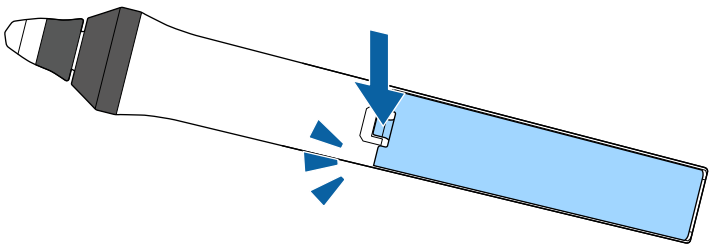
3 電池の+と–の向きを確認してインタラクティブペンにセットします。



⚠ 警告

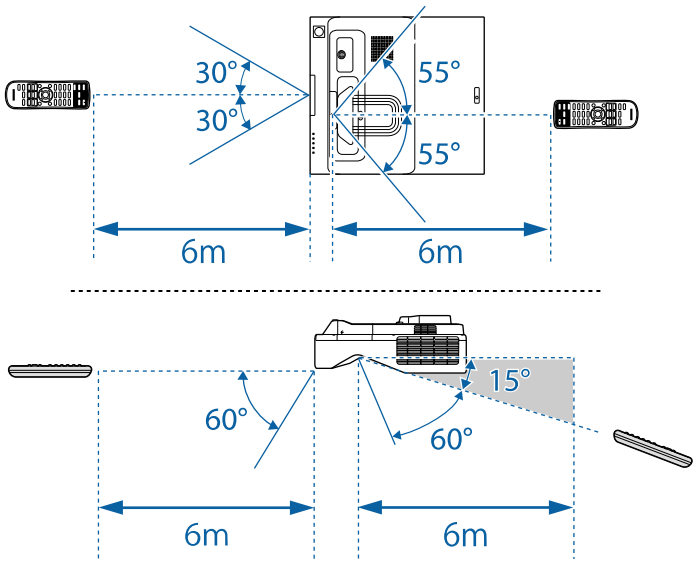
電池ホルダー内の表示を確認し、（+）（-）を正しく入れてください。電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

4 電池カバーを閉め、カチッと音がするまで押し込みます。



リモコンを使用して、室内の離れた場所からプロジェクターを制御できます。

リモコンは、本機のリモコン受光部に対して下図の角度で使用してください。



蛍光灯の強い光や直射日光が当たる環境ではリモコンを使用しないでください。プロジェクターが操作に反応しないことがあります。リモコンを長期間使用しないときは、電池を取り外しておきます。

プロジェクターの基本機能を使用する

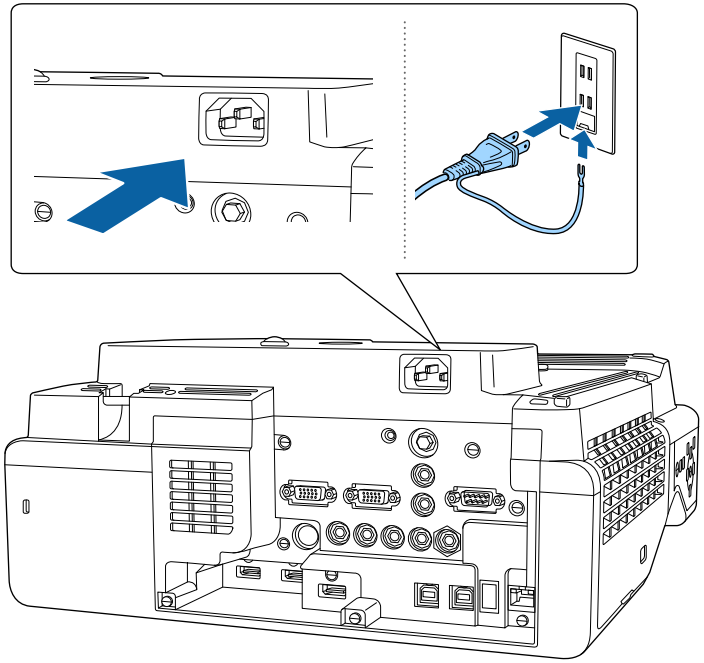
プロジェクターの基本機能を説明します。

関連項目

- 「プロジェクターの電源を入れる」 p.51
- 「プロジェクターの電源を切る」 p.54
- 「日時を設定する」 p.55
- 「メニューの言語を選択する」 p.57
- 「設置モードを選択する」 p.58
- 「スクリーンタイプを設定する」 p.60
- 「ピントを調整する」 p.62
- 「映像の高さを調整する」 p.65
- 「映像の形状を補正する」 p.66
- 「ワイド・テレボタンで映像の大きさを調整する」 p.77
- 「映像の位置を調整する」 p.78
- 「投写映像を切り替える」 p.79
- 「映像のアスペクト比を設定する」 p.81
- 「映像を最適化する（カラーモード）」 p.85
- 「映像の色合いを調整する」 p.88
- 「映像の解像度を調整する」 p.92
- 「明るさを設定する」 p.94
- 「音量ボタンで音量を調整する」 p.97

プロジェクターの電源を入れた後、使用するコンピューターまたはビデオ機器の電源を入れます。

1 本機とコンセントを電源コードで接続します。



⚠ 警告

必ず接地接続を行ってください。接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

本機の電源インジケーターが青色に点灯します（スタンバイ状態）。スタンバイ状態は、プロジェクターに電力が供給されていて、電源が入っていない状態です。

2 操作パネルまたはリモコンの電源ボタンを押して本機の電源を入れます。

「ピッ」と確認音が鳴り、ステータスインジケーターが青色に点滅します（ウォームアップ状態）。ウォームアップが終わると、ステータスインジケーターが青色に点灯します。

- ［動作］メニューの［高速起動］をオンにすると、次回の電源投入時には数秒で投写可能状態になります。

映像が投写されないときは、以下を試してください。

- 接続されているコンピューターまたはビデオ機器の電源を入れます。
- ノート型コンピューターを使用するときは、コンピューターの画面出力を切り替えます。
- DVDなどのメディアを挿入して再生します。
- 操作パネルまたはリモコンの【入力検出】ボタンを押して入力ソースを検出します。
- 投写したい入力ソースに対応するリモコンのボタンを押します。
- ホーム画面が表示されたら、投写したい入力ソースを選択します。

⚠ 警告

- 投写中は本機のレンズをのぞきこまないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特にお子様の行動にご注意ください。
- 本機から離れた場所でリモコンを使って電源を入れるときは、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 投写光を遮ると、光の当たる部分が高温になって溶けたり、やけどや火災の原因になります。また、反射した光でレンズ部が高温になり、本機が故障する原因となります。投写を中断するときはA/Vミュート機能を使うか、本機の電源を切ってください。

- ［動作］メニューの［ダイレクトパワーオン］が［オン］に設定されているときは、本機に電源コードを接続したときに自動で電源が入ります。停電復旧時などにコンセントに電源プラグが差し込まれた状態になっていると、本機の電源がオンになりますのでご注意ください。
- ［動作］メニューの［オートパワーオン］を有効にしているときは、映像信号が入力されたときに自動で電源が入ります。

関連項目

- 「ホーム画面」 p.52
- 「動作メニュー」 p.239

ホーム画面

ホーム画面を使うと、入力ソースやよく使う機能を簡単に選択できます。ホーム画面は操作パネルまたはリモコンの【ホーム】ボタンを押すと表示されます。また、本機の電源投入時に、入力信号がないときにも、ホーム画面が表示されます。

操作パネルやリモコンの上下左右ボタンで項目を選択して、【決定】ボタンを押します。

インタラクティブペンや指でも項目を選択できます（EB-735Fi/EB-725Wi）。

1. 投写したい入力ソースを選択します。
   現在投写している入力ソースには右上にチェックマークが付きます。
   現在の入力映像のプレビュー画像がサムネイル表示されます（コンテンツ再生モード時のUSB入力ソース以外）。
2. 本機の電源をオフにします（EB-735Fi/EB-725Wi）。
3. ホーム画面を閉じます（EB-735Fi/EB-725Wi）。
4. ホワイトボードモードに切り替えます（EB-735Fi/EB-725Wi）。
5. 投写画面を分割して、2つまたは4つの異なる機器の画面を同時に投写します。
6. 同じネットワーク上の他のプロジェクターが画面を共有するのに必要な情報を表示します。
7. 接続ガイドを表示します。お使いのデバイスに応じた接続の方法を確認できます。

⑧ 以下の機能の設定を変更します。（表示される項目は設定により異なります。）

- ［カラーモード］
- ［明るさレベル］
- ［音量］
- ［幾何学歪み補正］（［タテヨコ台形補正］および［Quick Corner］が使用できます。）
- ［自動ペン位置合わせ］（EB-735Fi/EB-725Wi）
- ［アスペクト］

- ［幾何学歪み補正］は、［設置］メニューの［固定設置］が［オフ］で、［幾何学歪み補正］が［タテヨコ台形補正］または［Quick Corner］のとき表示されます。
- ペンまたは指を使って幾何学歪み補正 を行ったときは、再度ペン位置合わせを行ってください（EB-735Fi/EB-725Wi）。

⑨ 有効な入力ソースが9つ以上あるときに次ページまたは前ページへ移動します。

⑩ プロジェクター名とプロジェクターキーワードを表示します。

⑪ 現在の時刻を表示します。

10分間操作がないと、ホーム画面は自動的に消えます。

関連項目

- 「ホワイトボードとして使用する（ホワイトボードモード）」 p.106
- 「画面共有」 p.199
- 「複数の映像を同時に投写する」 p.135

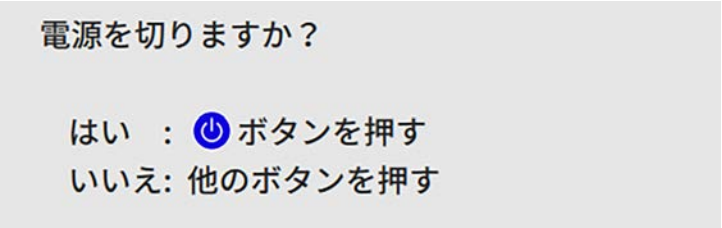
プロジェクターの電源を切る

使用後にプロジェクターの電源を切ります。

- 本機を長くお使いいただくために、使用しないときは本機の電源を切ってください。光源の寿命は、メニューの設定、環境条件、および使用状況によって異なります。投写映像の明るさは、使用時間の経過にともなって低下します。
- ［管理］メニューの［光源キャリブレーション］が［定期的に実行］に設定されていて、プロジェクターが以下の状態にあるとき、本機の電源を切ると、光源キャリブレーションが自動で開始します。
  - 前回の光源キャリブレーションの実施から100時間が経過している場合
  - 本機を20分以上使用している場合

1 操作パネルまたはリモコンの電源ボタンを押します。

シャットダウン確認画面が表示されます。



2 再度電源ボタンを押します。（電源を切らないときは、他のボタンを押します。）

「ピッピッ」と確認音が2回鳴った後、光源がオフになり、ステータスインジケーターが消灯します。

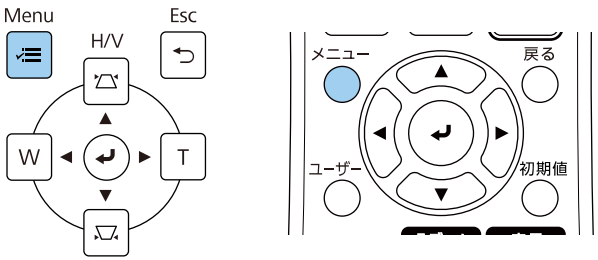
3 本機を搬送または保管するときは、電源インジケーターが青色に点灯していることを確認してから電源コードを抜いてください。

日時を設定する

プロジェクターの日時を設定します。

1 本機の電源を入れます。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



3 ［管理］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［日付＆時刻］を選択し、【決定】を押します。

5 ［日付＆時刻］を選択し、【決定】を押します。
次の画面が表示されます。

6 ［日付］を選択し、【決定】ボタンを押します。表示されたソフトキーボードで本日の日付を入力します。

7 ［時刻］を選択し、【決定】ボタンを押します。表示されたソフトキーボードで現在の時刻（現地時間）を入力します。

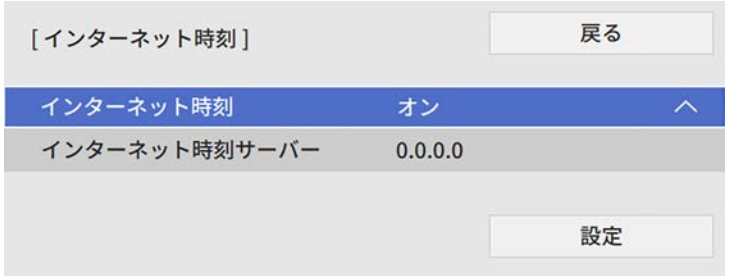
8 ［時差（UTC）］を選択し【決定】ボタンを押して、協定世界時からの時差を設定します。

9 終了したら、［設定］を選択し、【決定】を押します。

10 夏時間を有効にするときは、［夏時間設定］を［オン］に設定します。表示された画面の各項目を設定します。

11 終了したら、［設定］を選択し、【決定】を押します。

12 インターネット時刻サーバーから自動的に時刻を設定するときは、［インターネット時刻］を［オン］に設定します。表示された画面の各項目を設定します。



13 終了したら、［設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

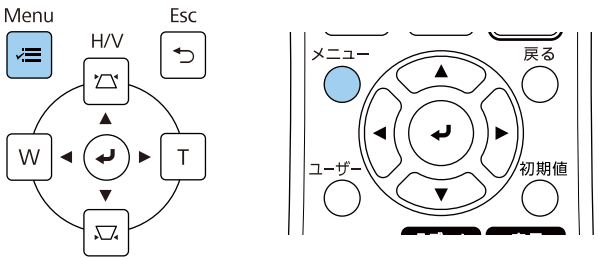
14 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

メニューの言語を選択する

メニューおよびメッセージの言語を変更します。

1 本機の電源を入れます。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



3 ［管理］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［言語］を選択し、【決定】を押します。

5 使用する言語を選択し、【決定】ボタンを押します。

6 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

プロジェクターの設置方法によって、設置モードを変更します。

- ［フロント］：机上に設置して、スクリーンの正面から投写します。
- ［フロント・上下反転］：壁掛けまたは天吊り設置して、映像を上下反転して投写します。
- ［リア］：リアスクリーンの裏側から映像を左右反転して投写します。
- ［リア・上下反転］：壁掛けまたは天吊り設置して、リアスクリーンの裏側から映像を上下左右反転して投写します。

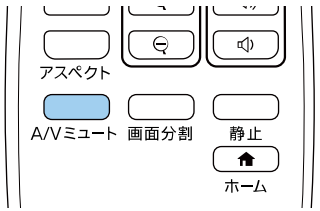
関連項目

- 「リモコンで 設置モードを変更する」 p.58
- 「メニューから設置モードを変更する」 p.58
- 「プロジェクターの設置・取り付け」 p.32

リモコンで 設置モードを変更する

設置モードを変更して、映像を上下反転します。

1. 本機の電源を入れ、映像を表示します。
2. リモコンの【A/Vミュート】ボタンを5秒間押します。



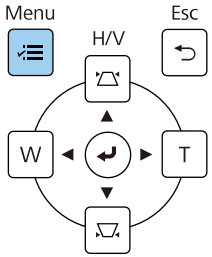
映像が一時的に消え、上下反転して再度投写されます。

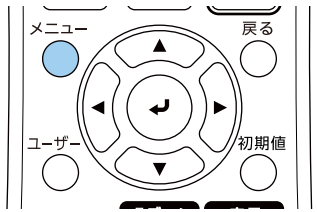
3. 元の設置モードに戻すには、【A/Vミュート】ボタンをもう一度5秒間押します。

メニューから設置モードを変更する

メニューから設置モードを変更して、映像を上下左右反転します。

1. 本機の電源を入れ、映像を表示します。
2. 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。

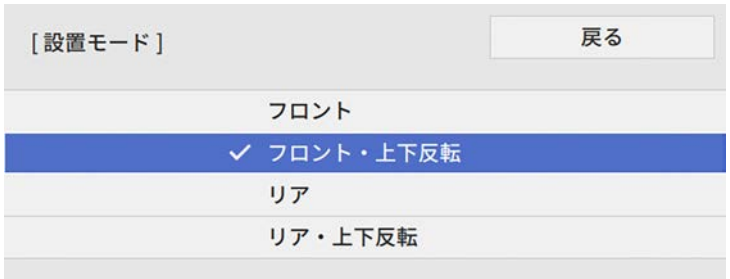




3 ［設置］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［設置モード］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 お使いの環境に合わせた設置モードを選択し、【決定】ボタンを押します。

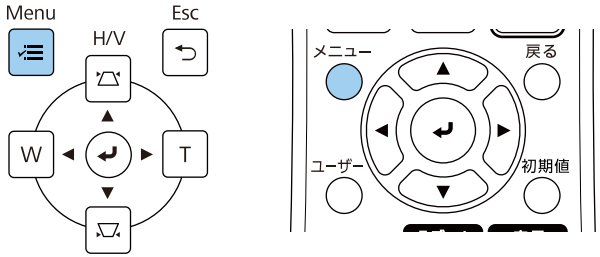


6 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

お使いのスクリーンのアスペクト比に合わせて、映像を表示する領域がスクリーンに合うよう、［スクリーンタイプ］を設定します。

1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

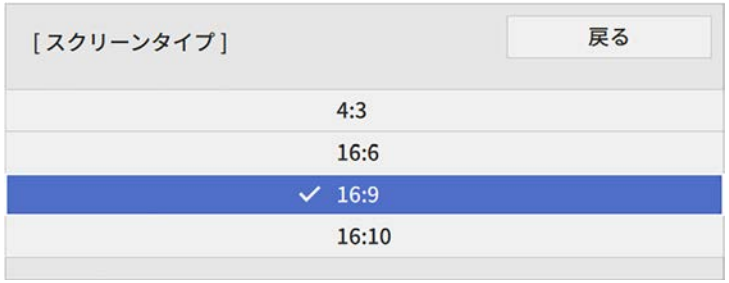
2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



3 ［設置］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［スクリーンタイプ］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 お使いのスクリーンのアスペクト比を選択して、【決定】を押します。



6 【メニュー】ボタンを押して終了します。

> プロジェクターの再起動が必要になることがあります。画面の指示に従って操作します。

7 必要に応じて投写映像のアスペクト比を調整します。

関連項目

- 「映像の位置を調整する（スクリーン位置）」 p.60

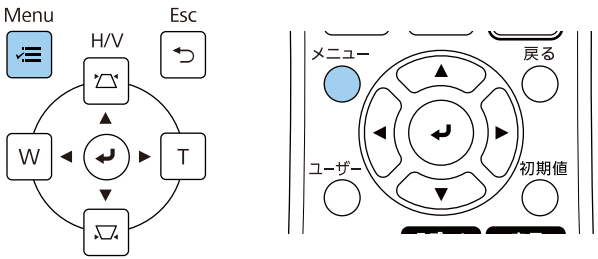
映像の位置を調整する（スクリーン位置）

映像を表示する領域と映像との間に余白が生じたときは、映像の位置を調整できます。

> ［スクリーンタイプ］がプロジェクターの解像度と同一のアスペクト比に設定されているとき、この機能は使用できません。

1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

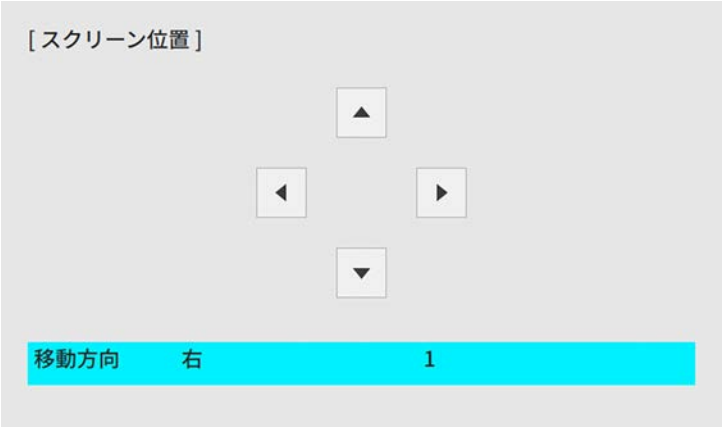
2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



3 ［設置］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［スクリーン位置］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 操作パネルまたはリモコンの上下左右ボタンで映像の位置を調整します。



16:6のアスペクト比でインタラクティブ機能を使うときは、［スクリーン位置］を中央より上に設定します（EB-735Fi）。

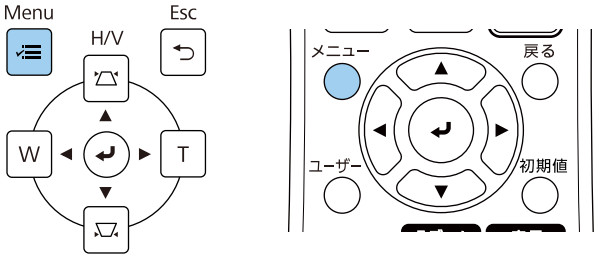
6 終了したら、【メニュー】ボタンを押します。

テストパターンを表示してピントのズレを補正します。

> プロジェクターの電源を入れた直後は映像が安定しません。ピントの調整は、映像を投写し始めてから30分以上たってから行ってください。

1 プロジェクターの電源を入れます。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。

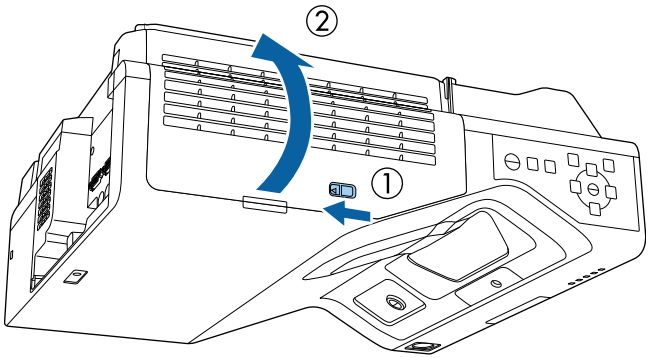


3 ［設置］を選択し、【決定】ボタンを押します。

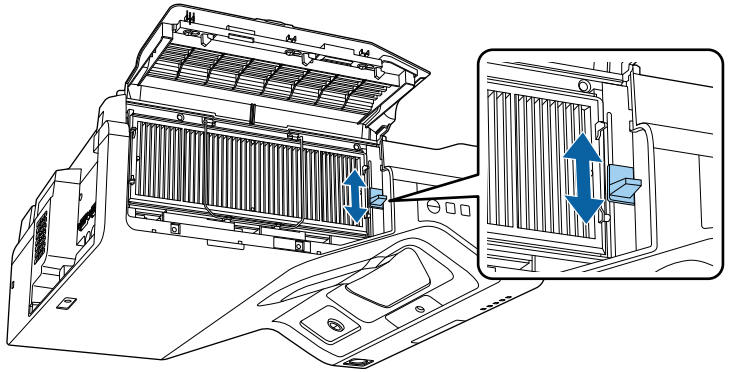
4 ［テストパターン］を選択し、【決定】ボタンを押します。

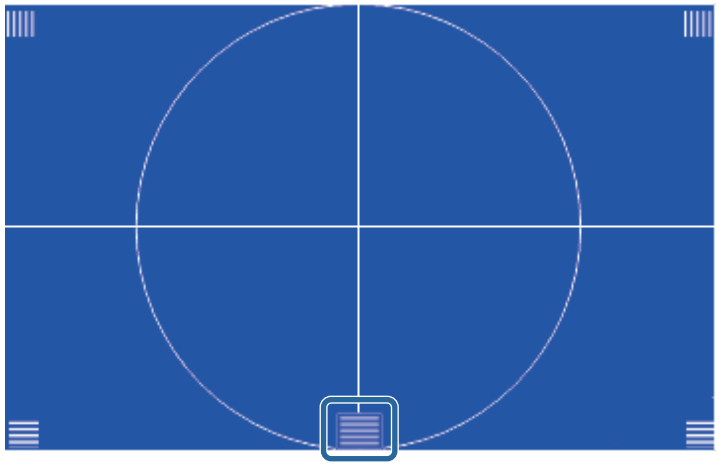
5 ［スクリーンタイプ］で［16:9］を選択しているときは、テストパターンを選択して【決定】を押し、テストパターンを表示します（EB-755F/EB-750F）。

6 エアフィルターカバーを開けます。



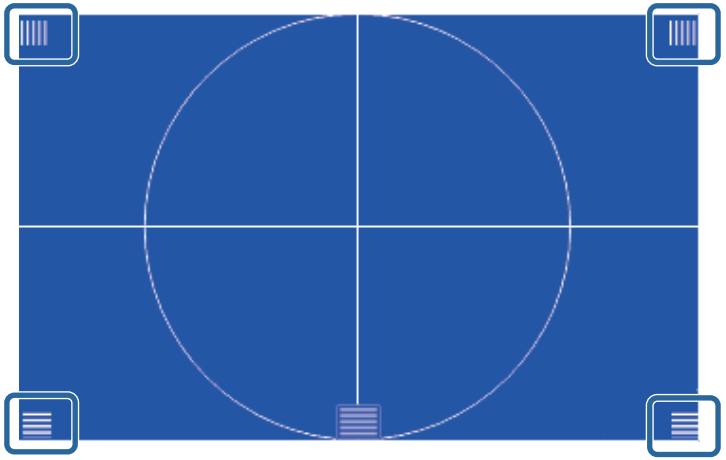
7 フォーカスレバーで投写画面の中央下にピントを合わせます。





上記と異なるテストパターンが表示されたときは、テストパターンを見ながら調整してください。

8 投写画面の四隅のピントが合っていることを確認します。



ピントが合っていない箇所があるときは、四隅のピントが均一になるようにフォーカスレバーで調整します。

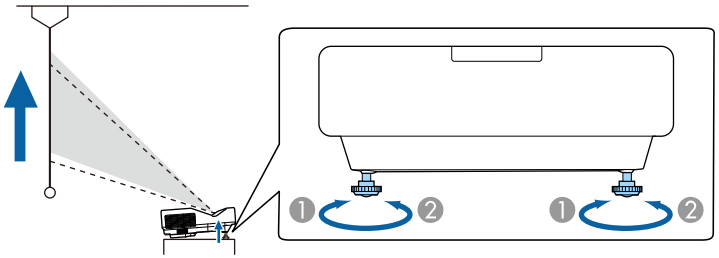
9 【戻る】ボタンを押して、テストパターンを消します。

机などの平らな場所に置いて投写するときは、プロジェクターのフットを使って高さを調整します（フット同梱機種のみ）。

傾斜角度が大きくなると、ピントが合いにくくなります。傾斜角度が小さくなるようにプロジェクターを設置してください。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

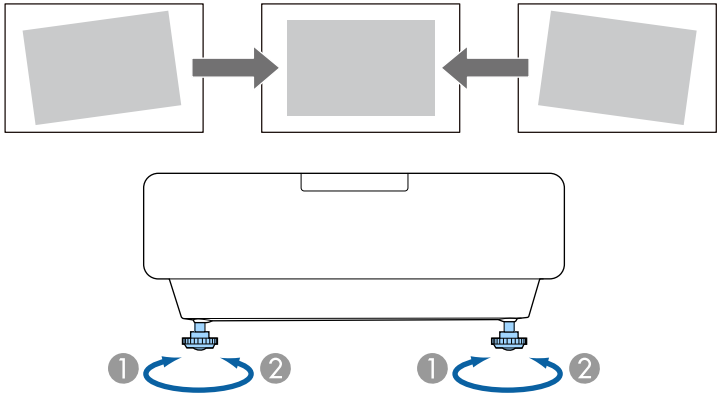
2 フロントフットを回して高さを調整します。



❶ フットを伸ばす

❷ フットを縮める

3 映像が傾いているときは、フロントフットを回して左右の高さを調整します。



投写映像がゆがむときは、映像の形状を補正します。

スクリーンの正面にプロジェクターを設置して、水平にすることで、傾きやゆがみのない映像を投写できます。スクリーンに対して斜めにプロジェクターを設置したり、上下に傾けて設置したりしたときは、映像の形状を補正します。

補正後は、映像が少し小さくなります。

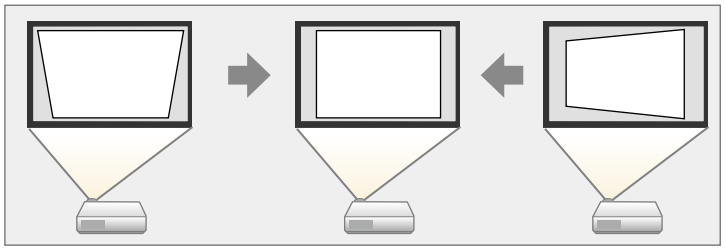
投写映像の画質を維持するためには、プロジェクターの設置位置を調整して映像サイズや形状を調整することをお勧めします。

関連項目

- 「台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する」 p.66
- 「Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する」 p.67
- 「湾曲補正で映像のゆがみを補正する」 p.70
- 「ポイント補正で映像のゆがみを補正する」 p.72
- 「保存したメモリーを呼び出す」 p.75
- 「コーナーマーカーを使用して映像のゆがみを補正する」 p.75

台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する

台形補正/上下ボタンを押して、映像のゆがみを補正します。

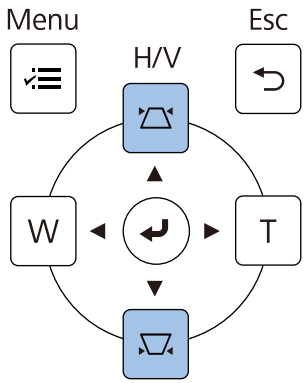


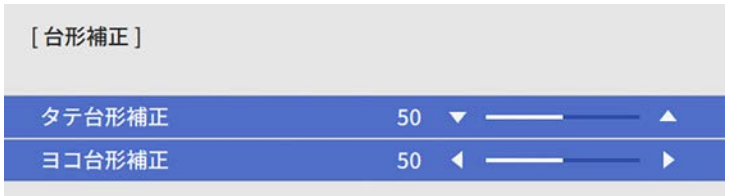
台形補正/上下ボタンで映像を補正できる条件は、投写角度が上下左右約3°のときです。

- ［スクリーンタイプ］を変更したり、［スクリーン位置］を調整したりしたときは、補正した結果は初期化されます。
- 他の補正方法と組み合わせて使うことはできません。

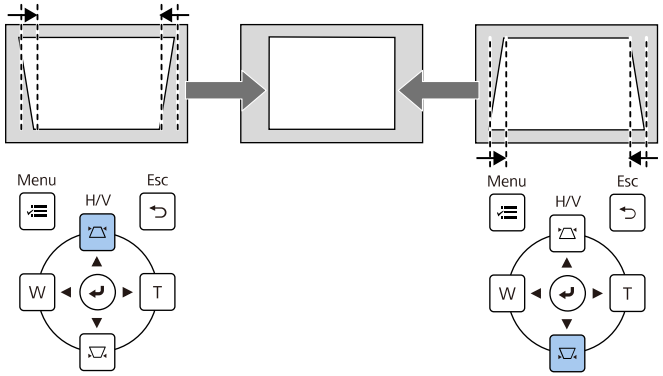
1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

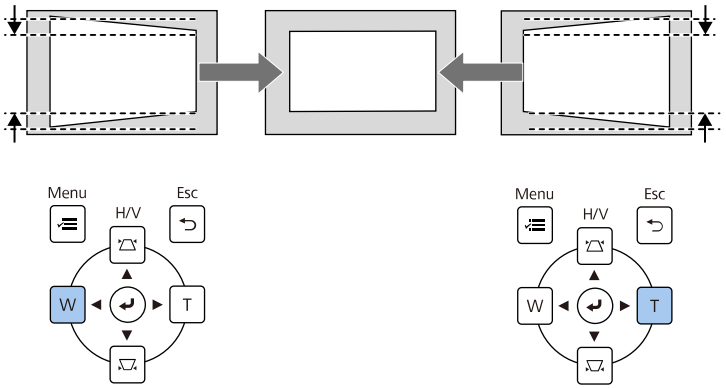
2 操作パネルの台形補正/上下どちらかのボタンを押して、台形補正画面を表示します。





3 上下左右ボタンを押して映像の形状を調整します。

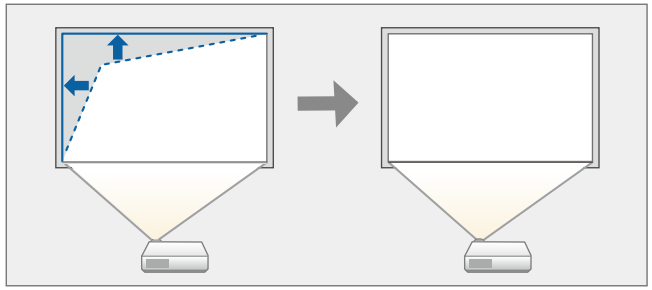




- プロジェクターが手の届かない場所に設置されているときは、リモコンで映像のゆがみを補正してください。
  ☛ ［設置］ > ［幾何学歪み補正］ > ［タテヨコ台形補正］
- リモコンの【台形補正】ボタンを押して、映像のゆがみを補正することもできます（EB-755F/EB-750F）。
- 補正した映像の形状をメモリーとして登録するには、［メモリー保存］を選択します。メモリーには映像の形状を3つまで登録できます。
  ☛ ［設置］ > ［幾何学歪み補正］ > ［メモリー］ > ［メモリー保存］

Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する

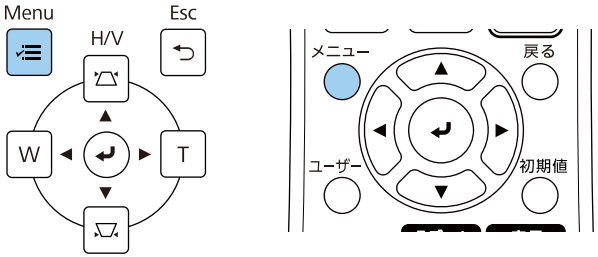
［Quick Corner］機能を使用して、映像のゆがみと大きさを補正します。



［スクリーンタイプ］を変更したり、［スクリーン位置］を調整したりしたときは、補正した結果は初期化されます。

1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



> リモコンの【台形補正】ボタンを押して、［幾何学歪み補正画面を］表示することもできます（EB-755F/EB-750F）。【台形補正】ボタンを押して、手順5へ進みます。

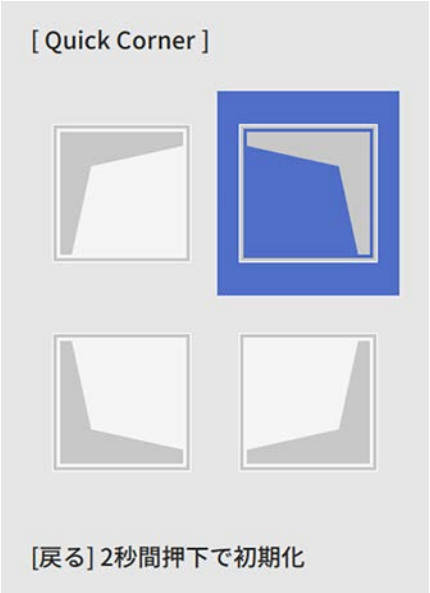
3 ［設置］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［幾何学歪み補正］を選択し、【決定】を押します。

5 ［Quick Corner］を選択し、【決定】ボタンを押します。必要に応じてもう一度【決定】ボタンを押します。

エリア選択画面が表示されます。

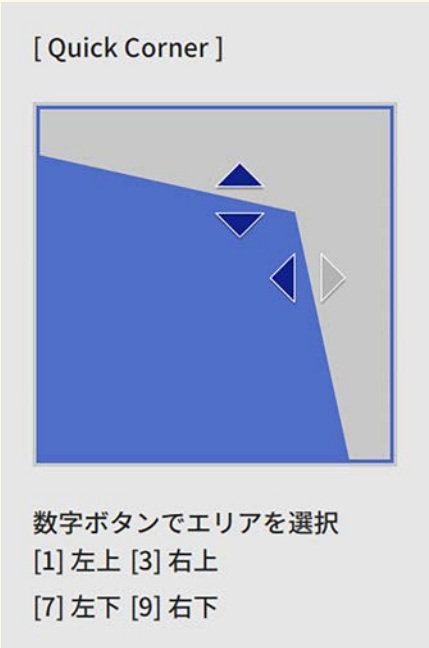
6 上下左右ボタンを押して、調整するコーナーを選択します。【決定】ボタンを押します。



［Quick Corner］で補正した結果を初期化するには、エリア選択画面が表示されているときに【戻る】ボタンを約2秒間押し、［はい］を選択します。

7 上下左右ボタンを押して、映像の形状を調整します。
【決定】ボタンを押すと、エリア選択画面に戻ります。

- リモコンの次の数字のテンキーボタンを押して、調整するコーナーを選択することもできます。
  - 【1】：左上のコーナーを選択します。
  - 【3】：右上のコーナーを選択します。
  - 【7】：左下のコーナーを選択します。
  - 【9】：右下のコーナーを選択します。
- 以下の画面で、グレーの三角形で示される方向にはこれ以上調整できません。



8 手順6と7を繰り返して、調整が必要なすべてのコーナーを調整します。

9 終了したら、【戻る】ボタンを押します。

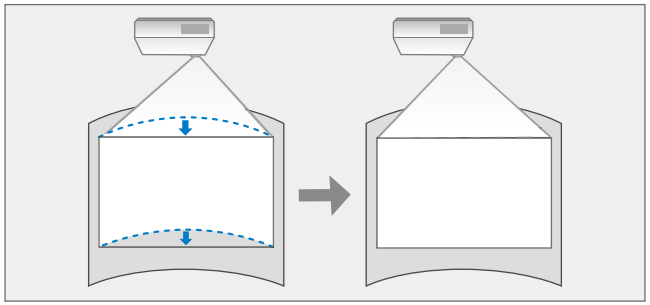
Quick Corner実行後は、［設置］メニューの［幾何学歪み補正］が［Quick Corner］に設定されます。操作パネルの台形補正/上下ボタンを押したときは、エリア選択画面が表示されます。

補正した映像の形状をメモリーとして登録するには、［メモリー保存］を選択します。メモリーには映像の形状を3つまで登録できます。

☛ ［設置］ > ［幾何学歪み補正］ > ［メモリー］ > ［メモリー保存］

湾曲補正で映像のゆがみを補正する

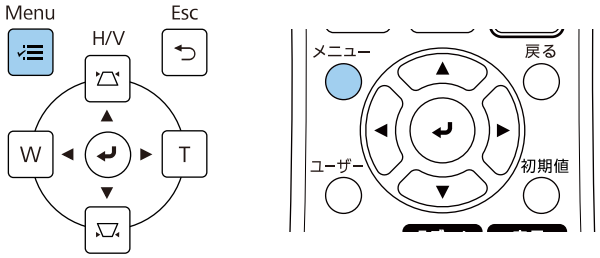
曲面に映像を投写するときは、［湾曲補正］機能を使用して映像のゆがみを補正します。



［スクリーンタイプ］を変更したり、［スクリーン位置］を調整したりしたときは、補正した結果は初期化されます。

1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



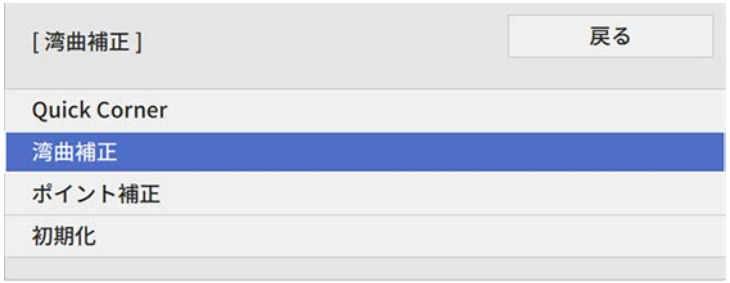
リモコンの【台形補正】ボタンを押して、［幾何学歪み補正画面を］表示することもできます（EB-755F/EB-750F）。【台形補正】ボタンを押して、手順5へ進みます。

3 ［設置］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［幾何学歪み補正］を選択し、【決定】を押します。

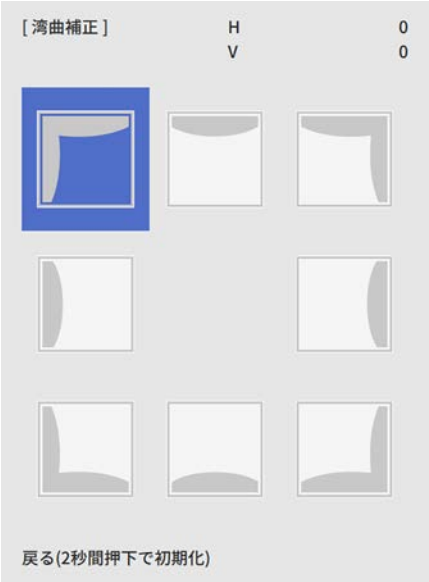
5 ［湾曲補正］を選択し、【決定】ボタンを押します。

6 ［湾曲補正］を選択し、【決定】ボタンを押します。



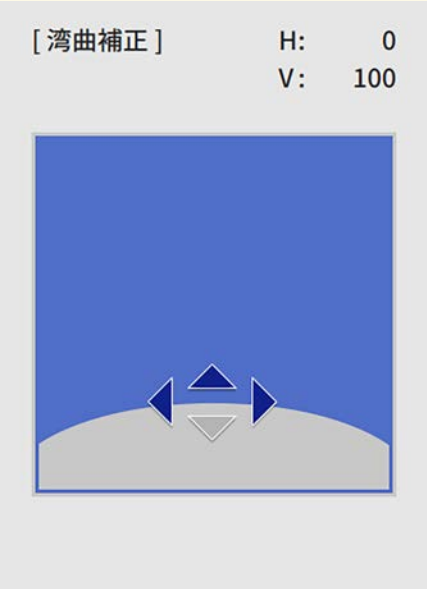
エリア選択画面が表示されます。

7 上下左右ボタンを押して補正するエリアを選択し、【決定】ボタンを押します。



8 上下左右ボタンを押して、映像の形状を調整します。
【決定】ボタンを押すと、エリア選択画面に戻ります。

以下の画面で、グレーの三角形で示される方向にはこれ以上調整できません。



9 手順7と8を繰り返して、必要なすべてのエリアを補正します。

10 終了したら、【戻る】ボタンを押します。

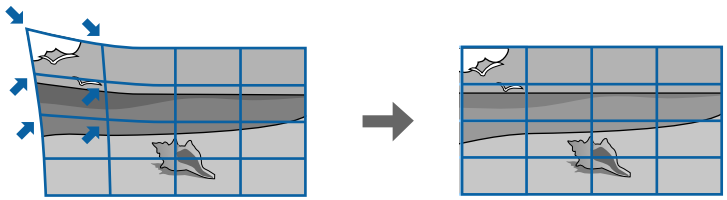
- 補正した結果を微調整できます。［Quick Corner］で映像の傾きを調整し、［ポイント補正］で微調整します。手順6の画面で［Quick Corner］または［ポイント補正］を選択してください。
- 補正した映像の形状をメモリーとして登録するには、［メモリー保存］を選択します。メモリーには映像の形状を3つまで登録できます。
  ☛ ［設置］ > ［幾何学歪み補正］ > ［メモリー］ > ［メモリー保存］
- ［湾曲補正］で補正した結果を初期化するには、エリア選択画面が表示されているときに【戻る】ボタンを約2秒間押し、［はい］を選択します。

関連項目

- 「Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する」 p.67
- 「ポイント補正で映像のゆがみを補正する」 p.72

ポイント補正で映像のゆがみを補正する

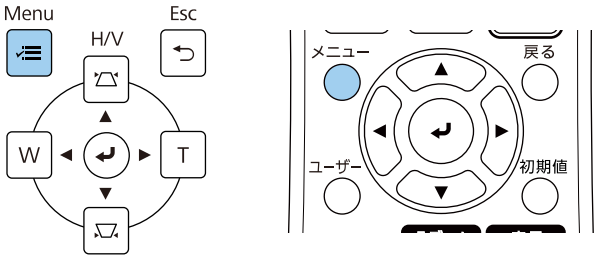
［ポイント補正］機能を使用して部分的に発生するわずかなゆがみを補正します。投写画像を格子で区切り、格子の交点を上下左右に移動させることで投写画面のゆがみを補正します。



［スクリーンタイプ］を変更したり、［スクリーン位置］を調整したりしたときは、補正した結果は初期化されます。

1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



リモコンの【台形補正】ボタンを押して、［幾何学歪み補正画面を］表示することもできます（EB-755F/EB-750F）。【台形補正】ボタンを押して、手順5へ進みます。

3 ［設置］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［幾何学歪み補正］を選択し、【決定】を押します。

5 ［ポイント補正］を選択し、【決定】を押します。

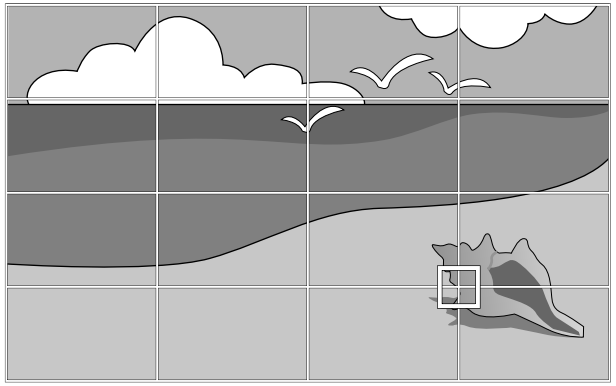
6 ［ポイント補正］を選択し、【決定】を押します。

［Quick Corner］で映像のゆがみと大きさを大まかに補正し、［ポイント補正］で細かく調整します。

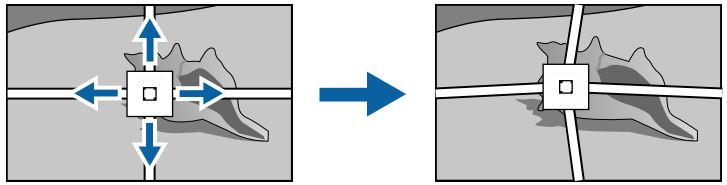
7 ポイントの数を選択し、【決定】ボタンを押します。
投写画面に格子が表示されます。

格子が見えにくいときは、【戻る】ボタンを押して、［ポイント補正］メニューの［パターン色］で色を変更します。

8 上下左右ボタンを押して補正するポイントを選択し、【決定】ボタンを押します。



9 上下左右ボタンで映像のゆがみを補正します。



10 続けて他のポイントを補正する場合は、【戻る】ボタンを押して前の画面に戻り、手順8、9を行います。

11 終了したら、【戻る】ボタンを押します。

- 補正した映像の形状をメモリーとして登録するには、［メモリー保存］を選択します。メモリーには映像の形状を3つまで登録できます。
  ☛ ［設置］ > ［幾何学歪み補正］ > ［メモリー］ > ［メモリー保存］
- ［ポイント補正］で補正した結果を初期化するには、［ポイント補正］ で［初期化］を選択します。

関連項目

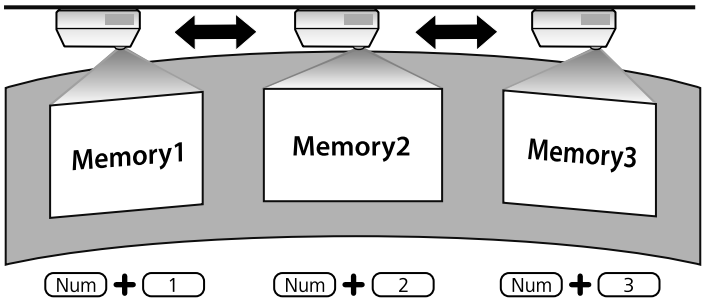
- 「Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する」 p.67

保存したメモリーを呼び出す

メモリーに設定・登録した内容を呼び出します。

1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

2 リモコンの【Num】ボタンを押しながら、登録したメモリー番号（1～3）のテンキーボタンを押します。

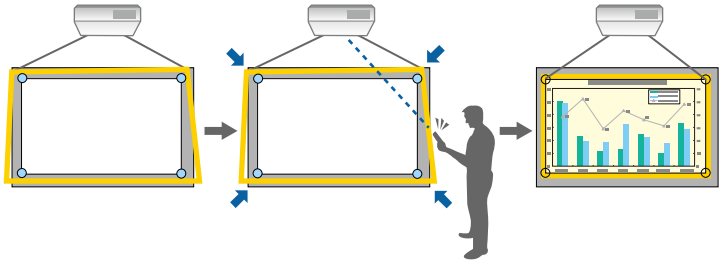


イラストはイメージです。

3 設定が読み込まれたら、画面の指示に従います。

コーナーマーカーを使用して映像のゆがみを補正する

投写位置にコーナーマーカーを貼り付けてあるときは、［自動画面調整］機能を使用して、映像のゆがみを補正します（EB-735Fi/EB-725Wi）。



- 投写面によっては［自動画面調整］機能がうまく動作しないことがあります。［自動画面調整］は以下の条件を満たすときに有効です。
  - 投写面が平らである
  - 投写面に模様や汚れ、障害物がない
- ［自動画面調整］を実行する前に、スクリーンタイプを設定してください。［スクリーンタイプ］を変更すると、調整結果は初期化されます。

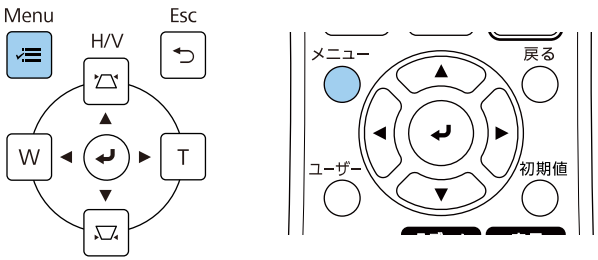
自動画面調整で投写映像を正しく補正できる条件は、以下のとおりです。

- スクリーンのサイズが100インチ以下

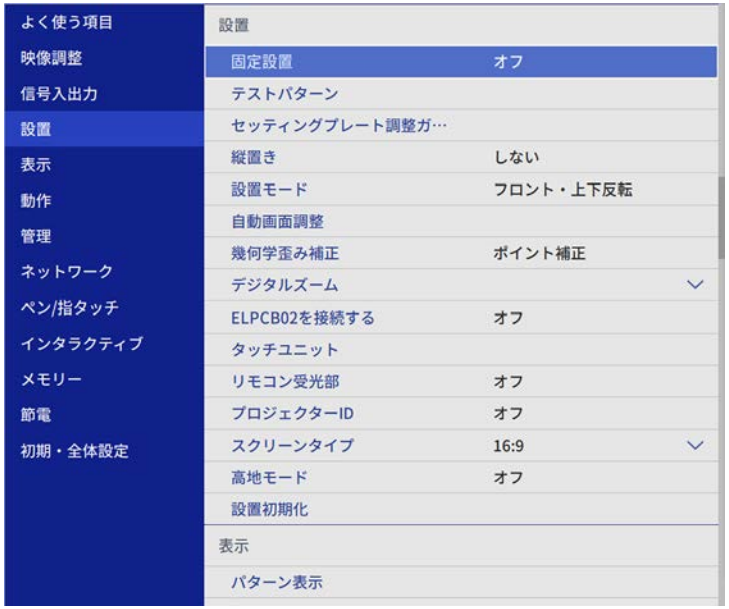
・投写角度が上下左右1°以内

1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

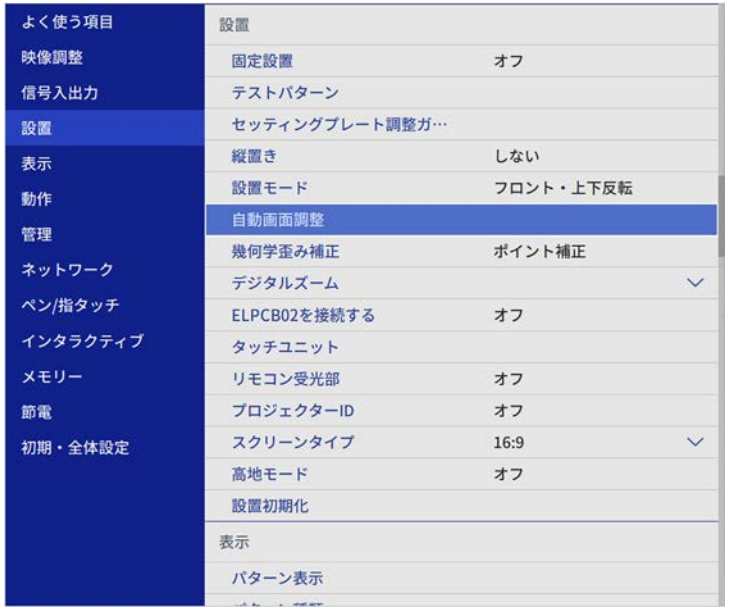
2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



3 ［設置］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［自動画面調整］を選択し、【決定】ボタンを押します。



ガイド画面が表示されます。

5 画面の指示に従って、コーナーマーカーが黄色で表示されたエリア内に来るよう、投写映像の位置を調整します。

6 【決定】ボタンを押します。
ガイドパターンが表示され、映像の形状が自動で補正されます。

補正した結果にまだゆがみがある場合は、［Quick Corner］機能を使用して映像の形状を補正します。

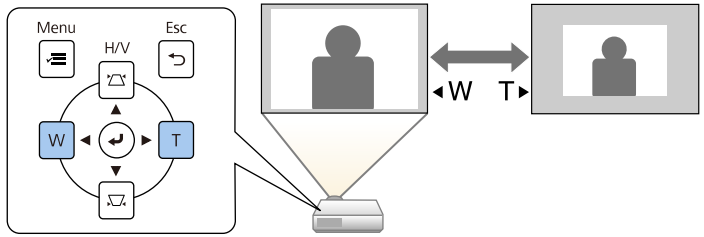
ワイド・テレボタンで映像の大きさを調整する

ワイド・テレボタンで投写映像のサイズを調整します。

- 投写映像の画質を維持するためには、プロジェクターの設置位置を調整して映像サイズや形状を調整することをお勧めします。
- プロジェクターの電源を入れた直後は映像が安定しません。映像サイズの調整は、映像を投写し始めてから30分以上たってから行ってください。

1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

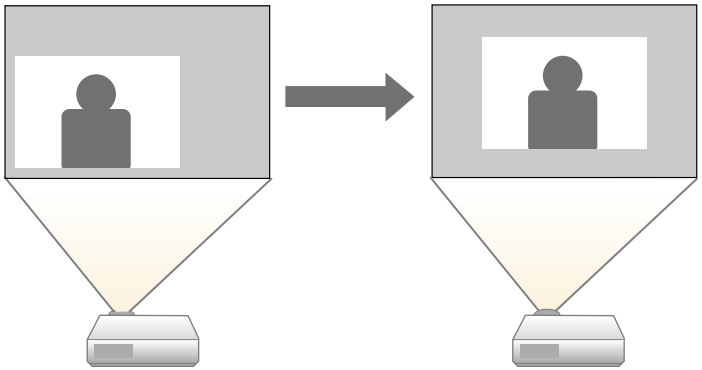
2 操作パネルのワイドボタンを押して、映像のサイズを大きくします。テレボタンを押して、映像のサイズを小さくします。



映像のサイズは、［設置］メニューの［デジタルズーム］でも設定できます。

［デジタル ピクチャーシフト］機能を使って、本機を動かさずに映像の投写位置を微調整できます。

- ズームをワイド側に最大にしているときは投写位置を調整できません。
- プロジェクターの電源を入れた直後は映像が安定しません。投写位置の調整は、映像を投写し始めてから30分以上たってから行ってください。

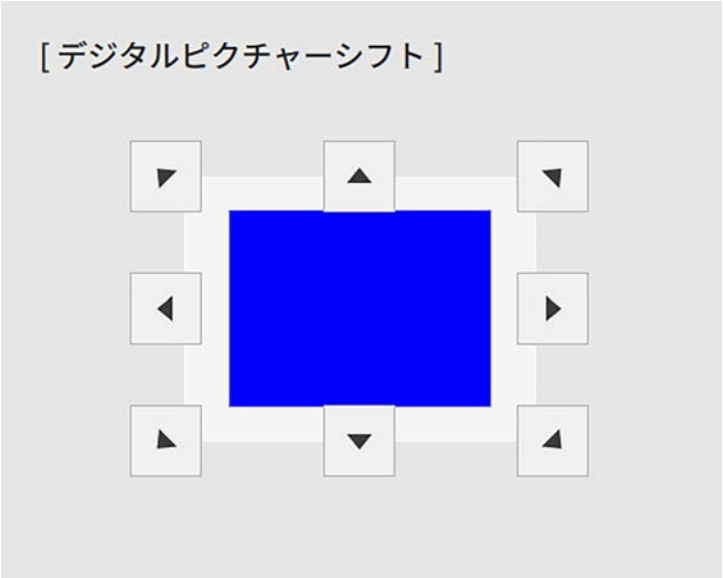


1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

2 ワイド・テレボタンを押して映像のサイズを調整します。

調整が終了すると、デジタル ピクチャーシフト画面が自動的に表示されます。

3 上下左右ボタンで映像の位置を調整します。



4 【戻る】ボタンを押して調整画面を終了します。

約10秒間何もしないと、調整画面は自動的に消えます。

- デジタル ピクチャーシフトの設定は電源を切っても記憶されています。本機の設置位置や角度を変えたときは、再度調整してください。
- ［設置］メニューの［デジタル ピクチャーシフト］からも映像の位置を調整できます。

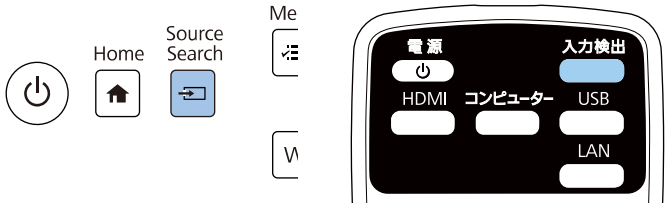
コンピューターとDVDプレーヤーなど複数の機器をプロジェクターに接続しているときは、投写する映像を切り替えます。

1 接続機器の電源が入っていることを確認します。

2 ビデオ機器の映像を投写するときは、DVDなどのメディアを挿入して再生します。

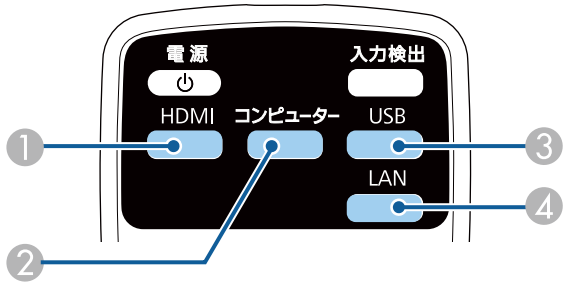
3 次のいずれかの操作を行います。

- 目的の機器からの映像が表示されるまで、操作パネルまたはリモコンの【入力検出】ボタンを押します。



映像信号が検出されないときは、次の画面が表示されます。本機と接続機器が正しく接続されていることを確認してください。

- リモコンで、投写したい入力ソースのボタンを押します。押したボタンに対応する入力ソースが複数あるときは、ボタンを再度押して入力ソースを切り替えます。



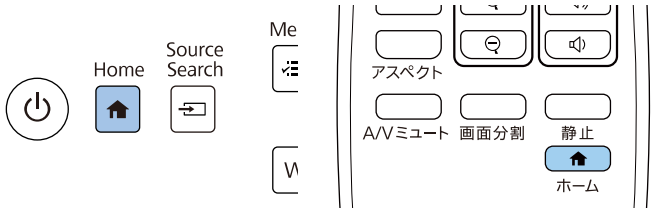
❶ ビデオおよびHDMI入力ソース（Video、HDMI1、HDMI2、およびHDMI3端子）

❷ コンピューター入力ソース（Computer1およびComputer2端子）

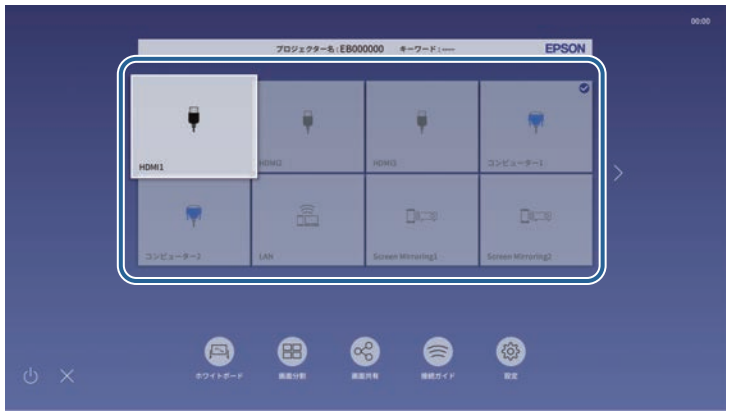
❸ USB入力ソース（USB-A端子に接続された外付けデバイス、およびUSB-B端子）

❹ ネットワーク入力ソース（LANおよびScreen Mirroring）

- 操作パネルまたはリモコンの【ホーム】ボタンを押します。



投写する入力ソースを選択します。



- 入力信号を検出すると、ソースの並び順が変わります。（検出したソースが左上に表示されます。）
- 現在投写している入力ソースにはチェックマークが付きます。現在の入力映像のプレビュー画像がサムネイル表示されます（コンテンツ再生モード時のUSB入力ソース以外）。
- 有効な入力ソースが9つ以上あるときは、次ページに表示されている場合があります。右矢印をクリックして、次のページに移動します。

本機はさまざまな縦横比（アスペクト比）で映像を表示できます。通常は、接続機器からの入力信号によって映像のアスペクト比が決まります。USB Display、USB、LANソースを除く入力信号では、映像をスクリーンに合わせるためにアスペクト比を切り替えることができます。

常に特定のアスペクト比で投写するときは、［映像調整］メニューでアスペクト比を設定します。

関連項目

- 「映像のアスペクト比を切り替える」 p.81
- 「アスペクトモードの種類」 p.81
- 「各アスペクトモードの投写イメージ」 p.82

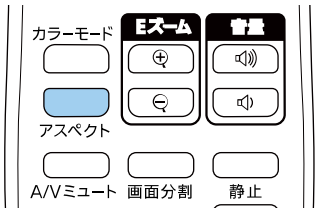
映像のアスペクト比を切り替える

投写する映像のアスペクト比を切り替えます。

- アスペクト比を切り替える前に、［設置］メニューで［スクリーンタイプ］を設定してください。
- ［表示倍率］をオフまたは［表示倍率モード］を［フル表示］に設定しているときのみ有効です。（EB-755F/EB-750F）
  ☛ ［映像調整］ > ［表示倍率］ > ［表示倍率モード］

1 本機の電源を入れ、投写する機器の映像に切り替えます。

2 リモコンの【アスペクト】ボタンを押します。



表示される映像の形状と大きさが切り替わり、アスペクト比の名称が一時的に画面に表示されます。

3 投写中の入力信号で設定可能なアスペクト比を順に切り替えるときは、【アスペクト】ボタンを繰り返し押します。

コンピューターの映像が欠けてすべてが投写できないときは、お使いのコンピューターの解像度に合わせて［映像調整］メニューの［入力解像度］を［ワイド］または［ノーマル］に設定してください。

アスペクトモードの種類

［スクリーンタイプ］の設定、および接続機器からの入力信号に応じて、以下のアスペクト比を選択できます。

- 著作権法で保護されている映像をアスペクト機能で圧縮、引き伸ばし、分割などを行い、営利目的で公衆に視聴させた場合は、著作者の権利を侵害するおそれがあります。

アスペクトモード	説明
オート	入力信号と設定した［解像度］に従って、アスペクト比が自動的に設定されます。
フル	入力信号のアスペクト比を維持せずに、投写エリア全体に映像を表示します。
ズーム	入力信号のアスペクト比を維持し、投写エリアの横幅に合わせて映像を表示します。投写エリアからはみ出した部分は表示されません。

アスペクトモード	説明
リアル	入力信号のアスペクト比と解像度を維持して表示します。投写エリアからはみ出した部分は表示されません。

各アスペクトモードの投写イメージ

入力信号のアスペクト比と解像度によっては、特定のアスペクトモードで黒帯が発生したり、映像の端が欠けたりすることがあります。黒帯が発生する領域と映像の欠けが発生する領域は、以下の表をご覧ください。

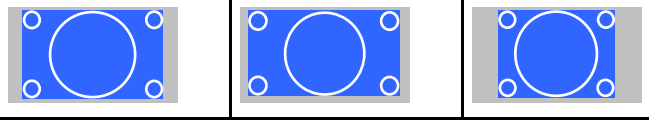
- 黒い部分は映像が表示される領域に対して表示する映像がない領域を、グレーの部分はアスペクト設定により映像が表示されない領域を表しています。
- 選択できるアスペクト比は、接続機器からの入力信号によって異なります。
- 映像を表示する領域と映像との間に余白が生じたときは、［設置］メニューの［スクリーン位置］で映像の位置 を調整できます。

☛ ［設置］ > ［スクリーンタイプ］ > ［スクリーン位置］

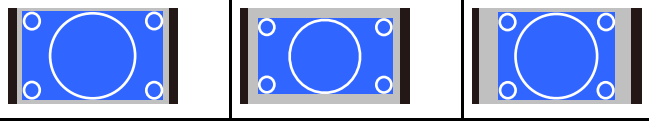
EB-755F/EB-750F/EB-735Fi:

スクリーンタイプの設定：**16:9**

アスペクトモード	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
オート			

アスペクトモード	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
フル			
ズーム			
リアル			

スクリーンタイプの設定：**16:10**

アスペクトモード	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
オート			
フル			
ズーム			
リアル			

スクリーンタイプの設定：**4:3**

アスペクトモード	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
オート			
フル			
ズーム			
リアル			

スクリーンタイプの設定：**16:6**

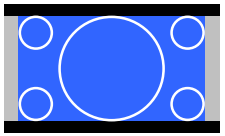
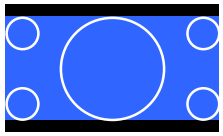
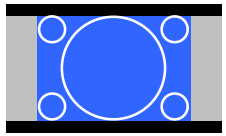
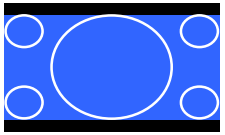
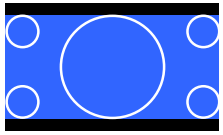
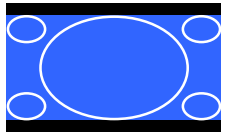
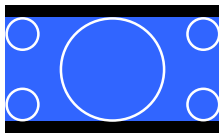
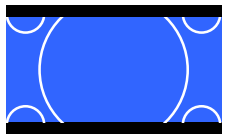
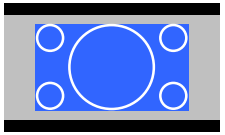
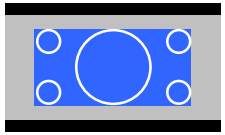
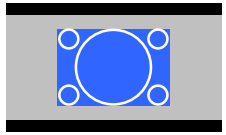
アスペクトモード	入力信号のアスペクト比			
	16:10	16:9	4:3	16:6
オート				
フル				

EB-725Wi/EB-725W:

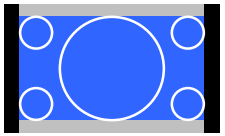
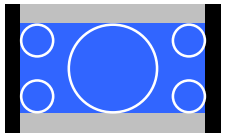
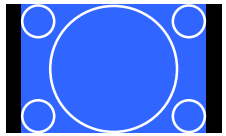
スクリーンタイプの設定：**16:10**

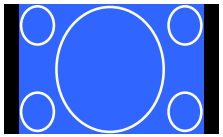
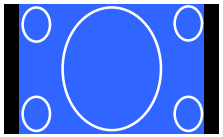
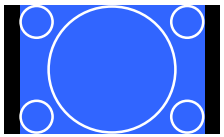
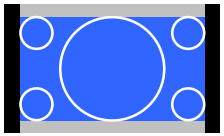
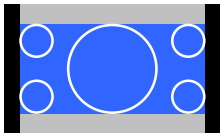
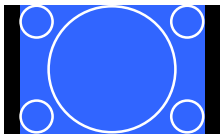
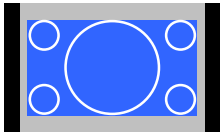
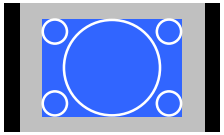
アスペクトモード	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
オート			
フル			
ズーム			
リアル			

スクリーンタイプの設定：**16:9**

アスペクトモード	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
オート			
フル			
ズーム			
リアル			

スクリーンタイプの設定：**4:3**

アスペクトモード	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
オート			

アスペクトモード	入力信号のアスペクト比		
	16:10	16:9	4:3
フル			
ズーム			
リアル			

本機は、投写環境や映像の種類に応じて、明るさ、コントラスト、色を最適化するためのカラーモードを用意しています。環境や映像の種類に合ったカラーモードを選択できます。

関連項目

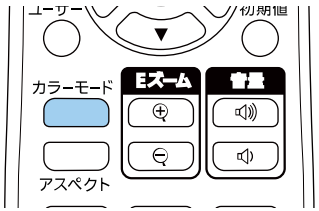
- 「カラーモードを変更する」 p.85
- 「カラーモードの種類」 p.85
- 「映像の光量を調整する」 p.86

カラーモードを変更する

リモコンでカラーモードを変更して、映像を最適化します。

1 本機の電源を入れ、投写する機器の映像に切り替えます。

2 リモコンの【カラーモード】ボタンを押してカラーモードを切り替えます。



カラーモードの名称が一時的に投写画面に表示され、映像の表示が切り替わります。

3 投写中の入力信号で選択できるカラーモードを順に切り替えるには、【カラーモード】ボタンを繰り返し押します。

カラーモードは［映像調整］メニューの［カラーモード］でも設定できます。

カラーモードの種類

投写している映像の種類に応じて、以下のカラーモードを設定できます。

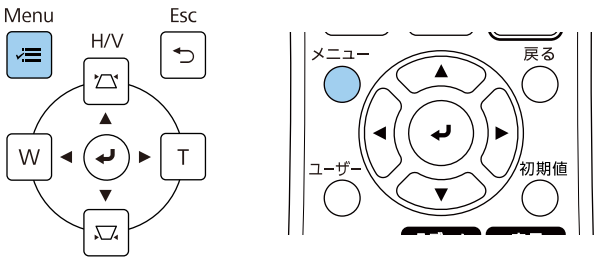
カラーモード	説明
ダイナミック	最も明るいモードです。明るさを優先したい場合に適しています。
プレゼンテーション	映像を明るく鮮やかに投写したい場合に適しています。
シネマ	映画などのコンテンツを楽しむのに適しています。
sRGB	コンテンツの持つ色表現を忠実に再現したい場合に適しています。
黒板（EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W）	黒板に直接投写する場合に適しています。
DICOM SIM（EB-755F/EB-750F）	エックス線写真などの医用画像を投写するのに適しています。ただし、本機は医療機器ではありませんので、医療診断の用途ではご利用いただけません。
マルチプロジェクション（EB-755F/EB-750F）	本機を複数台並べて投写する場合に適しています（映像の明るさや色合いの違いを小さくします）。

映像の光量を調整する

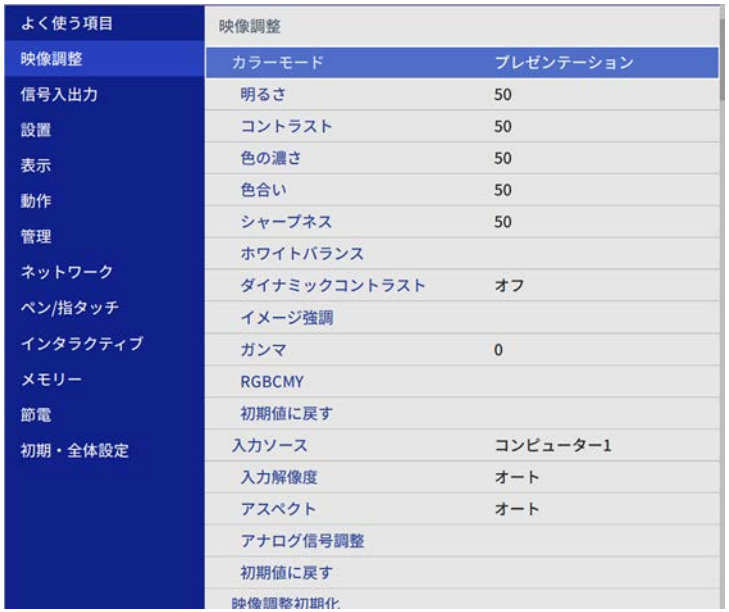
ダイナミックコントラストをオンにすると、投写映像の光量を自動的に調整できます。光量を自動的に調整することで、映像の明るさに合わせてコントラストを改善します。

1 本機の電源を入れ、投写する機器の映像に切り替えます。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



3 ［映像調整］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［ダイナミックコントラスト］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 以下のいずれかを選択し、【決定】ボタンを押します。

- ［標準］：標準の光量調整が行われます。

- ［高速］：シーンが切り替わったとき、すぐに光量を調整します。

6 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

投写映像の色合いを細かく調整できます。

関連項目

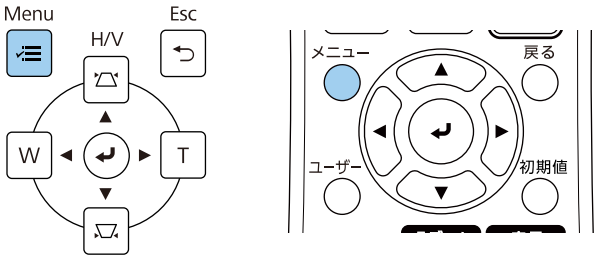
- 「色相、彩度、明度を調整する」 p.88
- 「ガンマを調整する」 p.89

色相、彩度、明度を調整する

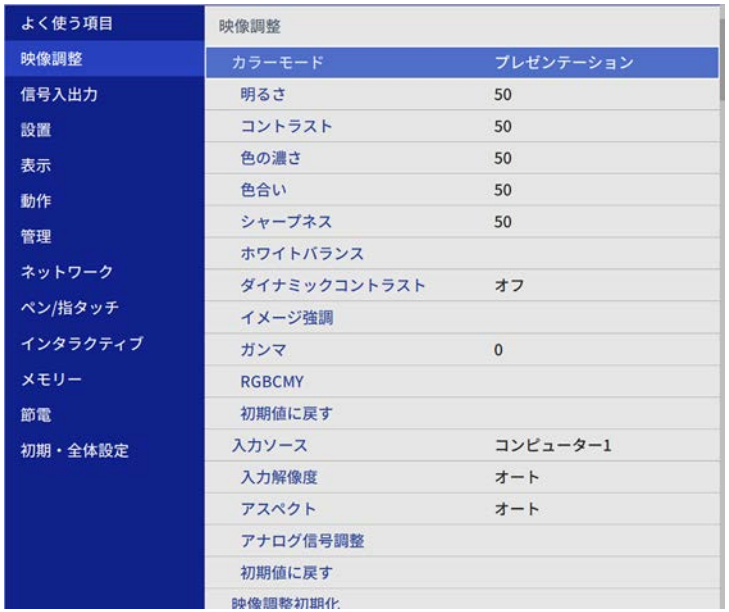
映像の色相、彩度、明度を調整します。

1 本機の電源を入れ、投写する機器の映像に切り替えます。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



3 ［映像調整］を選択し、【決定】ボタンを押します。

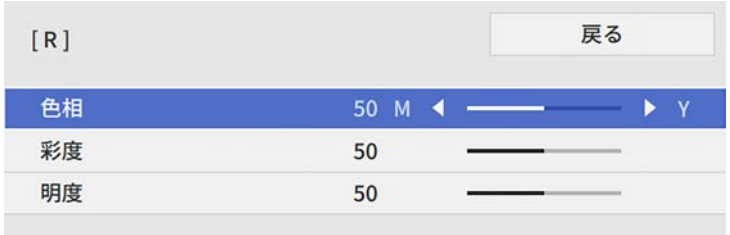


4 ［RGBCMY］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 調整する色を選択し、【決定】ボタンを押します。

6 必要に応じて以下を調整します。

- ［色相］：映像全体の色味を、青系〜緑系〜赤系へと調整します。
- ［彩度］：映像全体の鮮やかさを調整します。
- ［明度］：映像全体の明るさを調整します。



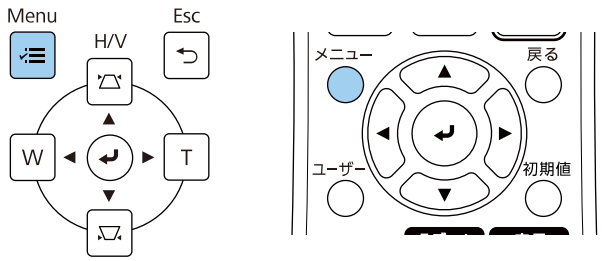
7 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

ガンマを調整する

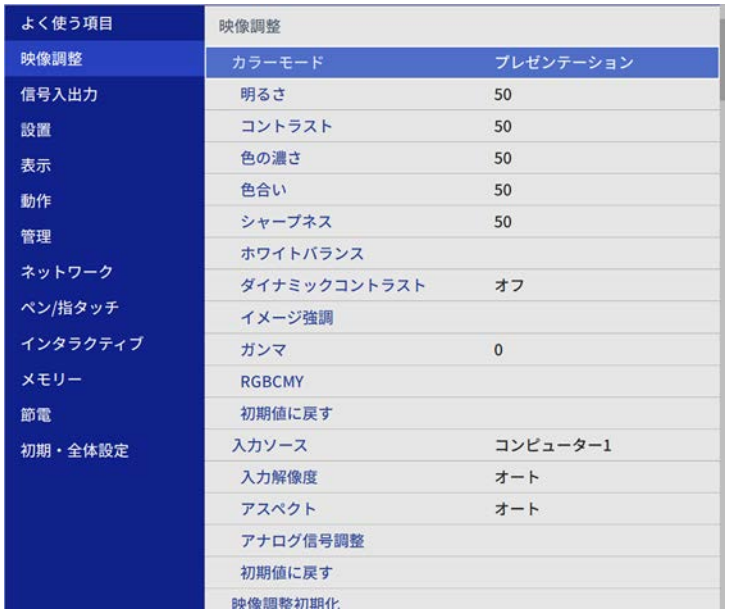
ガンマを調整することにより、接続機器の違いにより生じる投写映像の発色の違いを調整します。

1 本機の電源を入れ、投写する機器の映像に切り替えます。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。

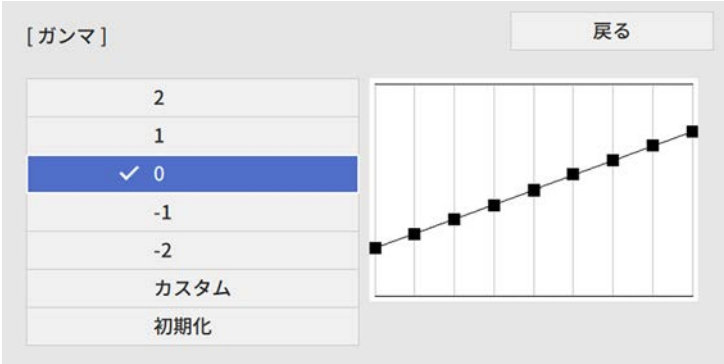


3 ［映像調整］を選択し、【決定】ボタンを押します。

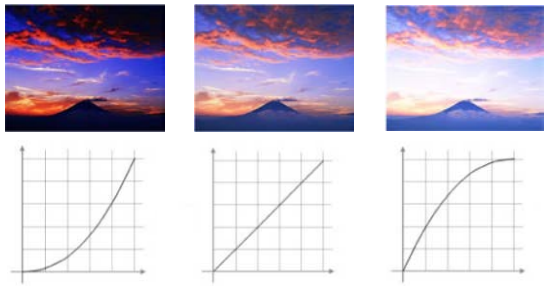


4 ［ガンマ］を選択し、【決定】を押します。

5 補正値を選んで調整します。



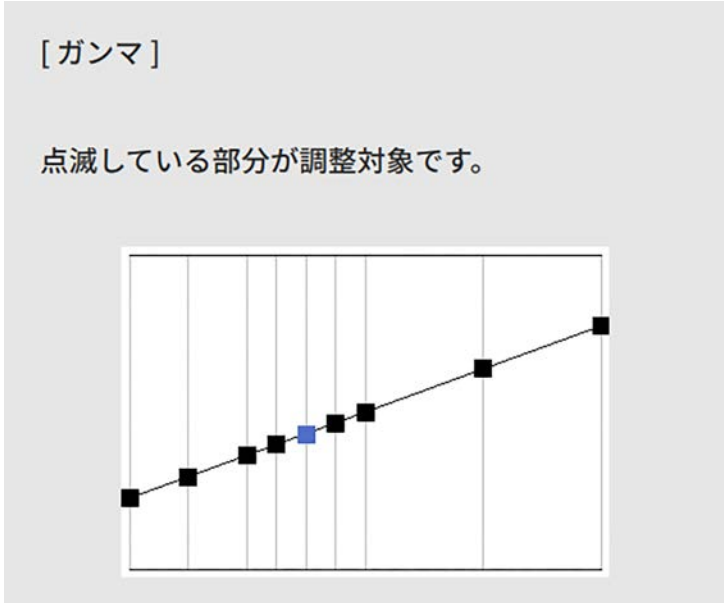
数値が小さいほど、映像全体の明るさを抑えてメリハリのある映像になります。数値が大きいと、映像の暗い部分が明るくなり、明るい部分は色の濃淡が小さくなります。



- ［映像調整］メニューの［カラーモード］で［DICOM SIM］を選択したときは、投写サイズに応じた補正値を選択します（EB-755F/EB-750F）。
  - 投写サイズが80型以下：より小さい数値を選択します。
  - 投写サイズが80型以上：より大きい数値を選択します。
- 本機の設置環境やスクリーンの仕様によっては、医用画像を正しく再現できないことがあります。

6 調整の精度を上げるには、［カスタム］を選択し、【決定】ボタンを押します。

7 ガンマ調整グラフで、左右ボタンを使って変更したい階調を選択します。選択された階調を上下ボタンで調整し、【決定】ボタンを押します。

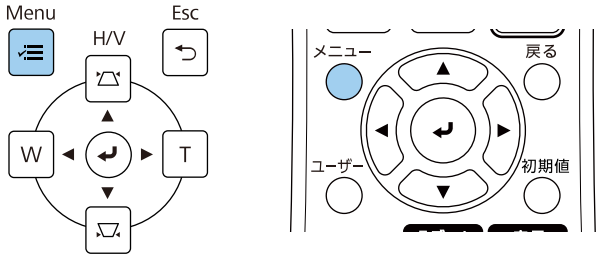


8 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

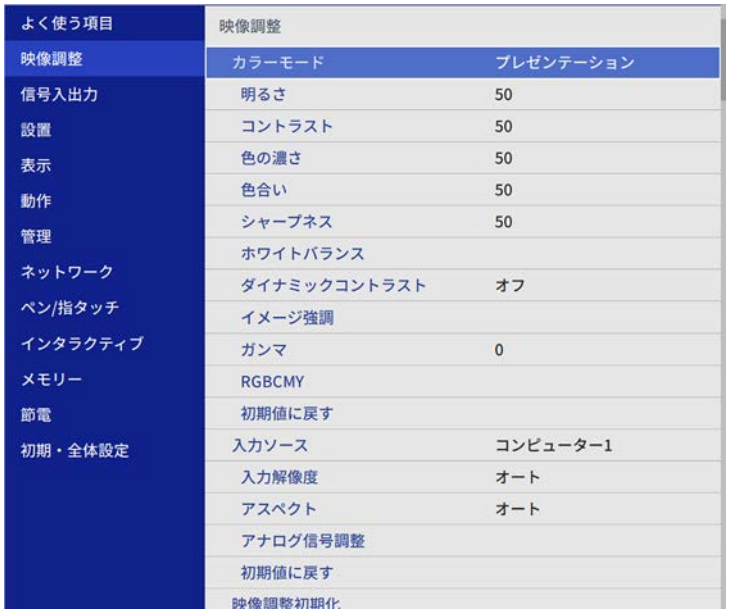
映像の解像度を調整することで、質感や素材感のあるくっきりとした映像を表現できます。

1 本機の電源を入れ、投写する機器の映像に切り替えます。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



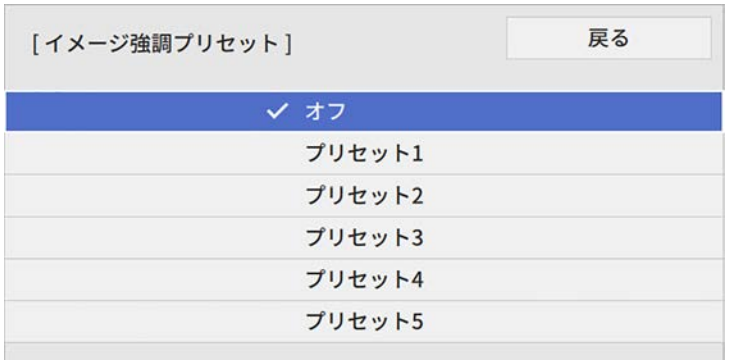
3 ［映像調整］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［イメージ強調］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 ［イメージ強調プリセット］を選択し、【決定】ボタンを押します。

6 プリセットを選択し、【決定】を押します。



プリセットに登録されている以下の項目の設定値が映像に反映されます。

- ［ノイズリダクション］
- ［MPEGノイズリダクション］
- ［プログレッシブ変換］
- ［超解像］
- ［ディテール強調］

7 必要に応じて、［映像調整］メニューでそれぞれの設定値を個別に調整します。

- ［ノイズリダクション］：映像のざらつきを抑えます。
- ［MPEGノイズリダクション］：MPEG形式の映像のざらつきを抑えます。
- ［プログレッシブ変換］：インターレース信号をプログレッシブ信号に変換します。
  - ［オフ］:動きの速いビデオ映像に適しています。
  - ［ビデオ］：一般のビデオ映像に適しています。
  - ［フィルム/オート］：映画フィルムやCG、アニメーションに適しています。

> インターレース信号（480i/576i/1080i）が入力されているとき表示されます。

- ［超解像］：解像度の低い映像を投写するときに、解像度を高めて映像のボケを軽減します。
- ［ディテール強調］：映像のテクスチャーや質感を強調します。

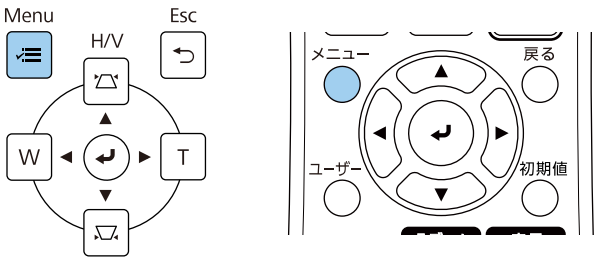
> 調整後、プリセットの設定値は上書きされます。

8 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

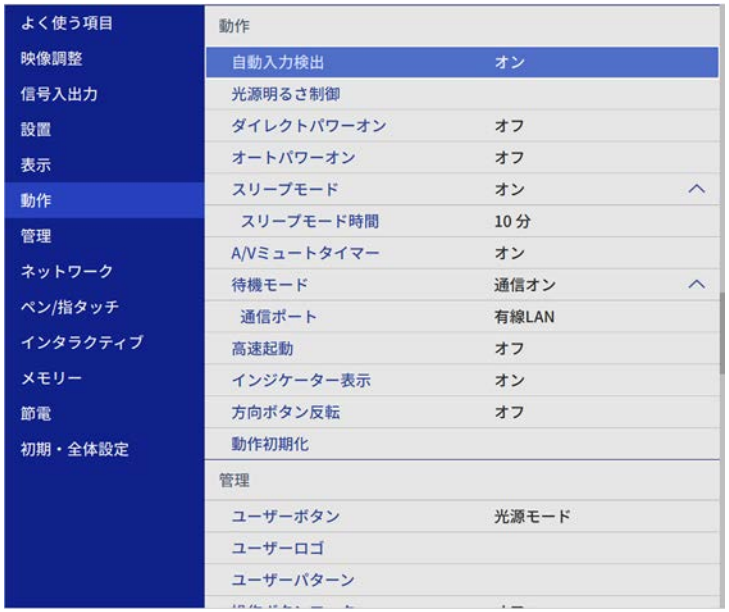
光源の明るさを設定します。

1 本機の電源を入れ、投写する機器の映像に切り替えます。

2 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。

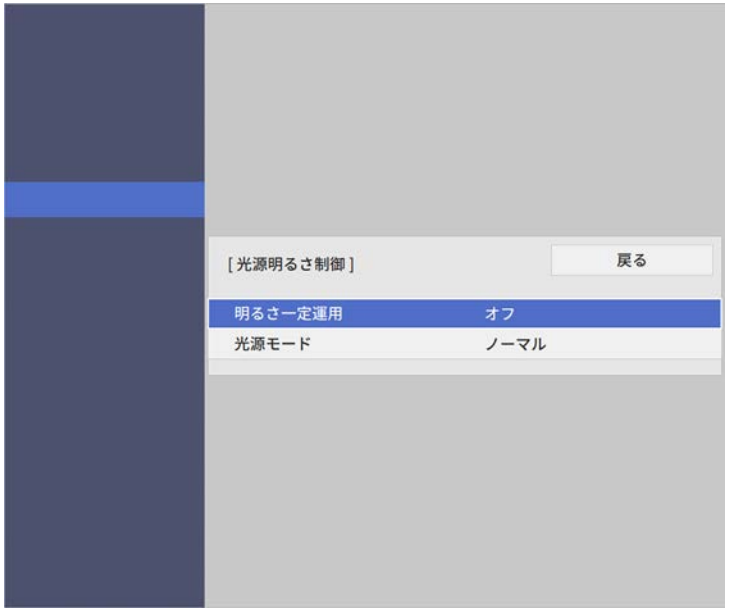


3 ［動作］を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 ［光源明るさ制御］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 明るさを一定のレベルで維持したいときは、［明るさ一定運用］を［オン］に設定します。



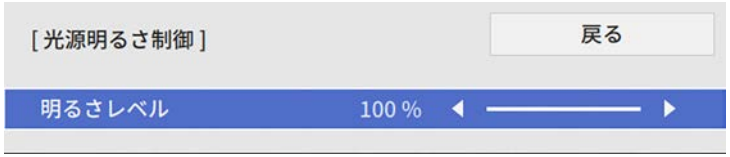
6 ［明るさ一定運用］をオンにしたときは、［明るさ維持レベル］を選択し、［残り時間目安］を確認します。

7 ［明るさ一定運用］をオフにしたときは、［光源モード］を選択します。

- ［ノーマル］：明るさを落としたくないときに選択します。光源使用時間の目安は約20,000時間です。
- ［静音］：ファンの音が気になるときに選択します。明るさレベルは約70%になります。光源使用時間の目安は約20,000時間です。

- ［ロング］：光源の寿命を延ばしたいときに選択します。明るさレベルは約70%になります。光源使用時間の目安は約30,000時間です。
- ［カスタム］：明るさレベルを70～100%の範囲で設定します。

8 ［光源モード］で［カスタム］を選択したときは、［明るさレベル］を選択し、左右矢印ボタンを押して明るさレベルを設定します。



9 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

光源の明るさを一定に保ちたいときは、［管理］メニューの［光源キャリブレーション］で［定期的に実行］を選択してください。

関連項目

- 「残り時間目安の見方」 p.95
- 「光源の使用時間」 p.96
- 「本機仕様」 p.321

残り時間目安の見方

［明るさ一定運用］をオンにしたときは、明るさを一定に保つことができる時間の目安として［残り時間目安］が表示されます。

表示レベル	残り時間目安
▮▮▮▮▮	10,000時間以上

表示レベル	残り時間目安
▮▮▮▮▮	8,000〜9,999時間
▮▮▮▮▮	6,000〜7,999時間
▮▮▮▮▮	4,000〜5,999時間
▮▮▮▮▮	2,000〜3,999時間
▮▮▮▮▮	0〜1,999時間

［残り時間目安］に表示される時間は目安です。

光源の使用時間

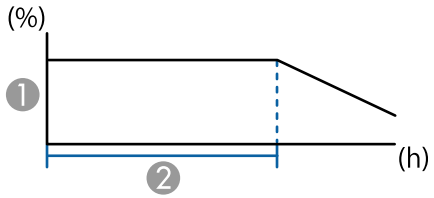
光源の使用時間は、［明るさレベル］の設定や［明るさ一定運用］のオン/オフによって異なります。

- 光源の使用時間はお使いの環境によって異なります。
- 以下に示す時間は目安であり、保証期間ではありません。
- 本機の使用条件や使用環境によっては、目安時間より短い時間でも、本機内部の部品交換が必要となることがあります。
- ［明るさ一定運用］がオンのときに、以下に示す目安時間を超えて使用した場合は、［明るさ維持レベル］の設定を高くすることはできません。

明るさ一定運用がオフの場合

明るさレベルの設定	光源の明るさが半減するまでの時間（目安）
100%	20,000時間
90%	21,000時間
80%	24,000時間
70%	30000時間

明るさ一定運用がオンの場合



❶ 明るさ維持レベル

❷ 光源の明るさを一定に保つことができる時間（目安）

明るさ維持レベルの設定	光源の明るさを一定に保つことができる時間（目安）
85%	6,000時間
80%	10,000時間
70%	19,000時間

音量ボタンで音量を調整する

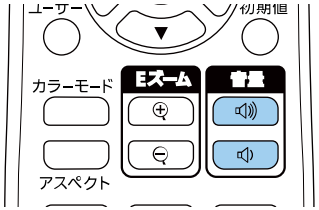
音量ボタンは、プロジェクターの内蔵スピーカーの音量を調整します。

プロジェクターに接続している外部スピーカーの音量も調整できます。

音量は接続した入力ソースごとに調整する必要があります。

1 本機の電源を入れ、投写する機器の映像に切り替えます。

2 リモコンの【音量】ボタンを押して音量を調整します。



音量調節画面が表示されます。

3 メニューから音量を調整するときは、［信号入出力］メニューの［音量］を設定します。設定値は入力ソースごとに保持されます。

⚠ 注意

初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

電源を切る前に音量を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

インタラクティブ機能を使用する

インタラクティブ機能の使い方について説明します。

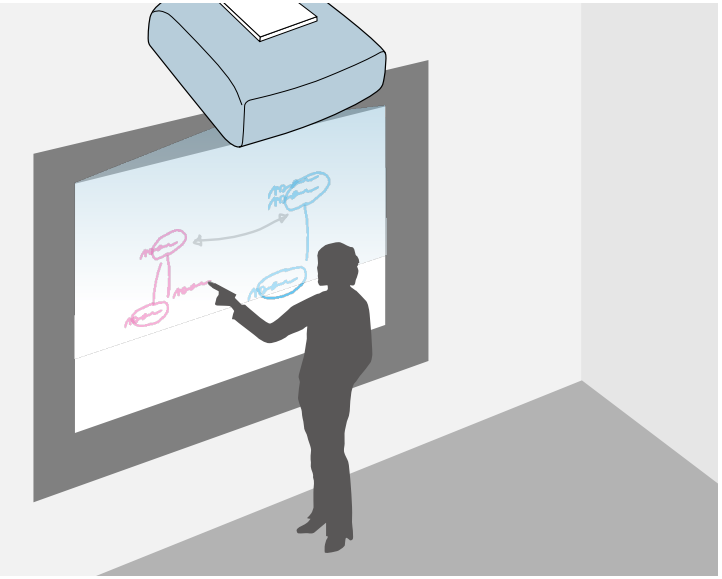
関連項目

- 「インタラクティブ機能でできること」 p.99
- 「インタラクティブ機能をご使用になる前に」 p.101
- 「ホワイトボードとして使用する（ホワイトボードモード）」 p.106
- 「投写映像に描画する（アノテーションモード）」 p.113
- 「描画した内容を共有する」 p.117
- 「投写画面でコンピューターを操作する（マウス操作）」 p.124
- 「書画カメラを操作する」 p.129
- 「ネットワーク経由で接続している機器の映像を投写する」 p.130
- 「ネットワーク経由でインタラクティブ機能を利用する」 p.132
- 「ホワイトボードと画面を分割する」 p.133

インタラクティブ機能を使うと、以下のことができます。

- インタラクティブ機能は、EB-735Fi/EB-725Wiでのみ使用できます。
- 指を使ってのタッチ操作には、オプションのタッチユニットが必要です。詳しくは、本機の『設置工事説明書』をご覧ください。

- ペンまたは指を使って、ホワイトボードのような無地の投写画面に描画できます（ホワイトボードモード）。

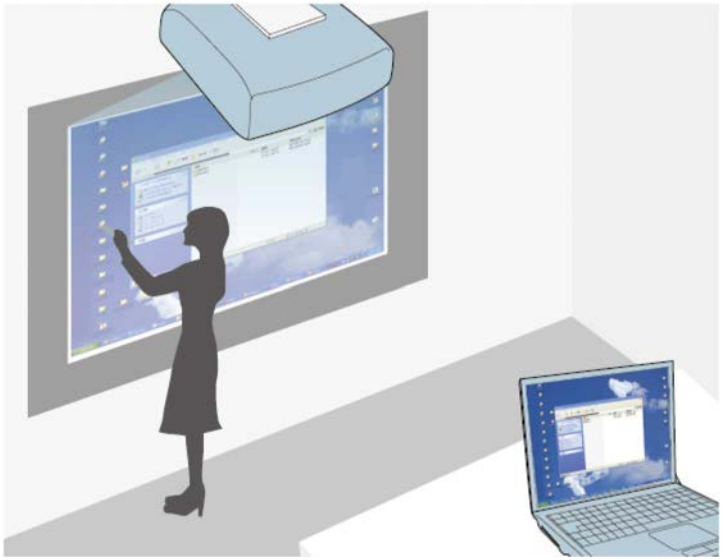


特定のアプリケーションソフトをインストールしたり、コンピューターを接続したりしなくても、プロジェクター内蔵のホワイトボード機能を使って描画できます。会議でホワイトボードの代わりに使用すると便利です。
他のプロジェクターで描画した内容を共有したり、PDFやPNGファイルとして保存したり、印刷したり、メールで送信したりできます。

- ペンまたは指を使って、コンピューター、タブレット端末、書画カメラなどから投写した資料に注釈を書き込めます（アノテーションモード）。

重要なポイントを強調したり補足を書き込んだりして、効果的な授業やプレゼンテーションを実現できます。
注釈を書き込んだ画面を保存、印刷することもできます。

- ペンまたは指を使って、投写画面でコンピューターを操作できます（マウス操作）。コンピューターのマウスと同じように、クリックやドラッグ＆ドロップなどができます。



- 描画アプリケーションソフトEasy Interactive Toolsを使っても、描画した内容を保存したり印刷したりして、インタラクティブ機能をより活用できます。機能の詳細については、『Easy Interactive Tools操作ガイド』をご覧ください。

関連項目

- 「ホワイトボードとして使用する（ホワイトボードモード）」 p.106
- 「投写映像に描画する（アノテーションモード）」 p.113
- 「投写画面でコンピューターを操作する（マウス操作）」 p.124
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

インタラクティブ機能を安全にお使いいただくための注意事項について説明します。以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

関連項目

- 「インタラクティブ機能を安全にお使いいただくために」 p.101
- 「インタラクティブペンを使う」 p.101
- 「指を使って操作する」 p.103

インタラクティブ機能を安全にお使いいただくために

インタラクティブ機能は赤外線通信により動作します。以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

- 本機のインタラクティブペン受光部や投写画面に、強い光や太陽光が直接当たらないようにしてください。
- インタラクティブペン受光部にホコリが付着すると、赤外線受信の妨げとなり、正常に使用できないことがあります。インタラクティブペン受光部が汚れたら掃除をしてください。
- インタラクティブペン受光部のカバーには、塗装やシールの貼付けをしないでください。
- 赤外線リモコンや赤外線マイクロホンを同じ部屋で使用すると、インタラクティブペンが誤動作することがあります。
- 回転機や変圧器など、強いノイズを発生する機器を本機に近づけないでください。インタラクティブ機能を使用できなくなることがあります。

インタラクティブペンを使う

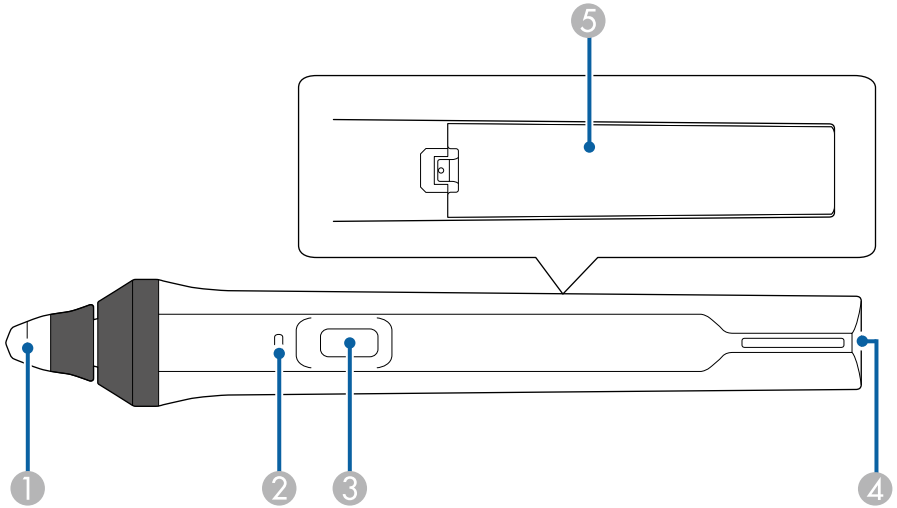
初めて使用するときは、ペン位置合わせを行う必要があります。詳しくは、本機の『設置工事説明書』をご覧ください。

ペン位置合わせを行った後、以下の操作を行うと、位置がずれることがあります。位置ずれが気になるときは、再度ペン位置合わせを行ってください。

- 幾何学歪み補正を行ったとき
- 映像のサイズを調整したとき
- デジタル ピクチャーシフトを行ったとき
- プロジェクターの投写位置が変わったとき

プロジェクターには2種類のペンが同梱されており、ペン後方部の色が異なります（オレンジと青）。色の異なるペンは2本同時に使用できます。

ペンの電源をオンにする前に、電池が入っていることを確認します。



1. ペン先
2. バッテリーインジケーター
3. ボタン
4. ストラップホール

⑤ 電池カバー

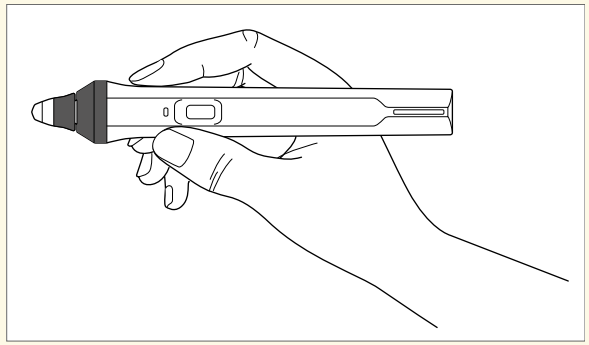
ペンを持つと電源が入ります。

ペンを使い終わったら、投写画面から離れた場所に置いてください。

注意

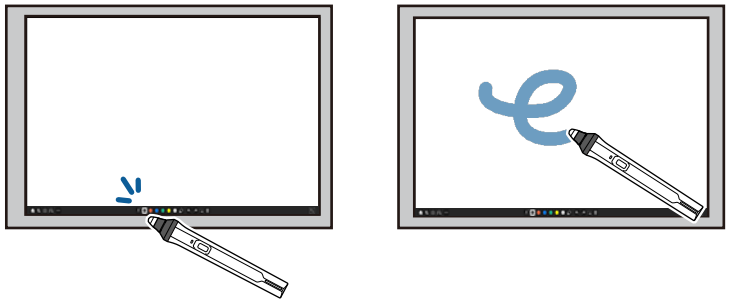
- 濡れた手でペンを使用したり、直接水のかかる場所で使用したりしないでください。ペンは防滴仕様ではありません。
- 太陽光が直接当たる場所には、プロジェクターやスクリーンを設置しないでください。太陽光がプロジェクターやスクリーンに直接当たると、インタラクティブ機能が正しく動作しない場合があります。

- ペンを置くと15秒後に自動的に電源が切れます。ペンを持つと再び電源が入ります。
- ペンが正しく動作するよう、次の図のように投写面に対してペンを垂直に持ってください。また、ペン先の黒い部分を持たないでください。



インタラクティブペンを使って次のことができます。

- ホワイトボードモードまたはアノテーションモードでは、以下の操作ができます。



- アイコンなどを選択するには、ペン先を投写面に押し当てます。
- 投写面に描画するには、ペン先を押し当てて動かします。
- ポインターを移動するには、ペン先を投写面から浮かせて動かします。これをホバリングと呼びます。
- ［インタラクティブ］メニューで設定した機能に切り替えるには、ペン側面のボタンを押します。

  ☛ ［インタラクティブ］ > ［ペンボタン動作］

- ペンをマウス操作として使用中は、以下の操作ができます。

- クリックするには、投写面にペン先ボタンを押し当ててすぐに離します。

- ダブルクリックするには、ペン先を2回押し当てます。
- 右クリックするには、ペン側面のボタンを押します。
- ドラッグ＆ドロップするには、移動したいアイコン等の上にペン先を押し当てて、投写面から離さずに移動し、移動先でペン先を離します。
- カーソルを移動するには、ペン先を投写面から浮かせて動かします。これをホバリングと呼びます。

- ホバリング機能は［ペン/指タッチ］メニューの［ペンホバリング］で無効にできます。
- ペン先の長押しを右クリックとして使用したいときは、［ペン/指タッチ］メニューの［ペン座標検出モード］で［マウスモード］を選択し、［ペン先の長押し］で［右クリック］を選択します。

☛［ペン/指タッチ］＞［PC操作］＞［ペン座標検出モード］

☛［ペン/指タッチ］＞［PC操作］＞［ペン先の長押し］

関連項目

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

指を使って操作する

インタラクティブペンと同じように、投写画面で指を使ってタッチ操作ができます。インタラクティブペンと指は同時に使用できます。

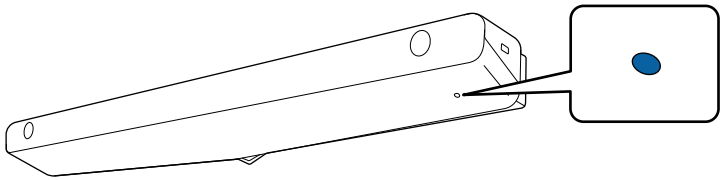
マウス操作では、最大6点までのタッチ操作を認識します。アノテーションモードおよびホワイトボードモードでは、2本の指で操作ができます。

指での操作を始める前に、次の設定が完了していることを確認します。

- タッチユニットの取り付け
- 手動ペン位置合わせ
- タッチユニットの角度調整
- 指タッチ位置合わせ

詳しくは、本機の『設置工事説明書』をご覧ください。

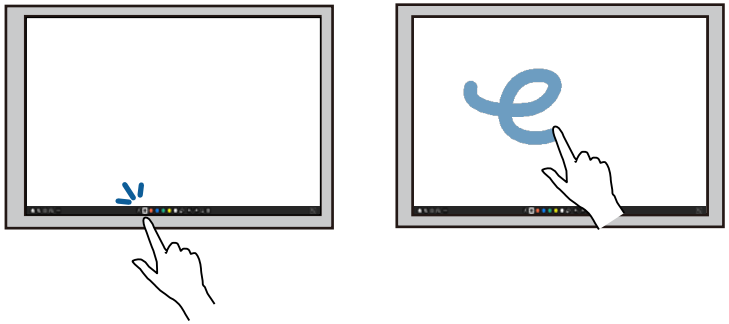
プロジェクターの電源を入れると、タッチユニットの電源がオンになります。インジケーターが青色に点灯すると、指での操作が可能になります。



- タッチユニットの電源がオンにならないときは、以下をご確認ください。
  - プロジェクターが正常に動作している。
  - ［設置］メニューの［縦置き］が［する］に設定されているときは、［設置モード］が［フロント］または［フロント・上下反転］に設定されている。
  - ［設置］メニューの［縦置き］が［しない］に設定されているときは、［設置モード］が［フロント・上下反転］または［リア・上下反転］に設定されている。
  - ［タッチユニット］の［電源］が［オン］に設定されている。
    ☛ ［ペン/指タッチ］ > ［タッチユニット］ > ［電源］
  - タッチユニットと本機のTCH端子が、タッチユニット接続ケーブルで接続されている。
- 指の向きや角度により、タッチ操作の位置がずれることがあります。
- 付け爪やマニキュア、包帯などをしている指で操作すると、正しく動作しないことがあります。
- 指同士またはペン同士、あるいはその両方が近い場合、または複雑に交差する動きの場合は、複数の指を正しく認識しないことがあります。
- 衣服の袖や身体の一部がスクリーンに近づいたり接触したりすると、誤動作する場合があります。
- 投写面内に手をついて描画や操作を行うと、誤動作する場合があります。

次の操作ができます。

- アノテーションモードまたはホワイトボードモードでは、投写面に描画できます。



  - アイコンなどを選択するには、指先を投写面に押し当ててすぐ離します。
  - 描画をするには、ツールバーからペンを選択し、指先を投写面に押し当てて動かします。本機の電源をオンにしてから初めて指タッチ操作を行うときは、消しゴムが選択されています。
  - 画像を拡大・縮小するには、投写面上を2本の指で触れ、指の間隔を広げたり（拡大）近づけたり（縮小）します。
  - 画像を回転するには、投写面上を2本の指で触れ、そのまま回します。
- 指をマウス操作として使用中は、以下の操作ができます。

  - クリックするには、投写面に指先を押し当ててすぐに離します。

- ダブルクリックするには、指先を2回押し当てます。
- 右クリックするには、指先で投写画面を約3秒押します(Windowsの場合）。
- ドラッグ＆ドロップするには、移動したいアイコン等の上で指を押し当てて、投写画面から離さずに移動し、移動先で指を離します。

- お使いの機器が以下の操作に対応しているときは、投写画面からも同様の操作ができます。
  - 画像を拡大・縮小するには、投写面上を2本の指で触れ、指の間隔を広げたり（拡大）近づけたり（縮小）します。
  - 画像を回転するには、投写面上を2本の指で触れ、そのまま回します。
  - ページ送りをしたり、ブラウザー上で画面を切り替えるには、指ではじきます（フリック操作）。
- 複数の指でそれぞれ異なるツールを選択することはできません。

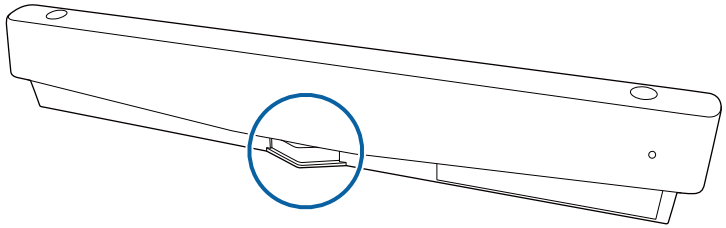
関連項目

- 「指での操作を安全に行っていただくために」 p.105
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

指での操作を安全に行っていただくために

タッチユニットは、内部に組み込まれた高出力レーザー製品によって、指での操作を可能にします。

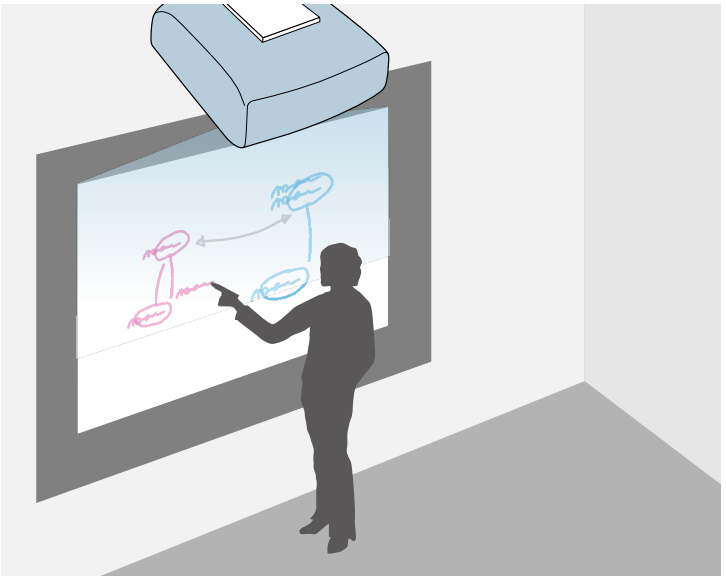
レーザー光は、タッチユニット下部のレーザー照射口から照射されます。



指での操作を行うときは、以下の注意事項を必ず守ってください。

⚠ 警告

- 小さなお子様が指操作を行うときは、誤った使い方をしないよう必ず保護者が同伴してください。
- 本機およびタッチユニットのケースを開けないでください。また、分解・改造は絶対にしないでください。本機の内部には電圧の高い部分が数多くあり、火災・感電・事故の原因となります。
- タッチユニットから照射されるレーザー光に対して、ルーペ、反射鏡などの光学機器をあてないでください。そのまま使用を続けると、火災・事故、人体への悪影響の可能性があります。
- 本機およびタッチユニットに異常が発生したときは、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。そのまま使用を続けると、感電や火災の原因だけでなく、視力障害の原因にもなります。
- タッチユニットのレーザー照射口から70mm以内の距離で特定の光学機器（アイルーペ、拡大鏡、顕微鏡など）を使用してレーザー光を見ないでください。眼に障害が生じる可能性があります。



ホワイトボードのような無地の背景を投写します。インタラクティブペンや指を使って、投写画面上に文字や図形を描画できます。会議でホワイトボードの代わりに使用すると便利です。

ホワイトボードモードでは、2本のペンと指を同時に使用することもできます。

関連項目

- 「ホワイトボードモードを安全にお使いいただくために」 p.106
- 「ホワイトボードモードを開始する」 p.106

ホワイトボードモードを安全にお使いいただくために

以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

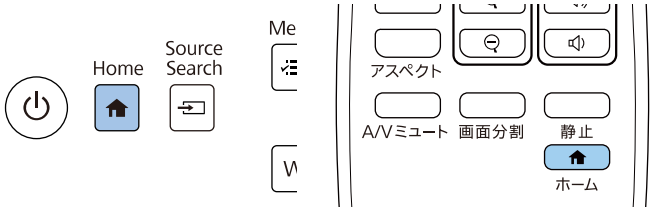
- プロジェクターの電源を切ると、描画した内容はすべて消去されます。
- データはお客様の責任において管理してください。データの損失・損傷、情報漏えい、その他本機の使用によりお客様または第三者のデータに関して生じた直接的・間接的な損害につきましては、当社は一切の責を負いかねます。あらかじめご了承ください。

ホワイトボードモードを開始する

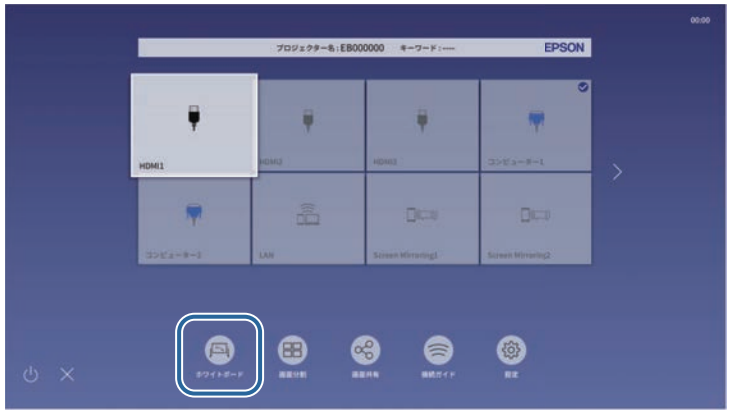
ホワイトボードモードツールバーを使って、ホワイトボード画面に描画できます。

1 本機の電源を入れます。

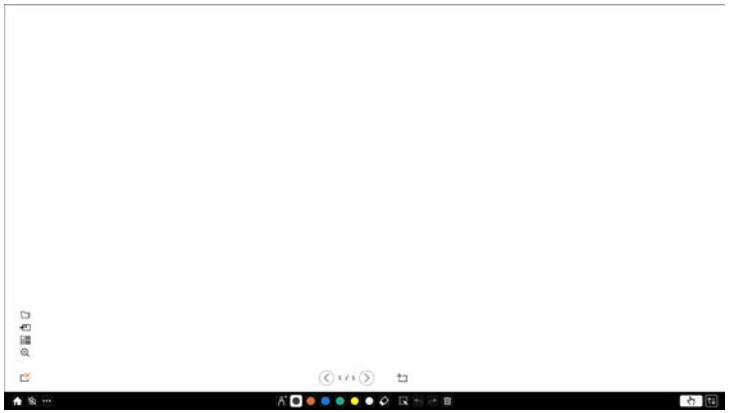
2 【ホーム】ボタンを押します。



3 ［ホワイトボード］を選択します。



次のようなホワイトボード画面とツールバーが表示されます。



- ツールバーをドラッグすると、画面の上下左右いずれかに配置を変更できます。
- ツールバーの を選択しても、ホワイトボード画面を表示できます。
- ホワイトボードモードで描画した内容は、アノテーションモードや他の入力ソースに切り替えても保持されます。

4 ツールバーが表示されたら、インタラクティブペンや指を使って投写画面に書き込みができます。

関連項目

- 「ホワイトボードモードのツールバー」 p.107
- 「ホワイトボードモードに画像を挿入する」 p.111
- 「ホワイトボードモードで読み込めるファイル形式」 p.112

ホワイトボードモードのツールバー

ホワイトボードモードのツールバーを使うと、投写画面に描画できます。ツールバーは以下のように表示されます。

- 描画エリアの任意の場所でペン側面のボタンを押して、ミニツールボックスを使用することもできます。ミニツールボックスでは、ペンや消しゴムの種類を選択できます。
- 指を使って操作しているときはミニツールボックスを表示できません。

［ホーム］	ホーム画面を表示します。
［A/Vミュート］	映像と音声を一時的に遮断します。再開するには、再度選択してください。

［その他のツール］	ツールパネルを表示します。 • ［メール］：投写画面をメールで送信します。事前に［インタラクティブ］メニューの［メール］で設定が必要です。 • ［保存］：表示中の画面を保存します。事前に［インタラクティブ］メニューの［保存］で設定が必要です。 • ［印刷］：投写画面を印刷します。事前に［インタラクティブ］メニューの［プリント］で設定が必要です。 • ［タイマー］：タイマーを起動します。 • ［投写画面を配信］：現在表示中の画面を、Epson iProjectionを使って共有します。 • ［参加者一覧］：ユーザー選択画面を表示します。ネットワーク経由でプロジェクターに接続している機器の中から、目的の機器を選択して映像を投写します。 • ［ヘルプ］：ツールバーの機能を説明するヘルプを表示します。［閉じる］を選択すると、ヘルプ画面を閉じます。 • ［すべての描画を削除］：現在の編集内容を破棄して、ホワイトボードを初期状態に戻します。
［ペン］	ペンの種類や線幅、図形を選択します。

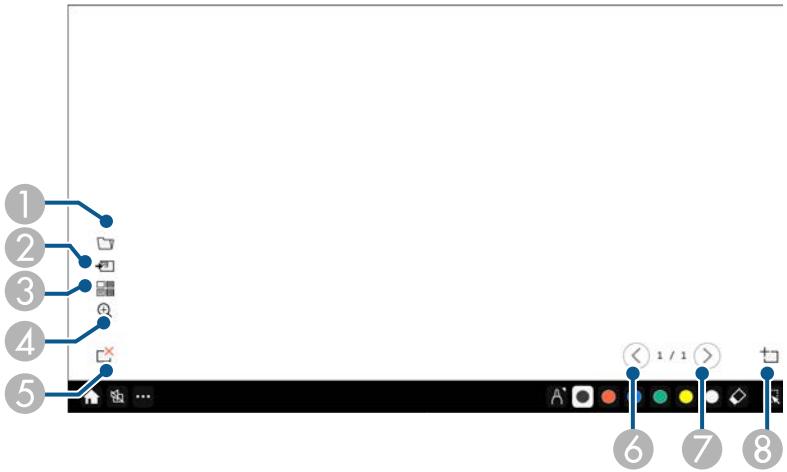
［色］	描画の色を選択します。
［消しゴム］	消しゴムに切り替えます。消しゴムの大きさを選択します。
［選択］	描画や挿入した画像を選択し、オブジェクトの移動や大きさの変更などの操作をします。 • 選択したオブジェクトや画像の右下にあるアイコンをクリックすると操作ができます。コピーしたオブジェクトや画像を貼り付けるときは、画面に触れ、アイコンを選択して、［貼り付け］を選択します。 • 選択した範囲の角をドラッグすると、オブジェクトや画像を拡大・縮小できます。 • 選択した範囲の上部にあるをドラッグすると、範囲内のオブジェクトや画像が回転します。
［元に戻す］	1つ前の操作を元に戻します。
［やり直し］	元に戻した操作を取り消します。
［画面クリア］	表示中のページの描画内容をすべて削除します。

［タッチ無効］/［タッチ有効］	意図しない操作を防ぐために、一時的にタッチ操作を不可にします。再度選択すると、タッチ操作を有効にします。
［最小化］	ツールバーを閉じます。

- ホワイトボード画面で表示できる画像の数とサイズは以下のとおりです。
  - 1ページにつき1920×1080画素×2枚分相当の画素数
  - 全体で20ページまで
- 描画したオブジェクトは、読み込んだ画像よりも手前に表示されます。
- ホワイトボード画面の外に移動したオブジェクトや画像は選択できないことがあります。

ホワイトボード画面のボタン

ホワイトボード画面に表示されるボタンを使うと、ホワイトボードモードの機能を使用できます。



❶	［開く］ ファイルを選択して、新規ページに読み込みます。
❷	［画像挿入］ 現在のページに画像ファイルを挿入します。
❸	［背景］ ホワイトボードの背景を選択します。 を選択すると、ユーザー定義テンプレートを読み込みます。
❹	ズーム 投写映像を拡大/縮小します。 ・：画像を縮小します。 ・：画像を拡大します。 ・：元のサイズに戻します。 ・：選択したエリアを拡大します。
❺	［ページ削除］ 表示中のページを削除します。
❻	［前へ］ 前のページを表示します。
❼	［次へ］ 次のページを表示します。
❽	［新規ページ］ 表示中のページの次に新しいページを追加します。最大20ページ追加できます。

関連項目

- 「ホーム画面」 p.52
- 「映像と音声を一時的に遮断する」 p.150
- 「描画した内容をメールで送信する」 p.117
- 「描画内容を保存する」 p.120
- 「描画した内容を印刷する」 p.122
- 「ネットワーク経由で接続している機器の映像を投写する」 p.130

ホワイトボードモードに画像を挿入する

ホワイトボードモードの現在のページに画像を挿入します。USBストレージやネットワークフォルダーに保存した画像や、紙の資料をスキャンした画像を挿入できます。

- USBストレージまたはネットワークフォルダーから画像を挿入するためには、事前に［インタラクティブ］メニューの［保存］で設定が必要です。
- 紙の資料をスキャンするためには、事前にスキャン機能付きのプリンターがプロジェクターに接続されていることを確認し、［インタラクティブ］メニューの［プリント］で設定が必要です。

- ESC/P-Rコマンド対応のプリンターに内蔵されたスキャナー機能がご利用になれます。
- プリント機能のないスキャナーはご利用になれません。詳細はお買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
- プリンターがインク切れなどで印刷できない状態のときは、スキャンできません。

お使いのプリンターの以下のスキャナー機能は使用できません。

- スキャンボタンを使ったスキャン
- 資料の部分的なスキャン
- ADF（自動給紙装置）を使ったスキャン

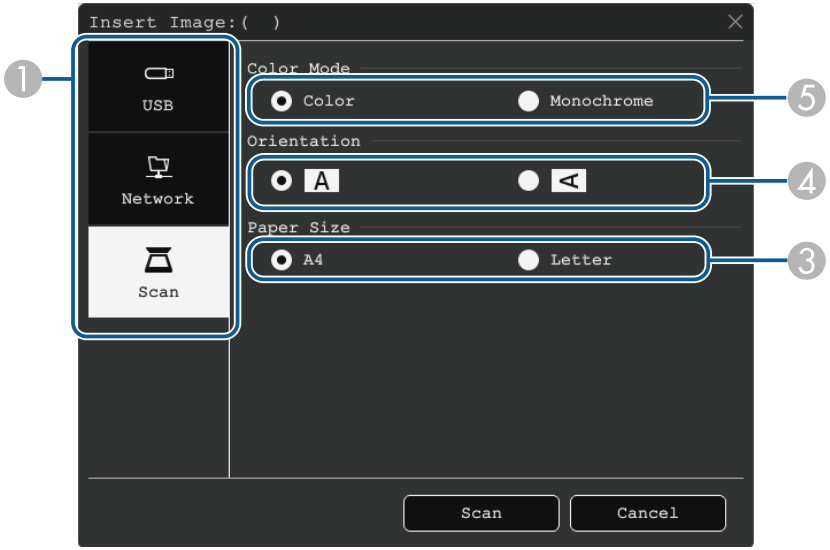
1 紙の資料をスキャンするときは、読み込む資料をスキャナーにセットします。

2 ホワイトボード画面の左下にあるアイコンを選択します。
［画像挿入］画面が表示されます。

3 スキャン画面で以下の設定をします。

- USBストレージまたはネットワークフォルダーから画像を挿入するとき

- スキャンした画像を挿入するとき



1. 挿入する画像がある場所を指定します。
2. 使用するファイルを選択します。
3. 原稿サイズを指定します。
4. スキャンする原稿の向きを選択します。
5. ［カラー］または［白黒］を選択します。

4 ［開く］または［スキャン］を選択します。

挿入またはスキャンされた画像は、ホワイトボードモードの現在のページに表示されます。

ホワイトボードモードで読み込めるファイル形式

ホワイトボードモードで読み込めるファイル形式は以下のとおりです。ページサイズを超える画像は縮小されます。

ホワイトボード画面の左下で または を選択したときは、JPGまたはPNG形式のファイルのみが選択できます。

種類	ファイルタイプ（拡張子）	備考
静止画	.jpg	以下のファイル形式は読み込めません。 • 解像度が2048×2048を超えるファイル* • 拡張子が「.jpeg」 • CMYKカラーモード形式 • プログレッシブ形式
	.png	解像度が2048×2048を超えるファイルは読み込めません。*
PDF	.pdf	バージョンが1.7以前のPDFファイルをサポートしています。 読み込むページ番号を指定します。 パスワードで保護されている場合は、パスワードを入力します。
EWF2	.ewf2	EWF2（Epson Whiteboard Format2）を開くときは、ページ番号を指定します。 パスワードで保護されている場合は、パスワードを入力します。

* 解像度が1920 × 1080までのファイルをホワイトボードの背景として使用できます。1920 × 1080より小さいサイズの画像は画面の中心に配置されます。

アノテーションモードでは、コンピューター、タブレット端末、ビデオ機器などから投写した資料に、ペンまたは指を使って描画できます。2本のペンを同時に使用できます。ペンと指を同時に使用することもできます。

関連項目

- 「アノテーションモードを開始する」 p.113

アノテーションモードを開始する

アノテーションモードで投写画面に注釈を書き込むときは、アノテーションモードツールバーを使います。

事前に［インタラクティブ］メニューの［描画機能を利用する］を［オン］にします。

1 接続機器から映像を投写します。

投写画面に次のようなツールバーが表示されます。

- ツールバーをドラッグすると、画面の上下左右いずれかに配置を変更できます。
- ツールバーの を選択すると、ホワイトボード画面が表示されます。ホワイトボード画面を拡大して画面全体に表示するには、バーを画面の端に移動します。

2 ツールバーが表示されたら、インタラクティブペンや指を使って投写画面に書き込みができます。

関連項目

- 「アノテーションモードのツールバー」 p.114

アノテーションモードのツールバー

アノテーションモードのツールバーを使うと、投写画面に描画できます。表示されるツールバーは投写方法により異なります。

- 描画エリアの任意の場所でペン側面のボタンを押して、ミニツールボックスを使用することもできます。ミニツールボックスでは、ペンや消しゴムの種類を選択できます。
- 指を使って操作しているときはミニツールボックスを表示できません。

［ホーム］	ホーム画面を表示します。
［A/Vミュート］	映像と音声を一時的に遮断します。再開するには、再度選択してください。
［ズーム］	（画面を2画面または4画面に分割しているときは使用できません） 投写映像を拡大/縮小します。
［キャプチャー］	表示中の画面をホワイトボードの新規ページに貼りつけます。 • ［全画面］：画面全体をキャプチャーします。 • ［範囲選択］：選択した部分のみキャプチャーします。 Screen Mirroringの映像をキャプチャーするときは、事前に［ネットワーク］メニューの［キャプチャー］を［使用可能］に設定します。 ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［ネットワーク投写］ > ［Screen Mirroring］ > ［キャプチャー］
［ホワイトボード］	（画面を2画面または4画面に分割しているときは使用できません） ホワイトボード画面を表示します。
［画面分割］	（画面を2画面または4画面に分割しているときのみ） 画面分割の設定をします。
［画面シフト］	（［スクリーンタイプ］が［16:6］のときのみ） ウルトラワイドディスプレイで映像の横位置を指定します。

［その他のツール］	ツールパネルを表示します。 • ［メール］：投写画面をメールで送信します。事前に［インタラクティブ］メニューの［メール］で設定が必要です。 • ［保存］：表示中の画面を保存します。事前に［インタラクティブ］メニューの［保存］で設定が必要です。 • ［印刷］：投写画面を印刷します。事前に［インタラクティブ］メニューの［プリント］で設定が必要です。 • ［タイマー］：タイマーを起動します。 • ［音量］：本機の内蔵スピーカーの音量を調整します。 • ［投写画面を配信］：現在表示中の画面を、Epson iProjectionを使って共有します。 • ［参加者一覧］：ユーザー選択画面を表示します。ネットワーク経由でプロジェクターに接続している機器の中から、目的の機器を選択して映像を投写します。 • ［ヘルプ］：ツールバーの機能を説明するヘルプを表示します。［閉じる］を選択すると、ヘルプ画面を閉じます。 • ［すべての描画を削除］：現在の編集内容を破棄して、初期状態に戻します。

［ペン］	ペンの種類や線幅、図形を選択します。
［色］	描画の色を選択します。
［消しゴム］	消しゴムに切り替えます。消しゴムの大きさを選択します。
［選択］	描画や挿入した画像を選択し、オブジェクトの移動や大きさの変更などの操作をします。 • 選択したオブジェクトや画像の右下にあるアイコンをクリックすると操作ができます。コピーしたオブジェクトや画像を貼り付けるときは、画面に触れ、アイコンを選択して、［貼り付け］を選択します。 • 選択した範囲の角をドラッグすると、オブジェクトや画像を拡大・縮小できます。 • 選択した範囲の上部にあるをドラッグすると、範囲内のオブジェクトや画像が回転します。
［元に戻す］	1つ前の操作を元に戻します。
［やり直し］	元に戻した操作を取り消します。
［画面クリア］	表示中のページの描画内容をすべて削除します。

［タッチ無効］/［タッチ有効］	意図しない操作を防ぐために、一時的にタッチ操作を不可にします。再度選択すると、タッチ操作を有効にします。
［共有の終了］	（画面共有を受信しているときのみ） 画面共有を終了します。
［PC操作］	（画面共有を受信しているときは使用できません） マウス操作に切り替えます。［PC操作］を［オン］にして、ペンや指でコンピューターを操作します。
［最小化］	ツールバーを閉じます。

- 描画したオブジェクトは、読み込んだ画像よりも手前に表示されます。
- ホワイトボード画面の外に移動したオブジェクトや画像は選択できないことがあります。

関連項目

- 「ホワイトボードとして使用する（ホワイトボードモード）」 p.106
- 「投写画面でコンピューターを操作する（マウス操作）」 p.124
- 「ホーム画面」 p.52
- 「映像と音声を一時的に遮断する」 p.150
- 「画面の一部を拡大表示する」 p.152
- 「複数の映像を同時に投写する」 p.135
- 「描画した内容をメールで送信する」 p.117
- 「描画内容を保存する」 p.120
- 「描画した内容を印刷する」 p.122
- 「ネットワーク経由で接続している機器の映像を投写する」 p.130

描画した内容を保存、印刷、メール送信できます。

関連項目

- 「描画した内容をメールで送信する」 p.117
- 「描画内容を保存する」 p.120
- 「描画した内容を印刷する」 p.122

描画した内容をメールで送信する

描画した内容をメールに添付して送信できます。

事前に［インタラクティブ］メニューの［メール］で設定が必要です。ディレクトリーサービスでメールアドレスを指定したいときは、［インタラクティブ］メニューの［ディレクトリー］の設定をします。

- 送信元アドレスは、［メール］メニューの送信元アドレスで設定されたアドレスになります。送信元アドレスが設定されていないときは、送信先として設定したメールアドレスが送信元アドレスとして表示されます。
- メール本文は編集できません。

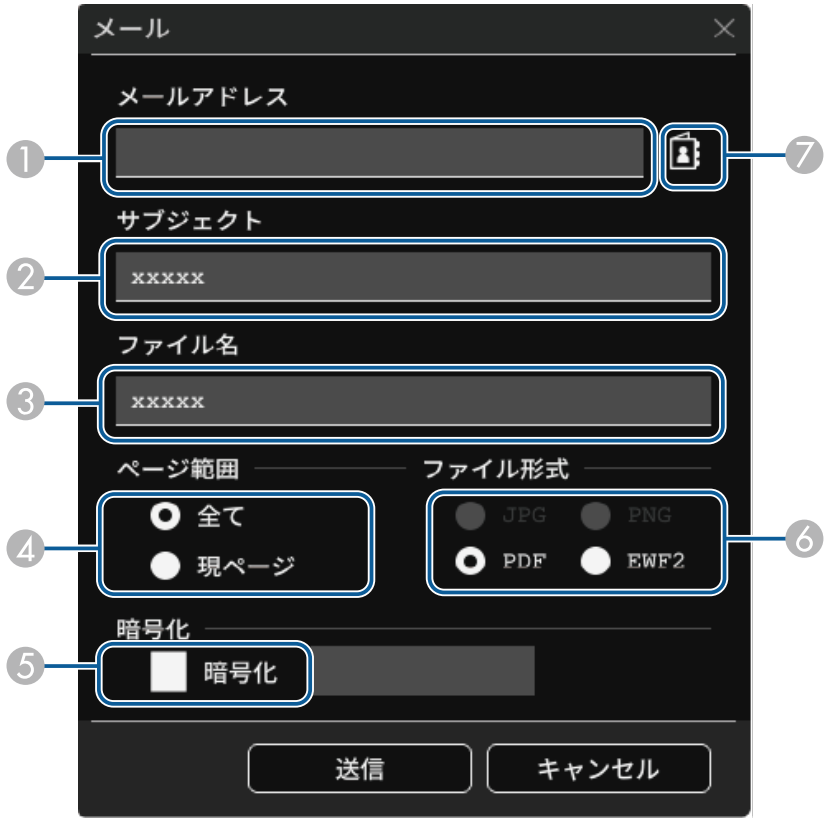
1 ツールバーの ••• アイコンを選択します。

2 ✉ アイコンを選択します。

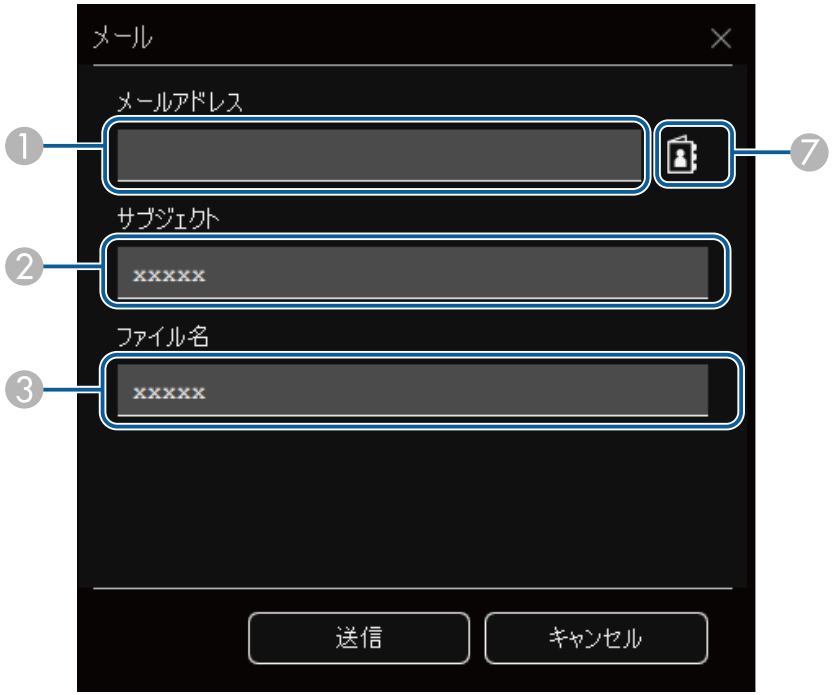
［メール］画面が表示されます。

3 ［メール］画面で以下の設定をします。

- ホワイトボードモード



- アノテーションモード



❶ ソフトキーボードで送信先のメールアドレスを入力します。設定したメールアドレスは、すべての描画内容を消去するか、プロジェクターの電源を切るまで保存されます。

> ［インタラクティブ］メニューの［アドレス入力を禁止］を［オン］に設定すると、アドレスを直接入力できません。最初に［アドレス入力を禁止］を［オフ］に設定します。
> ☛［インタラクティブ］＞［メール］＞［アドレス入力を禁止］

❷ メールの件名を入力します。

❸ 添付するファイル名を入力します。

❹ 添付する範囲を指定します。

❺ パスワードを入力してファイルを暗号化します。（PDFとEWF2のみ）

> **注意**
> - 入力したパスワードは画面に表示されます。
> - パスワードを忘れないようにしてください。

❻ 添付するファイルの形式を選択します（JPG、PDF、 PNG、またはEWF2）。

❼ メールアドレスダイアログボックスで、送信先のメールアドレスを指定します。最大50件のアドレスを指定できます。
［インタラクティブ］メニューのディレクトリーサービスでもメールアドレスを指定できます。

4 ［送信］を選択します。

> - アノテーションモードでは、描画内容はJPG形式で保存されます。
> - 投写画面に大量の描画データがあると、メールの送信に時間がかかることがあります。
> - 送信先のメールサーバーの設定によっては、メールの送信ができないことがあります。事前に、ネットワーク管理者にメールサーバーの設定を確認してください。

関連項目

- 「アドレス帳を作成する」 p.119
- 「利用可能なディレクトリーサービス」 p.119
- 「インタラクティブ - メールメニュー」 p.259
- 「インタラクティブ - ディレクトリーメニュー」 p.260

アドレス帳を作成する

アドレス帳を作成すると、描画内容をメールで送信するときに、宛先の選択が便利になります。Web制御画面でテキストファイルを読み込んで、アドレス帳を作成します。最大で999件のアドレスを登録できます。

アドレスはテキストファイルの記載順に表示されます。

1. 登録するアドレスを記載したテキストファイルを作成します。以下の形式で作成します。
   - タブ区切りテキスト
   - 各行は名前、アドレスの順にタブで区切る
   - 1行は最長256文字まで
   - ファイルの拡張子は「.txt」とする
   - 文字コードはUTF-16（BOM付き）

   例：

```
Joe Smith          xxxxxx@xxxxx.com
Mary Jones-Smith          xxxxxxx@xxxx.com
John Q. Public     xxxx@xxxxxx.com
```

2. 本機の電源がオンになっていることを確認します。
3. ネットワークに接続されているコンピューターでWebブラウザーを起動します。
4. ［インタラクティブ］ > ［メール］ > ［アドレス帳設定］ > ［アドレス帳ファイル］の順に選択して、ファイルを選択ボタンを選択します。
5. テキストファイルを選択して、［決定］を選択します。

   テキストファイルがプロジェクターに登録されます。
6. アドレス帳を削除するには、［インタラクティブ］ > ［メール］ > ［アドレス帳設定］ > ［アドレス帳のクリア］の順に選択して、［送信］ボタンを選択します。

利用可能なディレクトリーサービス

以下のディレクトリーサービスが利用可能です。

サーバータイプ	ディレクトリーサービスサーバー
OS	Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016
ポート	可変（デフォルトは389）
認証タイプ	Anonymous（認証なし） Simple Digest-MD5
暗号	SASL レイヤー暗号 （SSL/TLSには対応していません）

検索時の注意

- 一致したアドレスを200件まで表示します。
- 検索条件は英数字で指定します。

描画内容を保存する

投写画面に描画した内容をファイルに保存できます。

事前に［インタラクティブ］メニューの［保存］で設定が必要です。

⚠ 注意

マルチカードリーダーやUSBハブを使用している場合は、正しく動作しないことがあります。USBストレージを使用する場合は、直接プロジェクターに接続してください。

セキュリティー機能が付いているUSBストレージは、使用できないことがあります。

1 ツールバーの ••• アイコンを選択します。

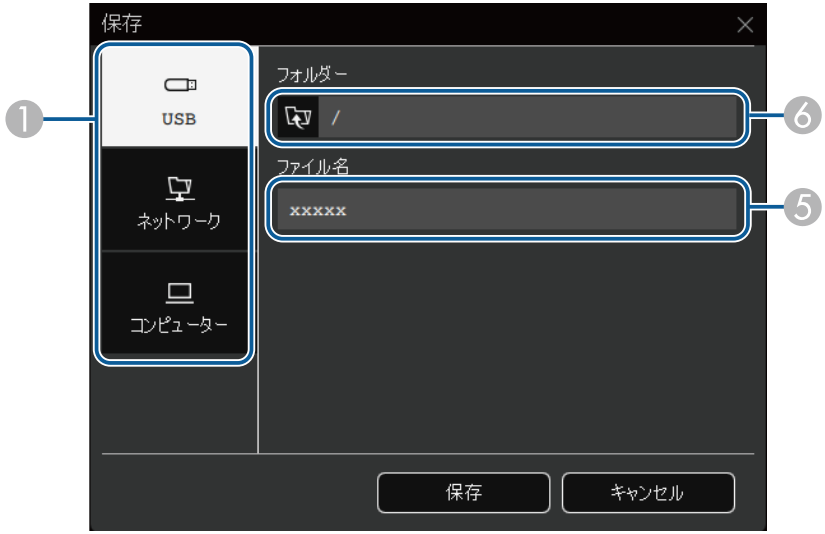
2 アイコンを選択します。

保存画面が表示されます。

3 保存画面で以下の設定をします。

- ホワイトボードモード

- アノテーションモード



❶ ファイルの保存場所を選択します。
- 保存場所によって、［USB］または［ネットワーク］を選択します。
- ファイルを一時的にプロジェクターに保存して、コンピューターにコピーできるようにするには、［コンピューター］を選択します。コピー後のファイルは消去されます。入力ソースがUSB Displayのとき、または画面を2画面または4画面に分割して投写しているときは、コンピューターにファイルを保存できません。

❷ パスワードを入力してファイルを暗号化します。（PDFとEWF2のみ）

注意
- 入力したパスワードは画面に表示されます。
- パスワードを忘れないようにしてください。

❸ 保存する範囲を指定します。

❹ 保存形式を選択します（JPG、PDF、PNG、または EWF2）。

❺ ファイル名を入力してください。

❻ ［USB］、［ネットワーク］を選択したときは、［開く］ダイアログボックスで保存場所を選択します。

4 ［保存］を選択します。（［コンピューター］を選んだときは［進む］を選択します。）

- アノテーションモードでは、描画内容はJPG形式で保存されます。
- 保存先に［コンピューター］を選択したときは、 描画内容は一時的にプロジェクターに保存され、ダイアログボックスが表示されます。画面の指示に従ってコンピューターにデータを保存します。

関連項目

- 「ホワイトボードモードで保存できるファイル形式」 p.121
- 「インタラクティブ - 保存メニュー」 p.258

ホワイトボードモードで保存できるファイル形式

保存可能なファイル形式は以下のとおりです。
- PNG（解像度：1920×1080）
- JPG（解像度：1920×1080）
- PDF（必要に応じてパスワードをかけられます。）
- EWF2（必要に応じてパスワードをかけられます。）

再編集可能な状態で保存したいときは、EWF2を選択してください。EWF2形式のファイルはプロジェクターおよびEasy Interactive Toolsで利用できます。

描画した内容を印刷する

ホワイトボードの内容を、プロジェクターから直接プリンターに印刷できます。（USB接続、またはネットワーク接続された対応プリンターのみ）

事前に［インタラクティブ］メニューの［印刷］で設定が必要です。

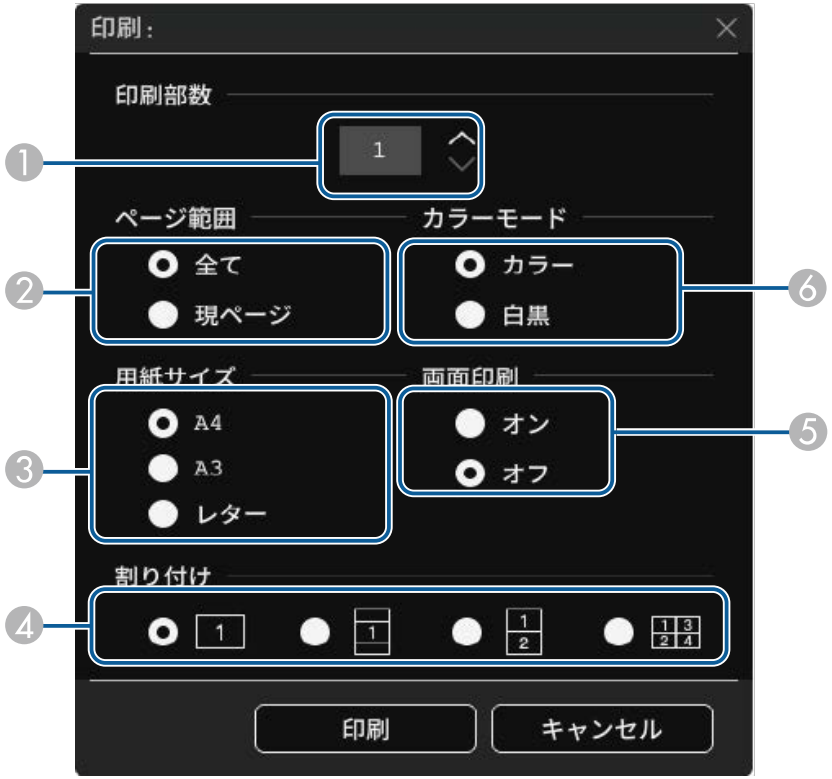
1 ツールバーの ••• アイコンを選択します。

2 アイコンを選択します。

印刷画面が表示されます。

3 ［印刷］画面で以下の設定をします。

- ホワイトボードモード



- アノテーションモード

❶ 印刷部数を指定します。最大20部まで指定できます。

❷ 印刷する範囲を指定します。

❸ 用紙サイズを指定します。

❹ 割り付け枚数を選択します。

❺ 両面印刷に対応しているプリンターをお使いのときは、片面・両面を選択します。

❻ カラーか白黒か選択します。

4 ［印刷］を選択します。

関連項目

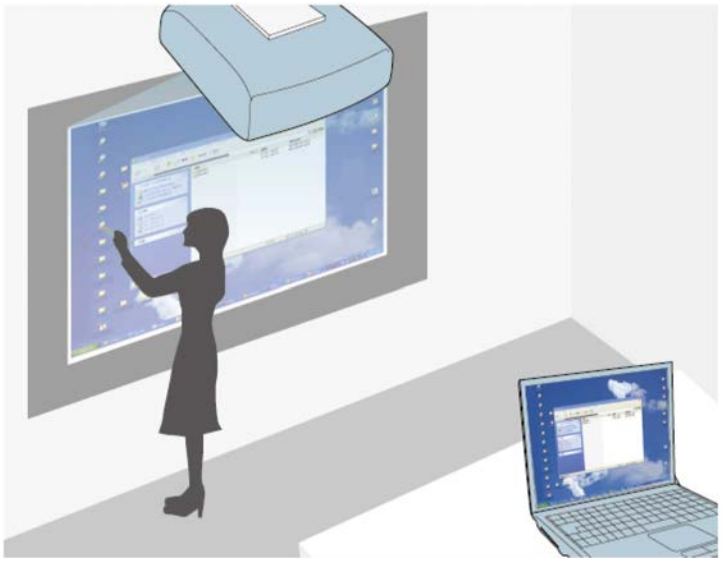
- 「印刷可能なプリンター（ホワイトボードモード）」 p.123
- 「インタラクティブ - プリントメニュー」 p.258

印刷可能なプリンター（ホワイトボードモード）

印刷できるプリンターは以下のとおりです。*

制御コマンド	接続方法
ESC/P-R	USBまたはネットワーク経由
PCL6	ネットワーク経由

* 対応していないプリンターもあります。詳細はお買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。



本機とコンピューターを、USBケーブル、Epson iProjection、またはScreen Mirroringで接続すると、インタラクティブペンまたは指を使って、投写画面上でコンピューターを操作できます。コンピューターのマウスと同じように、クリックやドラッグ＆ドロップなどができます。

- Windows 7以降でマルチディスプレイのセカンダリディスプレイを投写してインタラクティブ機能を使用するときは、以下の設定を行ってください。
  - ［ペン/指タッチ］メニューの［ペン座標検出モード］を［ペンモード］に設定する
    ☛ ［ペン/指タッチ］ > ［PC操作］ > ［ペン座標検出モード］
  - コンピューターの［コントロール パネル］ > ［ハードウェアとサウンド］ > ［Tablet PC 設定］ > ［セットアップ］からセットアッププログラムを起動して、インタラクティブ機能を設定する

  3台のディスプレイを使用しているときは、3番目のディスプレイではインタラクティブ機能を使用できません。
  また、複数の画面を横断して描画できません。
- ネットワーク経由でマウス操作をするには、Epson iProjection（Windows/Mac）をコンピューターにインストールする必要があります。

関連項目

- 「マウス操作機能の動作条件」 p.124
- 「Easy Interactive Driverをインストールする（Macのみ）」 p.125
- 「マウス操作機能を使う」 p.125
- 「ペン操作エリアを調整する」 p.126

マウス操作機能の動作条件

マウス操作機能を使用するには、お使いのコンピューターのOSが以下のいずれかである必要があります。

Windows

- Windows Vista Service Pack 1
  - Ultimate（32/64ビット）

  - Enterprise（32/64ビット）
  - Professional（32/64ビット）
  - Home Premium（32/64ビット）
- Windows 8.1
  - Windows 8.1（32/64ビット）
  - Windows 8.1 Pro（32/64ビット）
  - Windows 8.1 Enterprise（32/64ビット）
- Windows 10
  - Windows 10 Home（32/64ビット）
  - Windows 10 Pro（32/64ビット）
- Screen Mirroringでコンピューターとプロジェクターを接続するとき
  - Windows 10
  - UIBC（ユーザー入力バックチャネル）をサポート

Mac

macOS

- 10.12.x
- 10.13.x
- 10.14.x
- 10.15.x

Ubuntu

- 16.04 LTS
- 18.04 LTS
- 19.04

Easy Interactive Driverをインストールする（Macのみ）

マウス操作機能を使用するには、お使いのコンピューターにEasy Interactive Driverをインストールします。

1. コンピューターの電源を入れます。
2. EpsonのWebサイトからソフトウェアをダウンロードします。
3. 画面の指示に従って、インストールを進めます。
4. コンピューターを再起動します。

関連項目

- 「Easy Interactive Driverシステム動作条件」 p.327

マウス操作機能を使う

マウス操作機能を使って、投写画面からコンピューターを操作できます。

1. Macで初めてインタラクティブ機能を使うときは、コンピューターにEasy Interactive Driverをインストールします。
2. USB接続するときは、USBケーブルを使用してプロジェクターとコンピューターを接続します。

- USB Displayで投写してインタラクティブ機能を使用したいときは、［信号入出力］メニューの［USB Display］をオンにします。USB Displayで投写しているときは、操作に対する反応が遅くなることがあります。
- ネットワーク経由でマウス操作機能を使用するときは、USBケーブルは不要です。

3 本機の電源を入れます。

4 コンピューターの画面を投写します。

5 接続しているコンピューターのOSに合わせて、［ペン/指タッチ］メニューの［ペン座標検出モード］を設定します。

☛ ［ペン/指タッチ］ > ［PC操作］ > ［ペン座標検出モード］

- Windows/Mac：［ペンモード］を選択します。
- Ubuntu：［マウスモード］を選択します。

2本のインタラクティブペンを同時に使用すると、ご使用のアプリケーションソフトによっては干渉を引き起こすことがあります。インタラクティブペンを投写画面から遠ざけてください。

6 Screen Mirroring接続するときは、キーボードのWindows キーを押したまま**K**キーを押して、［このデバイスからのマウス、キーボード、タッチ、ペン入力を許可する］にチェックを入れます。

7 プロジェクターを初めて使うときは、必ず位置合わせを行ってください。

8 インタラクティブペンを投写画面に近づけます。または、指で投写画面に触れます。

9 ツールバーの［PC操作］がオンになっているか確認します。オンになっていない場合は、ボタンを選択してオンにします。

ペンまたは指を使ってコンピューターの操作ができます。以下の操作ができます。

- Windows 7でタブレットPCの入力パネルを使用する。
- Microsoft Officeアプリケーションで、インクツールを使用する。

ペン操作エリアを調整する

接続するコンピューターを変えたときや、コンピューターの解像度が変わったときは、ペン操作エリアが自動調整されます。投写画面からコンピューターを操作（マウス操作）しているときに、ペンの位置ずれが気になるときは、操作エリア手動調整を行います。

ネットワーク経由で映像を投写しているときは、調整できません。

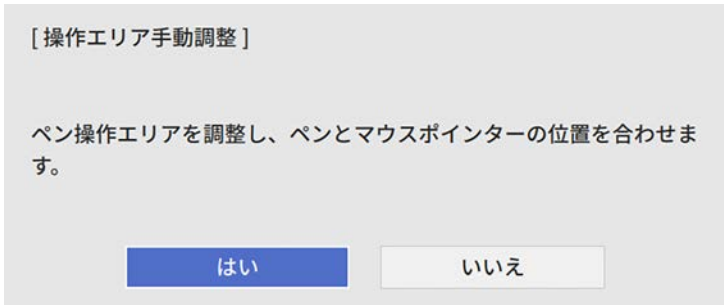
1 必要に応じて、マウス操作に切り替えます。

2 【メニュー】ボタンを押し、［ペン/指タッチ］選択して、【決定】ボタンを押します。

3 ［PC操作］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［操作エリア自動調整］をオフにして、［操作エリア手動調整］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。



マウスポインターが左上に移動します。

6 左上で停止したマウスポインターの先端を、ペンで押します。
マウスポインターが右下に移動します。

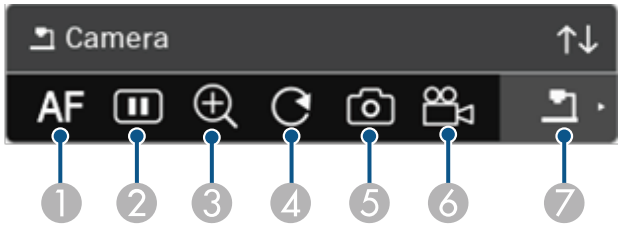
7 右下で停止したマウスポインターの先端を、ペンで押します。

エプソン製書画カメラを接続すると、映像のサイズや明るさなどの調整を行い、画像ファイルまたは動画ファイルとして保存できます。（お使いの書画カメラの機種により異なります。）詳しくは、書画カメラの取扱説明書をご覧ください。

1 エプソン製書画カメラとプロジェクターを接続します。

書画カメラの操作画面が表示されます。

2 以下の操作ができます。



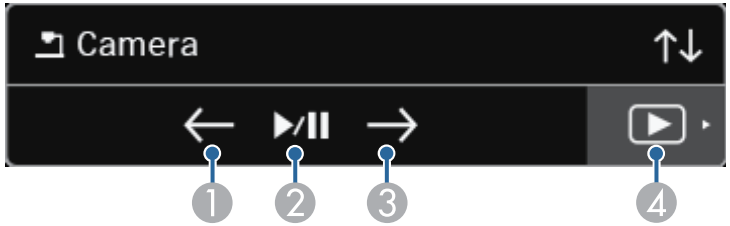
1. 映像のピントを自動で合わせます。
2. 映像を一時的に停止します。
3. 画像を拡大します。
4. 映像を180度回転します。
5. 表示中の映像を静止画として保存します。
6. 映像を録画します。
7. SDカードビューワーに切り替えます。

関連項目

- 「SDカードビューワー」 p.129
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

SDカードビューワー

SDカードビューワーでは、エプソン製書画カメラに接続されたSDカード内の画像や動画をスライドショーで表示することができます。SDカードビューワーは以下のように表示されます。



1	前のファイルを表示します。
2	スライドショーを再生します。再生中にこのボタンを押すと一時停止します。
3	次のファイルを表示します。
4	書画カメラの操作画面に切り替えます。

ネットワーク経由でプロジェクターに接続している機器の中から、目的の機器を選択して映像を投写できます。

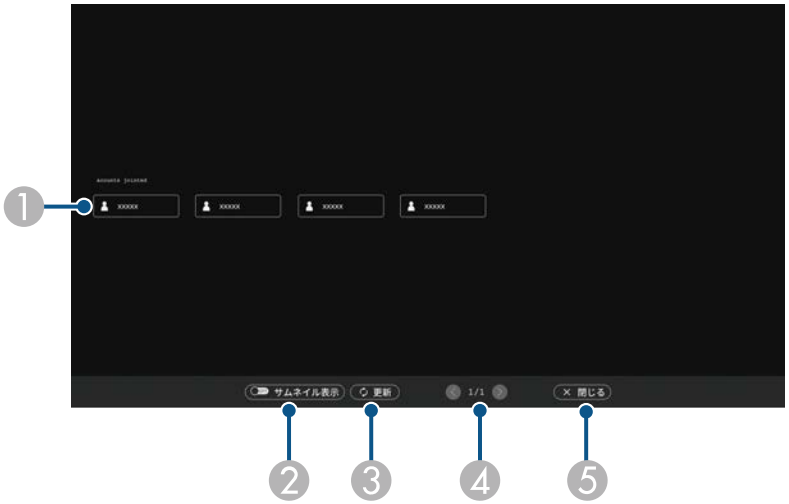
Epson iProjection (Windows/Mac)を使用するコンピューターとEpson iProjection (iOS/Android)を使用するスマートフォンやタブレット端末から選択できます。

> Epson iProjectionでモデレーター機能が有効になっていても、ネットワーク経由で接続している機器を自由に選択して投写できます。モデレーター機能について詳しくは、『Epson iProjection操作ガイド (Windows/Mac)』をご覧ください。

1 ツールバーの ••• アイコンを選択して、［参加者一覧］を選択します。

ユーザー選択画面が表示されます。

2 投写する機器のユーザー名を選択します。



❶ ネットワーク経由でプロジェクターに接続している機器のユーザー名を表示します。

サムネイル表示にしているときは、各ユーザーの機器の画面がサムネイルで表示されます。

画面を投写している機器のユーザー名の横には、 アイコンが表示されます。

❷ ユーザー選択画面の表示をサムネイル表示かアイコン表示に切り替えます。

❸ ユーザー選択画面を更新します。

ネットワーク経由で、新たにプロジェクターに接続したユーザーがいるときは、このボタンを選択してユーザー選択画面を更新します。

更新に時間がかかることがあります。

4 前後のページに移動します。

5 ユーザー選択画面を閉じて前の画面に戻ります。

- ユーザー選択画面では、ペン2本と指1本を同時に使用できます。

選択したユーザーの画面が表示されます。

投写するユーザーを変更するには、この手順を繰り返します。

- Epson iProjection (Windows/Mac)で複数のプロジェクターに接続して同じ映像を投写しているときは（ミラーリング）、ユーザー選択画面を表示できません。
- ユーザー選択画面でペンまたは指を使った操作ができなくなったときは、リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押して前の画面に戻ってください。

関連項目

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

ネットワーク経由でマウス操作機能が使用できます。

ネットワーク経由でコンピューターを操作しているときに描画するには、Easy Interactive Toolsまたはその他のインタラクティブ描画ソフトを使用する必要があります。Easy Interactive Toolsを使うと、さまざまな描画ツールを使用でき、描画した内容をページとして扱ったり、ファイルに保存して後から編集したりできます。Easy Interactive ToolsはEpsonのWebサイトからダウンロードできます。

プロジェクターをネットワークに接続して、ネットワーク経由でコンピューターを操作するには、Epson iProjection (Windows/Mac)を使用します。

［一般設定］タブの［インタラクティブペンを使用する］と ［パフォーマンス調整］タブの［レイヤードウィンドウの転送］を選択します。

詳しくは、『Epson iProjection操作ガイド (Windows/Mac)』をご覧ください。

- 同時に使用できるペンまたは指の数は以下のとおりです。
  - Windows：ペン2本、指6本
  - Mac：ペン1本、または指1本
- ネットワーク経由でインタラクティブ機能を使用しているときは、ペンや指での操作に対する反応が遅くなることがあります。
- Epson iProjectionを使用すると、同時に4台までのプロジェクターに接続できます。複数のプロジェクターに同時に接続しているときは、いずれの投写画面からもマウス操作ができます。1台のプロジェクターで行ったマウス操作は他のプロジェクターにも反映されます。

関連項目

- 「サブネットの異なる場所にあるプロジェクターに接続する際のご注意」 p.132
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

サブネットの異なる場所にあるプロジェクターに接続する際のご注意

Epson iProjection (Windows/Mac)でサブネットの異なる離れた場所にあるプロジェクターに接続して、インタラクティブ機能を使用するときは、以下の点にご注意ください。

- プロジェクターのIPアドレスを指定してネットワーク上のプロジェクターを検索してください。プロジェクター名では検索できません。
- pingコマンドでネットワークプロジェクターとの接続を確認したときに、正しく応答することを確認してください。ルーターでインターネット制御通知プロトコル（ICMP）の設定を無効にしているときは、pingコマンドでの応答がなくても、離れた場所にあるプロジェクターに接続できる場合があります。
- 次のポートが開いていることを確認してください。

ポート	プロトコル	用途	通信
3620	TCP/UDP	接続・制御	双方向
3621	TCP	画像転送	双方向
3629	TCP	プロジェクター制御	双方向

- ルーターで、MACアドレスフィルタリングおよびアプリケーションフィルタリングが正しく設定されていることを確認してください。
- 拠点間の通信で帯域が管理されており、Epson iProjectionが制限を越えるときは、離れた場所にあるプロジェクターに接続できません。

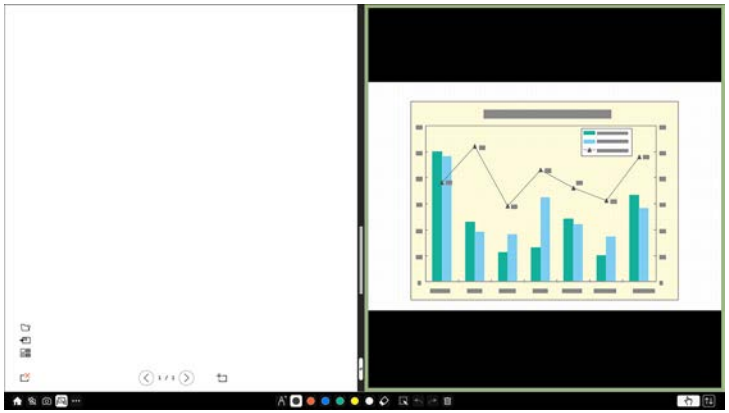
上記の条件を満たしても、Epson iProjectionでのサブネットの異なるプロジェクターへの接続を保証するものではありません。導入を検討いただく際には、必ず、事前にお使いのネットワーク環境での接続を検証してください。

アノテーションモードやPC操作を使用しているとき、画面を2つに分割して、ホワイトボード画面と映像を同時に投写できます。ツールバーを使って画面を分割します。

> すでに画面を2画面または4画面に分割しているときは、この機能は使用できません。

1. 映像を投写します。
2. ツールバーでを選択します。

   左画面にホワイトボード画面が表示されます。投写している入力ソースの映像が右画面に投写されます。



3. 一方の画面を拡大して、もう一方の画面を縮小するには、中央にあるバーを左右に移動します。

   > 一方の画面を拡大して画面全体に表示するには、バーを画面の端に移動します。

4. 左右の映像を切り替えるには、中央にあるバーのを選択します。

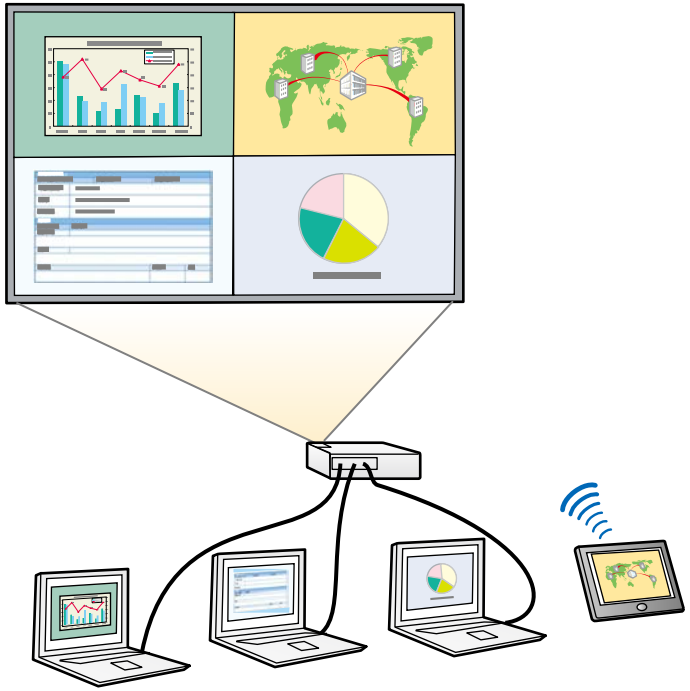
プロジェクターの便利な機能

プロジェクターの各機能を使用します。

関連項目

- 「複数の映像を同時に投写する」 p.135
- 「PC Free機能で投写する」 p.138
- 「コンテンツ再生モードで投写する」 p.144
- 「映像と音声を一時的に遮断する」 p.150
- 「映像を一時的に停止する」 p.151
- 「画面の一部を拡大表示する」 p.152
- 「ユーザーロゴを設定する」 p.153
- 「ユーザーパターンを登録する」 p.155
- 「プロジェクターの設定をメモリーに保存する」 p.157
- 「複数台のプロジェクターから投写する（マルチプロジェクション機能）」 p.158
- 「セキュリティー機能」 p.171

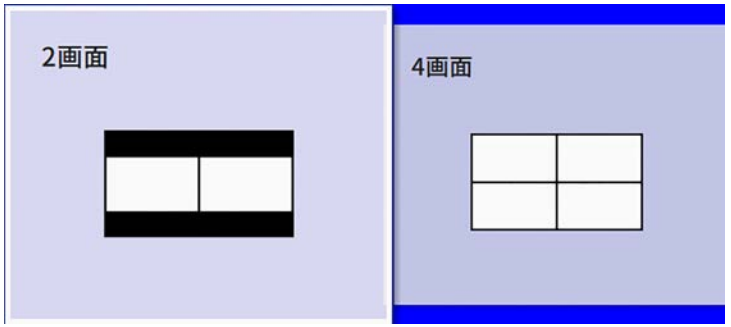
画面分割機能を使用して、異なる映像機器から2つまたは4つの映像を同時に投写できます。



- 画面分割機能を使用しているときは、本機の一部の機能が使用できなかったり、一部の設定が自動的に両方の映像に適用されたりすることがあります。
- ［動作］メニューの［コンテンツ再生］を［オン］に設定しているときは、この機能は使用できません（EB-755F/EB-750F）。
- ［設置］メニューの［ELPCB02を接続する］を［オン］に設定しているときは、この機能は使用できません（EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W）。

1 リモコンの【画面分割】ボタンを押します。

2 ［2画面］または［4画面］を選択します。

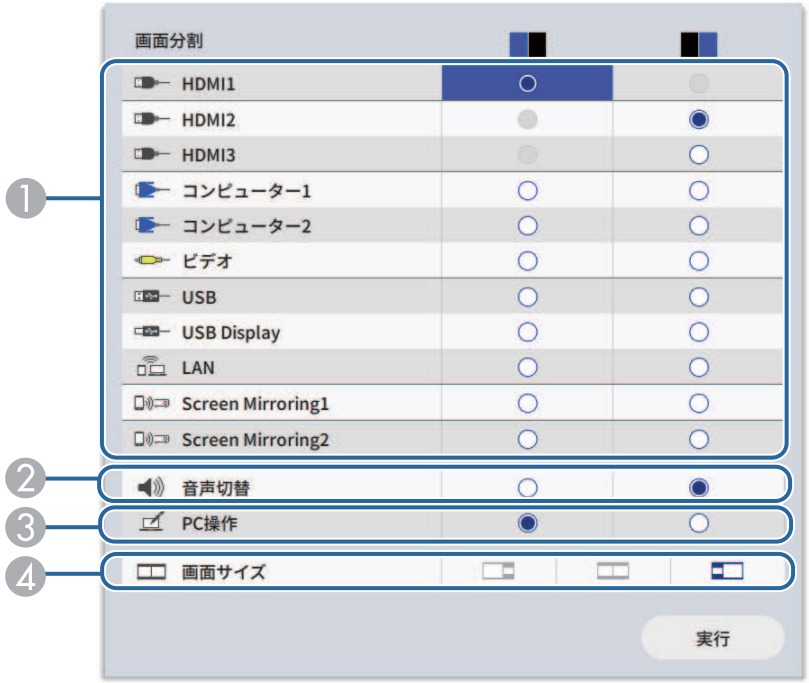


2画面に分割するときは、投写している入力ソースの映像が左画面に投写されます。

4画面に分割するときは、前回の画面分割時に投写した入力ソースが前回と同じ場所に投写されます。

3 【メニュー】ボタンを押します。

4 2画面に分割するときは、以下の設定をします。



❶ 入力ソースを選択します。

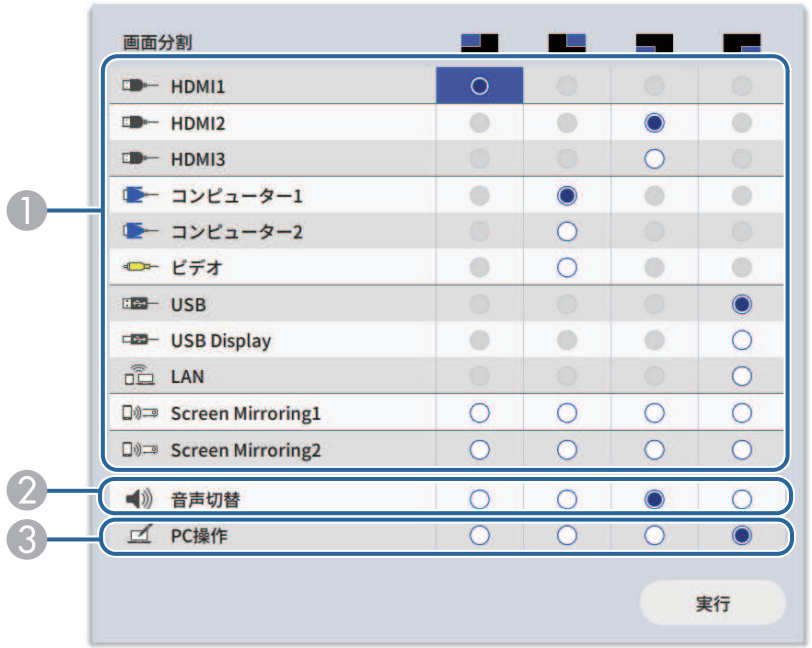
> 組み合わせ可能な入力ソースのみを選択できます。

❷ 音声を出力する画面を選択します。

❸ インタラクティブペンまたは指を使って、投写画面上で操作したいコンピューターを選択します（EB-735Fi/EB-725Wi）。

❹ 画面サイズを選択します。

5 4画面に分割するときは、以下の設定をします。



❶ 入力ソースを選択します。

> 組み合わせ可能な入力ソースのみを選択できます。

❷ 音声を出力する画面を選択します。

❸ インタラクティブペンまたは指を使って、投写画面上で操作したいコンピューターを選択します（EB-735Fi/EB-725Wi）。

6 ［実行］を選択し、【決定】ボタンを押します。

7 画面分割機能を終了するには、【画面分割】または【戻る】を押します。

関連項目
- 「画面分割投写できない入力ソースの組み合わせ」 p.137
- 「画面分割投写中の制限事項」 p.137

画面分割投写できない入力ソースの組み合わせ

以下の入力ソースの組み合わせでは、画面分割投写はできません。

- コンピューター1、コンピューター2、ビデオ
- HDMI2とHDMI3
- USB、USB Display、LAN

4画面に分割してUSBを入力ソースに選択しているとき、Screen Mirroring1、Screen Mirroring2はいずれか一方のみ選択できます。

画面分割投写中の制限事項

操作に関する制限事項

画面を分割しての投写中は、以下の操作はできません。

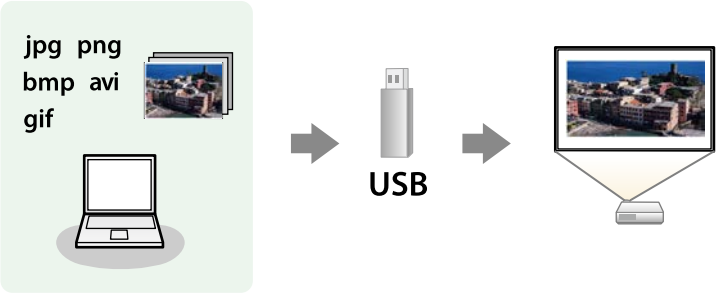
- メニューの設定
- E-Zoom
- アスペクトモードの切り替え（アスペクトモードは［オート］に設定されます。）
- リモコンの【ユーザー】ボタンでの操作（投写面へのネットワーク情報の表示以外）
- 投写中の映像に［ダイナミックコントラスト］の設定を適用
- 【ユーザー】ボタンを使用する以外の方法での投写面へのネットワーク情報の表示
- Screen Mirroring情報バーの表示

画質調整に関する制限事項

［表示］メニューの［無信号時画面］で［ロゴ］を設定していても、映像信号が入力されていないときは青い画面が表示され、ロゴは表示できません。

関連項目
- 「映像のアスペクト比を設定する」 p.81
- 「画面の一部を拡大表示する」 p.152
- 「映像の光量を調整する」 p.86
- 「メニューの設定」 p.225

PC Free機能は、USB機器を本機に接続して、保存されたファイルを投写できます。素早く簡単に映像を投写でき、リモコンから映像を操作することもできます。



関連項目

- 「サポートファイル形式」 p.138
- 「PC Free使用時の注意事項」 p.139
- 「PC Freeのスライドショーを開始する」 p.140
- 「PC Freeで動画を投写する」 p.142
- 「PC Freeの表示オプション」 p.143

サポートファイル形式

以下の形式のファイルをPC Freeで投写できます。

- FAT16/32でフォーマットされたUSB機器にファイルを保存してください。
- Windows以外のファイルシステムでフォーマットしたUSB機器で投写に問題があるときは、Windowsでフォーマットしてください。

ファイルの内容	ファイルタイプ（拡張子）	詳細
静止画	.jpg	以下のファイル形式は投写できません。 • CMYK形式 • プログレッシブ形式 • 高圧縮 • 解像度が8192 × 8192を超えるファイル
	.bmp	以下のファイル形式は投写できません。 • 解像度が1280 × 800を超えるファイル
	.gif	以下のファイル形式は投写できません。 • 解像度が1280 × 800を超えるファイル • アニメーションファイル • インターレース形式
	.png	以下のファイル形式は投写できません。 • 解像度が1920 × 1080を超えるファイル • インターレース形式 解像度1080p対応プロジェクターでは、解像度1920 × 1200まで投写できます。

ファイルの内容	ファイルタイプ（拡張子）	詳細
動画	.avi（Motion JPEGのみ）	• バージョン：AVI 1.0のみ • 解像度：最大1280 × 720 • サイズ：最大2 GB • 動画コーデック：Motion JPEG • フレームレート：最大30 fps • 音声コーデック：LPCM、IMA ADPCM • 音声サンプリングレート：11.025 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz

ファイルの内容	ファイルタイプ（拡張子）	詳細

動画	.mp4/.mov（H.264, H265）	• 解像度：最大1920 × 1200
		• サイズ：最大2 GB
		• 動画コーデック：H.264/MPEG-4 AVC、H.265/MPEG-H HEVC
		• フレームレート：最大30 fps
		• プロファイル：
		  • H.264/MPEG-4 AVC：Baseline Profile、Main Profile、High Profile
		  • H.265/MPEG-H HEVC：Main Profile
		• カラーフォーマット：YUV420
		• 音声コーデック：MPEG-2 AAC-LC、MPEG-4 AAC-LC、LPCM
		• 音声チャンネル：最大2チャンネル
		• 音声ビットレート：8ビット、16ビット
		• 音声サンプリングレート：
		  • MPEG-2 AAC-LC：44.1 kHz、48 kHz
		  • MPEG-4 AAC-LC：44.1 kHz、48 kHz
		  • LPCM：11.025 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
		• スライス構造が複数でないこと

PC Free使用時の注意事項

PC Free機能を使用するときは、以下の点に注意してください。

- USBキーとして使用しているUSBメモリーは、PC Free機能では使用できません。

- PC Freeで投写中は、USB機器を本機から取り外さないでください。PC Freeが正しく動作しなくなるおそれがあります。
- セキュリティー機能が搭載されているUSB機器は、使用できないことがあります。
- ACアダプターが付属されているUSB機器を接続するときは、ACアダプターを電源コンセントに接続してください。
- 市販のUSBカードリーダーの中には、本機で使用できないものもあります。
- 本機は、同時に5つまでのメディアを認識できます。
- 以下の機能はPC Freeで投写しているときでも使用できます。
  - 静止
  - A/Vミュート
  - E-Zoom

関連項目

- 「映像を一時的に停止する」 p.151
- 「映像と音声を一時的に遮断する」 p.150
- 「画面の一部を拡大表示する」 p.152

PC Freeのスライドショーを開始する

USB機器をプロジェクターに接続した後、入力ソースを切り替えてスライドショーを開始します。

- 画面下部の［オプション］を選択し、【決定】ボタンを押して、PC Freeの動作設定を変更したり、画面切替効果を追加したりできます。
- インタラクティブ機能を使用しているときは、インタラクティブペンや指を使ってスライドショーを操作することもできます（EB-735Fi/EB-725Wi）。

1 PC Freeファイル一覧画面が表示されるまで、リモコンの【USB】ボタンを押します。

- ドライブの選択画面が表示されたときは、上下左右ボタンでドライブを選択して、【決定】ボタンを押します。
- 別のUSBドライブの画像を表示するには、ファイル一覧画面上部の［ドライブの選択］を選択して、【決定】ボタンを押します。

2 以下の操作で投写するファイルを探します。

- USB機器のサブフォルダーにあるファイルを投写するときは、上下左右ボタンで該当のフォルダーを選択して、【決定】ボタンを押します。
- ひとつ上のフォルダーに戻るときは、［上へ戻る］を選択して、【決定】ボタンを押します。
- 同一フォルダー内の表示されていないファイルを表示するには、［次のページ］または［前のページ］を選択して【決定】ボタンを押すか、リモコンの【ページ】送り/戻しボタンを押します。

3 以下のいずれかの操作でファイルを投写します。

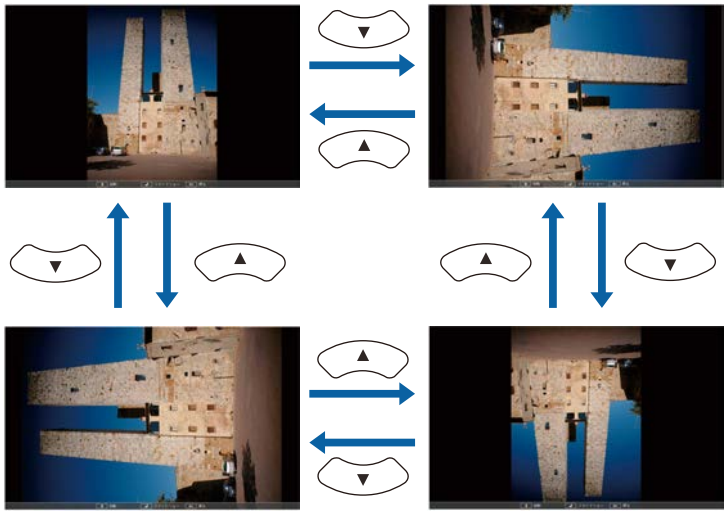
- 投写するファイルを1つずつ選択するときは、上下左右ボタンで画像を選択し、【決定】ボタンを押します。（ファイル一覧画面に戻るには、【戻る】ボタンを押します。）
- 同一フォルダー内のすべての画像をスライドショーで表示するには、上下左右ボタンで画面下部の［スライドショー］を選択し、【決定】ボタンを押します。

- 画像の切り替え時間を変更できます。画面下部の［オプション］を選択し、【決定】ボタンを押して、表示オプション設定画面で変更してください。
- ファイル名の文字数が表示幅を超える場合や、非対応の記号が含まれている場合は、PC Free機能ではファイル名が短縮または変更されます。

4 投写中は、以下の操作ができます。

- 画像の回転：上下ボタンを押して、画像を回転できます。

  インタラクティブペンや指で回転させるには、画像を回転方向に回すようにフリックします（EB-735Fi/EB-725Wi）。



- 画像の送り戻し：左右ボタンを押して、表示中の画像の前または次の画像を表示します。

  インタラクティブペンや指で送り戻しするには、画像を送りたい方向にフリックします（EB-735Fi/EB-725Wi）。

5 画像の投写を終了するときは、【戻る】ボタンを押します。

ファイル一覧画面に戻ります。

6 必要に応じてUSB機器の電源を切り、本機から取り外します。

関連項目

- 「PC Freeの表示オプション」 p.143
- 「USB機器を接続する」 p.42

PC Freeで動画を投写する

USB機器をプロジェクターに接続した後、入力ソースを切り替えて、動画の投写を開始します。

- 画面下部の［オプション］を選択し、【決定】ボタンを押して、PC Freeの動作設定オプションを変更できます。

1 PC Freeファイル一覧画面が表示されるまで、リモコンの【USB】ボタンを押します。

- ドライブの選択画面が表示されたときは、上下左右ボタンでドライブを選択して、【決定】ボタンを押します。
- 別のUSBドライブの画像を表示するには、ファイル一覧画面上部の［ドライブの選択］を選択して、【決定】ボタンを押します。

2 以下の操作で投写するファイルを探します。

- USB機器のサブフォルダーにあるファイルを投写するときは、上下左右ボタンで該当のフォルダーを選択して、【決定】ボタンを押します。
- ひとつ上のフォルダーに戻るときは、［上へ戻る］を選択して、【決定】ボタンを押します。
- 同一フォルダー内の表示されていないファイルを表示するには、［次のページ］または［前のページ］を選択して【決定】ボタンを押すか、リモコンの【ページ】送り/戻しボタンを押します。

3 上下左右ボタンでファイルを選択し、【決定】ボタンを押します。

- ファイル名の文字数が表示幅を超える場合や、非対応の記号が含まれている場合は、PC Free機能ではファイル名が短縮または変更されます。
- 同一フォルダー内のすべての動画を連続再生するには、画面下部の［スライドショー］を選択します。

4 投写を終了するときは、【戻る】ボタンを押し、［終了］を選択して【決定】ボタンを押します。

ファイル一覧画面に戻ります。

5 必要に応じてUSB機器の電源を切り、本機から取り外します。

関連項目

- 「PC Freeの表示オプション」 p.143
- 「USB機器を接続する」 p.42

PC Freeの表示オプション

PC Freeでは、以下の表示オプションを設定できます。PC Freeファイル一覧画面下部の［オプション］を選択し、【決定】ボタンを押します。

設定	選択肢	説明
表示順序設定	ファイル名順	ファイル名順でファイルを表示
	更新日付順	更新日付順でファイルを表示
ソート方向	昇順	数字やアルファベットの小さい順にファイルを並べる
	降順	数字やアルファベットの大きい順にファイルを並べる
繰り返し再生	オン	スライドショーを連続表示
	オフ	スライドショーを1回のみ表示

設定	選択肢	説明
表示時間設定	なし	画像の自動送りなし
	1秒～60秒	設定した秒数の間画像を表示した後、自動的に次の画像を表示（高解像度の画像は、設定秒数よりも切り替えが遅れることがあります）
画面切替効果	なし	切り替え効果なし
	ワイプ	画像の切り替え時にワイプ効果を入れる
	ディゾルブ	画像の切り替え時にディゾルブ効果を入れる
	ランダム	画像の切り替え時にランダム効果を入れる

コンテンツ再生モードを使うと、美術館、ショールーム、店舗などでのデジタルサイネージに適した映像を投写できます（EB-755F/EB-750F）。外部メモリーに保存されているプレイリストの写真や動画を投写できます。エフェクト機能を使って、投写映像の色や形を変えることもできます。

関連項目

- 「コンテンツ再生モードに切り替える」 p.144
- 「プレイリストを再生する」 p.145
- 「映像に効果を加える（エフェクト機能）」 p.148
- 「コンテンツ再生モードの制限事項」 p.149

コンテンツ再生モードに切り替える

プレイリストを再生するには、コンテンツ再生モードに切り替えます。

1 本機の電源を入れます。

2 【メニュー】ボタンを押し、［動作］を選択して、【決定】ボタンを押します。

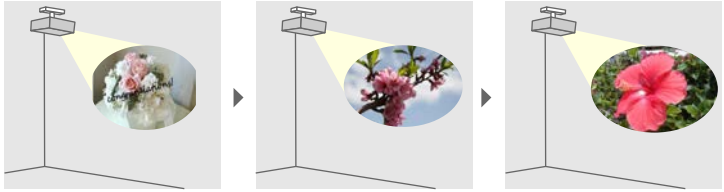
3 ［コンテンツ再生］を［オン］にします。

確認メッセージが表示されます。

4 コンテンツ再生モードを有効にするために、本機の電源を入れなおします。

プレイリストを再生する

コンテンツ再生モードでは、プレイリストとして保存した写真や動画を投写できます。



1 以下の方法でプレイリストを作成し、USBメモリーに保存します。

- Epson Projector Content Managerを使うと、画像や動画をプレイリストに追加して外付けデバイスに保存できます。エフェクト機能を使って投写映像の色や形を変えたり、プレイリストを再生する日時を指定するタイムテーブルを設定することもできます。

  Epson Projector Content Managerは以下のWebサイトからダウンロードしてください。

  epson.jp/download

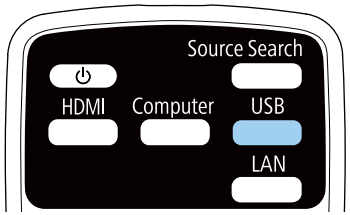
  詳しくは『Epson Projector Content Manager操作ガイド』をご覧ください。

- Epson Web Controlを使うと、Webブラウザーを使ってプレイリストを作成して、ネットワークプロジェクターに接続されているUSBメモリーに保存できます。エフェクト機能を使って投写映像の色や形を変えることもできます。
- Epson Creative Projectionを使うと、iOSのモバイルデバイスでデジタルサイネージコンテンツを作成できます。プロジェクターにコンテンツをワイヤレスに転送することもできます。

  Epson Creative Projectionは、App Storeから無料でダウンロードできます。App Storeへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。

2 コンテンツ再生モードが有効な状態で、USBメモリーを本機のUSB-A端子に接続します。

3 リモコンの【USB】ボタンを押します。



前回再生したプレイリストが再生されます。タイムテーブルを設定しているときは、その時間に指定されているプレイリストが再生されます。

- 【Num】ボタンを押しながらテンキーボタンを押すと、お気に入りに登録したプレイリストを再生できます。お気に入りには、プレイリストを作成したソフトウェアを使って登録できます。
- 再生するプレイリストを一覧から選択するには、リモコンの【USB Viewer】ボタンを押して、上下左右ボタンで選択します。

関連項目

- 「Epson Web Controlを使ってプレイリストを作成する」 p.146
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

Epson Web Controlを使ってプレイリストを作成する

コンテンツ再生モードでは、Webブラウザーを使ってプレイリストを作成して、ネットワークプロジェクターに接続されているUSBメモリーに保存できます。

注意
プレイリストの作成中は、USBメモリーを本機から取り外したり、本機の電源コードを抜いたりしないでください。USBメモリーのデータが破損することがあります。

1. 本機がコンテンツ再生モードで動作中であることを確認します。
2. お使いの機器を、接続先のプロジェクターと同じネットワークに接続します。
3. USBメモリーがプロジェクターのUSB-A端子に接続されていることを確認します。
4. お使いの機器でWebブラウザーを起動します。
5. ブラウザーのアドレス入力部にプロジェクターのIPアドレスを入力し、Epson Web Control画面に接続します。IPv6アドレスを入力するときは、アドレスを[ ]で囲んで入力します。
6. ［USBメモリー］を選択します。

7 ［素材のアップロード］を選択します。

8 プレイリストに追加したい写真や動画を選択します。

> .mp4と.movファイルはアップロードできません。
> .mp4または.movファイルをプレイリストに追加したいときは、Epson Projector Content ManagerまたはEpson Creative Projectionを使用します。

選択したファイルが、プロジェクターに接続されているUSBメモリーにコピーされます。

9 以下のいずれかの操作を行います。

- アップロードした写真や動画を既存のプレイリストに追加したいときは、［プレイリストに追加］を選択し、追加するプレイリストを選択します。
- 新しいプレイリストを作成したいときは、［新規プレイリストを作成］を選択します。

10 プレイリストを編集します。

❶ プレイリスト名を編集できます。

❷ 繰り返し再生するかどうかを設定します。

③ お気に入りに登録します。
お気に入りに登録すると、［リモコン］画面またはリモコンを使用して簡単にプレイリストを再生できます。

④ プレイリストに追加された画像や動画を表示します。ここに表示された順序で画像や動画が再生されます。

⑤ 画像や動画を追加します。

⑥ 画像や動画を一覧から削除します。

⑦ ［静止画切り替え］画面を表示します。
プレイリスト投写中に次のファイルに切り替わるまでの表示時間を設定できます。トランジション効果も設定できます。

⑧ ［エフェクト］画面を表示します。
あらかじめ用意されているカラーフィルターまたは形状フィルターなどのエフェクトをプレイリストに設定できます。エフェクトをカスタマイズすることもできます。

⑨ プレイリストをプレビューできます。

11 終了したら、［完了］を選択します。

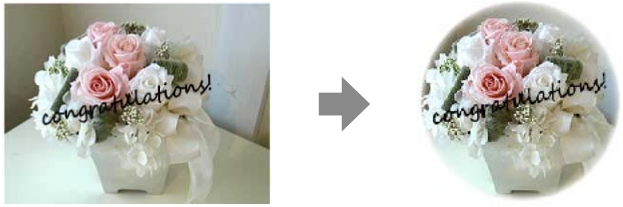
- ［リモコン］または［プレイリスト］画面からプレイリストを再生できます。
- プレイリストを再生する日時を設定するには、Epson Projector Content Managerを使用します。

関連項目

- 「Web Controlの画面一覧」 p.204

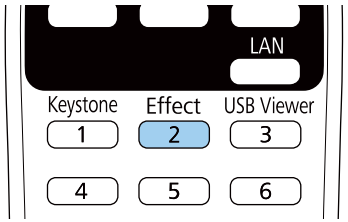
映像に効果を加える（エフェクト機能）

コンテンツ再生モードでは、映像の色や形を変えて投写できます。



- エフェクト機能を使うときは、［リフレッシュモード］を定期的に実行してください。
  ☛ ［管理］ > ［リフレッシュモード］
- ［エッジブレンディング］機能を使用しているときは、エフェクト機能を使用できません。

1 コンテンツ再生モードが有効な状態で、リモコンの【Effect】ボタンを押します。



2 ［エフェクト］を［オン］に設定し、【決定】ボタンを押します。

3 ［形状フィルター］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 必要に応じて以下の項目を調整します。

- ［形状］：エフェクトの形状を、丸、四角、カスタムから選択します。

> Epson Projector Content Managerを使うと、お好きな画像をカスタムに登録できます。詳しくは『Epson Projector Content Manager操作ガイド』をご覧ください。

- ［フィルター効果］：選択した形状の内側をマスクするか、外側をマスクするかを選択します。
- ［サイズ］：選択した形状のサイズを設定します。
- ［表示位置］：選択した形状の表示位置を設定します。

5 ［カラーフィルター］を選択し、【決定】ボタンを押します。

6 必要に応じて以下の項目を調整します。

- ［カラーフィルター］：エフェクトの色を選択します。
- ［カスタム］：［赤］、［緑］、［青］をそれぞれ調整します。

7 エフェクトの明るさを設定するときは、［明度］を選択します。

8 【メニュー】ボタンを押して終了します。

コンテンツ再生モードの制限事項

操作に関する制限事項

コンテンツ再生モードでは、以下の操作や設定の変更はできません。

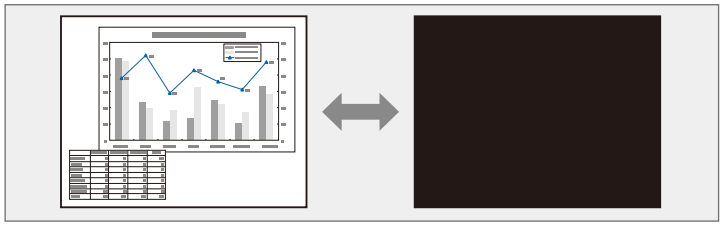
- ［映像調整］＞［色温度］（［カラーフィルター］で［ウォームホワイト］、または［クールホワイト］が設定されているとき）
- 画面分割
- ［設置］＞［スクリーンタイプ］
- 自動入力検出
- ［ネットワーク設定］＞［Remoteパスワード］
- PC Free
- 書画カメラ
- Epson iProjectionを使った画面共有

関連項目

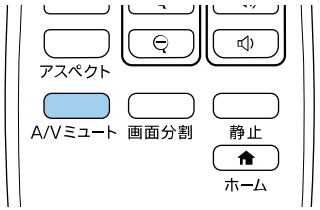
- 「映像調整メニュー」 p.228
- 「ネットワーク設定メニュー」 p.246
- 「複数の映像を同時に投写する」 p.135
- 「スクリーンタイプを設定する」 p.60
- 「PC Free機能で投写する」 p.138

映像と音声を一時的に遮断する

プレゼンテーション中に聴衆の関心を引きたいときなど、投写映像と音声を一時的に消すことができます。停止中も映像と音声は進んでいるため、停止した場面から投写を再開することはできません。



1 リモコンの【A/Vミュート】ボタンを押して、映像と音声を一時的に遮断します。



2 投写を再開するときは、再度【A/Vミュート】ボタンを押します。

- インタラクティブツールバーを使用して投写を停止することもできます（EB-735Fi/EB-725Wi）。
- A/Vミュートの実行後30分経過すると、自動的に本機の電源が切れます。この機能は以下の設定で無効にできます。
  ☛ ［動作］ > ［A/Vミュートタイマー］

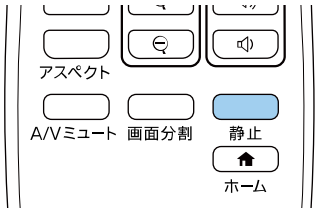
関連項目

- 「ホワイトボードモードのツールバー」 p.107
- 「アノテーションモードのツールバー」 p.114

映像を一時的に停止する

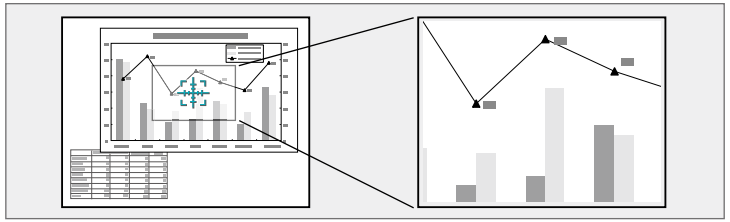
動画やプレゼンテーションスライドを一時的に停止して、静止画像として投写します。停止中も映像と音声は進んでいるため、停止した場面から投写を再開することはできません。

1 リモコンの【静止】ボタンを押して、動画を停止します。



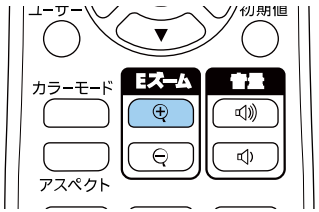
2 停止を解除するときは、再度【静止】ボタンを押します。

映像の一部をズームして拡大表示することで、プレゼンテーションのポイントに注目させることができます。



［映像調整］メニューの［表示倍率］機能を使用しているときは、この機能は使用できません（EB-755F/EB-750F）。

1 リモコンの【Eズーム】（+）ボタンを押します。



ズームエリアの中心を示す十字カーソルが画面に表示されます。

2 以下の操作でズームエリアを決めてズームします。

- 十字カーソルの移動：上下左右ボタンでズームしたい位置に十字カーソルを移動します。隣り合う上下左右ボタンを2つ同時に押すと、十字カーソルを斜めに移動できます。
- ズームイン：【Eズーム】（+）ボタンを繰り返し押します。ズームインの速度を上げるには、【Eズーム】（+）ボタンを長押しします。
- ズームエリアの移動：ズームイン中に上下左右ボタンを押すと、ズーム表示エリアを移動できます。
- ズームアウト：【Eズーム】（-）ボタンを押します。
- ズーム解除：【戻る】ボタンを押します。

拡大された映像が投写され、拡大倍率が画面に表示されます。

1～4倍まで、25段階で拡大できます。

エプソン製書画カメラをUSBで接続して、カメラから読み込んだ映像を投写しているときは、1～8倍まで、57段階で拡大できます。

ユーザーロゴを設定する

プロジェクターの電源投入時に表示する画像を設定します。この画像は、入力信号が未検出のときにも表示できます。この画像をユーザーロゴと呼びます。

写真、グラフィック、会社のロゴなどをユーザーロゴとして設定し、プロジェクターの所有者を明示することで、本機の盗難防止などに役立ちます。また、パスワードプロテクトを設定して、ユーザーロゴを変更できないようにすることができます。

- ［メニュー保護］の［ユーザーロゴ］をオンにしているときは、［オフ］にしてからユーザーロゴを設定してください。
- 一括設定機能を使用して、複数のプロジェクター間でメニュー設定をコピーすると、ユーザーロゴもコピーされます。複数のプロジェクター間で共有したくない画像は、ユーザーロゴとして設定しないでください。
- HDCPで保護されたコンテンツは保存できません。
- ［コンテンツ再生］が［オン］のときはユーザーロゴを表示できません。（EB-755F/EB-750F）

1 ユーザーロゴとして設定する画像を投写します。

2 【メニュー】ボタンを押し、［管理］を選択して、【決定】ボタンを押します。

3 ［ユーザーロゴ］ > ［設定開始］の順に選択し、【決定】ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

［ユーザーロゴ］を選択すると、［幾何学歪み補正］、Eズーム、［アスペクト］、［表示倍率］（EB-755F/EB-750Fのみ）、［スクリーンタイプ］などの設定が、一時的に無効になります。

4 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。

現在の映像信号によっては、映像信号の解像度に合わせて画面サイズが変更されることがあります。

5 表示されている画像を確認し、［はい］を選択して保存します。
ユーザーロゴが保存され、完了メッセージが表示されます。

6 【戻る】ボタンを押して、メッセージを閉じます。

7 ［表示］を選択し、【決定】ボタンを押します。

8 ユーザーロゴを表示するタイミングを設定します。

- 入力信号がないときに表示するには、［無信号時画面］を選択し、［ロゴ］に設定します。
- 本機の電源投入時に表示する：［スタートアップスクリーン］を［オン］に設定します。

［ユーザーロゴ］の表示設定の変更を防止したいときは、［ユーザーロゴ保護］を［オン］に設定します。

関連項目

- 「パスワードプロテクトの種類を設定する」 p.172

ユーザーパターンを登録する

本機には罫線や格子など4種類のパターン映像が登録されています。投写中に［パターン表示］を選択して、これらのパターン映像を投写できます。

また、現在表示している映像をユーザーパターンとして登録することもできます。

- ユーザーパターンは、一度登録すると初期設定には戻せません。
- HDCPで保護されたコンテンツは保存できません。

1 ユーザーパターンとして登録したい映像を投写します。

2 【メニュー】ボタンを押し、［管理］を選択して、【決定】ボタンを押します。

3 ［ユーザーパターン］を選択し、【決定】ボタンを押します。

投写した画像をユーザーパターンとして使用するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。

［ユーザーパターン］を選択すると、台形補正、Eズーム、［アスペクト］、ズーム調整、［デジタル ピクチャーシフト］で調整した設定は一時的に無効になります。

4 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。

画像をユーザーパターンとして保存するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。

5 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。

終了メッセージが表示されます。

6 ［表示］を選択し、【決定】ボタンを押します。

7 ［パターン種類］を選択し、［ユーザーパターン］を選択します。

8 ［パターン表示］を選択し、【決定】ボタンを押します。

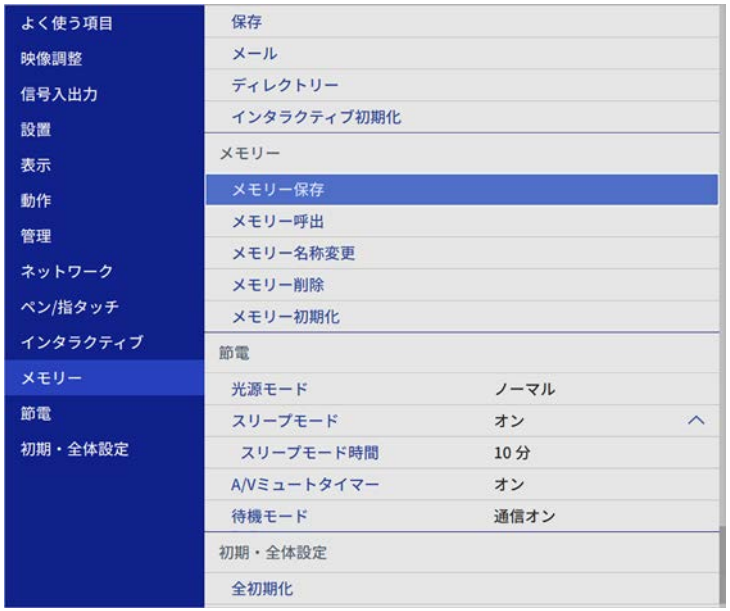
保存した画像が投写されます。

プロジェクターの設定をメモリーに保存する

投写映像の設定値をメモリーに登録して、いつでも必要なときに呼び出すことができます。

1 本機の電源を入れ、映像を表示します。

2 【メニュー】ボタンを押し、［メモリー］を選択して、【決定】ボタンを押します。



3 次のいずれかを選択します。

- ［メモリー保存］：現在の設定をメモリーに登録します（10件まで登録できます）。

> - 以下の設定を登録できます。
> - カラーモードごとに調整した［映像調整］メニューの設定
> - ［信号入出力］メニューの［ビデオレンジ］と［オーバースキャン］
> - ［動作］メニューの［光源モード］と［明るさレベル］
> - ［マルチプロジェクション］メニューの［カラーマッチング］（EB-755F/EB-750F）
> - すでに登録済みのメモリー名は青いマークで表示されます。登録済みのメモリー名を選択したときは、登録内容を消去して、現在の設定と置き換えます。

- ［メモリー呼出］：登録したメモリーを呼び出し、現在の設定と置き換えます。
- ［メモリー名称変更］：メモリー名を変更します。
- ［メモリー削除］：選択したメモリーを消去します。

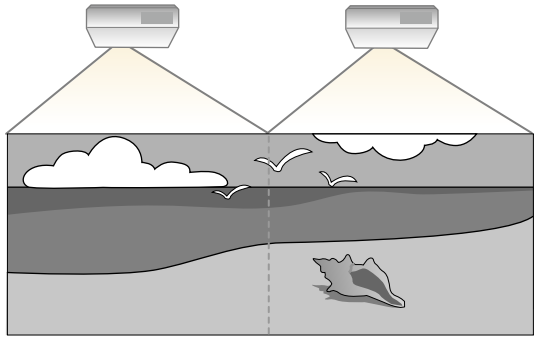
4 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

> - メモリー保存時のカラーモードは、メモリー名の右側に表示されます。
> - 保存されたメモリーを消去するには、［メモリー初期化］を選択します。

関連項目

- 「映像調整メニュー」 p.228
- 「信号入出力メニュー」 p.231
- 「動作メニュー」 p.239
- 「マルチプロジェクションメニュー」 p.262

複数台のプロジェクターを並べて、ひとつの大きな映像として投写できます（マルチプロジェクション機能）。



- 事前にすべてのプロジェクターの［映像調整］メニューの［カラーモード］を［マルチプロジェクション］に設定してください（EB-755F/EB-750F）。

以下の順序で設定することをお勧めします。

EB-755F/EB-750F：

- プロジェクターにIDを設定する
- ユニフォーミティーを調整する
- 映像のつなぎ目を補正する
- カラーマッチングを調整する
- 黒レベルを調整する
- RGBCMYを調整する
- 映像を切り出して表示する

EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W：

- プロジェクターにIDを設定する
- ユニフォーミティーを調整する
- ［動作］メニューの［光源モード］を［カスタム］に設定し、［明るさレベル］を調整する
  ☛ ［動作］ > ［光源明るさ制御］ > ［光源モード］
- RGBCMYを調整する

- プロジェクターの電源を入れた直後は映像が安定しません。映像の調整は、映像を投写し始めてから30分以上たってから行ってください。

関連項目

- 「プロジェクターのID設定」 p.158
- 「ユニフォーミティーを調整する」 p.160
- 「映像のつなぎ目を補正する」 p.162
- 「カラーマッチングを調整する」 p.163
- 「黒レベルを調整する」 p.165
- 「RGBCMYを調整する」 p.167
- 「映像を切り出して表示する」 p.169

プロジェクターのID設定

本機を複数台並べて投写するときは、それぞれの映像の明るさや色合いの違いを補正します。

プロジェクターごとにリモコンで補正するため、各プロジェクターにプロジェクターIDを設定してから明るさと色合いを補正します。

- 補正を行っても、それぞれの映像の明るさと色合いは完全に一致しないことがあります。
- 時間の経過とともに、映像の明るさと色合いの違いが目立つことがあります。その場合は、再度補正を行ってください。

関連項目

- 「プロジェクターにIDを設定する」 p.159

・「操作対象のプロジェクターIDをリモコンで選択する」 p.159

プロジェクターにIDを設定する

リモコンで操作するプロジェクターを選択するために、各プロジェクターに一意のIDを指定します。

1 【メニュー】ボタンを押して、次の操作をします。

- **EB-755F/EB-750F**：［マルチプロジェクション］を選択し、【決定】ボタンを押します。
- **EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W**：［設置］を選択し、【決定】ボタンを押します。

2 ［プロジェクターID］を選択し、【決定】ボタンを押します。

3 対象のプロジェクターに設定するID番号を選択します。その後、【決定】ボタンを押します。

4 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

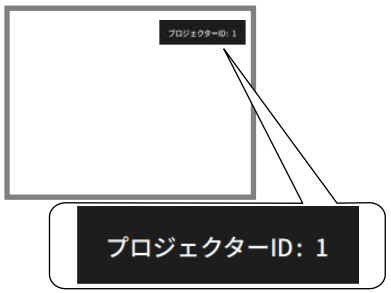
5 リモコンから操作するすべてのプロジェクターに対して、同様の手順を繰り返します。

操作対象のプロジェクターIDをリモコンで選択する

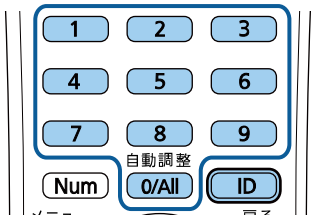
プロジェクターのIDを設定した後、リモコンで操作対象のプロジェクターのIDを選択します。

1 操作対象のプロジェクターにリモコンを向けて、【ID】ボタンを押します。

プロジェクターに設定されたIDが投写画面に表示されます。表示は約3秒後に消えます。



2 【ID】ボタンを押したまま、操作対象のプロジェクターIDと同じ数字のボタンを押します。



選択したIDが設定されたプロジェクターのリモコン操作が有効になります。

- 【0/All】を選択したときは、［プロジェクターID］の設定に関わらず、すべてのプロジェクターを操作できます。
- ［プロジェクターID］を［オフ］に設定しているときは、リモコンで選択したIDに関わらず、プロジェクターをリモコンで操作できます。
- プロジェクターIDはリモコンに記憶され、電池交換などでリモコンから電池を取り外しても残ります。ただし、長期間電池を取り外したままにすると、IDは初期値（0/All）に戻ります。
- 複数のリモコンを同時に操作すると、赤外線の干渉により意図しない動作となることがあります。

ユニフォーミティーを調整する

プロジェクターの投写画面に色むらがあるときは、画面の色味を1台ずつ補正します。各プロジェクターの［ユニフォーミティー］を調整します。

ユニフォーミティーを調整後も、色味が均一にならない場合があります。

1 【メニュー】ボタンを押し、［管理］を選択して、【決定】ボタンを押します。

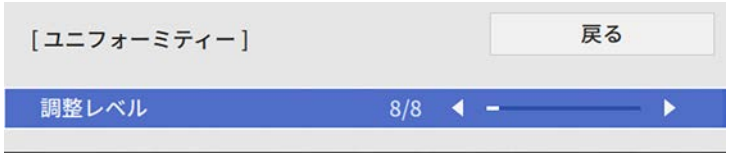
2 ［ユニフォーミティー］を選択し、【決定】ボタンを押します。

3 ［ユニフォーミティー］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［オン］を選択し、【決定】ボタンを押します。その後、【戻る】ボタンを押します。

5 ［調整レベル］を選択し、【決定】ボタンを押します。

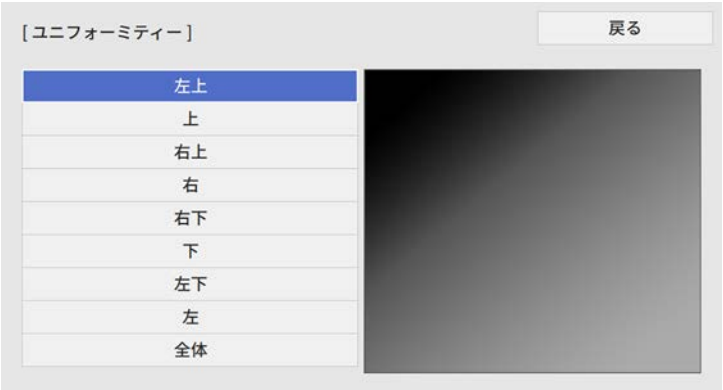
6 レベルを選択し、【戻る】ボタンを押します。



白 - グレー - 黒まで8つのレベルがあります。それぞれのレベルに対して調整を行います。

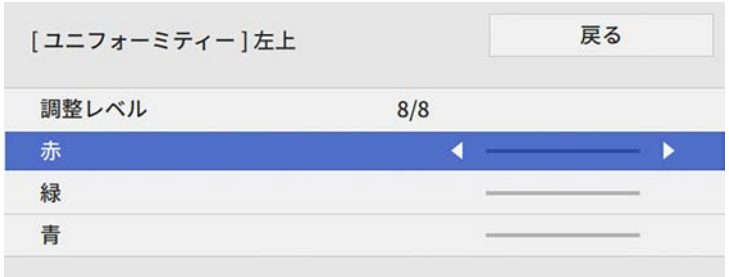
7 ［調整開始］を選択し、【決定】ボタンを押します。

8 調整するエリアを選択し、【決定】ボタンを押します。



最初に画面の周囲を調整します。最後に［全体］を選択し、画面全体を調整します。

9 必要に応じて、［赤］、［緑］、［青］を選択し、それぞれの色味を調整します。



調整中に【決定】ボタンを押すと、投写映像を調整画面と入力映像で切り替えられます。

10 【戻る】ボタンを押すと、エリア選択画面に戻ります。

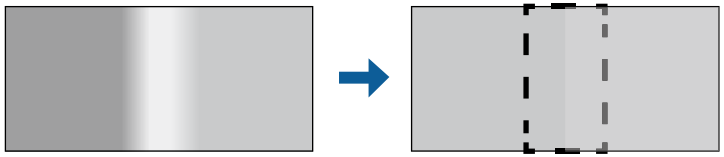
11 この手順を繰り返して、すべてのエリアを調整します。

12 手順5に戻り、それぞれのレベルで調整します。

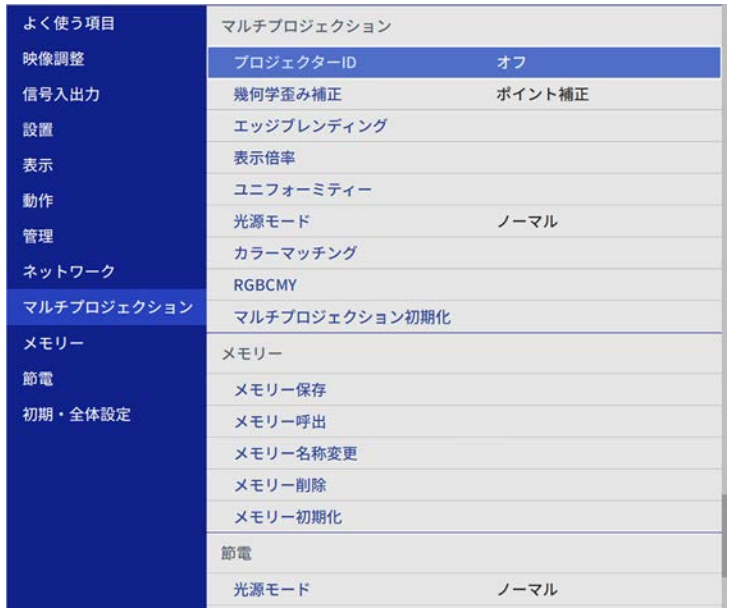
13 終了したら、【メニュー】ボタンを押します。

映像のつなぎ目を補正する

［エッジブレンディング］機能を使って、映像のつなぎ目を目立たなくします（EB-755F/EB-750F）。



1 【メニュー】ボタンを押し、［マルチプロジェクション］を選択して、【決定】ボタンを押します。



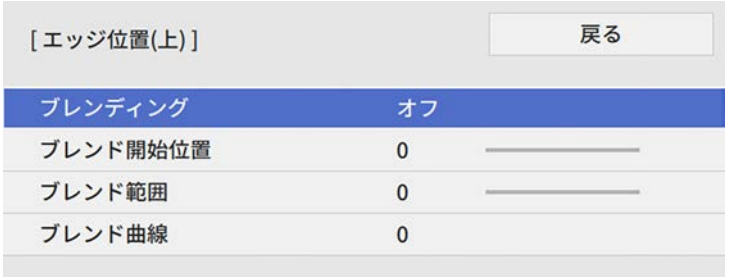
2 ［エッジブレンディング］ を選択して、【決定】ボタンを押します。

3 ［エッジブレンディング］、［マーカー表示］、［パターン表示］をオンにします。

各プロジェクターで異なる［表示色］を選択すると、映像が重なる範囲を見やすくできます。

4 補正するエッジ位置（映像が重なり合う箇所）を選択し、【決定】ボタンを押します。

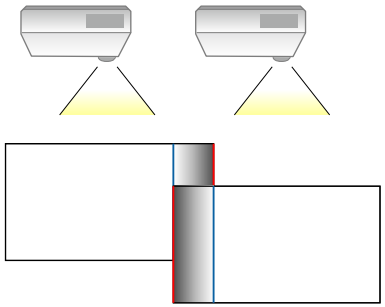
以下の画面が表示されます。



5 ［ブレンディング］を［オン］にします。

6 ［ブレンド開始位置］を選択し、ブレンド開始位置を指定します。

7 ［ブレンド範囲］を選択し、左右ボタンでグラデーションをかける範囲を指定します。映像が重なり合う範囲とマーカーの位置が等しくなるようにします。



8 【戻る】ボタンを押して、前の画面に戻ります。

9 ［ブレンド曲線］でグラデーションのかけ方を調整します。

10 設定が終わったら、［マーカー表示］と［パターン表示］をオフにします。

11 終了したら、【メニュー】ボタンを押します。

> 映像がうまく重なり合わないときは、［ポイント補正］機能を使用して、重ね合わせる箇所の形状を補正します。

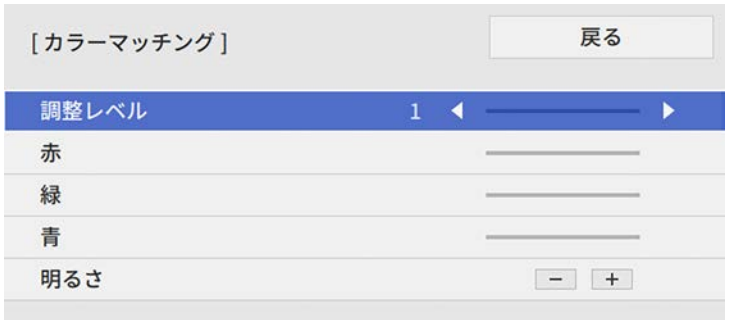
カラーマッチングを調整する

本機を複数台並べて投写するときの、それぞれの映像の色合いを合わせます（EB-755F/EB-750F）。

すべてのプロジェクターの電源を入れ、投写画面全体の色味と明るさが均一になるようにプロジェクターごとに調整します。

1 【メニュー】ボタンを押し、［マルチプロジェクション］を選択して、【決定】ボタンを押します。

2 ［カラーマッチング］を選択し、【決定】ボタンを押します。



3 ［調整レベル］を［8］に設定します。

4 ［明るさ］を選択し、明るさを調整します。

5 必要に応じて、［赤］、［緑］、［青］を選択し、それぞれの色味を調整します。

6 トップメニューに戻り、［動作］メニューを選択して、【決定】ボタンを押します。

7 ［光源明るさ制御］を選択し、【決定】ボタンを押します。

8 ［光源モード］を［カスタム］に設定します。

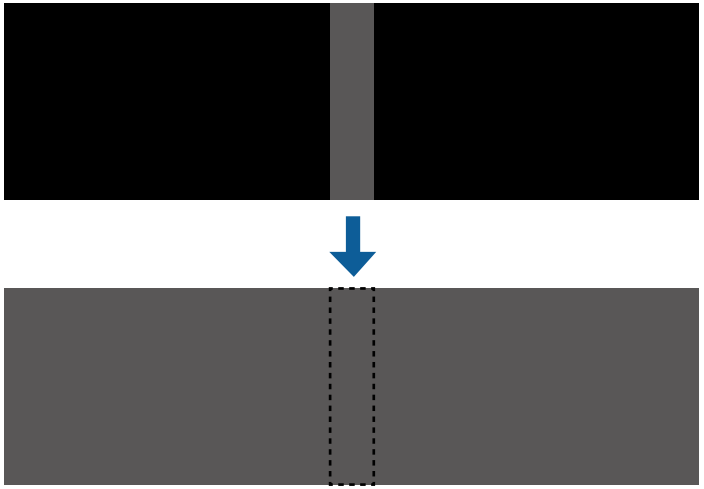
9 ［明るさレベル］を調整します。

10 手順1に戻り、調整レベル［7］から［2］の各レベルで同様に調整します。

11 終了したら、【メニュー】ボタンを押します。

黒レベルを調整する

映像のつなぎ目が目立たないように、映像が重なっていない箇所の明るさや色合いを調整します（EB-755F/EB-750F）。



- テストパターンを表示中は［黒レベル調整］を実行できません。
- ［幾何学歪み補正］の補正値が大きいと、［黒レベル調整］で正しく調整できないことがあります。
- ［黒レベル調整］を行っても、映像が重なり合っている箇所やその他の箇所で、明るさや色合いが異なる場合があります。
- ［エッジブレンディング］の設定を変更すると、［黒レベル調整］の調整値は初期値に戻ります。

1 【メニュー】ボタンを押し、［マルチプロジェクション］を選択して、【決定】ボタンを押します。

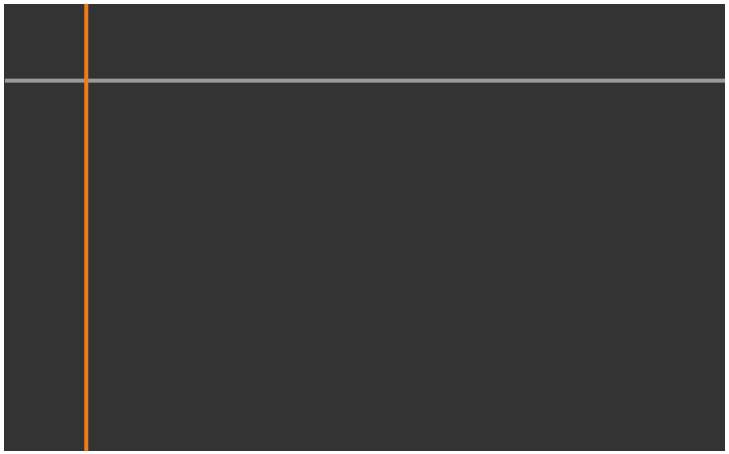
2 ［黒レベル調整］を選択し、【決定】ボタンを押します。

3 ［カラー調整］を選択し、【決定】ボタンを押します。

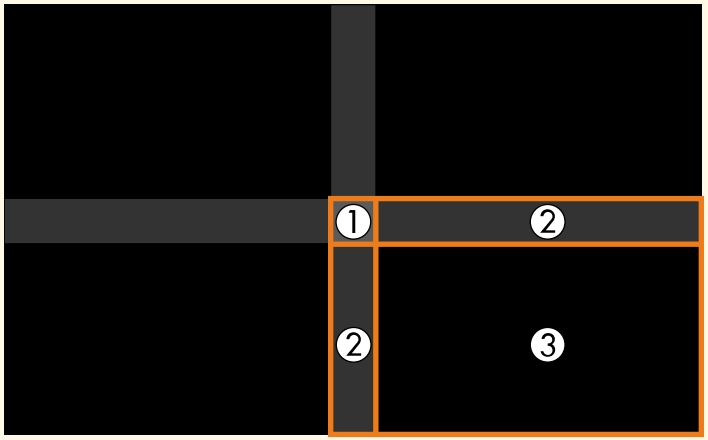
［エッジブレンディング］の設定に合わせて領域が表示されます。

4 上下左右ボタンを押して調整するエリアを選択し、【決定】ボタンを押します。

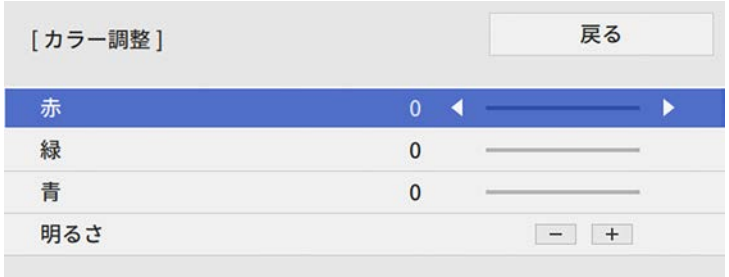
選択している箇所はオレンジ色で表示されます。



画面が複数重なっているときは、重なりが多い箇所（一番明るい箇所）を基準に調整してください。以下の例では、はじめに(2)が(1)と合うように調整し、次に(3)が(2)と合うように調整します。



5 黒の色合いや明るさを調整します。



［明るさ］を調整するとRGBの値を一括で調整できます。

6 手順4と5を繰り返して、調整が必要なすべての箇所を調整します。

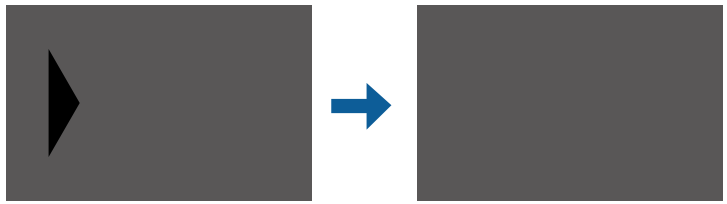
7 終了したら、【メニュー】ボタンを押します。

関連項目

- 「黒レベル補正領域を調整する」 p.166

黒レベル補正領域を調整する

［黒レベル調整］後、色合いが同じにならない箇所がある場合は、個別に調整します。



1 ［黒レベル調整］の［エリア補正］を選択し、【決定】ボタンを押します。

2 ［調整開始］を選択し、【決定】ボタンを押します。

映像が重なっている箇所を示す境界線が表示されます。［エッジブレンディング］の設定に合わせて領域が表示されます。

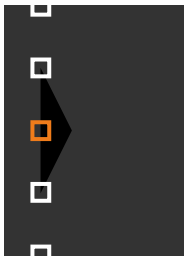
3 上下左右ボタンを押して、調整する箇所の境界線を選択し、【決定】ボタンを押します。

選択している箇所はオレンジ色で表示されます。

4 上下左右ボタンで境界線の位置を調整し、【決定】ボタンを押します。

5 上下左右ボタンを押して、移動するポイントを選択し、【決定】ボタンを押します。

選択しているポイントはオレンジ色で表示されます。



［ポイント］でポイント数を変更できます。

6 上下左右ボタンでポイントを移動します。

7 続けて他のポイントを移動する場合は、【戻る】ボタンを押して、手順5、6を行います。

8 他の境界線を調整するときは、手順3の境界線を選択する画面が表示されるまで【戻る】ボタンを押します。

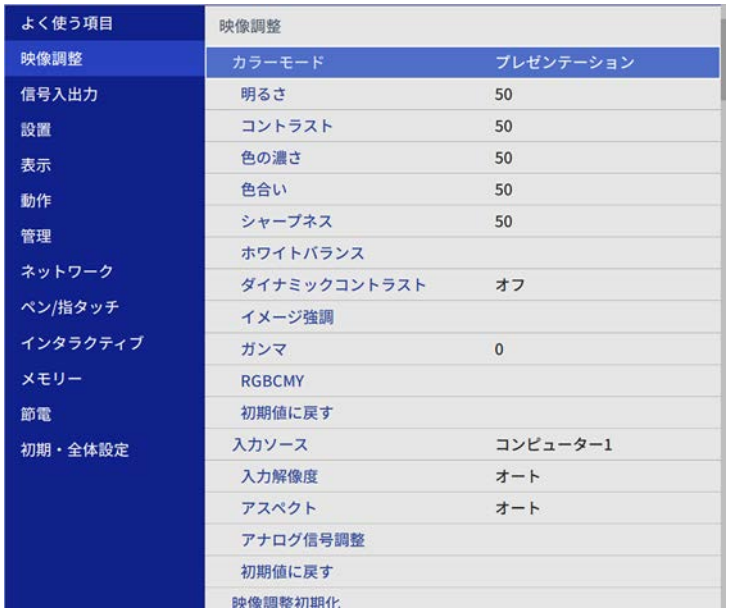
9 終了したら、【メニュー】ボタンを押します。

RGBCMYを調整する

R（赤）、G（緑）、B（青）、C（シアン）、M（マゼンタ）、Y（イエロー） の各色について、［色相］、［彩度］、［明度］を調整します。

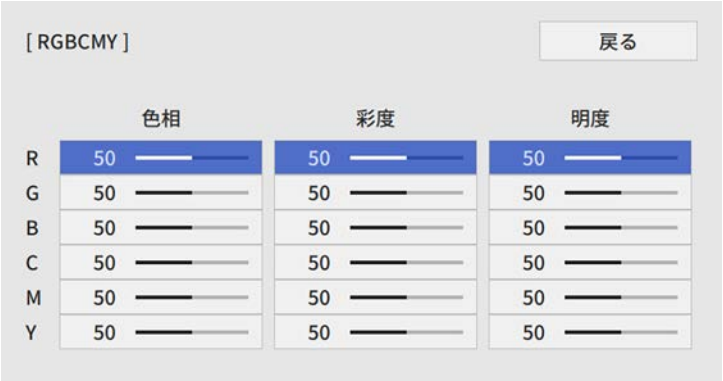
すべてのプロジェクターの電源を入れ、投写画面全体の色調が均一になるようにプロジェクターごとに調整します。

1 【メニュー】ボタンを押し、［映像調整］メニューを選択して、【決定】ボタンを押します。



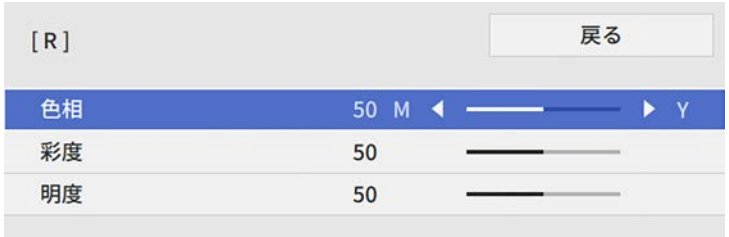
2 ［RGBCMY］を選択し、【決定】ボタンを押します。

3 調整する色を選択し、【決定】ボタンを押します。



4 必要に応じて以下を調整します。

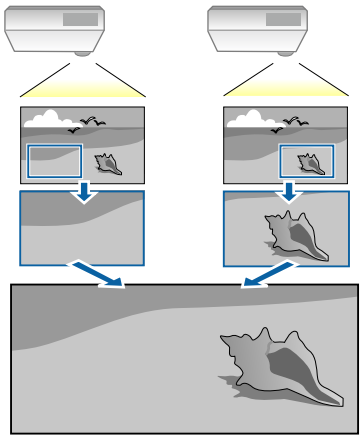
- ［色相］：映像全体の色味を、青系～緑系～赤系へと調整します。
- ［彩度］：映像全体の鮮やかさを調整します。
- ［明度］：映像全体の明るさを調整します。



5 終了したら、【メニュー】ボタンを押します。

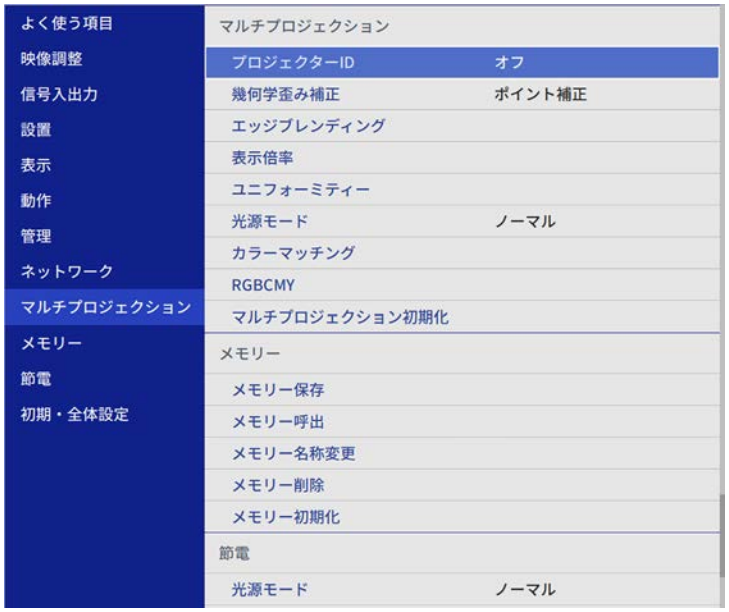
映像を切り出して表示する

［表示倍率］機能を使い、投写中の映像を部分的に切り出して表示します。他のプロジェクターの投写映像と合わせて、ひとつの大きな映像を作ります（EB-755F/EB-750F）。



1 映像を投写します。

2 【メニュー】ボタンを押し、［マルチプロジェクション］を選択して、【決定】ボタンを押します。



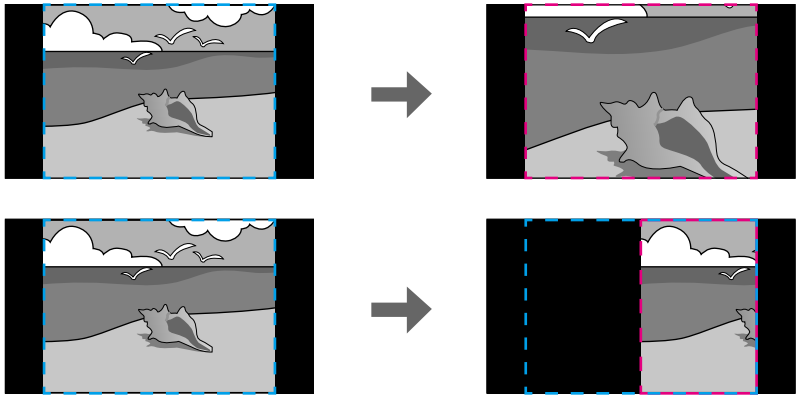
3 ［表示倍率］を選択し、【決定】ボタンを押します。

次の画面が表示されます。

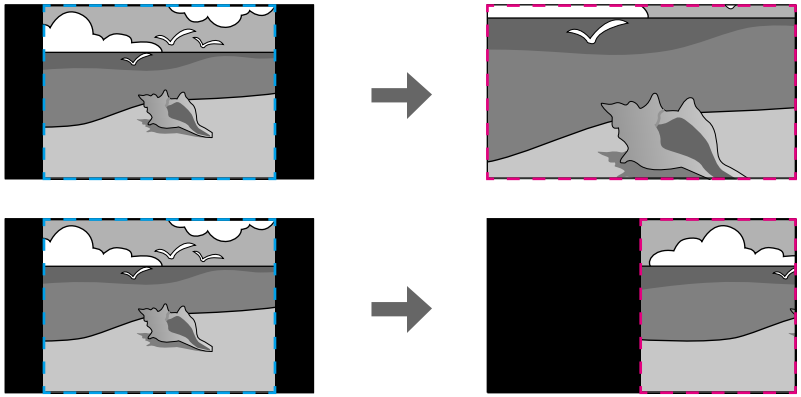
4 ［表示倍率］を［オン］にします。

5 ［表示倍率モード］を選択し、以下のいずれかを選択します。

- ［ズーム表示］：表示中の映像のアスペクト比を維持して、映像を切り出します。



- ［フル表示］：プロジェクターのパネルサイズを基準にして、映像を切り出します。



6 必要に応じて以下の設定をします。

- -/+：水平方向、垂直方向同時に映像を拡大/縮小します。
- ［タテ倍率］：垂直方向に映像を拡大/縮小します。
- ［ヨコ倍率］：水平方向に映像を拡大/縮小します。

7 ［切り出し調整］を選択し、上下左右ボタンを使って映像の座標と範囲を調整します。

8 ［切り出し範囲］を選択し、切り出す範囲を確認します。

9 終了したら、【メニュー】ボタンを押します。

以下のセキュリティー機能を使用することで、プロジェクターの盗難や誤用・悪用を防止します。

- パスワードプロテクト：パスワードを知らないユーザーが本機を使用できないようにします。また、起動時に表示する画面などの設定を変更できないようにします。
  本機を使用できるユーザーを制限したり、プロジェクターを持ち出しても使用できないことで盗難防止の効果があります。
- 操作ボタンロック：操作パネルのボタン操作をできないようにします。
  イベントや展示会などで投写中にプロジェクターを操作できないようにしたり、学校などで操作できるボタンを制限したいときに便利です。
- セキュリティーケーブル：プロジェクターを固定して盗難を防ぎます。

関連項目

- 「パスワードプロテクトの種類」 p.171
- 「操作パネルのボタン操作を制限する」 p.174
- 「セキュリティーケーブルを取り付ける」 p.175

パスワードプロテクトの種類

パスワードを1つ設定して、以下の種類のメニュー保護を設定できます。

- ［電源投入時］：パスワードを知らないユーザーが本機を起動できないようにします。コンセントを抜き差した後に電源オンすると、パスワードの入力が必要になります。コンセントを抜かない限り、次回電源オンではパスワード入力は不要です。［ダイレクトパワーオン］および［オートパワーオン］機能でプロジェクターが起動したときも、パスワードの入力が必要になります。
- ［メニュー保護］ > ［ユーザーロゴ］：プロジェクターの電源を入れたときや、入力信号が未検出のときに表示されるユーザーロゴの画面設定を変更できないようにします。ユーザーロゴを設定していると、プロジェクターの所有者が特定されるため、盗難防止につながります。
- ［メニュー保護］ > ［スケジュール］：スケジュール設定を変更できないようにします
- ［メニュー保護］ > ［ネットワーク］：［ネットワーク］メニューの設定を変更できないようにします。
- ［メニュー保護］ > ［インタラクティブ］：［インタラクティブ］メニューの設定を変更できないようにします（EB-735Fi/EB-725Wi）。

関連項目

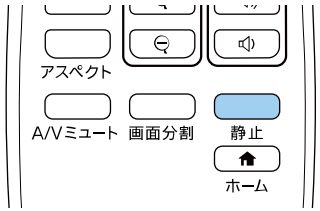
- 「パスワードを設定する」 p.171
- 「パスワードプロテクトの種類を設定する」 p.172
- 「パスワードを入力する」 p.173

パスワードを設定する

パスワードプロテクトを行うためのパスワードを設定します。

> 初期設定でパスワードは「0000」に設定されています。異なるパスワードに変更してください。

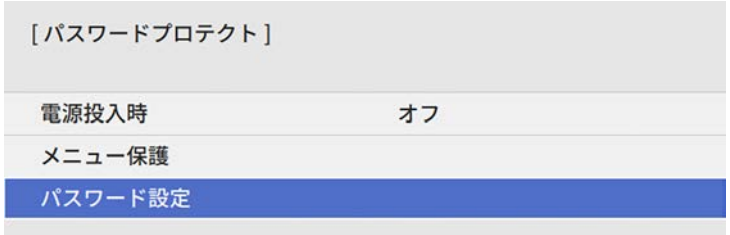
1 リモコンの【静止】ボタンを約5秒間押し続けます。



パスワードプロテクト設定メニューが表示されます。

すでにパスワードプロテクトが有効になっているときは、パスワードプロテクト設定メニューを表示する前にパスワードの入力が求められます。

2 ［パスワード設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

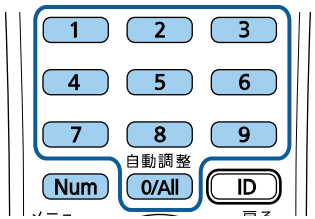


「パスワードを変更しますか？」というメッセージが表示されます。

3 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。

［いいえ］を選択したときは、パスワードプロテクト設定メニューが再度表示されます。

4 リモコンの【Num】ボタンを押したままテンキーボタンを押して、4桁のパスワードを設定します。



入力したパスワードは、「****」と表示されます。4桁目を入力すると、確認画面が表示されます。

5 パスワードを再入力します。

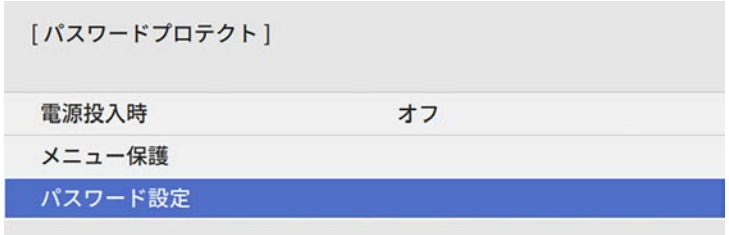
「パスワード設定が終了しました。」というメッセージが表示されます。間違えてパスワードを入力した場合は、メッセージが表示されますのでパスワード設定をやり直してください。

6 【戻る】ボタンを押してメニューに戻ります。

7 パスワードを控えて、安全な場所に保管してください。

パスワードプロテクトの種類を設定する

パスワードの設定後、パスワードプロテクト設定メニューで設定したいパスワードプロテクトの種類を選択します。



このメニューが表示されない場合は、メニューが表示されるまで5秒間ほどリモコンの【静止】ボタンを押し続けてください。

- プロジェクターの無断使用を防止したいときは、［電源投入時］を［オン］に設定します。
- プロジェクターの設定の変更を防止したいときは、［メニュー保護］を選択し、【決定】ボタンを押して、以下の設定をします。
  - ユーザーロゴなどの表示設定の変更を防止したいときは、［ユーザーロゴ］を［オン］に設定します。

- スケジュール設定の変更を防止したいときは、［スケジュール］を［オン］に設定します。
- ネットワーク設定の変更を防止したいときは、［ネットワーク］を［オン］に設定します。
- ［インタラクティブ］の変更を防止したいときは、［インタラクティブ］を［オン］に設定します。（EB-735Fi/EB-725Wi）

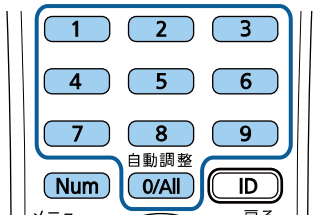
パスワードプロテクトステッカーを本機に貼り付けることで、盗難防止効果を向上できます。

> リモコンは必ず安全な場所に保管してください。リモコンを失くすとパスワードを入力できなくなります。

パスワードを入力する

パスワード画面が表示されたときは、正しいパスワードを入力します。

1 リモコンの【Num】ボタンを押したままテンキーボタンを押してパスワードを入力します。



パスワード画面が閉じます。

2 誤ったパスワードを入力したときは、再入力用の画面が表示されます。正しいパスワードを入力します。

注意

- 誤ったパスワードを3回連続で入力すると、「プロジェクターの動作を停止します。」というメッセージが約5分間表示され、プロジェクターはスタンバイ状態になります。電源プラグを抜いて差し直してから、本機の電源を入れます。パスワード入力画面が表示されたら、正しいパスワードを入力してください。
- パスワードを忘れたときは、画面に表示される「［問い合わせコード］: xxxxx」の番号を控えて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
- 上記の操作を繰り返し、誤ったパスワードを連続30回入力したときは、「プロジェクターの動作が停止します。各修理窓口へ修理を依頼してください。」というメッセージが表示され、それ以上パスワードを入力できなくなります。お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
- パスワードに関してお問い合わせいただいた際は、お客様のお名前や連絡先などをお聞きし、お客様から返送いただいた『お客様情報＋正式保証書発行カード』と照合しご本人様であることを確認させていただきます。同梱の『お客様情報＋正式保証書発行カード』に必要事項を記入して、必ず返送してください。

操作パネルのボタン操作を制限する

操作パネルのボタンをロックして、本機の無断使用を防止します。リモコンからは通常どおり操作できます。

1 【メニュー】ボタンを押し、［管理］を選択して、【決定】ボタンを押します。

2 ［操作ボタンロック］を選択し、【決定】ボタンを押します。

3 ロックの種類を選択し、【決定】ボタンを押します。

- プロジェクターのすべてのボタンをロックするには、［全ロック］を選択します。

- 電源ボタンを除くすべてのボタンをロックするには、［電源以外ロック］を選択します。

確認メッセージが表示されます。

4 ［はい］を選択し、【決定】ボタンを押します。
［操作ボタンロック］の設定が有効になります。

関連項目
- 「操作ボタンロックを解除する」 p.175

操作ボタンロックを解除する

以下の方法で、操作ボタンロックを解除します。
- 操作パネルの【決定】ボタンを約7秒間押し続けます。メッセージが表示され、ロックが解除されます。
- ［管理］メニューの［操作ボタンロック］を［オフ］に設定してください。

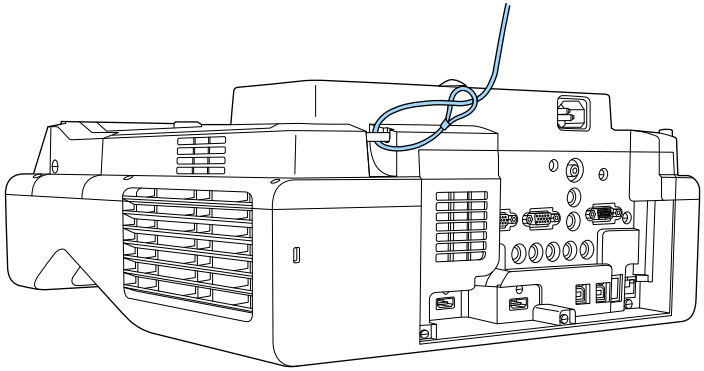
セキュリティーケーブルを取り付ける

盗難防止のために、セキュリティーケーブルを本機に取り付けることができます。

- Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティーシステムを本機のセキュリティースロットに取り付けます。

> マイクロセーバーセキュリティーシステムの詳細は、Kensington社のWebサイトをご覧ください。
> https://www.kensington.com/

- ワイヤーケーブルを、本機のセキュリティーケーブル取付け部に取り付けて、部屋の建具や動かないものに固定します。



> セッティングプレートに同梱されているワイヤーロックを落下防止用に取り付けることもできます。市販のワイヤーロックも使用できます。ワイヤーロックの施錠方法は、ワイヤーロックに添付の取扱説明書をご覧ください。

ネットワーク上のプロジェクターを使用する

ネットワーク経由でプロジェクターから映像を投写するための設定について説明します。

関連項目

- 「有線LANでの映像投写」 p.177
- 「無線LANでの映像投写」 p.181
- 「モバイルデバイスからのワイヤレス投写（Screen Mirroring）」 p.192
- 「セキュアHTTP」 p.197
- 「画面共有」 p.199

有線LAN経由でプロジェクターから映像を投写できます。ネットワーク経由で投写するには、プロジェクターをネットワークに接続し、プロジェクターおよびコンピューターのネットワーク設定をします。

プロジェクターの接続とネットワーク設定が終わったら、以下のWebサイトから Epson iProjection (Windows/Mac) をインストールします。

epson.jp/download

Epson iProjectionを使用すると、コンピューターの映像をネットワーク経由で投写できます。また、ネットワークに接続された複数のコンピューターの映像を同時に投写して、ミーティングをより活発にできます。詳しくは、『Epson iProjection操作ガイド (Windows/Mac)』をご覧ください。

関連項目

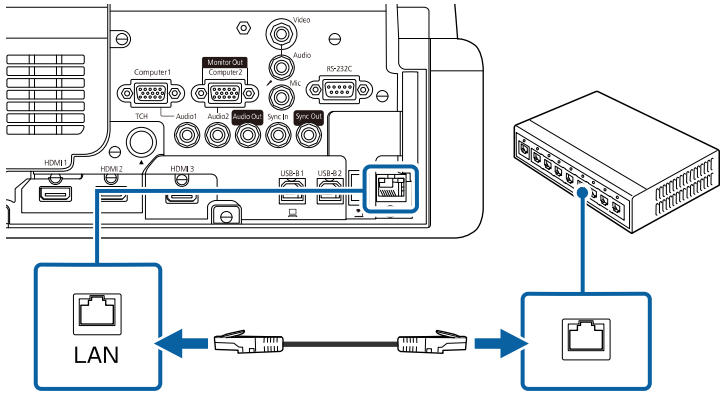
- 「有線LANに接続する」 p.177
- 「有線LANを設定する」 p.177

有線LANに接続する

プロジェクターを有線LANに接続するには、100Base-TXまたは10Base-Tネットワークケーブルを使用します。誤作動防止のために、カテゴリー5以上のシールド付きケーブルをお使いください。

1 LANケーブルをネットワークハブ、スイッチ、またはルーターに接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクターをプロジェクターのLAN端子に接続します。



有線LANを設定する

ネットワーク経由でコンピューターの映像を投写するには、事前にプロジェクターのネットワーク設定が必要です。

設定の前に、LAN端子にLANケーブルを接続し、プロジェクターを有線LANに接続してください。

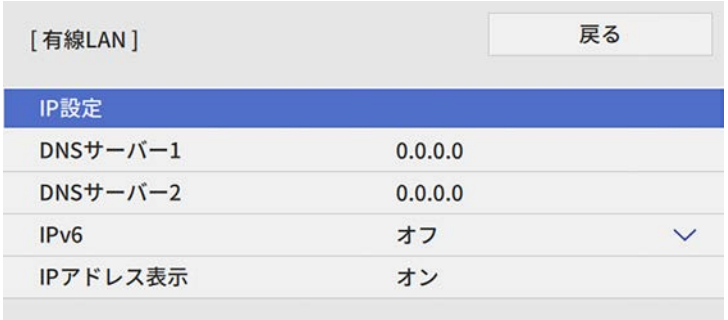
1 【メニュー】ボタンを押し、［ネットワーク］を選択して、【決定】ボタンを押します。

2 ［ネットワーク設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

3 ［プロジェクター名］にネットワーク上で本機を識別するための名前を入力します。半角英数字で16文字以内で入力します。

4 ［優先制御インターフェイス］を［有線LAN］に設定します。

5 ［有線LAN］を選択し、【決定】ボタンを押します。

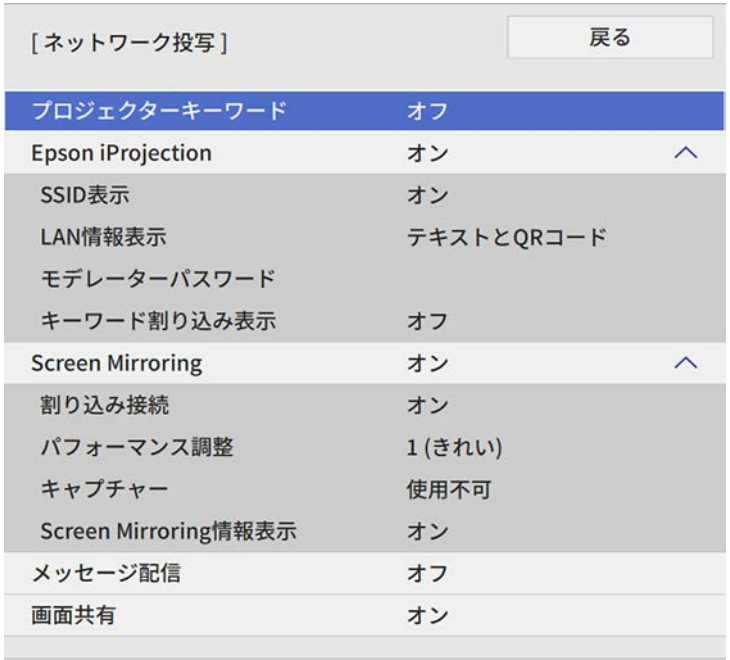


6 必要に応じてプロジェクターにIPアドレスを割り当てます。

- DHCPを使用できるネットワークの場合は、［IP設定］を選択し、［DHCP］を［オン］にします。
- DHCPを使用できないネットワークの場合は、［IP設定］を選択し、［DHCP］を［オフ］にして、プロジェクターの［IPアドレス］、［サブネットマスク］、［ゲートウェイアドレス］を入力します。

7 設定したIPアドレスがネットワーク情報画面に表示されないようにするには、［IPアドレス表示］を［オフ］に設定します。

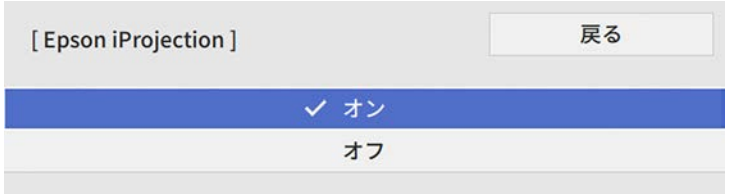
8 ［ネットワーク投写］を選択し、【決定】ボタンを押します。



9 他のユーザーが誤って接続するのを防ぎたいときは、［プロジェクターキーワード］をオンにします。

> オンにすると、コンピューターやモバイルデバイスの映像を投写するとき、投写画面に表示されるキーワードをEpson iProjectionで入力する必要があります。

10 ［Epson iProjection］を［オン］にします。



11 必要に応じて設定を変更します。

- ［LAN情報表示］：本機のネットワーク情報の表示形式を設定します。
- ［モデレーターパスワード］：Epson iProjectionを使って、モデレーターとして本機に接続するときの認証用パスワードを設定します。4桁の数字を入力します。（デフォルトのパスワードは設定されていません。）
- ［キーワード割り込み表示］：Epson iProjectionを使って本機に接続するときに、投写画面にプロジェクターキーワードを表示するかどうかを設定します。

12 設定が終わったら、［ネットワーク設定］の画面に戻り、［設定］を選択します。画面の指示に従って設定を保存し、メニューを終了します。

13 リモコンの【LAN】ボタンを押します。

ネットワーク情報画面に正しいIPアドレスが表示されていれば、
設定完了です。

関連項目

- 「ソフトキーボードを操作する」 p.227

無線LAN経由でプロジェクターから映像を投写できます。

無線LAN経由で投写するときは、プロジェクターとコンピューターの無線LAN設定をしてください。

［ネットワーク］メニューから、無線LAN設定をすると、本機を無線接続できます。

プロジェクターの接続とネットワーク設定が終わったら、以下のWebサイトからネットワークソフトウェアをダウンロードしてインストールします。

epson.jp/download

無線LAN経由で映像を投写するには、以下のネットワークソフトウェアを使用します。

- Epson iProjection (Windows/Mac)を使用すると、ネットワークに接続された複数のコンピューターの映像を同時に投写して、ミーティングをより活発にできます。詳しくは、『Epson iProjection操作ガイド(Windows/Mac)』をご覧ください。
- Epson iProjection (iOS/Android)を使用すると、iOSやAndroidなどのモバイルデバイスから映像を投写できます。
  Epson iProjectionは、App StoreまたはGoogle Playから無料でダウンロードできます。App Store、Google Playへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。
- Epson iProjection (Chromebook)を使用すると、Chromebookから映像を投写できます。
  Epson iProjectionは、Chromeウェブストアから無料でダウンロードできます。Chromeウェブストアへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。

関連項目

- 「内蔵の無線LANユニットを安全にお使いいただくために」 p.181
- 「さまざまなネットワーク投写に対応した接続方法」 p.181
- 「無線LANユニットを取り付ける」 p.182
- 「プロジェクターの無線LANを設定する」 p.183
- 「Windowsで無線LANを設定する」 p.186
- 「Macで無線LANを設定する」 p.187
- 「無線LANのセキュリティーを設定する（シンプルAPモード）」 p.187
- 「無線LANのセキュリティーを設定する（インフラストラクチャーモード）」 p.187
- 「QRコードを使用してモバイルデバイスに接続する」 p.190
- 「USBキーを使って接続する（Windowsのみ）」 p.190

内蔵の無線LANユニットを安全にお使いいただくために

本機には無線LANユニットが内蔵されています。 以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

⚠ 警告

- 心臓ペースメーカー等の医療機器を装着している方は、製品に近づかないでください。また、製品を取り扱うときは、近くに心臓ペースメーカー等の医療機器を装着している方がいないことを確認してください。電磁妨害が生じ、医療機器が誤動作する可能性があります。
- 電磁妨害による誤動作や事故の原因となります。自動ドアや火災報知機などの自動制御機器の近くで使用しないでください。

⚠ 注意

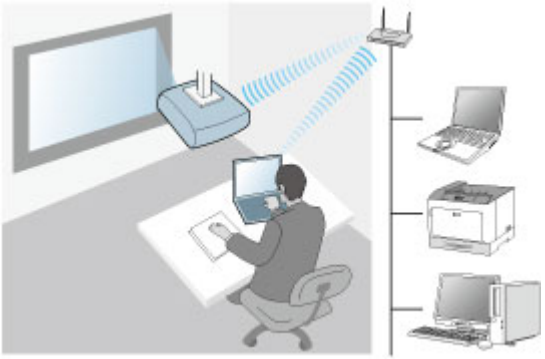
製品から20cm以上離れてお使いください。体調不良の原因となります。

さまざまなネットワーク投写に対応した接続方法

お使いのネットワーク環境に適した接続方法を選択できます。

- シンプルAPモードでは、プロジェクターとスマートフォンやタブレット端末、コンピューターを無線で直接接続できます。Epson iProjectionの［かんたんモード］またはScreen Mirroringで接続するときに、このモードを選択します。

- インフラストラクチャーモードでは、無線LANアクセスポイント経由でスマートフォンやタブレット端末、コンピューターと接続できます。Epson iProjectionの［マニュアルモード］で接続するときに、このモードを選択します。



お使いの機種は無線LANユニットが内蔵されています。 オプションの無線LANユニットを取り付けると、2つの接続方法を同時に使用できます。無線LANユニットを取り付けたら、［シンプルAP］を［オン］に設定します。

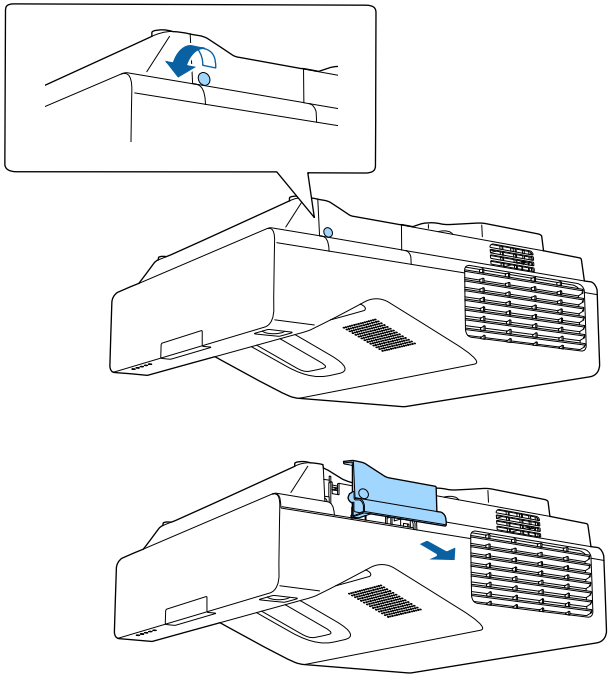
☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［シンプルAP］

無線LANユニットを取り付ける

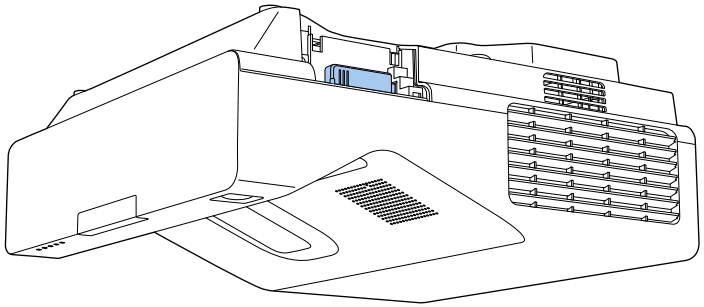
シンプルAPモードとインフラストラクチャーモードの2つの接続方法を同時に使用したいときは、無線LANユニットを取り付けます。 エプソン純正の無線LANユニット以外は取り付けないでください。

注意
無線LANユニットのインジケーターが青色に点灯または点滅しているときや、無線LAN経由で映像を投写しているときは、無線LANユニットを取り外さないでください。無線LANユニットの破損や故障の原因となります。

1 無線LANユニットカバー固定ネジを外し、無線LANユニットカバーを開けます。



2 無線LANユニット装着部に無線LANユニットを取り付けます。

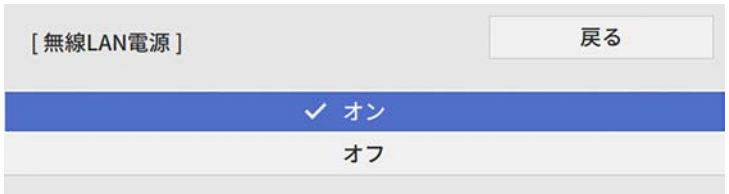


プロジェクターの無線LANを設定する

無線LAN経由でコンピューターの映像を投写するには、事前にプロジェクターのネットワーク設定が必要です。

1 【メニュー】ボタンを押し、［管理］を選択して、【決定】ボタンを押します。

2 ［無線LAN電源］を［オン］に設定します。



3 ［ネットワーク］を選択し、【決定】ボタンを押します。

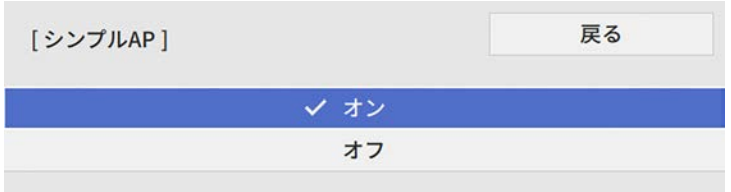
4 ［ネットワーク設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 ［プロジェクター名］にネットワーク上で本機を識別するための名前を入力します。半角英数字で16文字以内で入力します。

6 ［優先制御インターフェイス］を［無線LAN］に設定します。

7 接続方法を選択します。

- シンプルAPモードの場合は、［シンプルAP］を［オン］に設定し、手順12へ進みます。
- インフラストラクチャーモードの場合は、［シンプルAP］を［オフ］に設定し、次の手順へ進みます。
- オプションの無線LANユニットを取り付けて、同時に2つの接続モードを使用する場合は、［シンプルAP］を［オン］に設定し、次の手順へ進みます。



8 ［無線LAN］を選択し、【決定】ボタンを押します。

アクセスポイントの検索が始まります。

［アクセスポイント検索］でアクセスポイントを手動で検索できます。

9 接続するアクセスポイントを選択します。

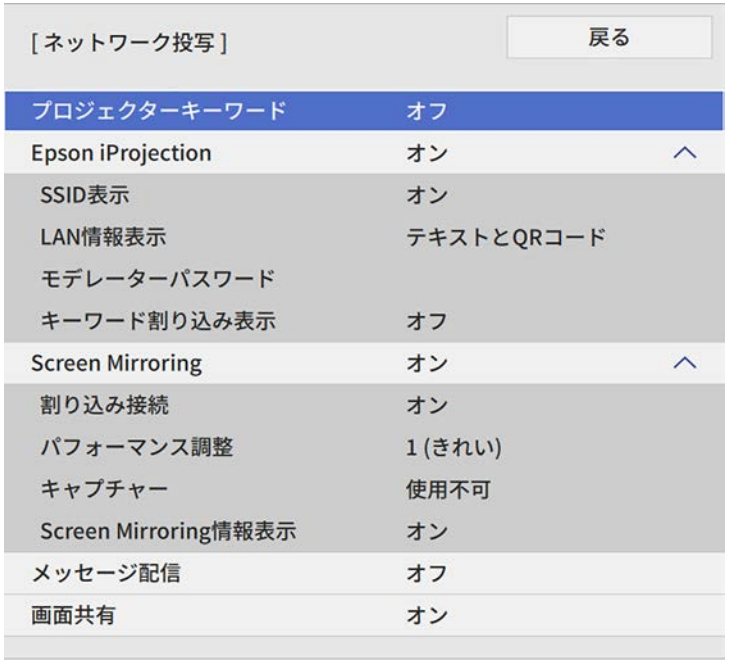
手動でSSIDを割り当てるときは［SSID］を選択して、SSIDを入力します。

10 必要に応じてプロジェクターにIPアドレスを割り当てます。

- DHCPを使用できるネットワークの場合は、［IP設定］を選択し、［DHCP］を［オン］にします。
- DHCPを使用できないネットワークの場合は、［IP設定］を選択し、［DHCP］を［オフ］にして、プロジェクターの［IPアドレス］、［サブネットマスク］、［ゲートウェイアドレス］を入力します。

11 設定したIPアドレスがネットワーク情報画面に表示されないようにするには、［IPアドレス表示］を［オフ］に設定します。

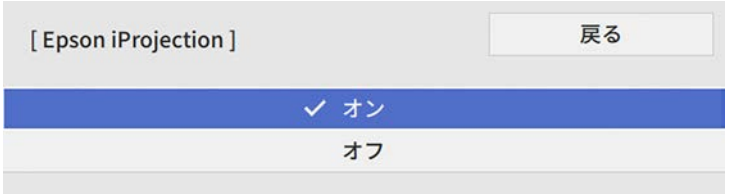
12 ［ネットワーク投写］を選択し、【決定】ボタンを押します。



13 他のユーザーが誤って接続するのを防ぎたいときは、［プロジェクターキーワード］をオンにします。

オンにすると、コンピューターやモバイルデバイスの映像を投写するとき、投写画面に表示されるキーワードをEpson iProjectionで入力する必要があります。

14 ［Epson iProjection］を［オン］にします。



15 必要に応じて設定を変更します。

- ［SSID表示］：ネットワーク情報画面やホーム画面にSSIDを表示するかしないかを選択します。
- ［LAN情報表示］：本機のネットワーク情報の表示形式を設定します。
- ［モデレーターパスワード］：Epson iProjectionを使って、モデレーターとして本機に接続するときの認証用パスワードを設定します。4桁の数字を入力します。（デフォルトのパスワードは設定されていません。）
- ［キーワード割り込み表示］：Epson iProjectionを使って本機に接続するときに、投写画面にプロジェクターキーワードを表示するかどうかを設定します。

16 設定が終わったら、［ネットワーク設定］の画面に戻り、［設定］を選択します。画面の指示に従って設定を保存し、メニューを終了します。

17 リモコンの【LAN】ボタンを押します。

ネットワーク情報画面に正しいIPアドレスが表示されていれば、設定完了です。

プロジェクターの無線設定を設定し終えたら、コンピューター上の無線ネットワークを選択する必要があります。ネットワークソフトウェアを起動して、無線LAN経由で映像をプロジェクターに送ります。

関連項目

- 「ソフトキーボードを操作する」 p.227

Windowsで無線LANを設定する

コンピューターとプロジェクターを接続するには、コンピューターで無線LAN設定をします。

1 Windowsタスクバーのネットワークアイコンをクリックし、無線ユーティリティソフトウェアを起動します。

2 無線LANアクセスポイント経由で接続するときは、Wi-Fiがオンに設定されていることを確認し、プロジェクターが接続しているネットワークのネットワーク名（SSID）を選択します。

3 ［接続する］をクリックします。

Macで無線LANを設定する

コンピューターとプロジェクターを接続するには、コンピューターで無線LAN設定をします。

1 画面上部にあるメニューバーのWi-Fiアイコンをクリックします。

2 無線LANアクセスポイント経由で接続するときは、Wi-Fiがオンに設定されていることを確認し、プロジェクターが接続しているネットワークのネットワーク名（SSID）を選択します。

無線LANのセキュリティーを設定する（シンプルAPモード）

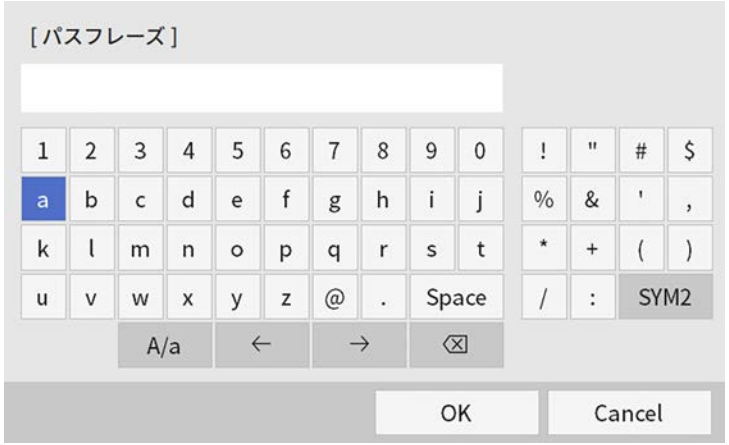
プロジェクターの無線通信に使うセキュリティーを設定できます。シンプルAPモードではWPA2-PSKセキュリティーを使用します。

> 無線LANのネットワーク設定については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

1 【メニュー】ボタンを押し、［ネットワーク］を選択して、【決定】ボタンを押します。

2 ［ネットワーク設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

3 ［パスフレーズ］を選択し、【決定】ボタンを押して、パスフレーズを入力します。半角英数字8文字以上63文字以内で入力します。



4 設定が終わったら、［ネットワーク設定］の画面に戻り、［設定］を選択します。画面の指示に従って設定を保存し、メニューを終了します。

無線LANのセキュリティーを設定する（インフラストラクチャーモード）

プロジェクターの無線通信に使うセキュリティーを設定できます。無線LANの設定に合わせて、以下のいずれかのセキュリティーを設定します。

- WPA3-PSKセキュリティー
- WPA2/WPA3-PSKセキュリティー

- WPA3-EAPセキュリティー
- WPA2/WPA3-EAPセキュリティー

無線LANのネットワーク設定については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

1 WPA3-EAPまたはWPA2/WPA3-EAPセキュリティーを設定する場合は、本機に対応した形式の証明書をUSBストレージのルートディレクトリーに格納します。

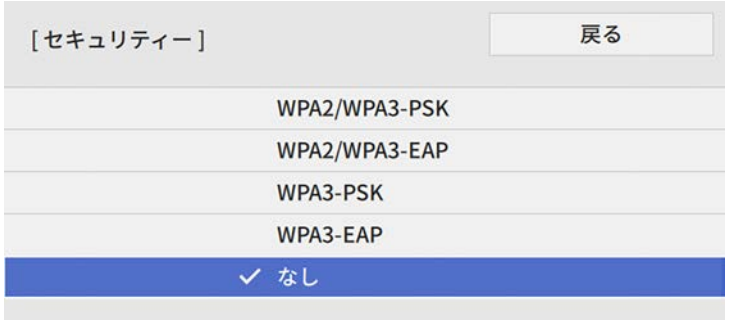
2 【メニュー】ボタンを押し、［ネットワーク］を選択して、【決定】ボタンを押します。

3 ［ネットワーク設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4 ［無線LAN］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 ［セキュリティー］を選択し、【決定】ボタンを押します。

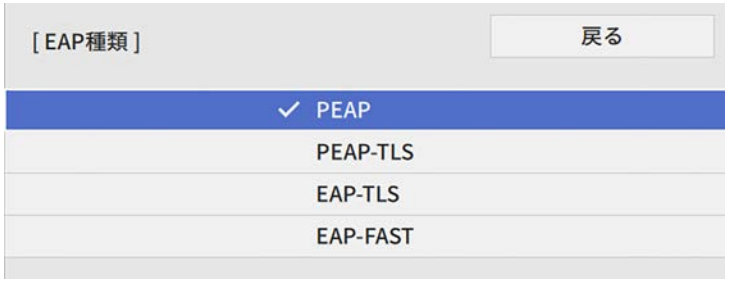
6 無線LANの設定に合わせて、セキュリティーを設定します。



7 選択したセキュリティーに応じて、以下のいずれかの操作をします。

- ［WPA3-PSK］、［WPA2/WPA3-PSK］の場合：［パスフレーズ］を選択し、【決定】ボタンを押して、パスフレーズを入力します。半角英数字8文字以上63文字以内で入力します。手順16へ進みます。
- ［WPA3-EAP］、［WPA2/WPA3-EAP］の場合：［EAP設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

8 ［EAP種類］で認証プロトコルを選択します。



9 証明書の種類を選択し、【決定】ボタンを押します。

- ［クライアント証明書］：［PEAP-TLS］、［EAP-TLS］用のクライアント証明書
- ［CA証明書］：EAPのすべての種類用のクライアント証明書

> 電子証明書はWebブラウザーからも設定できます。ただし、Webブラウザーとプロジェクターメニューの双方から証明書をインストールすると、正しくインストールされないことがあります。

10 ［登録］を選択し、【決定】ボタンを押します。

11 画面の指示に従って本機のUSB-A端子にUSBストレージを接続します。

12 【決定】ボタンを押して、証明書の一覧を表示します。

13 一覧からインポートする証明書を選択します。
パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。

14 証明書のパスワードを入力し、【決定】ボタンを押します。
証明書がインストールされ、完了メッセージが表示されます。

15 必要に応じてEAPセキュリティーを選択します。

- ［ユーザー名］：ユーザー名を入力します。半角英数字64文字以内で入力します。クライアント証明書をインポートしたときは、証明書の発行先が自動で設定されます。
- ［パスワード］：［PEAP］、［EAP-FAST］の認証用パスワードを入力します。半角英数字64文字以内で入力します。
- ［サーバー証明書の検証］：CA 証明書が設定されているときに、サーバー証明書を照合するかどうかを選択します。
- ［認証サーバー名］：認証サーバー名を入力します。

16 設定が終わったら、［ネットワーク設定］の画面に戻り、［設定］を選択します。画面の指示に従って設定を保存し、メニューを終了します。

関連項目

- 「サポートするクライアント・CA証明書の一覧」 p.189

サポートするクライアント・CA証明書の一覧

以下の種類の電子証明書を設定できます。

クライアント証明書（PEAP-TLS/EAP-TLS）

項目	説明
フォーマット	PKCS#12
拡張子	PFX、P12
暗号	RSA
ハッシュ	MD5/SHA-1/SHA-256/SHA-384/SHA-512
鍵長	512/1024/2048/4096 bit
パスワード	設定が必要。64文字以内の半角英数字。

CA証明書（PEAP/PEAP-TLS/EAP-TLS/EAP-FAST）

項目	説明
フォーマット	X509v3
拡張子	DER/CER/PEM
暗号	RSA
ハッシュ	MD5/SHA-1/SHA-256/SHA-384/SHA-512

項目	説明
鍵長	512/1024/2048/4096 bit
エンコード	BASE64/バイナリー

QRコードを使用してモバイルデバイスに接続する

プロジェクターの無線LAN設定が完了したら、画面に投写されるQRコードをEpson iProjection (iOS/Android) で読み取って、スマートフォンやタブレット端末などのモバイルデバイスを接続できます。

- お使いのモバイルデバイスに、最新版のEpson iProjectionがインストールされていることを確認してください。
- Epson iProjectionは、App StoreまたはGoogle Playから無料でダウンロードできます。App Store、Google Playへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。
- かんたんモードでEpson iProjectionを使うときは、セキュリティーの設定をすることをお勧めします。

1 リモコンの【LAN】ボタンを押します。

QRコードが投写画面に表示されます。

- QRコードが表示されないときは、［ネットワーク］メニューの［LAN情報表示］を［テキストとQRコード］に設定します。
  ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［ネットワーク投写］ > ［Epson iProjection］ > ［ LAN情報表示］
- QRコードを非表示にしたいときは、【戻る】ボタンを押してください。
- QRコードが表示されないときは、【決定】ボタンを押してください。

2 モバイルデバイスにインストールされているEpson iProjectionを起動します。

3 投写されているQRコードをEpson iProjectionで読み取って、プロジェクターに接続します。

投写画面に近づいて、正面からQRコードを読み取ります。QRコードがモバイルデバイスのQRコードリーダーのガイド内に収まっていることを確認します。画面から離れすぎると、正しく読み取れないことがあります。

接続が完了したら、☰から［コンテンツ］メニューを選択し、投写するファイルを選択してください。

USBキーを使って接続する（Windowsのみ）

USBメモリーをUSBキーとして設定し、無線LANに対応したWindowsコンピューターとプロジェクターを簡単に無線接続します。USBキーを使うと、お使いのコンピューターの無線LAN設定を自動で選択し、ワイヤレスに映像を投写できます。

1 Epson iProjection (Windows/Mac)の［USBキー作成ツール］でUSBキーを設定します。

> 詳しくは、『Epson iProjection操作ガイド (Windows/Mac)』をご覧ください。

2 無線LANユニットが内蔵されているか、または取り付けられているか確認します。

3 本機の電源を入れます。

4 リモコンの【LAN】ボタンを押します。

ネットワーク情報画面が表示されます。SSIDおよびIPアドレスが表示されていることを確認します。

5 USBキーをプロジェクターのUSB-A端子に接続します。

ネットワーク情報の更新が終了したことを通知するメッセージが表示されます。

6 USBキーを取り外します。

7 コンピューターのUSB端子にUSBキーを接続します。

8 画面の指示に従って、必要なアプリケーションのインストールを進めます。

> - Windowsファイアウォールのメッセージが表示されたときは、［はい］をクリックしてファイアウォールを無効にします。
> - コンピューターにソフトウェアをインストールするには、管理者権限が必要です。
> - 自動的にインストールされないときは、USBキー内の［MPPLaunch.exe］をダブルクリックします。

しばらくすると、コンピューターの映像がプロジェクターから投写されます。

9 投写が終了したら、Windowsタスクバーの［ハードウェアの安全な取り外し］を選択し、コンピューターからUSBキーを取り外します。

> USBキーを使用する前に接続していたアクセスポイントに接続するには、コンピューターの再起動が必要になることがあります。

関連項目

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

Miracastを搭載したノートPC、スマートフォン、タブレットPCなどのモバイルデバイスからプロジェクターに映像を送信できます。

Miracastを搭載したデバイスを2台同時に接続できます。その場合、入力ソースはScreen Mirroring1、Screen Mirroring2として検出されます。［割り込み接続］を［オフ］に設定します。

☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［ネットワーク投写］ > ［Screen Mirroring］ > ［割り込み接続］

Miracastに準拠しているデバイスであれば、ソフトウェアを追加でインストールする必要はありません。Windowsコンピューターをお使いのときは、Miracast接続に必要なアダプターが利用可能なことを確認してください。

Screen Mirroring機能を使用するときは、以下の制限事項があります。

- インターレース映像は再生できません。
- LPCMまたはAAC-LC以外の音声コーデックで保存された音声は再生できません。
- 3チャンネル以上のマルチチャンネルオーディオは再生できません。
- 解像度とフレームレートによっては投写できないことがあります。
- 3D映像は再生できません。
- H.264またはH.265以外の動画コーデックで保存された動画は再生できません。（H.265はMain Profileのみサポート）
- お使いのデバイスによっては、著作権保護されたコンテンツはMiracast接続では再生できないことがあります。
- Screen Mirroringでの投写中に［Screen Mirroring］の設定は変更しないでください。設定を変更すると、接続が切断され、再接続までに時間がかかることがあります。
  ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［ネットワーク投写］ > ［Screen Mirroring］
- Screen Mirroringでの投写中は、電源ブレーカーで直接本機の電源を切らないでください。

Miracastは、主にAndroid端末やWindows 8.1以降のWindowsに搭載されています。

デバイスによって、Miracastを搭載していないことがあります。お使いのモバイルデバイスの取扱説明書をご確認ください。

関連項目

- 「Screen Mirroringを設定する」 p.192
- 「Miracast機能を使ってScreen Mirroring接続する」 p.194
- 「Windows 10でScreen Mirroring接続する」 p.195
- 「Windows 8.1でScreen Mirroring接続する」 p.195

Screen Mirroringを設定する

モバイルデバイスから映像を投写するには、プロジェクターの［Screen Mirroring］の設定をします。

Windows 10では、以下の方法で投写映像を伝送できます。

- お使いのモバイルデバイスからプロジェクターへ直接データを伝送する
- LANを経由してデータを伝送する

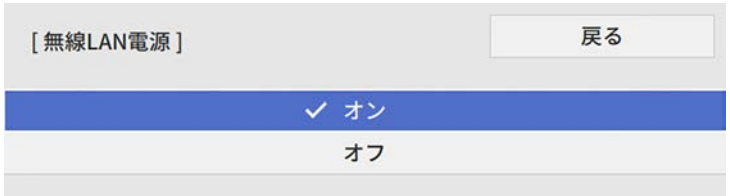
LAN経由でデータを伝送すると、接続の安定性が向上し、セキュリティーを強化できます。LAN経由でデータを伝送するには、以下の方法でプロジェクターをLANに接続します。

- LANケーブルを接続する
- 無線アクセスポイントに接続できるように［無線LAN］を設定する

無線アクセスポイントに接続したときは、オプションの無線LANユニットを接続します。

1 【メニュー】ボタンを押し、［管理］を選択して、【決定】ボタンを押します。

2 ［無線LAN電源］を［オン］に設定します。



3 ［ネットワーク］を選択し、【決定】ボタンを押します。

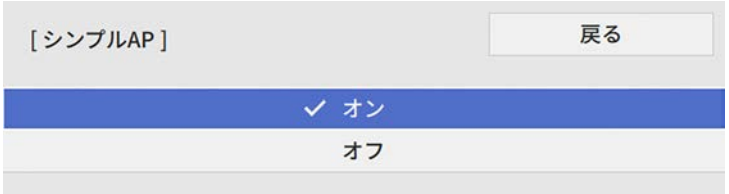
4 ［ネットワーク設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 ［優先制御インターフェイス］を選択し、【決定】ボタンを押します。

6 以下のいずれかを選択します。

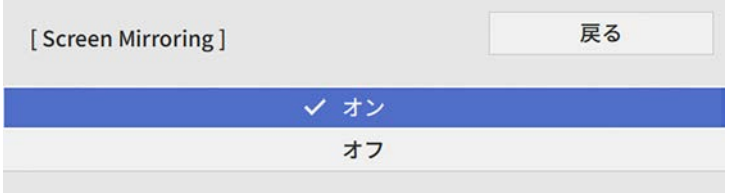
- 有線LAN経由でデータを伝送するときは、［有線LAN］を選択します。
- モバイルデバイスからプロジェクターに直接伝送する、または無線アクセスポイント経由で伝送するときは、［無線LAN］を選択します。
- 直接伝送する方式のみ対応しているモバイルデバイスでは、［無線LAN］を選択します。

7 ［シンプルAP］を［オン］に設定します。



8 ［ネットワーク設定］の画面に戻り、［ネットワーク投写］を選択します。

9 ［Screen Mirroring］を［オン］に設定します。



10 必要に応じて設定を変更します。

- ［割り込み接続］：Screen Mirroringでの投写中に他のユーザーによる投写画面の切り替えを許可するかどうかを選択します。Screen Mirroringソースを2系統使用するときは、［オフ］を選択します。
- ［パフォーマンス調整］：Screen Mirroringの映像表示速度および品質を調整します。品質を上げるには小さい値を選択し、速度を上げるには大きい値を選択します。
- ［キャプチャー］：現在投写している画面をキャプチャーし、ホワイトボードモードのページに貼り付けます（EB-735Fi/EB-725Wi）。［使用可能］に設定するとHDCPとH.265が無効になり、HDCPで保護された映像やH.265の動画コーデックで作成された映像が投写できなくなることがあります。
- ［Screen Mirroring情報］：Screen Mirroringソースを投写しているときに、機器の接続に必要な情報を表示します。

11 設定が終わったら、［ネットワーク設定］の画面に戻り、［設定］を選択します。画面の指示に従って設定を保存し、メニューを終了します。

Miracast機能を使ってScreen Mirroring接続する

Miracastが搭載されたスマートフォンなどのモバイルデバイスをお使いのときは、Miracast機能を使ってワイヤレスに映像を投写できます。Screen Mirroringで接続すると、映像と音声を本機から出力できます。

1 必要に応じて本機の［Screen Mirroring］を設定します。

2 リモコンの【LAN】ボタンを押して、Screen Mirroringソースに切り替えます。

ネットワーク情報画面が表示されます。

3 モバイルデバイスでMiracast機能を使用してプロジェクターを検索します。

接続可能なデバイスの一覧が表示されます。

4 一覧から本機のプロジェクター名を選択します。

5 PIN入力画面が表示されたときは、ネットワーク情報画面、または投写している映像の右下に表示されているPINコードをモバイルデバイスに入力します。

モバイルデバイスからの映像がプロジェクターに表示されます。

> 接続が確立されるまで時間がかかることがあります。接続が完了するまでプロジェクターの電源コードを抜かないでください。電源コードを抜くと、デバイスが反応しなくなったり、誤作動する原因になります。
>
> モバイルデバイスによっては、接続時にデバイスの削除が必要になることがあります。モバイルデバイスの画面の指示に従って操作してください。

Windows 10でScreen Mirroring接続する

お使いのコンピューターでワイヤレスに映像を投写するための設定ができます。Screen Mirroringで接続すると、映像と音声を本機から出力できます。

1 必要に応じて本機の［Screen Mirroring］を設定します。

2 リモコンの【LAN】ボタンを押して、Screen Mirroringソースに切り替えます。

ネットワーク情報画面が表示されます。

3 キーボードのWindowsキーを押しながら**K**キーを押します。

接続可能なデバイスの一覧が表示されます。

4 一覧から本機のプロジェクター名を選択します。

5 コンピューターにPIN入力画面が表示されたときは、ネットワーク情報画面または投写している映像の右下に表示されているPINコードを入力します。

コンピューターからの映像がプロジェクターに表示されます。

> 接続が確立されるまで時間がかかることがあります。接続が完了するまでプロジェクターの電源コードを抜かないでください。電源コードを抜くと、デバイスが反応しなくなったり、誤作動する原因になります。

Windows 8.1でScreen Mirroring接続する

Windows 8.1のコンピューターをお使いのときは、チャームからワイヤレスに映像を投写するための設定ができます。Screen Mirroringで接続すると、映像と音声を本機から出力できます。

1 必要に応じて本機の［Screen Mirroring］を設定します。

2 リモコンの【LAN】ボタンを押して、Screen Mirroringソースに切り替えます。

ネットワーク情報画面が表示されます。

3 コンピューターでチャームの［デバイス］を選択し、［プロジェクト］を選択します。

4 ［ワイヤレス ディスプレイの追加］を選択します。

接続可能なデバイスの一覧が表示されます。

5 一覧から本機のプロジェクター名を選択します。

6 コンピューターにPIN入力画面が表示されたときは、ネットワーク情報画面または投写している映像の右下に表示されているPINコードを入力します。

コンピューターからの映像がプロジェクターに表示されます。

> 接続が確立されるまで時間がかかることがあります。接続が完了するまでプロジェクターの電源コードを抜かないでください。電源コードを抜くと、デバイスが反応しなくなったり、誤作動する原因になります。

HTTPSプロトコルを用いて、プロジェクターとWebブラウザー間の通信のセキュリティーを強固にできます。HTTPSプロトコルを用いたセキュリティーを適用するには、Webブラウザーから信頼性を検証できるサーバー証明書を作成してプロジェクターにインストールし、［セキュアHTTP］設定をオンにします。

サーバー証明書がないときは、プロジェクター内部で自己署名証明書を自動作成して通信します。自己署名証明書はWebブラウザーから信頼性を検証できないため、Webブラウザーからプロジェクターにアクセスしたときにサーバーの信頼性に関する警告が表示されます。この警告を無視することで通信を継続できます。

関連項目

- 「メニューからWebサーバー証明書を設定する」 p.197

メニューからWebサーバー証明書を設定する

プロジェクターメニューとUSBメモリーを使って、作成したWebサーバー証明書を本機にインストールします。

> 電子証明書はWebブラウザーからも設定できます。ただし、Webブラウザーとプロジェクターメニューの双方から証明書をインストールすると、正しくインストールされないことがあります。

1. 本機に対応した形式の証明書をUSBストレージのルートディレクトリーに格納します。
2. 【メニュー】ボタンを押し、［ネットワーク］を選択して、【決定】ボタンを押します。
3. ［ネットワーク設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。
4. ［プロジェクター制御］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5. ［セキュアHTTP］を［オン］に設定します。
6. ［Webサーバー証明書］を選択し、【決定】ボタンを押します。
7. ［登録］を選択し、【決定】ボタンを押します。
8. 画面の指示に従って本機のUSB-A端子にUSBストレージを接続します。
9. 【決定】ボタンを押して、証明書の一覧を表示します。
10. 一覧からインポートする証明書を選択します。
    パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。
11. 証明書のパスワードを入力し、【決定】ボタンを押します。
    証明書がインストールされ、完了メッセージが表示されます。

関連項目

- 「サポートするWebサーバー証明書の一覧」 p.198

サポートするWebサーバー証明書の一覧

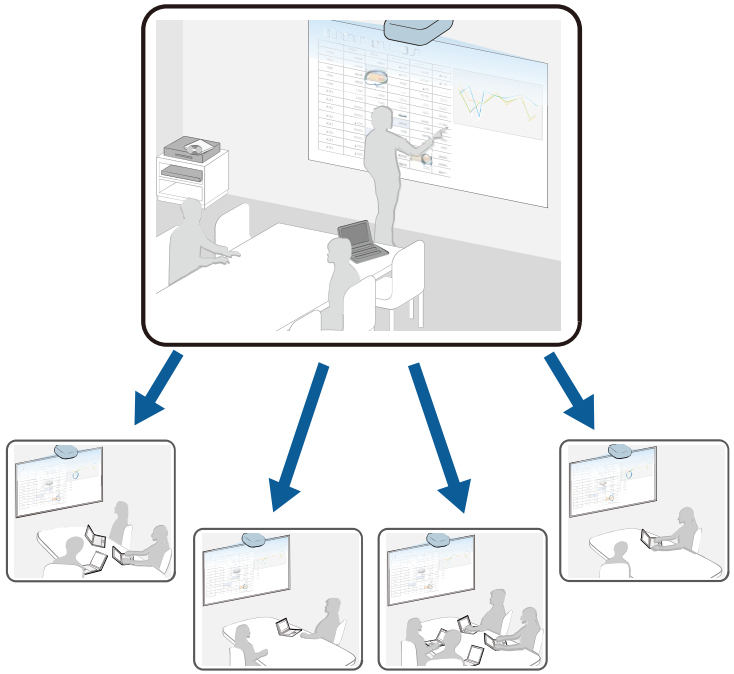
以下の種類の電子証明書を設定できます。

Webサーバー証明書（セキュアHTTP）

項目	説明
フォーマット	PKCS#12
拡張子	PFX、P12
暗号	RSA
ハッシュ	MD5/SHA-1/SHA-256/SHA-384/SHA-512
鍵長	512/1024/2048/4096 bit
Common Name	ネットワークホスト名
Organization	任意
パスワード	設定が必要。64文字以内の半角英数字。

同じネットワーク上の他のプロジェクターが共有した画面を受信できます。他のプロジェクターで同時に同じ画面を見ることができます。

本機は他のプロジェクターに画面を共有することはできません。



画面共有機能を使用するときは、以下の制限事項があります。

- 画面共有機能搭載のプロジェクターのみと共有が可能です。
- 画面を共有しているプロジェクターとファームウェアのバージョンが異なるときは、ファームウェアの更新が必要になることがあります。
- 画面共有中は［ネットワーク］の設定を変更できません。

関連項目

- 「共有された画面を受信する」 p.199
- 「共有された画面に描画する」 p.199

共有された画面を受信する

画面を受信する前に、プロジェクターの設定が必要です。

- 画面を共有しているプロジェクターと同じネットワークに接続してください。
- Epson iProjectionで接続しているコンピューターやモバイルデバイスがないことを確認します。
- ［画面共有］の設定を［オン］にします。
  ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［ネットワーク投写］ > ［画面共有］

他のプロジェクターが共有を始めると、共有画面が自動で表示されます。

画面が表示されないときは、リモコンの【LAN】ボタンを押します。

受信した画面を消去するには、投写中に【戻る】ボタンを押します。

お使いのプロジェクターのIPアドレスがわからないときは、【ホーム】ボタンを押して［画面共有］を選択します。ガイドスクリーンにIPアドレスが表示されます。

共有された画面に描画する

インタラクティブツールバーを使用して、受信した画面に書き込みができます（EB-735Fi/EB-725Wi）。描画した内容も他のプロジェクターと共有できます。

ツールバーは以下のように表示されます。

- 描画エリアの任意の場所でペン側面のボタンを押して、ミニツールボックスを使用することもできます。ミニツールボックスでは、ペンや消しゴムの種類を選択できます。
- 指を使って操作しているときはミニツールボックスを表示できません。

各ツールの機能については、アノテーションモードのツールバーの説明を参照してください。

- 複数の画面を同時に投写しているときは、受信した画面に書き込みできません。
- 蛍光ペンと［全ページ削除］の機能は使えません。

関連項目

- 「アノテーションモードのツールバー」 p.114

プロジェクターを監視および制御する

ネットワーク経由でプロジェクターの監視と制御を行う方法について説明します。

関連項目

- 「Epson Projector Management」 p.202
- 「Webブラウザーを使ってネットワークプロジェクターを制御する」 p.203
- 「Webブラウザーで証明書を設定する」 p.212
- 「メールでプロジェクターの異常を通知する」 p.213
- 「SNMPを使ってプロジェクターを監視する」 p.214
- 「ESC/VP21コマンドを使用する」 p.215
- 「PJLinkについて」 p.216
- 「Art-Netチャンネル定義」 p.217
- 「Crestron Connectedについて」 p.220
- 「プロジェクターのイベントスケジュールを設定する」 p.222

Epson Projector Managementを使用すると、ネットワークに接続されたプロジェクターの状態をコンピューターに表示して確認したり、コンピューターから制御したりできます（Windowsのみ）。詳しくは、『Epson Projector Management操作ガイド』をご覧ください。

Epson Projector Managementは以下のWebサイトからダウンロードしてください。

epson.jp/download

コンピューターのWebブラウザーを使って、ネットワークに接続されたプロジェクターのメニュー設定や制御を離れた場所から行えます。

コンテンツ再生モードではプレイリストの編集もできます（EB-755F/EB-750F）。

- コンピューターとプロジェクターをネットワークに接続できる状態にしておきます。無線で接続するときは、無線LANアクセスポイント経由で接続してください。
- 以下のWebブラウザーを使用できます。
  - Internet Explorer 11以上（Windows）
  - Microsoft Edge（Windows）
  - Safari（Mac、iOS）
  - Chrome（Android）
- お使いのWebブラウザーで、接続にプロキシサーバーを使用しないように設定してください。メニュー設定の中には、Webブラウザーからは設定できない項目があります。
- ［動作］メニューの［待機モード］を［通信オン］に設定すると、本機がスタンバイ状態（電源オフ）のときも、Webブラウザーを使って設定や制御ができます。
- Epson iProjection (iOS/Android) からも、Webブラウザーを使ってプロジェクターの制御が可能です。

注意

以下の場合には、USBメモリーを本機から取り外したり、本機の電源コードを抜いたりしないでください（EB-755F/EB-750F）。USBメモリーのデータが破損することがあります。

- プレイリスト画面表示中
- USBメモリー画面表示中

1 本機の電源がオンになっていることを確認します。

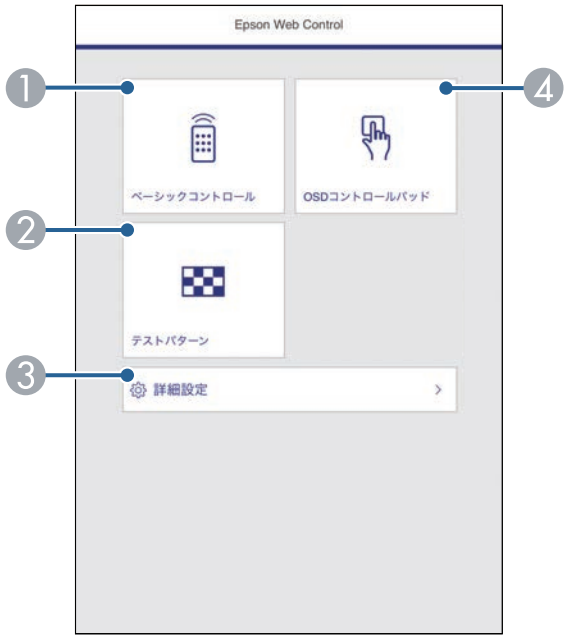
2 お使いの機器を、接続先のプロジェクターと同じネットワークに接続します。

3 お使いの機器でWebブラウザーを起動します。

4 ブラウザーのアドレス入力部にプロジェクターのIPアドレスを入力し、Epson Web Control画面に接続します。IPv6アドレスを入力するときは、アドレスを[ ]で囲んで入力します。

Epson Web Control画面が表示されます。

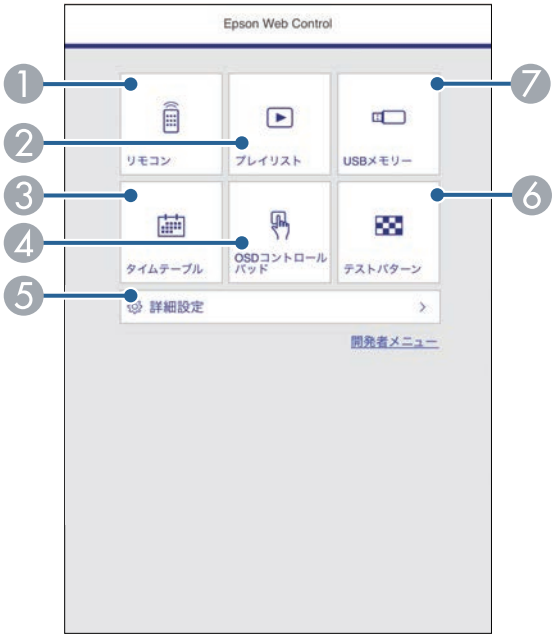
- 通常モード



1. 本機をリモート操作します。
2. テストパターンを表示します。
3. 本機の詳細設定をします。

④ 指やマウスで本機のメニューを操作します。

- コンテンツ再生モード（EB-755F/EB-750F）



① 本機をリモート操作します。

② 再生したいプレイリストを選択します。プレイリストの作成や編集もできます。

③ タイムテーブル画面を表示します。

④ 指やマウスで本機のメニューを操作します。

⑤ 本機の詳細設定をします。

⑥ テストパターンを表示します。

⑦ プレイリスト用の素材データをUSBメモリーに転送します。

5 操作したい項目を選択します。

- Epson Web Control画面のオプション設定をするためにログインを求められる場合があります。ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。
  - ［ベーシックコントロール］にアクセスするときのユーザー名は**EPSONREMOTE**、デフォルトのパスワードは**guest**です。
  - その他の設定をするときのユーザー名は**EPSONWEB**、デフォルトのパスワードは**admin**です。
- パスワードは、［ネットワーク］メニューで変更できます。
  ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［Remoteパスワード］
  ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［Web制御パスワード］

関連項目

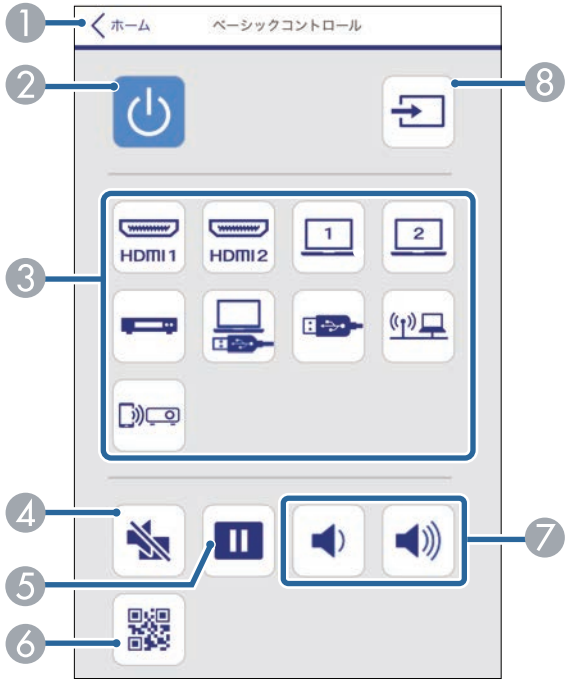
- 「Web Controlの画面一覧」 p.204

Web Controlの画面一覧

ベーシックコントロール

［ベーシックコントロール］画面では、入力ソースを選択したり、プロジェクターを操作できます。

- ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。（ユーザー名は**EPSONREMOTE**、デフォルトのパスワードは**guest**です。）
- パスワードは、［ネットワーク］メニューで変更できます。
  ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［Remoteパスワード］



❶ Epson Web Controlのホーム画面に移動します。

❷ 本機の電源をオン/オフします。

❸ 入力ソースを選択します。（入力可能なソースは機種により異なります。）

❹ 映像と音声を一時的に遮断します。

❺ 映像を一時停止します。

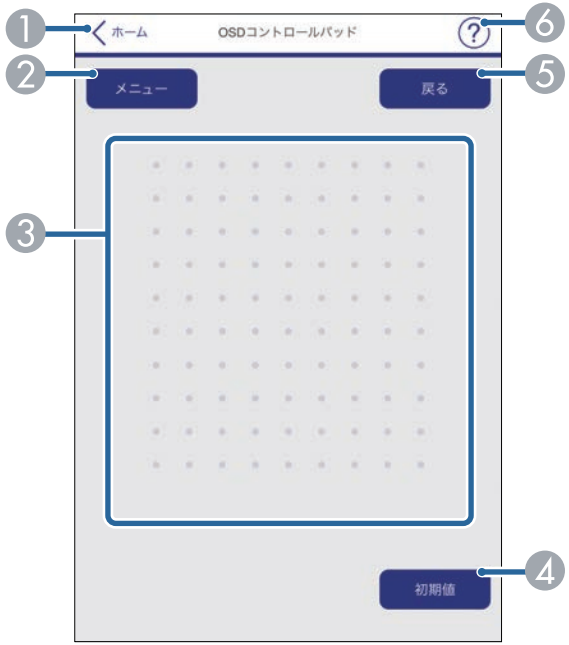
❻ QRコードを表示します。

❼ スピーカーの音量を調整します。

❽ 映像の入力を検出します。

OSDコントロールパッド

［OSDコントロールパッド］画面では、指やマウスでプロジェクターのメニューを操作できます。



❶ Epson Web Controlのホーム画面に移動します。

❷ 本機のメニューを表示します。

❸ 指やマウスでメニューを操作します。

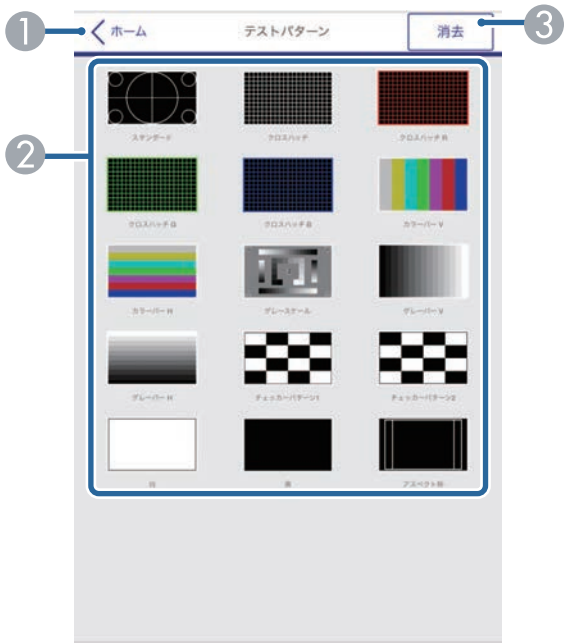
④ 選択した設定を初期値に戻します。

⑤ 前のメニュー項目に戻ります。

⑥ ヘルプを表示します。

テストパターン

［テストパターン］画面では、テストパターンを表示できます。



① Epson Web Controlのホーム画面に移動します。

② 表示可能なテストパターン一覧から、表示したいパターンを選択します。（表示可能なテストパターンは機種により異なります。）

③ テストパターンの表示を終了します。

詳細設定

［詳細設定］画面では、プロジェクターの詳細設定ができます。

> デフォルトの［Web制御パスワード］が設定されているときは、パスワード設定画面が表示されます。画面の指示に従ってパスワードを変更してください。
> プロジェクターへの不正アクセスを防止するため、パスワードを定期的に変更することをお勧めします。

① メニューを開きます。

② 選択しているメニュー名を表示します。

③ 本機の設定をします。（設定項目は機種により異なります。）

④ 本機の設定をロックまたはアンロックします。

⑤ 本機の設定を更新します。

以下の項目はWebブラウザーでは変更できません。
- ［EDID］（EB-755F/EB-750F/EB-735Fi）
- ［USB Display］（EB-735Fi/EB-725Wi）
- ［HDMIリンク］
- ［固定設置］
- ［セッティングプレート調整ガイド］
- ［自動画面調整］（EB-735Fi/EB-725Wi）
- ［デジタル ピクチャーシフト］
- ［ELPCB02を接続する］（EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W）
- ［タッチユニット］（EB-735Fi/EB-725Wi）
- ［パターン表示］
- ［画面分割設定］
- ［コンテンツ再生］（EB-755F/EB-750F）
- ［ユーザーボタン］
- ［ユーザーロゴ］
- ［ユーザーパターン］
- ［言語］
- ［ログ表示］
- ［アクセスポイント検索］
- ［Crestron Connected］
- ［ペン/指タッチ］の設定（EB-735Fi/EB-725Wi）
- ［テストページ印刷］（EB-735Fi/EB-725Wi）
- ［接続確認］（EB-735Fi/EB-725Wi）
- ［テストメール送信］（EB-735Fi/EB-725Wi）
- ［Event ID］
- ［アンテナレベル］
- ［節電］の設定
- ［ネットワーク初期化］
- ［ファームウェア更新］

以下の項目はWebブラウザーでのみ設定できます。
- Monitorパスワード（半角英数字で16文字以内）
- IPv6設定（手動）
- HTTPポート追加（Web制御に使用するポート番号で、80（デフォルト）、843、3620、3621、3625、3629、4352、4649、5357、10000、10001、41794以外の番号）

リモコン（コンテンツ再生モード時のみ）

［リモコン］画面では、入力ソースの選択、プロジェクターの操作、プレイリストの再生ができます。

❶ Epson Web Controlのホーム画面に移動します。

❷ 本機の電源をオン/オフします。

❸ 入力ソースを選択します。（入力可能なソースは機種により異なります。）

❹ 映像と音声を一時的に遮断します。

❺ 入力ソースがUSB以外のとき、［エフェクト］の項目が表示されます。
［エフェクト］をオン/オフします。投写映像の色や形を変えたいときはオンにしてください。
オンにすると、［エフェクト］画面が表示されます。あらかじめ用意されているカラーフィルターまたは形状フィルターなどのエフェクトをプレイリストに設定できます。エフェクトをカスタマイズすることもできます。

❻ お気に入りに登録したプレイリストの一覧です。選択すると再生が始まります。

❼ 再生中のプレイリストの情報を表示します。
プレイリストの設定はアイコンで示されます。
：エフェクトが設定されています
：繰り返し再生が設定されています
：プレイリストの長さ
左下の矢印を選択すると、次の画面が表示されます。

❽ スピーカーの音量を調整します。

プレイリスト再生中の画面（コンテンツ再生モード時のみ）

❶ 投写を停止します。

❷ 映像と音声を一時的に遮断します。ただし、すべてのサウンドおよびビデオの再生は続行されるため、停止したポイントから投写を再開することはできません。

❸ スピーカーの音量を調整します。

❹ ［エフェクト］画面を表示します。あらかじめ用意されているエフェクトの設定を選択、または明度、カラーフィルター、形状フィルターのエフェクトを個別に設定します。

プレイリスト（コンテンツ再生モード時のみ）

［プレイリスト］画面では、再生したいプレイリストを選択できます。プレイリストの作成や編集もできます。

❶ Epson Web Controlのホーム画面に移動します。

❷ プレイリストを再生します。
プレイリストの設定はアイコンで示されます。
1 ：お気に入りに登録された番号
：繰り返し再生が設定されています
：エフェクトが設定されています

❸ メニューから、プレイリストの編集、複製、お気に入り登録、削除ができます。
［編集］または［複製］を選択したときは、プレイリスト編集画面が表示されます。

❹ 新規プレイリスト画面で新規プレイリストを作成できます。

新規プレイリスト作成/プレイリスト編集画面（コンテンツ再生モード時のみ）

❶ プレイリスト名を編集できます。

❷ 繰り返し再生するかどうかを設定します。

❸ お気に入りに登録します。
お気に入りに登録すると、［リモコン］画面またはリモコンを使用して簡単にプレイリストを再生できます。

❹ プレイリストに追加された画像や動画を表示します。ここに表示された順序で画像や動画が再生されます。

⑤ 画像や動画を追加します。

⑥ 画像や動画を一覧から削除します。

⑦ ［静止画切り替え］画面を表示します。
プレイリスト投写中に次のファイルに切り替わるまでの表示時間を設定できます。トランジション効果も設定できます。

⑧ ［エフェクト］画面を表示します。
あらかじめ用意されているカラーフィルターまたは形状フィルターなどのエフェクトをプレイリストに設定できます。エフェクトをカスタマイズすることもできます。

⑨ プレイリストをプレビューできます。

USBメモリー（コンテンツ再生モード時のみ）

［USBメモリー］画面では、プレイリストに追加したい写真や動画をUSBメモリーに転送したり、不要な写真や動画をUSBメモリーから削除できます。

.mp4と.movファイルはアップロードできません。
.mp4または.movファイルをプレイリストに追加したいときは、Epson Projector Content ManagerまたはEpson Creative Projectionを使用します。

① Epson Web Controlのホーム画面に移動します。

② プレイリストに追加する写真や動画を、USBメモリーに転送します。

③ 写真や動画をUSBメモリーから消去します。

タイムテーブル（コンテンツ再生モード時のみ）

［タイムテーブル］画面では、タイムテーブルを有効または無効にできます。

1. Epson Web Controlのホーム画面に移動します。
2. タイムテーブルをオン/オフします。

> Epson Projector Content Manager のタイムテーブル機能を使うと、プレイリストを再生する日時を指定できます。
>
> 詳しくは『Epson Projector Content Manager操作ガイド』をご覧ください。

Webブラウザーで証明書を設定する

セキュリティー設定に用いる電子証明書を本機に設定します。

> 本機への電子証明書のインストールは、［ネットワーク］メニューからも行うことができます。ただし、Webブラウザーとプロジェクターメニューの双方から証明書をインストールすると、正しくインストールされないことがあります。
>
> ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［無線LAN］ > ［クライアント証明書］
>
> ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［無線LAN］ > ［CA証明書］
>
> ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［プロジェクター制御］ > ［セキュアHTTP］ > ［Webサーバー証明書］

1 本機に対応した形式の証明書を用意します。

2 本機の電源がオンになっていることを確認します。

3 ネットワークに接続されているコンピューターまたはモバイルデバイスでWebブラウザーを起動します。

4 ブラウザーのアドレス入力部にプロジェクターのIPアドレスを入力し、Epson Web Control画面に接続します。

5 ［詳細設定］を選択します。

> - 詳細設定画面を表示するには、ログインが必要です。ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。（ユーザー名は**EPSONWEB**、デフォルトのパスワードは**admin**です。）
> - パスワードは、［ネットワーク］メニューで変更できます。
>
> ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［Web制御パスワード］

6 ≡ を選択してメニューを開き、［ネットワーク］から［証明書］を選択します。

7 登録する証明書を選択します。

8 ［パスワード］ボックスにパスワードを入力し、［送信］をクリックします。

9 設定が終了したら、［反映］をクリックします。

プロジェクターが異常/警告状態になったとき、異常状態が電子メールで通知されるようにメール通知機能を設定できます。

［動作］メニューで ［待機モード］ 設定を ［通信オン］に設定すると、 本機がスタンバイ状態（電源オフ）のときも、通知メールを送信できます。

1. 【メニュー】ボタンを押し、［ネットワーク］を選択して、【決定】ボタンを押します。
2. ［ネットワーク設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。
3. ［メール通知］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4. ［メール通知］を［オン］に設定します。
5. ［SMTPサーバー］にIPアドレスを入力します。

> 127.x.x.xのIPアドレスは使用できません（xは0～255の数値）。

6. SMTPサーバーの［認証方式］を設定します。
7. ［ポート番号］にSMTPサーバーのポート番号を0～65535の数値で入力します（デフォルトは25）。
8. SMTPサーバーの［ユーザー名］を入力します。
9. SMTP認証に使う［パスワード］を入力します。
10. 送信者として表示されるメールアドレスを［差出人］に入力します。
11. 宛先を選択し、メールアドレスとメール通知する異常/警告の種類を選択します。宛先は3つまで設定できます。

> 使用できるメールアドレスは英数字64文字までです。

12. 設定が終わったら、［ネットワーク設定］の画面に戻り、［設定］を選択します。画面の指示に従って設定を保存し、メニューを終了します。

> 本機に致命的な異常が発生し、瞬時に起動停止状態になったときは、メールを送信できないことがあります。

関連項目

- 「異常通知メールの見方」 p.213

異常通知メールの見方

通知メールを送信する設定をしているとき、本機が異常/警告状態になると、以下の情報を含むメールが送信されます。

- メール差出人：［差出人］のメールアドレス
- メール件名：［Epson Projector］
- 1行目：異常が生じたプロジェクター名
- 2行目：異常が生じたプロジェクターのIPアドレス
- 3行目：異常の内容

SNMPを使ってプロジェクターを監視する

コンピューターにSNMP（Simple Network Management Protocol）ソフトウェアをインストールして、プロジェクターを監視できます。SNMPによる管理は、ネットワーク管理者が行います。SNMPソフトウェアを使用するときは、本機のSNMP設定をします。

1. 【メニュー】ボタンを押し、［ネットワーク］を選択して、【決定】ボタンを押します。

2. ［ネットワーク設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。

3. ［プロジェクター制御］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4. ［SNMP］を［オン］にします。

5. トラップIPアドレスに、SNMP通知を受信するIPアドレスを入力します。0〜255の数字を入力します。

> 224.0.0.0〜255.255.255.255のIPアドレスは使用できません（xは0〜255の数値）。本機のSNMPエージェントはバージョン1（SNMPv1）に対応しています。

6. SNMPの［コミュニティー名］を半角英数字32文字以内で入力します。

7. 設定が終わったら、［ネットワーク設定］の画面に戻り、［設定］を選択します。画面の指示に従って設定を保存し、メニューを終了します。

ESC/VP21を使用して外部デバイスからプロジェクターを制御できます。

関連項目

- 「ESC/VP21コマンドリスト」 p.215
- 「ケーブル配線」 p.215

ESC/VP21コマンドリスト

本機に電源オンのコマンドを送信すると、電源が入りウォームアップ状態になります。電源オンの状態になると、本機はコロン':'（3Ah）を返信します。

本機はコマンドを受け取ると、そのコマンドを実行後':'を返信し、次のコマンドを受け付けます。

異常終了のときは、エラーメッセージを出力した後に':'を返信します。

利用可能なコマンドは本機の『仕様書』で確認できます。

関連項目

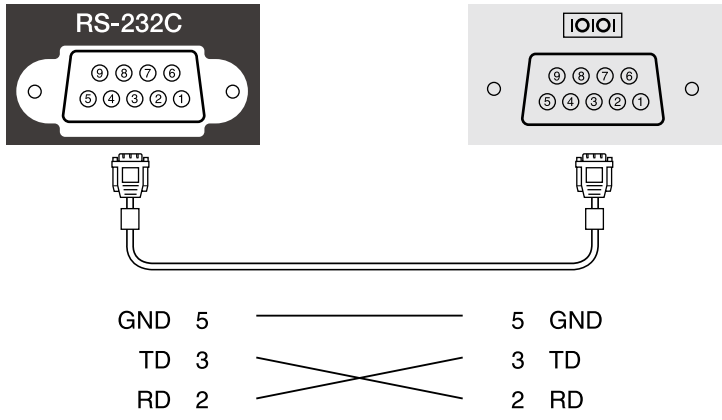
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

ケーブル配線

シリアル接続

- コネクター形状：D-Sub 9pin（オス）
- プロジェクター入力端子名：RS-232C
- ケーブルタイプ：クロスケーブル

以下の図では、左の端子がプロジェクター側、右の端子がコンピューター側を示しています。



信号名	働き
GND	各信号線の接地
TD	送信データ
RD	受信データ

通信プロトコル

- ボーレート基準速度：9600bps
- データ長：8bit
- パリティー：なし
- ストップビット：1bit
- フロー制御：なし

JBMIA（一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会）によりネットワーク対応プロジェクターの制御用プロトコルの標準化が進められ、制御用標準プロトコルPJLinkが策定されました。

このプロジェクターは、JBMIAによって策定されたPJLink Class2規格に準拠しています。

PJLinkの検索機能で使用するポート番号は4352（UDP）です。

PJLinkを使用するには、事前にネットワーク設定を行う必要があります。

次のコマンドを除く、PJLink Class2によって規定されているすべてのコマンドに対応しており、PJLink規格の適合性を確認しています。

http://pjlink.jbmia.or.jp/

- 非対応コマンド
  非対応のコマンドは本機の『仕様書』で確認できます。
- 入力端子名称および入力ソース番号の対応表

入力端子名称	入力ソース番号
コンピューター1	11
コンピューター2	12
ビデオ	21
HDMI1	32
HDMI2	33
HDMI3	36
USB	41
LAN	52
USB Display	53
Screen Mirroring1	57
Screen Mirroring2	58

- 「メーカ名問合せ」で表示するメーカ名
  EPSON
- 「機種情報問合せ」で表示する機種名
  - EPSON 755F/750F
  - EPSON 735Fi
  - EPSON 725Wi
  - EPSON 725W

関連項目

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

Art-NetはTCP/IPプロトコルに基づくイーサネット通信プロトコルです。DMXコントローラーやアプリケーションシステムを使って本機を制御できます（EB-755F/EB-750F）。

Art-Netで本機を制御するときのチャンネル定義は下記のとおりです。

チャンネル/機能	動作	パラメーター	初期値	説明
1 光量調整（Dimming）	0% - 100%	0 - 255	0	映像の明るさを調整します。
2 シャッター制御	シャッター 開	0 - 63	128	A/Vミュートを有効/無効にします。
	無操作	64 - 191		
	シャッター 閉	192 - 255		
3 ソース切替	無操作	0 - 7	0	指定したソースに切り替えます。
	HDMI1	8 - 15		
	HDMI2	16 - 23		
	HDMI3	24 - 31		
	無操作（DVI-D）	32 - 39		
	無操作（Display Port）	40 - 47		
	無操作（SDI）	48 - 55		
	コンピューター1	56 - 63		
	コンピューター2	64 - 71		
	無操作（BNC）	72 - 79		
	LAN	80 - 87		
	Screen Mirroring1	88 - 95		
	Screen Mirroring2	96 - 103		
	USB Display	104 - 111		
	USB	112 - 119		
	無操作（Spotlight）	120 - 127		
	Video	128 - 135		
	無操作	136 - 143		
	無操作	144 - 255		
7 ズーム	電子テレ/ワイド	0 - 255	255	指定した移動量に合わせてズームを実行します。
10 コンテンツ再生	無操作	0 - 3	0	指定したプレイリストを再生します。
	Playlist 1	4 - 7		
	Playlist 2	8 - 11		
	Playlist 3	12 - 15		
	Playlist 4	16 - 19		
	Playlist 5	20 - 23		
	Playlist 6	24 - 27		
	Playlist 7	28 - 31		
	Playlist 8	32 - 35		
	Playlist 9	36 - 39		
	Playlist 10	40 - 43		

チャンネル/機能	動作	パラメーター	初期値	説明
	Playlist 11	44 - 47		
	Playlist 12	48 - 51		
	Playlist 13	52 - 55		
	Playlist 14	56 - 59		
	Playlist 15	60 - 63		
	Playlist 16	64 - 67		
	Playlist 17	68 - 71		
	Playlist 18	72 - 75		
	Playlist 19	76 - 79		
	Playlist 20	80 - 83		
	Playlist 21	84 - 87		
	Playlist 22	88 - 91		
	Playlist 23	92 - 95		
	Playlist 24	96 - 99		
	Playlist 25	100 - 103		
	Playlist 26	104 - 107		
	Playlist 27	108 - 111		
	Playlist 28	112 - 115		
	Playlist 29	116 - 119		
	Playlist 30	120 - 123		
	Playlist 31	124 - 127		
	Playlist 32	128 - 131		
	Playlist 33	132 - 135		
	Playlist 34	136 - 139		

チャンネル/機能	動作	パラメーター	初期値	説明
	Playlist 35	140 - 143		
	Playlist 36	144 - 147		
	Playlist 37	148 - 151		
	Playlist 38	152 - 155		
	Playlist 39	156 - 159		
	Playlist 40	160 - 163		
	Playlist 41	164 - 167		
	Playlist 42	168 - 171		
	Playlist 43	172 - 175		
	Playlist 44	176 - 179		
	Playlist 45	180 - 183		
	Playlist 46	184 - 187		
	Playlist 47	188 - 191		
	Playlist 48	192 - 195		
	Playlist 49	196 - 199		
	Playlist 50	200 - 203		
	無操作	204 - 255		
11 電源制御	電源オフ	0 - 63	128	プロジェクターの電源をオン/オフします。
	無操作	64 - 191		
	電源オン	192 - 255		
12 幾何学補正	無操作	0 - 15	255	幾何学歪み補正を実行します。

チャンネル/機能	動作	パラメーター	初期値	説明
	タテヨコ（台形補正）	16 - 31		
	Quick Corner	32 - 47		
	ポイント補正	48 - 63		
	湾曲補正	64 - 79		
	無操作	80 - 95		
	幾何学補正メモリ1 呼出	96 - 111		保存したメモリーを呼び出します。
	幾何学補正メモリ2 呼出	112 - 127		
	幾何学補正メモリ3 呼出	128 - 143		
	無操作	144 - 255		
13 ロック	操作不可	0 - 127	0	Art-Netの操作を有効/無効にします。
	操作可能	128 - 255		

Art-Netで本機を制御しながらリモコンで本機を操作すると、DMXコントローラーやアプリケーションソフトの設定と本機の実際の状態が異なる場合があります。すべてのチャンネルの制御を本機に反映するときは、チャンネル13を一度［操作不可］に設定し、再度［操作可能］に設定してください。

Crestron Connectedは統合コントロールシステムです。ネットワークで接続された複数の機器を一括して監視、制御できます。Crestron Connectedを使うと、Webブラウザーを使ってプロジェクターの制御や監視ができます。

- Crestron Connectedを使用するときは、Epson Projector Managementのメッセージ配信機能を使用できません。
- ［動作］メニューで［待機モード］設定を［通信オン］に設定すると、本機がスタンバイ状態（電源オフ）でもプロジェクターを制御できます。

Crestron Connectedの詳細については、Crestron社のWebサイトを参照してください。

https://www.crestron.com/products/line/crestron-connected

システム内の機器の監視には、Crestron社が提供するCrestron RoomView ExpressまたはCrestron Fusionを使用できます。監視の他にヘルプデスクとの通信、緊急時のメッセージ送信ができます。詳細は以下をご覧ください。

http://www.crestron.com/getroomview

本書では、Webブラウザーを利用してコンピューターの画面上で本機を操作する方法を説明します。

関連項目

- 「Crestron Connectedを設定する」 p.220

Crestron Connectedを設定する

Crestron Connectedを使ってプロジェクターの監視と制御をするには、コンピューターとプロジェクターがネットワークに接続されていることを確認します。無線で接続するときは、無線LANアクセスポイント経由で接続してください。

1. 【メニュー】ボタンを押し、［ネットワーク］を選択して、【決定】ボタンを押します。
2. ［ネットワーク設定］を選択し、【決定】ボタンを押します。
3. ［プロジェクター制御］を選択し、【決定】ボタンを押します。

4. ［Crestron Connected］を［オン］に設定して、プロジェクターが検出されるようにします。
5. 設定が終わったら、［ネットワーク設定］の画面に戻り、［設定］を選択します。画面の指示に従って設定を保存し、メニューを終了します。
6. プロジェクターの電源を入れなおし設定を有効にします。
7. ネットワークに接続されているコンピューターまたはモバイルデバイスでWebブラウザーを起動します。
8. ブラウザーのアドレス入力部にプロジェクターのIPアドレスを入力し、Epson Web Control画面に接続します。

9 ［Crestron Connected］を選択します。詳細はCrestron社のWebサイトを参照してください。

プロジェクターのイベントスケジュールを設定する

プロジェクターの電源オン/オフや入力ソースの切り替えなど、最大30件のイベントをプロジェクターにスケジュール登録できます。設定した日時に選択したイベントが自動的に実行されます。

⚠ 警告

燃えやすい物をプロジェクターのレンズの前に置かないでください。スケジュール機能によりプロジェクターの電源が自動でオンになり、火災の原因となることがあります。

- 事前に［メニュー保護］の［スケジュール］を［オフ］に設定します。
- 本機の電源を20分以内に切る場合や、常にダイレクトシャットダウンで本機の電源を切る場合は、［光源キャリブレーション］は自動的に開始されません。実行するには、［光源キャリブレーション］をイベントとしてスケジュール設定してください。

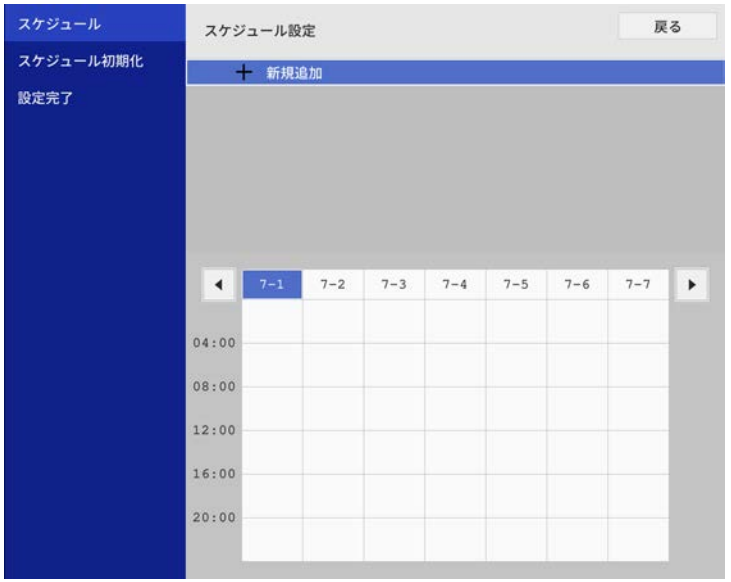
1 ［管理］メニューで［日付&時刻］を設定します。

2 【メニュー】ボタンを押し、［管理］を選択して、【決定】ボタンを押します。

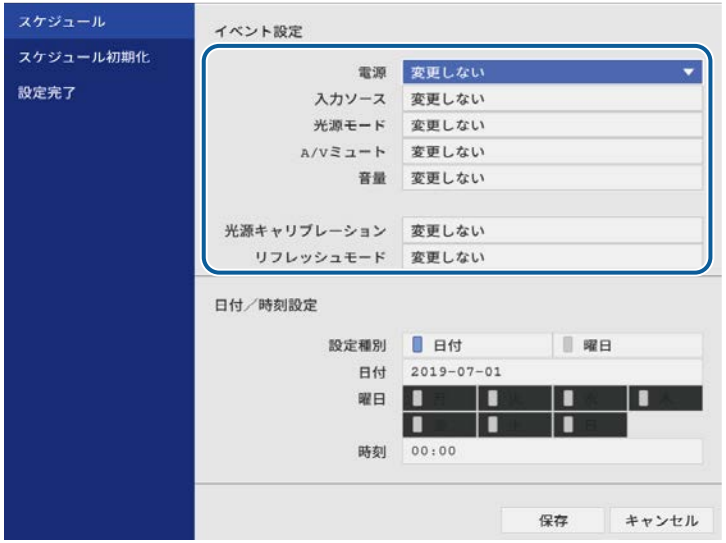
3 ［スケジュール設定］を選択し、【決定】を押します。

4 ［スケジュール］を選択し、【決定】ボタンを押します。

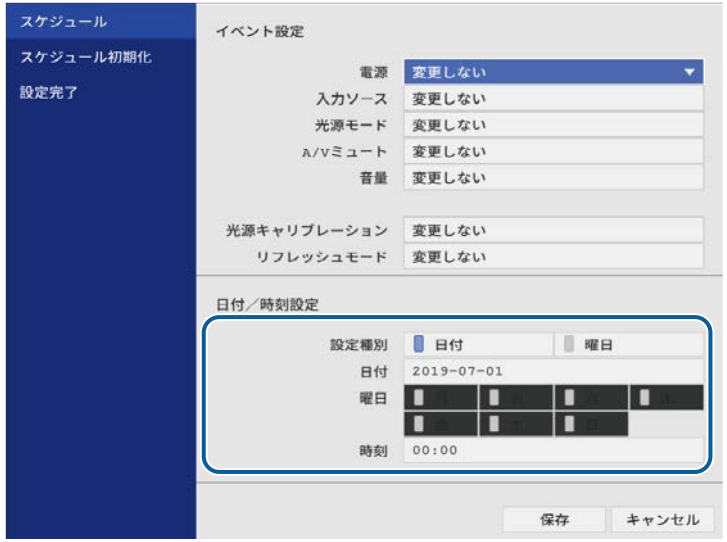
5 ［新規追加］を選択し、【決定】ボタンを押します。



6 イベント実行時のプロジェクターの動作内容を設定します。



7 イベントを実行する日付や曜日、時刻を選択します。



8 ［保存］を選択し、【決定】ボタンを押します。

登録したイベントが画面に表示されます。イベントのステータスや時刻はアイコンやインジケーターで示されます。

❶ ：有効なイベント

：定期的なイベント

：無効なイベント

❷ 選択している日付（強調表示）

❸ ：1回限りのイベント

：定期的なイベント

：通信監視のオン/オフ

：無効なイベント

9 登録されているイベントを編集するには、イベントを選択し、【決定】ボタンを押します。

10 表示されたメニューから操作を選択します。

- ［有効］/［無効］：選択したイベントを有効または無効にできます。
- ［編集］：イベントの動作内容または日時を変更できます。
- ［削除］：登録したイベントを一覧から削除できます。

11 ［設定完了］を選択して、［はい］を選択します。

登録したイベントをすべて削除するには、［スケジュール初期化］を選択します。

関連項目

- 「パスワードプロテクトの種類を設定する」 p.172

メニューの設定

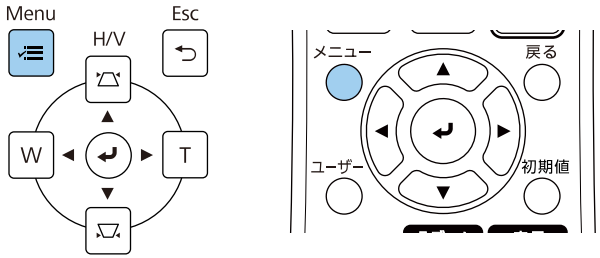
プロジェクターメニューの機能と設定について説明します。

関連項目

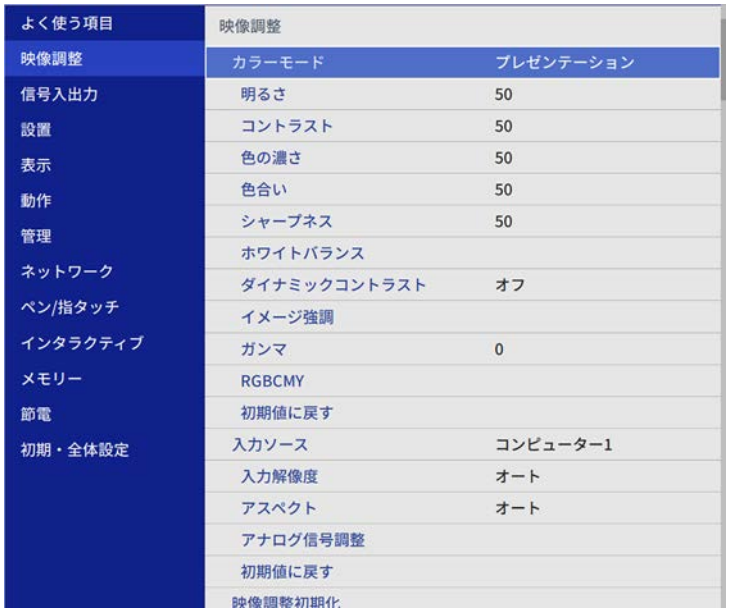
- 「プロジェクターメニューを操作する」 p.226
- 「ソフトキーボードを操作する」 p.227
- 「映像調整メニュー」 p.228
- 「信号入出力メニュー」 p.231
- 「設置メニュー」 p.234
- 「表示メニュー」 p.237
- 「動作メニュー」 p.239
- 「管理メニュー」 p.242
- 「ネットワークメニュー」 p.246
- 「ペン/指タッチメニュー」 p.255
- 「インタラクティブメニュー」 p.257
- 「マルチプロジェクションメニュー」 p.262
- 「メモリーメニュー」 p.264
- 「節電メニュー」 p.265
- 「初期・全体設定メニュー」 p.266
- 「メニュー設定を別のプロジェクターにコピーする（一括設定機能）」 p.267

投写画面に表示されるメニューを使って、本機の各種動作を設定します。

1 操作パネルまたはリモコンの【メニュー】ボタンを押します。



メニューが表示されます。



2 上下ボタンを押して、左側に表示されるメニュー項目を選択します。各メニューの設定が右側に表示されます。

> 現在投写している入力ソースによって設定できる項目が異なります。

3 設定を変更するには、【決定】ボタンを押します。

4 上下ボタンを押して、設定項目を選択します。

5 メニュー設定をすべて初期値に戻すには、［初期・全体設定］を選択します。

6 メニューの設定が終わったら、【戻る】ボタンを押します。

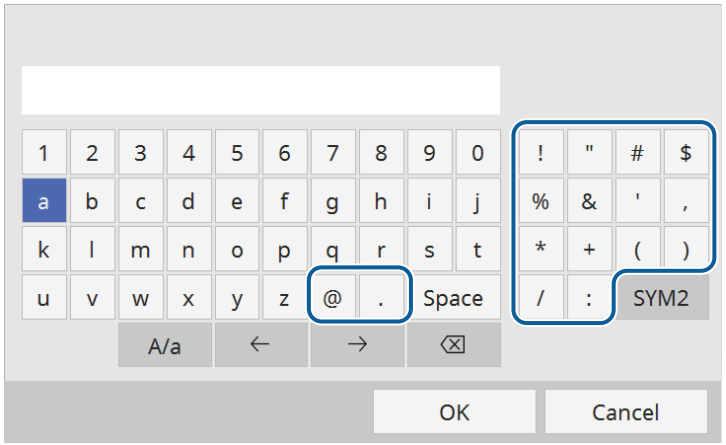
7 【メニュー】ボタンまたは【戻る】ボタンを押してメニューを終了します。

> ∨ が表示される項目には関連するメニューがあります。設定をオンにしたり、特定の値を設定すると、関連するメニューを展開して表示します。
>
>

> インタラクティブペンや指での操作が可能なときは、ペンや指でメニューを操作できます。メニューを終了するときは、✕ を選択します。

数字や文字の入力が必要なときはソフトキーボードが表示されます。

1 リモコンまたは操作パネルの上下左右ボタンを使って、入力する数字や文字を選択し、【決定】ボタンを押します。



［A/a］キーを選択すると、大文字小文字が切り替わります。［SYM1/2］キーを選択すると、枠に囲まれている記号が変わります。

2 テキストの入力後、キーボードの［OK］を選択して入力を確定します。［Cancel］を選択すると、テキストの入力を取り消します。

コンピューターのWebブラウザーを使って、ネットワークに接続されたプロジェクターの設定や制御ができます。

プロジェクターメニューのソフトキーボードでは入力できない文字があります。ソフトキーボードで入力できない文字はWebブラウザーを使って入力してください。

関連項目

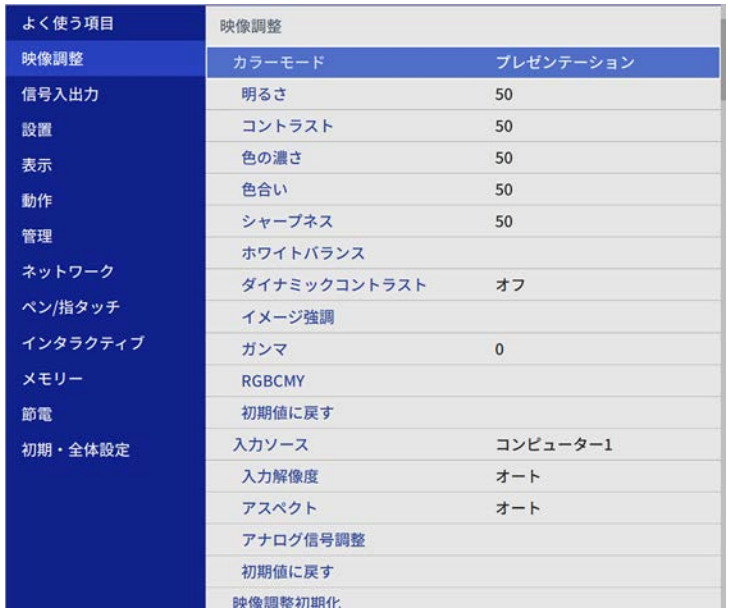
・「ソフトキーボードで入力可能な文字」 p.227

ソフトキーボードで入力可能な文字

ソフトキーボードでは、以下の文字を入力できます。

文字タイプ	詳細
数字	0123456789
アルファベット	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
記号	! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [\ ] ^ _ ` { | } ~

［映像調整］メニューでは、投写映像の画質を調整できます。カラーモードや入力ソースによって設定できる項目が異なります。



設定	選択肢	説明
カラーモード	カラーモードの一覧を参照	映像の種類や使用環境に応じて、適切なカラーモードを選択します。
明るさ	レベル調整	映像の明るさを調整します。
コントラスト	レベル調整	映像のコントラストを調整します。
色の濃さ	レベル調整	映像の色の濃さを調整します。
色合い	レベル調整	映像の色合いを調整します。
シャープネス	レベル調整	映像のシャープ感を調整します。

設定	選択肢	説明
ホワイトバランス	色温度	選択したカラーモードに応じて色温度を設定します。値を高くすると青みがかった映像になり、値を低くすると赤みがかった映像になります。 ［カラーフィルター］が［ウォームホワイト］または［クールホワイト］以外のとき表示されます。（EB-755F/EB-750F）
	G-M補正	映像の色合いを細かく調整します。値を高くすると緑がかった映像になり、値を低くすると赤みがかった映像になります。
	カスタム	オフセット、ゲインをR（赤）、G（緑）、B（青）の成分ごとに調整します。
ダイナミックコントラスト	高速 標準 オフ	映像の明るさに合わせて投写時の光量を調整します。
イメージ強調	イメージ強調プリセット	［イメージ強調］の設定値をプリセットの値で一括で設定します。
	ノイズリダクション	映像のざらつきを抑えます。
	MPEGノイズリダクション	MPEG形式の映像のざらつきを抑えます。

設定	選択肢	説明
	プログレッシブ変換	インターレース信号をプログレッシブ信号に変換します。 • ［オフ］：動きの速いビデオ映像に適しています。 • ［ビデオ］：一般のビデオ映像に適しています。 • ［フィルム/オート］：映画フィルムやCG、アニメーションに適しています。 インターレース信号（480i/576i/1080i）が入力されているとき表示されます。
	超解像	解像度の低い映像を投写するときに、解像度を高めて映像のボケを軽減します。
	ディテール強調	映像のテクスチャーや質感を強調します。
	初期化	［イメージ強調］メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。
ガンマ	-2〜2 カスタム	補正値を選んだり、ガンマグラフを見ながら映像の発色を調整します。
RGBCMY	レベル調整	R（赤）、G（緑）、B（青）、C（シアン）、M（マゼンタ）、Y（イエロー）ごとに色相、彩度、明度を調整します。
初期値に戻す	—	現在のカラーモードで調整したすべての値を初期値に戻します。

設定	選択肢	説明
入力ソース	—	入力ソースごとに保存されるメニューが表示されます。 設定を変更するには、変更したい入力ソースの映像が投写されていることを確認してください。
入力解像度	オート ノーマル ワイド	［オート］に設定しても投写映像が欠けるときは、入力信号の解像度を設定します。 入力ソースがコンピューターのとき表示されます。
アスペクト	アスペクト比の一覧を参照	映像のアスペクト比（縦横比）を設定します。 （事前に［表示倍率］をオフにするか、［表示倍率モード］を［フル表示］に設定します（EB-755F/EB-750F）。） 入力ソースがコンピューター、ビデオ、HDMIのとき表示されます。
表示倍率（EB-755F/EB-750F）	映像の切り出しに関する設定	本機を複数台使用してひとつの映像を投写するときに、それぞれのプロジェクターで表示する映像の範囲を調整します。
アナログ信号調整	自動調整	［オン］にすると、トラッキング、同期、表示位置を最適な状態に自動調整します。 入力ソースがコンピューターのとき表示されます。
	トラッキング	映像に縦の縞模様が出ないように調整します。 入力ソースがコンピューターのとき表示されます。

設定	選択肢	説明
	同期	映像にぼやけ、ちらつきが出ないように調整します。 入力ソースがコンピューターのとき表示されます。
	表示位置	投写画面内の映像の表示位置を調整します。 入力ソースがコンピューターまたはビデオのとき表示されます。
初期値に戻す	—	現在の入力ソースで調整したすべての値を初期値に戻します。
映像調整初期化	—	［映像調整］メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

- ［明るさ］の設定は光源の明るさには影響しません。光源の明るさを変更するには、［動作］メニューで［明るさ設定］を設定します。
- リモコンの【自動調整】ボタンを押して、［トラッキング］、［同期］、［表示位置］の設定を初期値に戻すことができます。

関連項目

- 「カラーモードの種類」 p.85
- 「アスペクトモードの種類」 p.81
- 「映像を切り出して表示する」 p.169
- 「映像の色合いを調整する」 p.88

本機は入力信号方式を自動的に検出し、映像設定を最適化します。詳細な設定が必要なときは、［信号入出力］メニューで設定します。入力ソースによって設定できる項目が異なります。

設定	選択肢	説明
音量	レベル調整（入力ソースごと）	本機のスピーカーの音量を調整します。 また、外部スピーカーの音量も調整できます。 音声がAVアンプに出力されていないとき表示されます。

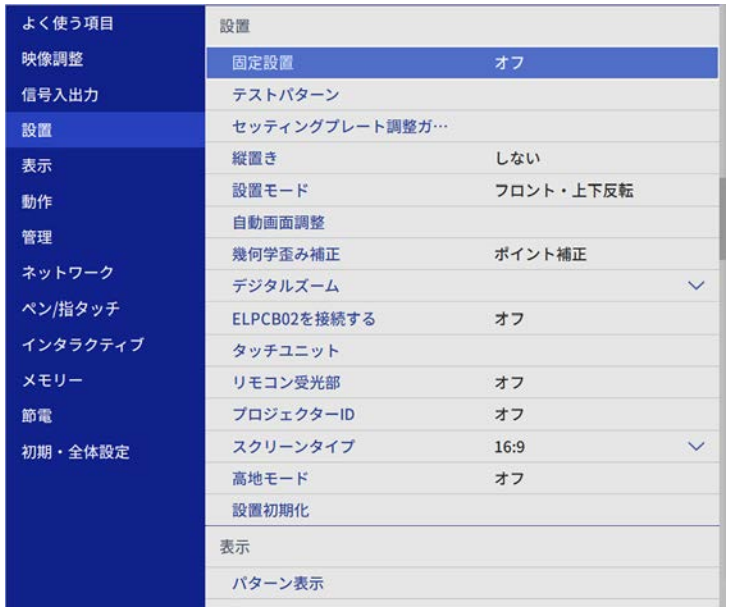
設定	選択肢	説明
入力ソース	—	入力ソースごとに保存されるメニューが表示されます。 設定を変更するには、変更したい入力ソースの映像が投写されていることを確認してください。
入力信号フォーマット	ビデオ信号方式	映像信号に合わせてビデオ信号方式を設定します。［オート］に設定している場合に映像にノイズが入ったり、映像が映らないときは、接続している機器に応じて適切な映像信号を選択します。 入力ソースがビデオのとき表示されます。
	ビデオレンジ	接続された機器の設定に合わせて、本機のビデオレベルを設定します。 入力ソースがHDMIのとき表示されます。
マイク入力レベル（EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W）	レベル調整	マイクからの入力音声の音量を調整します。 ［マイク入力レベル］を上げると、その他の接続機器からの音量が下がります。下げると、その他の接続機器からの音量が上がります。 音声がAVアンプに出力されていないとき表示されます。
オーバースキャン	オート オフ 4% 8%	出画率（投写する映像の範囲）を変更して、映像がトリミングされる範囲を設定します。 コンポーネント信号を入力しているとき表示されます。

設定	選択肢	説明
EDID（EB-755F/EB-750F/EB-735Fi）	HDMI1 HDMI2 HDMI3	映像機器に通知する本機の解像度情報を設定します。カレントソースの解像度に合わせて、必要に応じて設定を変更してください。 入力ソースを切り替えることなく、ソースごとにEDIDを設定できます。
初期値に戻す	—	現在の入力ソースで調整したすべての値を初期値に戻します。
A/V出力	投写時 常時	［常時］に設定すると、本機で投写していないときに、外部機器に音声と映像を出力します。 ［高速起動］が［オフ］のとき表示されます。
音声出力	オート 音声入力 音声入力1 音声入力2	HDMI、LAN、Screen Mirroring以外のソースで映像を投写するときに音声を入力する端子を選択します。
HDMI音声出力	HDMI1音声出力 HDMI2音声出力 HDMI3音声出力	HDMI端子から映像を投写するときに、音声を入力する端子を選択します。
モニター出力端子	モニター出力 コンピューター2	Computer2/Monitor Out端子の入出力を切り替えます。外部モニターに映像を出力するときは［モニター出力］を選択します。コンピューターから映像を入力するときは［コンピューター2］を選択します。
USB Display（EB-735Fi/EB-725Wi）	オン オフ	［オン］にすると、USB-B1端子に接続したコンピューターの映像をUSB Displayで投写します。

設定	選択肢	説明
HDMIリンク	接続機器一覧	HDMI端子に接続されている機器の一覧を表示します。 ［HDMIリンク］が［オン］のとき表示されます。
	HDMIリンク	［オン］にすると、HDMIリンク機能が有効になります。
	音声出力機器	AVアンプを接続している場合に、本機のスピーカーから音声を出力するか、AVアンプのスピーカーから音声を出力するかを選択します。
	電源オン連動	本機または接続機器の電源をオンにしたときの動作を設定します。 • ［双方向］：本機の電源オンに連動して接続機器の電源をオンに、また、接続機器の電源オンに連動して本機の電源をオンにします。 • ［接続機器→PJ］：接続機器の電源オンに連動して、本機の電源をオンにします。 • ［PJ→接続機器］：本機の電源オンに連動して、接続機器の電源をオンにします。
	電源オフ連動	本機の電源オフに連動して、接続機器の電源をオフにするかしないかを設定します。

設定	選択肢	説明
HDMI EQ 設定	1 2 3	HDMI入力端子に接続している映像機器に応じてHDMI受信レベルを変更します。映像にノイズが入るときや映らないときは、設定を変更してください。 スティック型端末を接続して映らないときは、設定を［1］に変更してください。
信号入出力初期化	—	［信号入出力］メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

［設置］メニューでは、プロジェクターの設置環境にあわせた設定ができます。



設定	選択肢	説明
固定設置	オン オフ	プロジェクターを特定の場所に固定して使うときは、［オン］に設定します。
テストパターン	—	機器を接続せずに映像のピントやズーム、映像のゆがみを調整できるように、テストパターンを表示します。（【戻る】ボタンを押すと、パターン表示を終了します。）
セッティングプレート調整ガイド	—	本機の設置時に、ガイドスクリーンを表示します。

設定	選択肢	説明
縦置き	する しない	プロジェクターを縦置きするときは、［する］に設定します。
設置モード	フロント リア フロント・上下反転 リア・上下反転	映像が正しい方向で投写されるように、スクリーンに対する本機の設置方法を選択します。
自動画面調整（EB-735Fi/EB-725Wi）	—	投写面に置いたコーナーマーカーに合わせて、映像の形状を自動で補正します。
幾何学歪み補正	タテヨコ台形補正	投写映像の縦方向、横方向のゆがみを補正します。
	Quick Corner	投写画面のコーナーの形状を個別に補正します。
	湾曲補正	曲面に投写した映像のゆがみを補正します。
	ポイント補正	投写画像を格子で区切り、格子の交点を上下左右に移動させることで投写画面のゆがみを補正します。

設定	選択肢	説明
	メモリー	設定値をメモリーに登録します。 • ［メモリー保存］：補正した映像の形状を、メモリーとして登録します。 • ［メモリー呼出］：メモリーとして登録した映像の形状を呼び出します。 • ［メモリー名称変更］：保存したメモリーの名称を変更します。 • ［メモリー削除］：保存したメモリーを削除します。 • ［メモリー初期化］：保存したメモリーをすべて削除します。
デジタルズーム	レベル調整	投写映像のサイズを調整します。
デジタルピクチャーシフト	位置調整	本機を動かさずに映像の投写位置を調整します。 ［デジタルズーム］をワイド側に最大にしているときは投写位置を調整できません。
ELPCB02を接続する（EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W）	オン オフ	［オン］にすると、インターフェースボックスの【HDMI2】ボタンを押すたびに、投写される入力ソースがHDMI2とHDMI3とで切り替わります。
タッチユニット（EB-735Fi/EB-725Wi）	—	［ペン/指タッチ］メニューの［タッチユニット］を参照。
リモコン受光部	フロント・リア フロント リア オフ	リモコンからの操作信号を受信する受光部を制限します。［オフ］にすると、リモコンからの操作ができなくなります。

設定	選択肢	説明
プロジェクターID（EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W）	オフ 1～9	複数のプロジェクターをリモコンから操作するときに使う本機のIDを設定します。
スクリーンタイプ	4:3 16:6 16:9 16:10	投写面のアスペクト比を設定し、投写面に合わせたサイズの映像を投写します。 ［16:6］はEB-755F/EB-750F/EB-735Fiのみ選択できます。 ［コンテンツ再生］が［オフ］のとき表示されます。（EB-755F/EB-750F）
スクリーン位置	位置調整	本機を動かさずに映像の投写位置を調整します。 ［スクリーンタイプ］がプロジェクターの解像度と同一のアスペクト比に設定されているとき、この機能は使用できません。
高地モード	オン オフ	標高約1500m以上の場所で本機を使えるように動作を制御します。
設置初期化	—	［設置］メニューで調整した、以下を除くすべての値を初期値に戻します。 • ［デジタルズーム］ • ［デジタルピクチャーシフト］

関連項目

- 「設置モードを選択する」 p.58
- 「映像の形状を補正する」 p.66
- 「プロジェクターの設置・取り付け」 p.32
- 「ペン/指タッチメニュー」 p.255
- 「ピントを調整する」 p.62

- 「ワイド・テレボタンで映像の大きさを調整する」 p.77
- 「スクリーンタイプを設定する」 p.60

［表示］メニューでは、プロジェクターの各種表示設定ができます。

設定	選択肢	説明
パターン表示	—	投写画面にパターン映像を表示します。 **注意** 長時間パターンを表示していると投写映像に残像が現れることがあります。

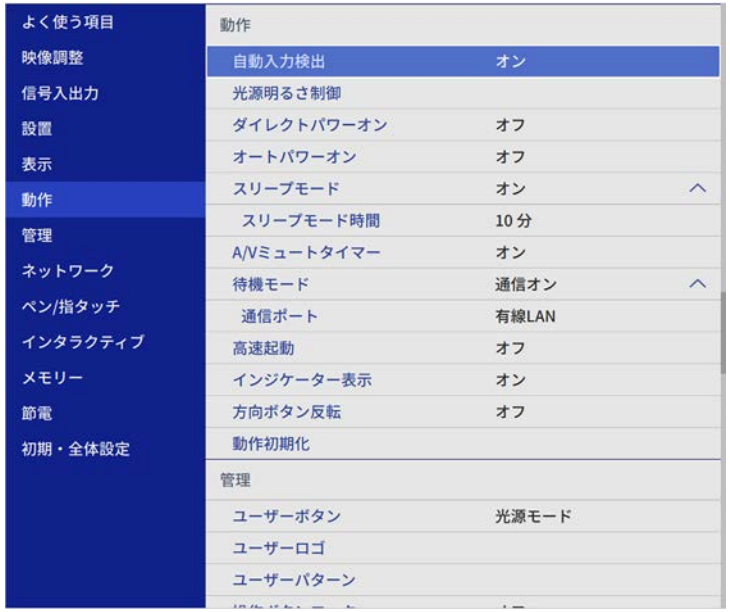
設定	選択肢	説明
パターン種類	パターン1～パターン4 ユーザーパターン	表示するパターンを設定します。パターン1～4には、罫線や格子などのパターンが登録されています。 独自のパターンを使うときは、事前に［管理］メニューの［ユーザーパターン］でパターンを作成し、このメニューで［ユーザーパターン］を選択します。
無信号時画面	黒 青 ロゴ	映像信号が入力されていないときに投写する画面の背景色、またはロゴ表示を選択します。 ［コンテンツ再生］が［オフ］のとき表示されます。（EB-755F/EB-750F）
スタートアップ表示	オン オフ	［オン］にすると、投写開始時にロゴを表示します。
ホーム画面自動表示	オン オフ	［オン］にすると、本機を起動したとき入力信号がない場合に、ホーム画面を自動的に表示します。
メッセージ表示	オン オフ	［オン］にすると、入力ソース名、カラーモード名、アスペクト比、映像信号が入力されていないときのメッセージや高温警告などのメッセージが投写画面に表示されます。
メニュー回転	右90度 左90度 オフ	プロジェクターメニューの表示方向を90°回転させます。

設定	選択肢	説明
画面分割設定	音声出力ソース表示	［オン］にすると、画面を分割して投写しているときに、音声を出力している映像にアイコン表示します。 以下の場合に表示されます。 • ［コンテンツ再生］が［オフ］のとき（EB-755F/EB-750F） • ［ELPCB02を接続する］が［オフ］のとき（EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W）
	配置	2つの映像を同時に投写するときに、画面の位置を［上揃え］または［中央揃え］のいずれかに設定します。 以下の場合に表示されます。 • ［コンテンツ再生］が［オフ］のとき（EB-755F/EB-750F） • ［ELPCB02を接続する］が［オフ］のとき（EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W）
表示初期化	—	［表示］メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

［メニュー保護］で［ユーザーロゴ］をオンにすると、ユーザーロゴに関する以下の設定は変更できません。事前に［メニュー保護］の［ユーザーロゴ］をオフに設定します。
- ［無信号時画面］
- ［スタートアップ表示］

関連項目
- 「複数の映像を同時に投写する」 p.135

［動作］メニューでは、プロジェクターの各種設定ができます。



設定	選択肢	説明
自動入力検出	オン オフ	［オン］にすると、現在の入力ソースからの映像信号がないときに、自動的に他の入力ソースからの信号を検出して映像を投写します。 ［高速起動］モードで本機を起動したときは、この機能は無効です。 ［コンテンツ再生］が［オフ］のとき表示されます。（EB-755F/EB-750F）
光源明るさ制御	明るさ一定運用	光源の明るさを一定に保つときは、［オン］に設定します。
	明るさ維持レベル	一定に保つ明るさレベルを設定します。 ［明るさ一定運用］が［オン］のとき表示されます。
	残り時間目安	明るさを一定に保つことができる時間の目安を表示します。 ［明るさ一定運用］が［オン］のとき表示されます。
	光源モード	光源の明るさを設定します。 • ［ノーマル］：明るさを落としたくないときに選択します。 • ［静音］：ファンの音が気になるときに選択します。明るさレベルは約70%になります。 • ［ロング］：光源の寿命を延ばしたいときに選択します。明るさレベルは約70%になります。 • ［カスタム］：明るさレベルを設定します。 ［明るさ一定運用］が［オフ］のとき表示されます。
	明るさレベル	［カスタム］を選択したときに、明るさを設定します。 ［明るさ一定運用］が［オフ］のとき表示されます。
ダイレクトパワーオン	オン オフ	［オン］にすると、電源プラグを差し込むだけで、本機の電源が入ります。

設定	選択肢	説明
オートパワーオン	HDMI1 コンピューター1 USB Display オフ	オートパワーオンに使用する入力ソースを設定します。本機がスタンバイ状態のときに、選択した入力ソースからの映像信号を検出すると、自動的に本機の電源が入ります。 ［USB Display］は［USB Display］が［オン］のとき表示されます。（EB-735Fi/EB-725Wi）
スリープモード	オン オフ	［オン］にすると、一定時間映像信号の入力がないとき自動的に本機の電源が切れます。
スリープモード時間	1～30分	［スリープモード］で電源が自動で切れるまでの時間を設定します。
A/Vミュートタイマー	オン オフ	［オン］にすると、A/Vミュート実行後30分操作がない場合、自動的に本機の電源が切れます。
待機モード	通信オン 通信オフ	スタンバイ状態のときにネットワーク経由で本機を監視・制御するときは、［通信オン］に設定します。 ［A/V出力］が［投写時］のとき表示されます。
通信ポート	有線LAN 無線LAN	［待機モード］で［通信オン］を選択したときに、使用するポートを有線LANまたは無線LANのどちらかに設定します。
起動時入力設定（EB-755F/EB-750F）	入力ソース	本機をコンテンツ再生モードで起動したときに投写する入力ソースを選択します。

設定	選択肢	説明
高速起動	20分 60分 90分 オフ	高速起動モードを維持する時間を設定します。本機の電源を切ると高速起動モードに入ります。高速起動モード中に電源ボタンを押すと、約5秒で投写できます。 （事前に［A/V出力］を［投写時］に設定してください。） 以下の場合は、通常の起動時間となります。 • USB端子からの映像を投写するとき • Screen Mirroringで投写するとき • 前回の使用時に、ホワイトボードの共有が中断されたとき（EB-735Fi/EB-725Wi） • 前回の使用時に描画したホワイトボードの内容を復元するとき（EB-735Fi/EB-725Wi）
インジケーター表示	オン オフ	インジケーター表示を切るときは［オフ］に設定します。
方向ボタン反転	オン オフ	［オン］にすると、プロジェクターの設置方法に合わせて、操作パネルの上下左右ボタンの動作方向を反転させます。
コンテンツ再生（EB-755F/EB-750F）	オン オフ	［オン］に設定すると、プレイリストを再生できます。
エフェクト（EB-755F/EB-750F）	エフェクト 形状フィルター カラーフィルター 明度	映像に色や形の装飾を追加します。 ［エッジブレンディング機能］を使用しているとき、この機能は使用できません。

設定	選択肢	説明
USBビューアー（EB-755F/EB-750F）	—	USBメモリーに保存されているプレイリストを再生します。
動作初期化	—	［動作］メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

関連項目

- 「コンテンツ再生モードで投写する」 p.144
- 「明るさを設定する」 p.94

［管理］メニューでは、プロジェクターの管理者向け設定ができます。

設定	選択肢	説明
ユーザーボタン	メニュー項目	リモコンの【ユーザー】ボタンに割り当てるメニュー項目を設定します。ボタンを押すと、割り当てたメニュー項目がワンタッチで表示されます。
ユーザーロゴ	設定開始 初期化	本機の識別やセキュリティー向上のために、本機で表示するユーザーロゴを登録します。

設定	選択肢	説明
ユーザーパターン	—	現在投写している映像を、パターン映像として登録します。登録したパターン映像を表示するには、［表示］メニューの［パターン表示］を選択します。
操作ボタンロック	全ロック 電源以外ロック オフ	操作パネルの操作制限を設定します。 • ［全ロック］：すべてのボタンをロックします。 • ［電源以外ロック］：電源ボタンを除くすべてのボタンをロックします。 • ［オフ］：ボタンをロックしません。
ユニフォーミティー	ユニフォーミティー	［オン］にすると画面全体の色味のバランスを調整します。
	調整レベル	調整レベルを選択します。
	調整開始	調整するエリアを選択し、赤、緑、青ごとの色味を調整します。
	初期化	［ユニフォーミティー］で調整したすべての値を初期値に戻します。
リフレッシュモード	時間	投写映像に残っている残像（焼き付き）を軽減する映像を投写し続ける時間を設定します。
	メッセージ表示	［オン］にすると、リフレッシュモード実行中であることが画面に表示されます。

設定	選択肢	説明
	開始	投写映像に残っている残像（焼き付き）を解消します。設定した時間が経過すると、本機の電源をオフにします。リモコンのボタンを操作すると、リフレッシュモードを中止します。
光源キャリブレーション	今すぐ実行	光源キャリブレーションを実行して、投写映像の色合いのバランスを調整します。使用環境の温度によっては設定できないことがあります。（プロジェクターの電源を入れた直後は映像が安定しません。光源キャリブレーションは、投写開始から30分以上たってから行ってください。）
	定期的に実行	［オン］に設定すると、使用時間100時間ごとに光源キャリブレーションを実行します。
	最終実行日時	光源キャリブレーションを実行した最後の日時を表示します。
日付＆時刻	日付＆時刻 夏時間 インターネット時刻	本機の日付と時刻を設定します。夏時間を有効にするときは、［夏時間設定］を選択します。［インターネット時刻］をオンにすると、インターネット時刻サーバーから時刻を自動的に更新します。
スケジュール設定	—	プロジェクターにイベントスケジュールを登録して、設定した日時に選択したイベントを自動的に実行します。

設定	選択肢	説明
無線LAN電源	オン オフ	無線LAN経由で映像を投写するには［オン］を選択します。無線LANで接続しないときは、第三者の不正アクセスを防ぐためにオフに設定してください。
無線LAN診断	Ping IPアドレス 中断されるまで実行 開始	Pingを送信して、通信状況を確認します。
ログ保存先	内部メモリー USBおよび内部メモリー	エラーログや操作ログの保存先を設定します。 ［コンテンツ再生］が［オフ］のとき表示されます。（EB-755F/EB-750F）
一括設定範囲	すべて 一部	一括設定機能を使って、すべてのメニュー設定をコピーするときは［すべて］を選択します。以下の設定をコピーしたくないときは［一部］を選択します。 • ［パスワードプロテクト］設定 • ［信号入出力］メニューの［EDID］ • ［ネットワーク］メニュー
言語	言語設定	メニュー、メッセージに表示する言語を選択します。
情報表示	プロジェクター情報	プロジェクターや映像信号の情報を確認します。現在投写している入力ソースによって表示する項目が異なります。

設定	選択肢	説明
ログ表示	温度警告情報 電源オンオフ履歴	［ログ保存先］で指定した場所に保存されたプロジェクターのログ情報を確認します。
管理初期化	—	［管理］メニューで調整した、以下を除くすべての値を初期値に戻します。 • ［ユーザーパターン］ • ［言語］

［メニュー保護］で［スケジュール］を［オン］にすると、［スケジュール設定］は変更できません。事前に［メニュー保護］の［スケジュール］を［オフ］に設定します。

関連項目

- 「Event ID一覧」 p.244
- 「ユーザーロゴを設定する」 p.153
- 「ユーザーパターンを登録する」 p.155
- 「操作パネルのボタン操作を制限する」 p.174
- 「ユニフォーミティーを調整する」 p.160
- 「日時を設定する」 p.55
- 「プロジェクターのイベントスケジュールを設定する」 p.222
- 「メニューの言語を選択する」 p.57

Event ID一覧

［情報］メニューの［Event ID］に番号が表示されるときは、番号を確認して以下のとおり対処してください。

問題が解決しないときは、ネットワーク管理者にお問い合わせいただくか、お問い合わせ先に記載の連絡先にお問い合わせください。

Event ID	原因と対処法
0026 0032 0036 0037	Screen Mirroringの通信エラーです。プロジェクターの電源を一度切ってから、再度電源を入れます。ネットワークソフトウェアを再起動します。
0027 0028 0029 0030 0031 0035	Screen Mirroringの通信状態が不安定です。ネットワークの通信状態を確認し、しばらくしてから再接続します。
0023 0024 0025	接続に失敗しました。コンピューターにPIN入力画面が表示されたときは、ネットワーク情報画面または投写している映像の右下に表示されているPINコードを入力します。問題が解決しないときは、プロジェクターと接続機器を再起動して、接続設定を確認してください。
0043	サポート外のビデオフォーマットです。モバイルデバイスの解像度を変更して再接続します。または、プロジェクターの［パフォーマンス調整］を変更して再接続します。
0432 0435	ネットワークソフトウェアの起動に失敗しました。プロジェクターの電源を一度切ってから、再度電源を入れます。
0433	転送した映像を表示できません。ネットワークソフトウェアを再起動してください。
0434 0481 0482 0485	ネットワークの通信状態が不安定です。ネットワークの通信状態を確認し、しばらくしてから再接続します。
0483 04FE	ネットワークソフトウェアが予期せず終了しました。ネットワークの通信状態を確認してから、プロジェクターの電源を一度切り、再度電源を入れます。

Event ID	原因と対処法
0484	コンピューターから通信が切断されました。ネットワークソフトウェアを再起動してください。
0479 04FF	プロジェクターにシステムエラーが発生しました。プロジェクターの電源を一度切ってから、再度電源を入れます。
0891	同じSSIDのアクセスポイントが見つかりません。プロジェクター、コンピューター、アクセスポイントに同一のSSIDを設定します。
0892	WPA/WPA2/WPA3の認証方式が一致しません。無線ネットワークのセキュリティー設定が正しいことを確認します。
0893	TKIP/AES暗号化方式が一致しません。無線ネットワークのセキュリティー設定が正しいことを確認します。
0894	不正なアクセスポイントに接続したため通信が切断されました。ネットワーク管理者にお問い合わせください。
0895	コンピューターから通信が切断されました。お使いのデバイスの接続を確認してください。
0898	DHCPの取得に失敗しました。DHCPサーバーが正しく動作していることを確認します。DHCPを使用しないときは、本機の［ネットワーク］メニューにある［DHCP］設定を［オフ］にします。 ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［有線LAN］ > ［IP設定］ > ［DHCP］ ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［無線LAN］ > ［IP設定］ > ［DHCP］
0899	その他、接続に関するエラー
089A	EAP認証方式がネットワークと一致しません。無線LANセキュリティーの設定が正しいか確認してください。また、証明書が適切にインストールされているか確認してください。
089B	EAPのサーバー認証が失敗しました。無線LANセキュリティーの設定が正しいか確認してください。また、証明書が適切にインストールされているか確認してください。

Event ID	原因と対処法
089C	EAPのクライアント認証が失敗しました。無線LANセキュリティーの設定が正しいか確認してください。また、証明書が適切にインストールされているか確認してください。
089D	鍵交換が失敗しました。無線LANセキュリティーの設定が正しいか確認してください。また、証明書が適切にインストールされているか確認してください。
0920	時刻を保持する内部電源の残量が低下しています。お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
0B01	内蔵ストレージが正常に検出されませんでした。本機の電源を切り、コンセントを差し直してから、再度電源を入れてください。証明書やメールのアドレス帳などは削除されます。問題が解決しないときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
0BFF	ホワイトボード機能にエラーが発生しました。プロジェクターを再起動してください。

［ネットワーク］メニューでは、ネットワーク情報の表示、ネットワーク経由で本機を使うための設定ができます。

［メニュー保護］で［ネットワーク］を［オン］にすると、ネットワーク設定は変更できません。事前に［メニュー保護］の［ネットワーク］を［オフ］に設定します。

設定	選択肢	説明
無線LAN情報	無線LAN情報	無線LANのステータス、詳細情報を表示します。
有線LAN情報	有線LAN情報	有線LANのステータス、詳細情報を表示します。
Art-Netチャンネル情報（EB-755F/EB-750F）	Art-Netチャンネル情報	Art-Netチャンネルに定義されているプロジェクターの機能と設定を表示します。
ネットワーク設定	—	ネットワーク設定を構成します。詳しくは、［ネットワーク設定］メニューをご覧ください。
ネットワーク初期化	—	［ネットワーク］メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

コンピューターのWebブラウザーを使って、ネットワークに接続されたプロジェクターのメニュー設定や制御を離れた場所から操作できます。

関連項目

- 「ネットワーク設定メニュー」 p.246
- 「Art-Netチャンネル定義」 p.217

ネットワーク設定メニュー

［ネットワーク設定］メニューでは、ネットワークの基本設定ができます。

無線LANを使用するときは、以下を確認してください。
- ［管理］メニューで［無線LAN電源］をオンにします。

設定	選択肢	説明
プロジェクター名	16文字以内の半角英数字 （" * + , / : ; < = > ? [\ ] ` | スペースは使用不可）	ネットワーク上で本機を識別するための名前を入力します。
Remoteパスワード	8文字以内の半角英数字 （* : スペースは使用不可）	ベーシックコントロール機能で本機の制御をするときの認証用パスワードを設定します。（ユーザー名は**EPSONREMOTE**、デフォルトのパスワードは**guest**です。） ［コンテンツ再生］が［オフ］のとき表示されます。（EB-755F/EB-750F）
Web制御パスワード	8文字以内の半角英数字 （* : スペースは使用不可）	Web制御で本機の設定や制御をするときの認証用パスワードを設定します。（ユーザー名は**EPSONWEB**、デフォルトのパスワードは**admin**です。）
優先制御インターフェイス	有線LAN 無線LAN	優先ゲートウェイを設定できます。
シンプルAP	オン オフ	プロジェクターを簡易アクセスポイントにして機器と接続するときは、［オン］に設定します。シンプルAPを使うと、以下の接続が利用できます。 • Epson iProjectionの［かんたんモード］で接続する • Screen Mirroringを使用する ［無線LAN電源］が［オン］のとき表示されます。

設定	選択肢	説明
SSID	自動生成SSID	シンプルAP接続で使用するプロジェクターのSSIDを表示します。
セキュリティー	WPA2-PSK	シンプルAPでの通信に使うセキュリティーを表示します。
パスフレーズ	8～63文字のパスフレーズ	シンプルAP接続で使用するプロジェクターのパスフレーズを入力します。
チャンネル設定	チャンネル選択	シンプルAP接続で使用する無線チャンネルを選択します。
無線LAN	—	［無線LAN］メニューを参照。
有線LAN	—	［有線LAN］メニューを参照。
メール通知	—	［メール通知］メニューを参照。
プロジェクター制御	—	［プロジェクター制御］メニューを参照。
ネットワーク投写	—	［ネットワーク投写］メニューを参照。

関連項目

- 「ネットワーク設定 - 無線LANメニュー」 p.247
- 「ネットワーク設定 - 有線LANメニュー」 p.250
- 「ネットワーク設定 - メール通知メニュー」 p.251
- 「ネットワーク設定 - プロジェクター制御メニュー」 p.251
- 「ネットワーク設定 - ネットワーク投写メニュー」 p.253

ネットワーク設定 - 無線LANメニュー

［無線LAN］メニューでは、無線LANの設定ができます。

- ［管理］メニューで［無線LAN電源］をオンにします。
- 本機に無線LANユニットを接続しないときは、事前に［シンプルAP］をオフに設定してください。

無線LANに接続するときは、セキュリティーを設定することを強くお勧めします。セキュリティーの設定については、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

WPAは、無線ネットワークのセキュリティー強度を向上するための暗号化規格です。本機はAESの暗号化方式に対応しています。

WPA2/WPA3-EAPおよびWPA3-EAPはWPA3 192-bitには対応していません。

設定	選択肢	説明
アクセスポイント検索	検索画面へ移動	周囲の無線LANアクセスポイントを検索します。アクセスポイントの設定によっては、一覧に表示されないアクセスポイントがあります。
SSID	32文字以内の半角英数字	本機のSSID（ネットワーク名）を設定します。本機が接続する無線LANシステムでSSIDが定められているときは、そのSSIDを設定します。
セキュリティー	WPA2/WPA3-PSK	WPA2およびWPA3パーソナルモードで接続します。暗号化方式はアクセスポイントの設定に応じて自動的に選択されます。アクセスポイントと共通のパスフレーズを設定します。
	WPA2/WPA3-EAP	WPA2およびWPA3エンタープライズモードで接続します。暗号化方式はアクセスポイントの設定に応じて自動的に選択されます。
	WPA3-PSK	WPA3パーソナルモードで接続します。WPA3によるセキュリティーを使って通信を行います。暗号化にはAES方式を使用します。コンピューターからプロジェクターに接続するときは、パスフレーズに設定した値を入力してください。
	WPA3-EAP	WPA3エンタープライズモードで接続します。暗号化方式はアクセスポイントの設定に応じて自動的に選択されます。
	なし	セキュリティーを設定しません。
パスフレーズ（WPA2/WPA3-PSKまたはWPA3-PSK選択時）	8〜63文字のパスフレーズ	ネットワークに接続するためのパスフレーズを入力します。 パスフレーズを入力し、【決定】ボタンを押すと、値が設定されます。設定された値はアスタリスク（*）で表示されます。 セキュリティー強化のため、パスフレーズは定期的に変更することをお勧めします。ネットワーク設定を初期化すると、パスフレーズは初期値に戻ります。
EAP種類（WPA2/WPA3-EAPまたはWPA3-EAP選択時）	PEAP	Windows Serverで広く使われている認証プロトコルです。
	PEAP-TLS	Windows Serverで使われている認証プロトコルです。クライアント証明書を使用する場合に選択します。

設定	選択肢	説明
	EAP-TLS	一般的に広く使われている、クライアント証明書を使用する認証プロトコルです。
	EAP-FAST	これらの認証プロトコルが使用されているときに指定します。
ユーザー名	64文字以内の英数字	ユーザー名を入力します。ドメイン名を含めて入力する必要があるときは、ユーザー名の前にバックスラッシュで区切ってドメイン名を追加します（ドメイン名\ユーザー名） クライアント証明書をインポートしたときは、証明書の発行先が自動で設定されます。
パスワード	64文字以内の英数字	認証に使用するパスワードを入力します。パスワードを入力し、［設定］を選択すると、パスワードはアスタリスク（*）で表示されます。 ［EAP種類］が［PEAP］または［EAP-FAST］のとき表示されます。
クライアント証明書	—	クライアント証明書をインポートします。 ［EAP種類］が［PEAP-TLS］または［EAP-TLS］のとき表示されます。
サーバー証明書の検証	オン オフ	CA証明書が設定されているときに、サーバー証明書を照合するときは、［オン］に設定します。
CA証明書	—	CA証明書をインポートします。
認証サーバー名	64文字以内の英数字	認証サーバー名を入力します。

設定	選択肢	説明
IP設定	DHCP IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイアドレス	［DHCP］を使用できるネットワークの場合は、［オン］にします。DHCPを使用できないネットワークの場合は、［オフ］にして、プロジェクターの［IPアドレス］、［サブネットマスク］、［ゲートウェイアドレス］を入力します。0～255の数字を入力します。 0.0.0.0、127.x.x.x、192.0.2.x、224.0.0.0～255.255.255.255のアドレスはIPアドレスに使用できません（xは0～255の数値）。 255.255.255.255、0.0.0.0～254.255.255.255のアドレスはサブネットマスクに使用できません。0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255のアドレスはゲートウェイアドレスに使用できません。
DNSサーバー1 DNSサーバー2	IPアドレス	DNSサーバーのIPアドレスを入力します。0～255の数字を入力します。DNSサーバーは、ホスト名とIPアドレスの対応関係を管理するコンピューターです。127.x.x.xのアドレスは使用できません（xは0～255の数値）。 この設定をしないで0.0.0.0のままにしておくと、DNSサーバーの情報はDHCPから取得されます。DHCPサーバーからの情報取得後も、数値は0.0.0.0のままです。

設定	選択肢	説明
IPv6	オン オフ	IPv6を使用してプロジェクターをネットワークに接続するときは、［オン］にします。 Epson Web ControlおよびPJLinkを使ったネットワーク経由の監視・制御はIPv6に対応しています。
自動構成	オン オフ	［オン］の場合、ルーター広告に従い、アドレスを自動で取得します。
一時アドレスの使用	オン オフ	［オン］にすると、一時IPv6アドレスを使用します。
IPアドレス表示	オン オフ	ネットワーク情報画面やホーム画面にIPアドレスを表示するときは、［オン］にします。

ネットワーク設定 - 有線LANメニュー

［有線LAN］メニューでは、有線LANの設定ができます。

設定	選択肢	説明
IP設定	DHCP IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイアドレス	［DHCP］を使用できるネットワークの場合は、［オン］にします。DHCPを使用できないネットワークの場合は、［オフ］にして、プロジェクターの［IPアドレス］、［サブネットマスク］、［ゲートウェイアドレス］を入力します。0〜255の数字を入力します。 0.0.0.0、127.x.x.x、192.0.2.x、224.0.0.0〜255.255.255.255のアドレスはIPアドレスに使用できません（xは0〜255の数値）。 255.255.255.255、0.0.0.0〜254.255.255.255のアドレスはサブネットマスクに使用できません。0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0〜255.255.255.255のアドレスはゲートウェイアドレスに使用できません。
DNSサーバー1 DNSサーバー2	IPアドレス	DNSサーバーのIPアドレスを入力します。0〜255の数字を入力します。DNSサーバーは、ホスト名とIPアドレスの対応関係を管理するコンピューターです。127.x.x.xのアドレスは使用できません（xは0〜255の数値）。 この設定をしないで0.0.0.0のままにしておくと、DNSサーバーの情報はDHCPから取得されます。DHCPサーバーからの情報取得後も、数値は0.0.0.0のままです。

設定	選択肢	説明
IPv6	オン オフ	IPv6を使用してプロジェクターをネットワークに接続するときは、［オン］にします。 Epson Web ControlおよびPJLinkを使ったネットワーク経由の監視・制御はIPv6に対応しています。
自動構成	オン オフ	［オン］の場合、ルーター広告に従い、アドレスを自動で取得します。
一時アドレスの使用	オン オフ	［オン］にすると、一時IPv6アドレスを使用します。
IPアドレス表示	オン オフ	ネットワーク情報画面やホーム画面にIPアドレスを表示するときは、［オン］にします。

ネットワーク設定 - メール通知メニュー

［メール通知］メニューでは、本機が異常/警告状態になったとき、異常状態を電子メールで通知するための設定ができます。

設定	選択肢	説明
メール通知	オン オフ	［オン］にすると、本機が異常/警告状態になったとき、設定した宛先に異常状態を通知するメールを送信します。
SMTPサーバー	IPアドレス	SMTPサーバーのIPアドレスを入力します。0〜255の数字を入力します。 127.x.x.x、192.0.2.x、224.0.0.0〜255.255.255.255のIPアドレスは使用できません（xは0〜255の数値）。

設定	選択肢	説明
認証タイプ	Open Auth SSL TLS	SMTPサーバーの認証方式を設定します。
ポート番号	1〜65535（デフォルトは25）	SMTPサーバーのポート番号を入力します。
ユーザー名	64文字以内の英数字	SMTPサーバーのユーザー名を入力します。
パスワード	64文字以内の英数字	SMTP認証に使うパスワードを入力します。
送信元アドレス	64文字以内の英数字 （" ( ) , : ; < > [\ ] スペースは使用不可）	送信者のメールアドレスを入力します。
宛先1設定 宛先2設定 宛先3設定		メールアドレスおよびメール通知する異常/警告の種類を選択します。

ネットワーク設定 - プロジェクター制御メニュー

［プロジェクター制御］メニューでは、本機をネットワーク経由で設定・制御をするための設定ができます。

設定	選択肢	説明
PJLink	オン オフ	PJLink通知機能を使うときは、［オン］に設定します。
PJLinkパスワード	32文字以内の半角英数字 （@以外の記号は使用不可）	PJLink対応アプリケーションを使って本機を制御するときの認証用パスワードを設定します。

設定	選択肢	説明
通知先IPアドレス	IPアドレス	PJLink通知機能が有効なとき、プロジェクターのステータスを通知するコンピューターのIPアドレスを入力します。0〜255の数字を入力します。 127.x.x.x、224.0.0.0〜255.255.255.255のIPアドレスは使用できません（xは0〜255の数値）。
SNMP	オン オフ	［オン］にすると、SNMPを使用して本機を監視します。本機を監視するには、コンピューターにSNMPマネージャープログラムがインストールされている必要があります。SNMPによる管理は、必ずネットワーク管理者が行ってください。
トラップIPアドレス1 トラップIPアドレス2	IPアドレス	SNMP通知を受信するIPアドレスを入力します。0〜255の数字を入力します。 127.x.x.x、224.0.0.0〜255.255.255.255のIPアドレスは使用できません（xは0〜255の数値）。
コミュニティー名	32文字以内の半角英数字 （@以外の記号は使用不可）	SNMPコミュニティー名を入力します。
AMX Device Discovery	オン オフ	［オン］にすると、AMX Device Discoveryを使用して本機の検出ができます。

設定	選択肢	説明
Crestron Connected	オン オフ	［オン］にすると、Crestron Connectedを使用してプロジェクターの監視と制御ができます。 Crestron Connectedを有効にすると、Epson Projector Managementのメッセージ配信機能が無効になります。
Control4 SDDP	オン オフ	［オン］にすると、Control4 SDDP（Simple Device Discovery Protocol）を使って本機の情報を送信します。
Art-Net（EB-755F/EB-750F）	オン オフ	［オン］にすると、Art-Netを使用して本機を監視します。 • ［Net］：プロジェクターのNetを設定します。0〜127の数字を入力します。（デフォルトは0） • ［Sub-Net］：プロジェクターのSub-Netを設定します。0〜15の数字を入力します。（デフォルトは0） • ［Universe］：プロジェクターのUniverseを設定します。0〜15の数字を入力します。（デフォルトは0） • ［開始チャンネル］：Art-Netを処理する開始チャンネルを設定します。1〜500の数字を入力します。（デフォルトは1）
セキュアHTTP	オン オフ	Web制御でのプロジェクターとコンピューターの通信を暗号化し、セキュリティーを強化します。セキュリティーの設定をWeb制御で行う場合は、［オン］に設定することをお勧めします。

設定	選択肢	説明
Webサーバー証明書	—	セキュアHTTP機能のWebサーバー証明書を本機にインポートします。

ネットワーク設定 - ネットワーク投写メニュー

［ネットワーク投写］メニューでは、ネットワーク経由で映像を投写するための設定ができます。

設定	選択肢	説明
プロジェクターキーワード	オン オフ	［オン］にすると、他のユーザーが誤って映像を投写しないように、セキュリティーパスワードを有効にできます。コンピューターやモバイルデバイスの映像を投写するときは、投写画面に表示されるキーワードをEpson iProjectionで入力する必要があります。
Epson iProjection	オン オフ	Epson iProjectionを使用するときは、［オン］に設定します。
SSID表示	オン オフ	ネットワーク情報画面やホーム画面にSSIDを表示するときは、［オン］にします。
LAN情報表示	テキストとQRコード テキスト	本機のネットワーク情報の表示形式を設定します。 QRコードを表示させると、Epson iProjectionでQRコードを読み取るだけで本機とモバイルデバイスをネットワーク接続できます。

設定	選択肢	説明
モデレーターパスワード	4桁の数字	Epson iProjectionを使って、モデレーターとして本機に接続するときの認証用パスワードを入力します。（デフォルトのパスワードは設定されていません。）
キーワード割り込み表示	オン オフ	［オン］にすると、Epson iProjectionでプロジェクターに接続したときに、投写画面にプロジェクターキーワードを表示します。 ［プロジェクターキーワード］が［オン］に設定されているときのみ有効。
Screen Mirroring	オン オフ	Screen Mirroring機能を使用するときは、［オン］に設定します。
割り込み接続	オン オフ	［オン］にすると、Screen Mirroringでの投写中に他のユーザーが投写画面を切り替えられます。 Screen Mirroringソースを2系統使用するときは、［オフ］に設定します。
パフォーマンス調整	1 2 3 4	Screen Mirroringの映像表示速度および品質を調整します。 1： 表示品質が向上します。 4： 表示速度が向上します。
キャプチャー（EB-735Fi/EB-725Wi）	使用可能 使用不可	［使用可能］にすると、ツールバーを使ってScreen Mirroringで投写中の映像をホワイトボードに貼りつけることができます。 ［使用可能］に設定するとHDCPが無効になり、HDCPで保護された映像が投写できなくなることがあります。

設定	選択肢	説明
Screen Mirroring 情報表示	オン オフ	［オン］にすると、Screen Mirroring ソースを投写しているときに、機器の接続に必要な情報を表示します。
メッセージ配信	オン オフ	［オン］にすると、Epson Projector Managementで配信したメッセージが受信できます。詳しくは『Epson Projector Management操作ガイド』をご確認ください。 ［Crestron Connected］が［オフ］のとき表示されます。
画面共有	オン オフ	他のプロジェクターに投写映像を配信して、複数のプロジェクターと映像を共有するときは、［オン］に設定します。

関連項目

- 「画面共有」 p.199
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

［ペン/指タッチ］メニューでは、インタラクティブペンや指タッチ操作の調整、設定ができます。

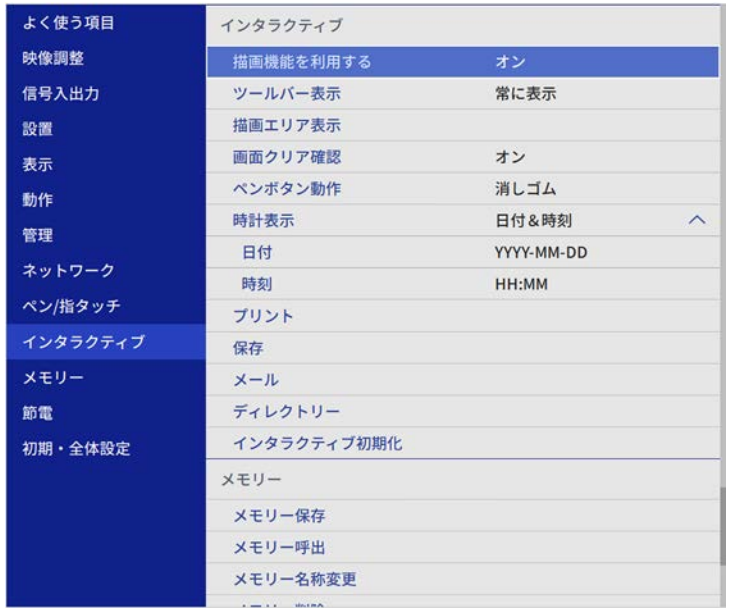
このメニューはEB-735Fi/EB-725Wiのみ表示されます。

設定	選択肢	説明
自動ペン位置合わせ 手動ペン位置合わせ	—	インタラクティブペンの位置合わせをします。
タッチユニット	電源	［オン］にすると、タッチユニットの電源がオンになります。
	タッチユニット設置	タッチ操作を認識させるため、レーザーの照射角度を調整します。
	指タッチ位置合わせ	指タッチ操作の位置合わせをします。
	タッチ補正範囲	指タッチ操作がドラッグ操作と誤認識されるときは、［広い］に設定します。
複数台設置	赤外線強度	他のプロジェクターなどの赤外線干渉によりペンの動作が不安定なときは、［強い］を選択します。
	複数台同期	同じ部屋で本機を2台以上使用するときに、オプションのワイヤードリモコンケーブルを使ってプロジェクターを接続しているときは、［有線］を選択します。
ペンホバリング	オン オフ	［オン］に設定すると、ペン先を投写面から浮かせて動かしたときに、ペン先の動きに合わせてポインターが移動します。
PC操作	ペン座標検出モード	お使いのOSがペンをどのようなタイプのデバイスと認識するかを選択します。WindowsまたはMac（インク機能を含む）をお使いのときは［ペンモード］を、Ubuntuをお使いのときは［マウスモード］を選択します。
	ペン先の長押し	［右クリック］に設定すると、ペン先の長押しが右クリックとして機能します。
	ペン先の動作	ペン先の動作を、［左クリック］/［右クリック］のいずれかに設定します。
	USB-B2	USB-B2端子に接続したコンピューターでインタラクティブ機能を使用するときは、コンピューターの映像を入力しているHDMI端子を設定します。

設定	選択肢	説明
	操作エリア自動調整	［オン］に設定すると、接続するコンピューターの解像度が変わったときに、ペン操作エリアを自動で調整します。手動調整したペン操作エリアを自動調整したくないときは、［オフ］に設定します。
	操作エリア手動調整	ペン操作エリアを手動で調整します。 ［PC操作］がオンのとき表示されます。
ペン/指タッチ初期化	—	［ペン/指タッチ］メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

［インタラクティブ］メニューでは、インタラクティブ機能の各種設定ができます。

このメニューはEB-735Fi/EB-725Wiのみ表示されます。



［メニュー保護］で［インタラクティブ］を［オン］にすると、［インタラクティブ］メニューは変更できません。事前に［メニュー保護］の［インタラクティブ］を［オフ］に設定します。

設定	選択肢	説明
描画機能を利用する	オン オフ	インタラクティブツールバーを使用するときは、［オン］に設定します。
ツールバー表示	常に表示 一定時間で非表示	インタラクティブツールバーを常に表示するかどうかを設定します。
描画エリア表示	オン オフ	［オン］にすると、描画できる範囲を表示します。
画面クリア確認	オン オフ	［オン］に設定すると、投写画面に描画した内容をすべて消去する前に、確認画面を表示します。
ペンボタン動作	描画ツール 消しゴム 画面クリア オフ	インタラクティブペン側面のボタンを押したときの動作を選択します。
時計表示	日付＆時刻 日付 時刻 オフ	ホワイトボードモードの下段ツールバーでの時計表示方法を設定します。事前に［管理］メニューで［日付&時刻］を設定してください。
プリント	—	［プリント］メニューを参照。
保存	—	［保存］メニューを参照。
メール	—	［メール］メニューを参照。
ディレクトリー	—	［ディレクトリー］メニューを参照。
インタラクティブ初期化	—	［インタラクティブ］メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

関連項目

- 「インタラクティブ - プリントメニュー」 p.258
- 「インタラクティブ - 保存メニュー」 p.258
- 「インタラクティブ - メールメニュー」 p.259
- 「インタラクティブ - ディレクトリーメニュー」 p.260

インタラクティブ - プリントメニュー

［プリント］メニューでは、印刷の設定ができます。

設定	選択肢	説明
プリンター	USBプリンター ネットワークプリンター オフ	印刷するときにデフォルトで使用するプリンターを設定します。
プリンターアドレス	IPアドレス	ネットワークプリンターのIPアドレスを入力します。127.x.x.x、192.0.2.x、224.0.0.0〜255.255.255.255のIPアドレスは使用できません（xは0〜255の数値）。IPアドレスを初期値に戻すには、0.0.0.0を入力します。
プリンタータイプ	自動検出 PCL6互換プリンター ESC/P-R	プリンターのタイプを設定します。通常は［自動検出］のままにしておきます。
PCLタイプ	通常 モード1 モード2	［通常］に設定していて正常に印刷できないときは、［モード1］または［モード2］に変更してみてください。ただし、設定値によっては正しく印刷されないことがあります。
テストページ印刷	—	テストページを印刷します。
既定の用紙サイズ	A4 Letter	既定の用紙サイズを設定します。

インタラクティブ - 保存メニュー

［保存］メニューでは、データ保存の設定ができます。

設定	選択肢	説明
USBストレージ	オン オフ	USBストレージにファイルを保存するときは、［オン］に設定します。
USBケーブルで保存	オン オフ	USBケーブルで接続された機器にファイルを保存するときは、［オン］に設定します。
ネットワークフォルダー	オン オフ	ネットワークフォルダーにファイルを保存するときは、［オン］に設定します。
CIFSサーバー	64文字以内の英数字 （" * + , : ; < = > ? [\ ] ` | スペースは使用不可）	CIFSサーバー のIPアドレス、またはFQDN（Fully Qualified Domain Name）を入力します。127.x.x.x、192.9.2.x、224.0.0.0〜255.255.255.255のIPアドレスは使用できません（xは0〜255の数値）。FQDNを指定するときは、DNSサーバーの設定が必要です。
共有フォルダーパス	64文字以内の英数字 （" * / : < > ? | は使用不可）	ネットワークフォルダーの名称を「共有名\フォルダー名」、または「共有名」の形式で指定します。
ユーザー名	64文字以内の英数字 （:とスペースは使用不可）	ネットワークフォルダーへのアクセス権を持つユーザー名を入力します。ドメイン名を含めて入力する必要があるときは、ユーザー名の前にバックスラッシュで区切ってドメイン名を追加します（ドメイン名\ユーザー名）。

設定	選択肢	説明
パスワード	64文字以内の英数字 （:とスペースは使用不可）	パスワードを入力します。パスワードを入力し、［OK］を選択すると、パスワードはアスタリスク（*）で表示されます。
接続確認	—	ネットワーク接続の確認をします。
常にパスワードを付与	オン オフ	保存したデータファイルに常にパスワードを設定するには、［オン］に設定します。［オン］にしたときは、ホワイトボードモードでのみ保存可能です。保存形式は、PDFまたはEWF2です。

インタラクティブ - メールメニュー

電子メールの設定ができます。

設定	選択肢	説明
メールを利用する	オン オフ	ホワイトボードに描画した内容をメールで送信するときは、［オン］に設定します。
SMTPサーバー	64文字以内の半角英数字 （" * + , : ; < = > ? [\ ] ` | スペースは使用不可）	SMTPサーバー のIPアドレス、またはFQDN（Fully Qualified Domain Name）を入力します。127.x.x.x、192.0.2.x、224.0.0.0〜255.255.255.255のIPアドレスは使用できません（xは0〜255の数値）。FQDNを指定するときは、DNSサーバーの設定が必要です。

設定	選択肢	説明
認証タイプ	Open Auth SSL TLS	SMTPサーバーの認証方式を指定します。
ポート番号	1〜65535	デフォルトのポート番号は［認証タイプ］によって異なります。 ［Open］は25、［SSL］は465、［TLS］は587です。
ユーザー名	64文字以内の英数字 （:とスペースは使用不可）	SMTPサーバーのユーザー名を入力します。
パスワード	64文字以内の英数字 （:とスペースは使用不可）	SMTPサーバーのパスワードを入力します。
送信元アドレス	64文字以内の半角英数字 （" ( ) , : ; < > [\ ] スペースは使用不可）	送信者として表示されるメールアドレスを入力します。
既定送信先アドレス	64文字以内の半角英数字 （" ( ) , : ; < > [\ ] スペースは使用不可）	デフォルトでメールを送信するメールアドレスを入力します。ドメイン名を指定してアドレスの入力を省力化することもできます。例："@xxx.co.jp"
テストメール送信	—	SMTPに接続して、デフォルトに設定したメールアドレスにテストメールを送信します。

設定	選択肢	説明
アドレス入力を禁止	オン オフ	アドレス帳やディレクトリーサービスに登録されたアドレスのみを選択するには、［オン］に設定します。

インタラクティブ - ディレクトリーメニュー

［ディレクトリー］メニューでは、ディレクトリーサービスの設定ができます。

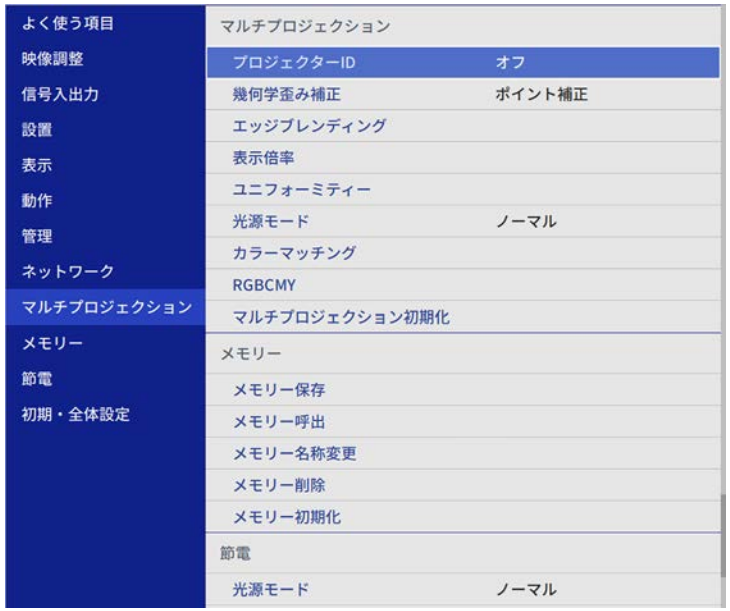
設定	選択肢	説明
ディレクトリーを利用する	オン オフ	ディレクトリーサービスからユーザー名とメールアドレスを検索するには［オン］に設定します。
LDAPサーバー	64文字以内の半角英数字 （" * + , : ; < = > ? [\ ] ` | スペースは使用不可）	LDAPサーバー のIPアドレス、またはFQDN（Fully Qualified Domain Name）を入力します。127.x.x.x、192.9.2.x、224.0.0.0〜255.255.255.255のIPアドレスは使用できません（xは0〜255の数値）。FQDNを指定するときは、DNSサーバーの設定が必要です。
ポート番号	1〜65535	LDAPサーバーのポート番号を入力します。デフォルトのポート番号は389です。グローバルカタログを参照する場合は、ポート番号に3268を指定してください。

設定	選択肢	説明
認証タイプ	Anonymous Simple Digest-MD5	LDAPサーバーの認証方式を指定します。［LDAPサーバー］にIPアドレスが設定されているときは、［Digest-MD5］または［Simple］を選択するには、DNSサーバーの設定でDNS逆引きを有効にする必要があります。
ユーザー名	64文字以内の半角英数字 （:とスペースは使用不可）	LDAPサーバーのユーザー名を入力します。ドメイン名を含めて入力するときは、以下のいずれかの方法で入力してください。 • "ドメイン名\ユーザー名" • "ユーザー名@ドメイン名"
パスワード	64文字以内の英数字 （:とスペースは使用不可）	LDAPサーバーのパスワードを入力します。
接続確認	—	ネットワーク接続の確認をします。
検索開始DN	64文字以内の英数字 （:とスペースは使用不可）	ユーザー名とメールアドレスの検索を開始する識別名（DN）を指定します。必要に応じてすべてのOU（Organizational Unit）とDC（Domain Component）を、OU → DCの順番で指定してください。例："OU=accounts,DC=example,DC=com"。識別名（DN）はデータベース構造の、DCと同じかその下位レベルに配置する必要があります。
ユーザー名属性	64文字以内の英数字 （:とスペースは使用不可）	ユーザー名の属性を指定します。 例："cn"

設定	選択肢	説明
メールアドレス属性	64文字以内の英数字 （:とスペースは使用不可）	メールアドレスの属性を指定します。例："mail"
グループ属性	64文字以内の英数字 （:とスペースは使用不可）	グループの属性を指定します。
検索対象属性	64文字以内の英数字 （:とスペースは使用不可）	ユーザー名、メールアドレス、グループの検索キーを指定します。初期値は［cn］です。検索キーはコンマで区切って3つまで指定できます。3つ以上のコンマを含む検索キー、コンマで始まる検索キー、コンマで終わる検索キー、2つ以上の連続するコンマを含む検索キーは指定できません。検索は前方一致で行われます。
追加検索フィルター	64文字以内の英数字 （:とスペースは使用不可）	［検索対象属性］への追加検索フィルターを指定します。

［マルチプロジェクション］メニューでは、複数のプロジェクターを並べて、一つの大きな映像を作るための設定ができます。

このメニューはEB-755F/EB-750Fのみ表示されます。

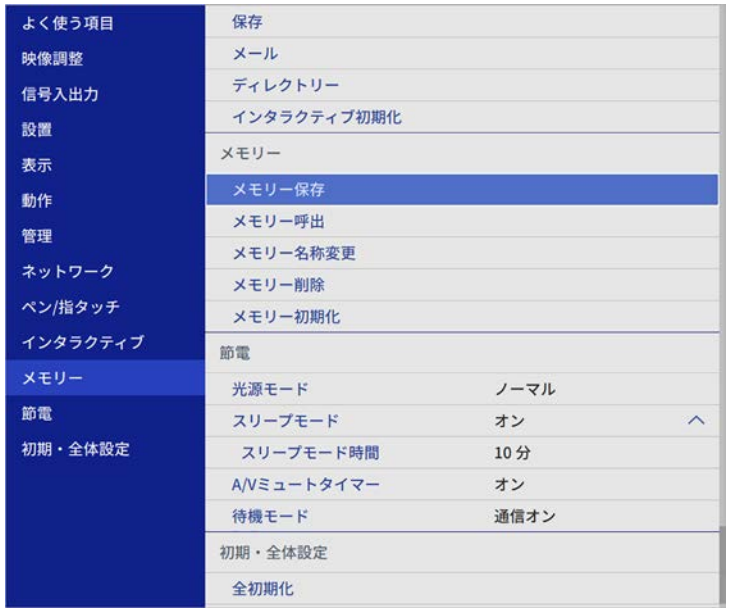


設定	選択肢	説明
プロジェクターID	—	［設置］メニューの［プロジェクターID］を参照。
幾何学歪み補正	—	［設置］メニューの［幾何学歪み補正］を参照。
エッジブレンディング	エッジブレンディング エッジ位置(上) エッジ位置(下) エッジ位置(左) エッジ位置(右) マーカー表示 パターン表示 表示色	映像のつなぎ目を補正します。
黒レベル調整	カラー調整 エリア補正 初期化	映像が重なった部分の黒色を調整します。
表示倍率	—	［画質調整］メニューの［表示倍率］を参照。
ユニフォーミティー	—	［管理］メニューの［ユニフォーミティー］を参照。
光源モード	—	［動作］メニューの［光源モード］を参照。
カラーマッチング	調整レベル 赤 緑 青 明るさ	各映像の色合いや明るさの差を補正します。
RGBCMY	—	［画質調整］メニューの［RGBCMY］を参照。
マルチプロジェクション初期化	—	［マルチプロジェクション］メニューの調整値を初期値に戻します。

関連項目

- 「プロジェクターのID設定」 p.158
- 「設置メニュー」 p.234
- 「映像調整メニュー」 p.228
- 「管理メニュー」 p.242
- 「動作メニュー」 p.239
- 「映像のつなぎ目を補正する」 p.162
- 「黒レベルを調整する」 p.165
- 「カラーマッチングを調整する」 p.163

［メモリー］メニューでは、映像調整の調整値を保存、呼び出し、管理ができます。

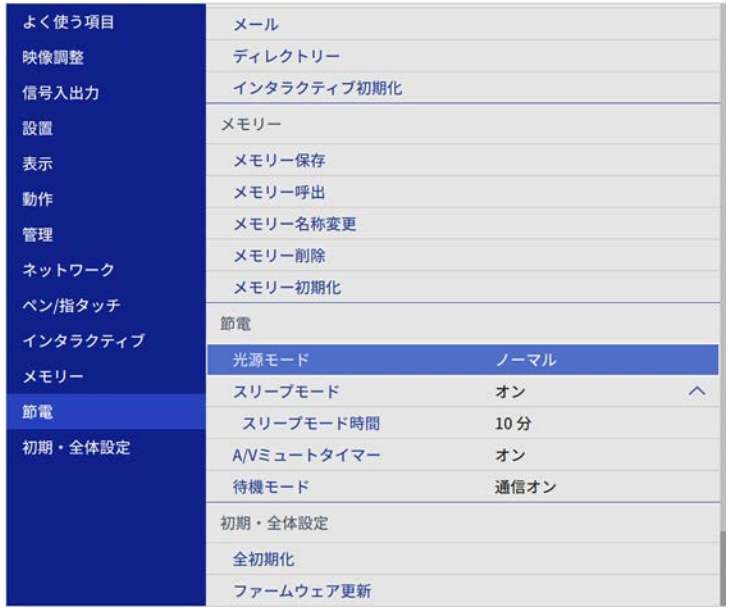


設定	選択肢	説明
メモリー保存	Memory1～10	設定値をメモリーに保存します。
メモリー呼出	Memory1～10	メモリーに保存された調整値を投写中の映像に適用します。
メモリー名称変更	Memory1～10	保存したメモリーの名称を変更します。
メモリー削除	Memory1～10	保存したメモリーを削除します。
メモリー初期化	—	保存したメモリーをすべて削除します。

関連項目

- 「保存したメモリーを呼び出す」 p.75

［節電］メニューでは、本機の消費電力を抑えるための設定ができます。

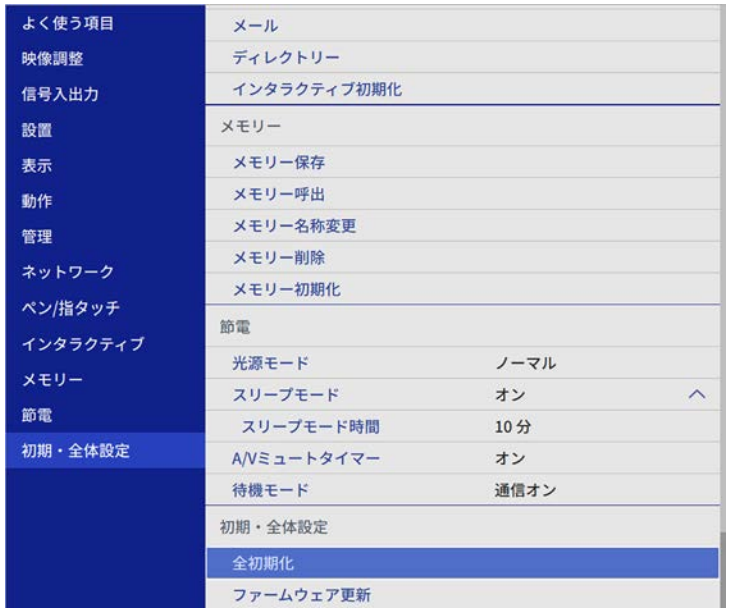


設定	選択肢	説明
光源モード	—	［動作］メニューの［光源モード］を参照。
スリープモード	—	［動作］メニューの［スリープモード］を参照。
スリープモード時間	—	［動作］メニューの［スリープモード時間］を参照。
A/Vミュートタイマー	—	［動作］メニューの［A/Vミュートタイマー］を参照。
待機モード	—	［動作］メニューの［待機モード］を参照。

関連項目

- 「動作メニュー」 p.239

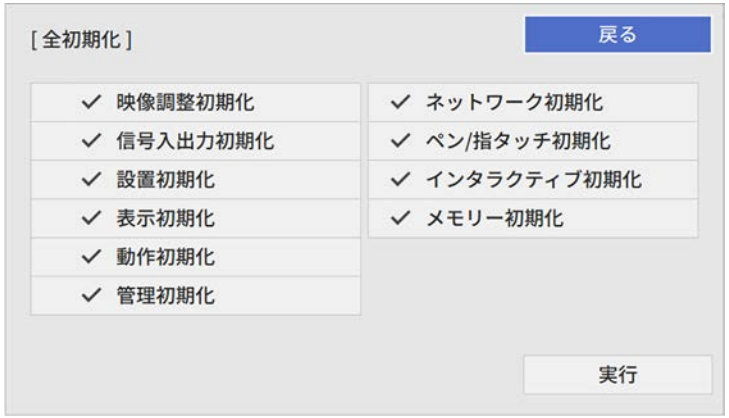
［初期・全体設定］メニューでは、本機の設定を初期化できます。また、プロジェクターのファームウェアを更新できます。



設定	選択肢	説明
全初期化	—	すべての設定を初期値に戻します。
ファームウェア更新	—	ファームウェア更新モードになり、USB-AまたはUSB-B端子を使ってファームウェアのアップデートができます。

全初期化項目

［全初期化］を選択すると、次の画面が表示されます。



特定のメニューを初期化しないときは、メニューのチェックボックスを外します。［実行］を選択すると、初期化します。

以下の設定は、初期値に戻りません。

- デジタルズーム
- デジタルピクチャーシフト
- ユーザーパターン
- 言語

［ネットワーク］および［インタラクティブ］メニューでは、［メニュー保護］が有効なとき、［全初期化］を実行しても設定が初期化されません。

関連項目

- 「ファームウェアを更新する」 p.281

本機で設定したメニューの内容を、以下の方法で他の複数台のプロジェクターにコピーできます（一括設定機能）。一括設定機能は同じ型番のプロジェクター間でのみ使用できます。

- USBメモリーを使って設定する
- コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して設定する
- Epson Projector Management を使って設定する

［光源使用時間］や［ステータス］などのプロジェクター固有の情報はコピーできません。

- 台形補正などの投写画面の調整をする前に一括設定機能を実行してください。一括設定機能では、タテヨコ補正などの投写画面の調整値もコピーされます。投写画面の調整後に一括設定を行うと、調整した投写画面が変わってしまうことがあります。
- 一括設定機能を実行すると、ユーザーロゴもコピーされます。複数のプロジェクター間で共有したくない画像は、ユーザーロゴとして設定しないでください。
- 以下の設定をコピーしたくないときは、［一括設定範囲］を［一部］に設定してください。
  - ［パスワードプロテクト］設定
  - ［信号入出力］メニューの［EDID］
  - ［ネットワーク］メニュー

  ☛ ［管理］ > ［一括設定範囲］

⚠ 注意

一括設定は、お客様の責任において行ってください。停電や通信異常などが原因で一括設定に失敗したときは、有償修理となることがあります。

関連項目

- 「USBメモリーを使って一括設定する」 p.267
- 「コンピューターを使って一括設定する」 p.268

USBメモリーを使って一括設定する

USBメモリーを使用して、同じ型番のプロジェクターにメニュー設定をコピーできます。

FAT形式でフォーマットされ、セキュリティー機能のついていないUSBメモリーを使用してください。また、空のUSBメモリーを使用してください。一括設定ファイル以外のデータが入っていると、設定を正しく保存できないことがあります。

1. プロジェクターから電源コードを外し、すべてのインジケーターが消えていることを確認します。
2. 空のUSBメモリーを、コピー元のプロジェクターのUSB-A端子に直接接続します。
3. リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押したまま、電源コードをプロジェクターに接続します。
4. インジケーターがすべて点灯したら、【戻る】ボタンを離します。

   インジケーターが点滅に変わると、一括設定ファイルがUSBメモリーに書き込まれます。書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

   ⚠ 注意

   ファイルの書き込み中は、プロジェクターから電源コードやUSBメモリーを取り外さないでください。電源コードやUSBメモリーを取り外すと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。
5. USBメモリーを取り外します。

一括設定ファイルのファイル名はPJCONFDATA.binです。ファイル名を変更するときは、半角英数字のみを使用してPJCONFDATAの後に文字列を追加します。ファイル名のPJCONFDATAの部分を変更すると、ファイルが正しく認識できないことがあります。

6 コピー先のプロジェクターから電源コードを外し、すべてのインジケーターが消えていることを確認します。

7 一括設定ファイルが保存されているUSBメモリーを、コピー先のプロジェクターのUSB-A端子に接続します。

8 リモコンまたは操作パネルの 【メニュー】 ボタンを押したまま、電源コードをプロジェクターに接続します。

9 インジケーターがすべて点灯したら、【メニュー】ボタンを離します。（インジケーターは約75秒点灯します。）

インジケーターが点滅に変わると、一括設定の書き込みが始まります。書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

⚠ 注意

ファイルの書き込み中は、プロジェクターから電源コードやUSBメモリーを取り外さないでください。電源コードやUSBメモリーを取り外すと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

10 USBメモリーを取り外します。

コンピューターを使って一括設定する

コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して、同じ型番のプロジェクターにメニュー設定をコピーできます。

USBケーブルを使用した一括設定機能は、以下のバージョンで使用できます。
- Windows 7以降
- OS X 10.11.x以降

1 プロジェクターから電源コードを外し、すべてのインジケーターが消えていることを確認します。

2 コンピューターのUSB端子とコピー元のプロジェクターのUSB-B1またはUSB-B端子を、USBケーブルで接続します。

3 リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押したまま、電源コードをプロジェクターに接続します。

4 インジケーターがすべて点灯したら、【戻る】ボタンを離します。

コンピューター上で、プロジェクターがリムーバブルディスクとして認識されます。

5 リムーバブルディスクを開き、一括設定ファイルをコンピューターにコピーして保存します。

一括設定ファイルのファイル名はPJCONFDATA.binです。ファイル名を変更するときは、半角英数字のみを使用してPJCONFDATAの後に文字列を追加します。ファイル名のPJCONFDATAの部分を変更すると、ファイルが正しく認識できないことがあります。

6 コンピューター上でUSB機器の取り外し（Windows）、またはリムーバブルディスクの取り出し（Mac）をします。

7 USBケーブルを取り外します。

プロジェクターがスタンバイ状態になります。

8 コピー先のプロジェクターから電源コードを外し、すべてのインジケーターが消えていることを確認します。

9 コンピューターのUSB端子とコピー元のプロジェクターのUSB-B1またはUSB-B端子を、USBケーブルで接続します。

10 リモコンまたは操作パネルの 【メニュー】 ボタンを押したまま、電源コードをプロジェクターに接続します。

11 インジケーターがすべて点灯したら、【メニュー】ボタンを離します。

コンピューター上で、プロジェクターがリムーバブルディスクとして認識されます。

12 コンピューターに保存した一括設定ファイル（PJCONFDATA.bin）を、リムーバブルディスクの最上位のフォルダーにコピーします。

> 一括設定ファイル以外のファイルやフォルダーをリムーバブルディスクにコピーしないでください。

13 コンピューター上でUSB機器の取り外し（Windows）、またはリムーバブルディスクの取り出し（Mac）をします。

14 USBケーブルを取り外します。

インジケーターが点滅に変わると、一括設定の書き込みが始まります。書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

> **⚠ 注意**
>
> ファイルの書き込み中は、プロジェクターから電源コードを外さないでください。電源コードを外すと、プロジェクターが正常に起動しないことがあります。

関連項目

- 「一括設定でエラーが発生したときは」 p.269

一括設定でエラーが発生したときは

一括設定でエラーが発生したときは、インジケーターでお知らせします。インジケーターの状態をご確認ください。

インジケーターの状態	状態と対処方法
• レーザー：橙 速点滅 • 温度：橙 速点滅	一括設定ファイルに異常があるか、USBメモリーが正しく接続されていない可能性があります。 USBメモリーを取り外し、プロジェクターの電源コードを抜いて差し直してから、もう一度お試しください。
• 電源：青 速点滅 • ステータス：青 速点滅 • レーザー：橙 速点滅 • 温度：橙 速点滅	一括設定ファイルの書き込みに失敗して、プロジェクターのファームウェアに異常が生じた可能性があります。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。

プロジェクターをメンテナンスする

プロジェクターのメンテナンス方法について説明します。

関連項目

- 「プロジェクターのメンテナンス」 p.271
- 「投写窓を清掃する」 p.272
- 「障害物検知センサーを清掃する」 p.273
- 「本機を清掃する」 p.274
- 「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 p.275
- 「インタラクティブペンのペン先を交換する」 p.279
- 「ファームウェアを更新する」 p.281

プロジェクターの投写窓と障害物検知センサーは定期的に掃除する必要があります。また、エアフィルターや吸排気口も掃除して、本機内部の温度が上昇しないようにしてください。

交換が必要な部品は、エアフィルター、リモコンの電池、インタラクティブペンの電池、およびインタラクティブペンのペン先です。他の部品を交換する必要があるときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

⚠ 警告

掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてから行ってください。また、取扱説明書で指示している場合を除き、本機のケースを開けないでください。内部には電圧の高い部分が数多くあり、火災・感電・事故の原因となります。

投写窓を清掃する

プロジェクターの投写窓は定期的に掃除し、表面に付着したホコリや汚れに気付いたときにも掃除してください。ホコリや汚れを市販のメガネ拭きなどで軽くふき取ってください。

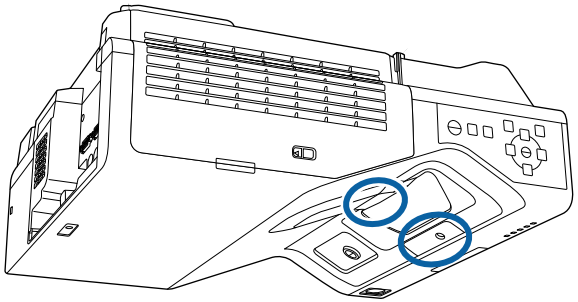
⚠ 警告

投写窓に付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機の内部は高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

投写窓の表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

障害物がないのに、投写窓付近の障害物を取り除くようメッセージが表示されるときは、障害物検知センサーを掃除してください。定期的に掃除することをお勧めします。ホコリや汚れを市販のメガネ拭きなどで軽くふき取ってください。



⚠ 警告

障害物検知センサーに付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機の内部は高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

障害物検知センサーは傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。センサーの表面に傷がつくと、誤作動の原因となります。

本機の掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてください。

- 本機のホコリや汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。本機に液体を直接スプレーしないでください。

注意
ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。本機のケースが変質、変色することがあります。また、エアダスターも使用しないでください。

エアフィルターは定期的にメンテナンスしてください。プロジェクターの内部温度が高くなっていることを示すメッセージが表示されたら、エアフィルターを掃除してください。エアフィルターの掃除は12,000時間を目安に行ってください。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除してください。（大気中に含まれる粒子物質が0.04〜0.2 mg/m3の環境下での使用を想定しています。）

注意
定期的にメンテナンスをしないと、プロジェクターの内部温度が高くなったときにメッセージが表示されます。内部の温度が上昇すると、故障や光学部品の早期劣化の原因となります。メッセージが表示されたらすみやかにエアフィルターを掃除してください。

関連項目

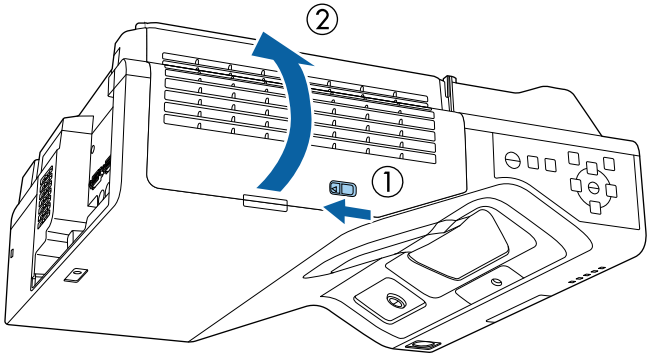
- 「エアフィルターを清掃する」 p.275
- 「エアフィルターを交換する」 p.276

エアフィルターを清掃する

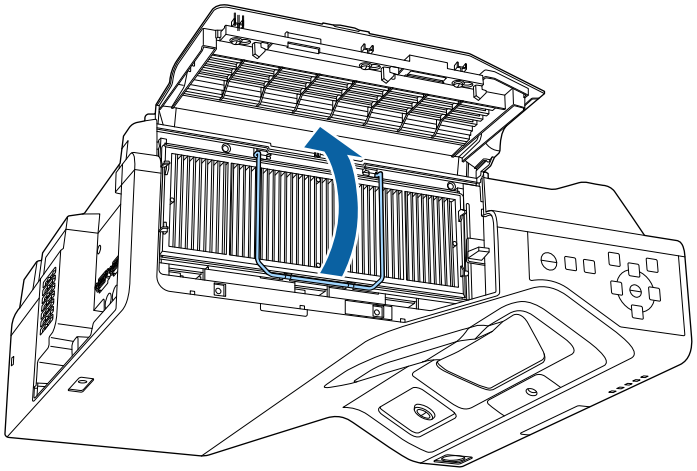
次の場合は、エアフィルターを清掃してください。
- エアフィルターや吸気口が汚れたとき
- 清掃を促すメッセージが表示されたとき

1 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。

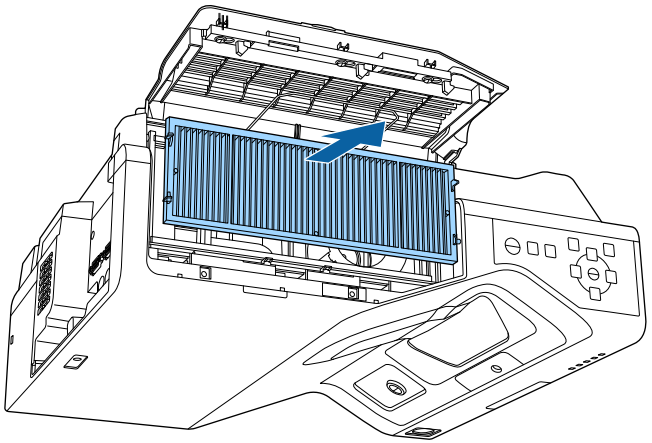
2 エアフィルターカバーラッチを横に動かして、エアフィルターカバーを開けます。



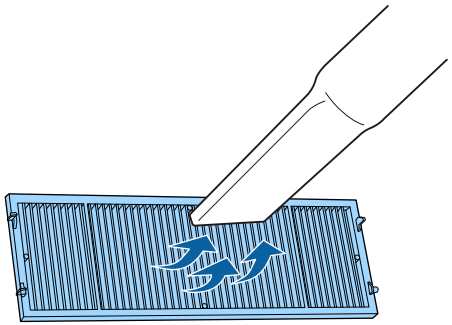
3 留め金を開きます。



4 エアフィルターを取り外します。



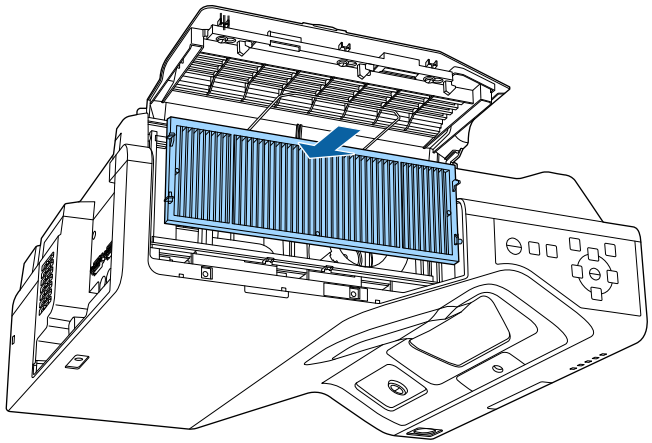
5 掃除機でエアフィルターに残ったホコリを表側から吸い取ります。



注意

- エアフィルターは水洗いできません。洗剤や溶剤も使わないでください。
- エアダスターは使用しないでください。可燃性の物質が残留したり、精密部分にホコリが入り込むおそれがあります。

6 エアフィルターを取り付けます。



7 カチッと音がするまで留め金を閉めます。

8 エアフィルターカバーを閉めます。

エアフィルターを交換する

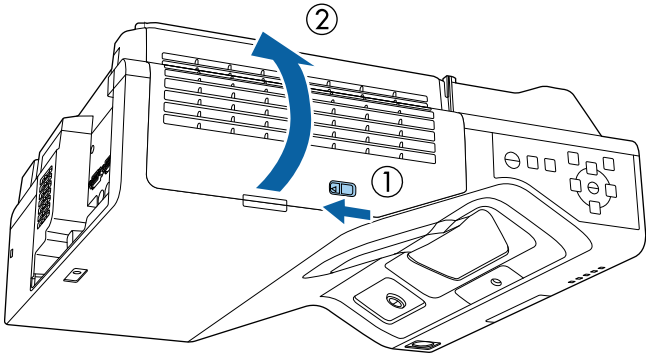
以下の場合は、エアフィルターを交換してください。

- エアフィルターの清掃後に、清掃または交換を促すメッセージが表示される
- エアフィルターが破損している

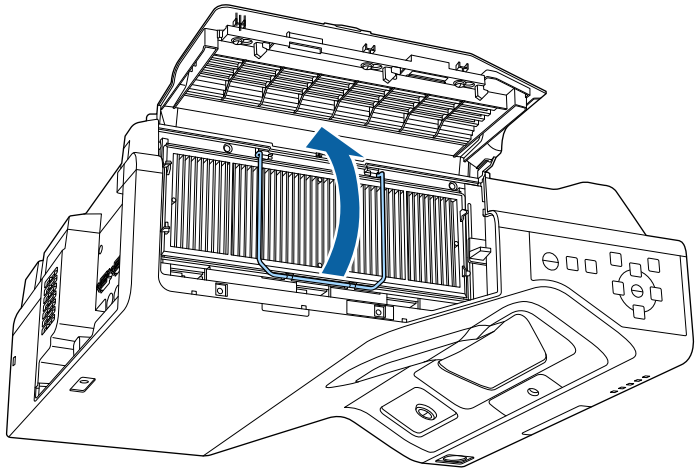
本機は天吊り設置したままでもエアフィルターの交換ができます。

1 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。

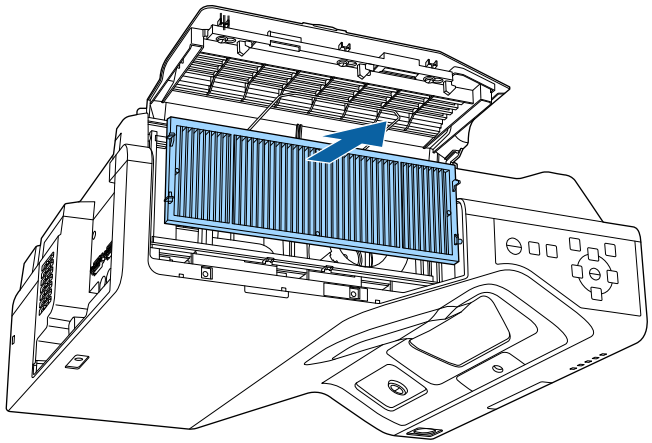
2 エアフィルターカバーラッチを横に動かして、エアフィルターカバーを開けます。



3 留め金を開きます。



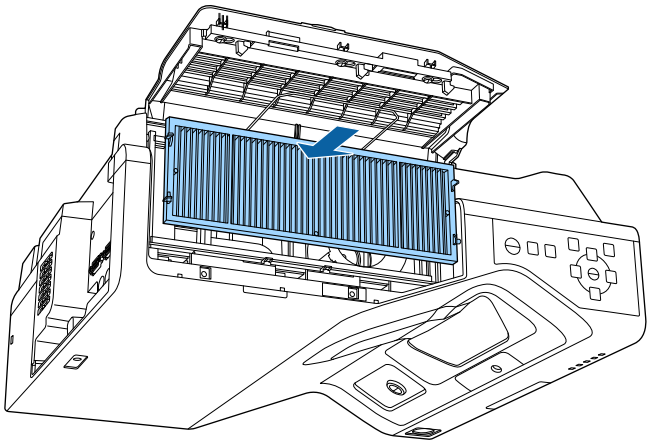
4 エアフィルターを取り外します。



使用済みのエアフィルターは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。会社等でお使いのときは、会社の廃棄ルールに従ってください。

- フィルターの枠：ポリプロピレン
- フィルター：ポリプロピレン、PET

5 新しいエアフィルターを取り付けます。



6 カチッと音がするまで留め金を閉めます。

7 エアフィルターカバーを閉めます。

本機で使えるインタラクティブペン（2本）には、それぞれソフトペン先とハードペン先の2種類が同梱されています。お買い上げ時は、両方のペンにソフトペン先が取り付けられています（EB-735Fi/EB-725Wi）。

- ソフトペン先が汚れたり傷ついたりすると、インタラクティブペンの反応が悪くなります。新しいソフトペン先と交換してください。
- 投写画面によってソフトペン先が使いづらいときは、ハードペン先と交換してください。

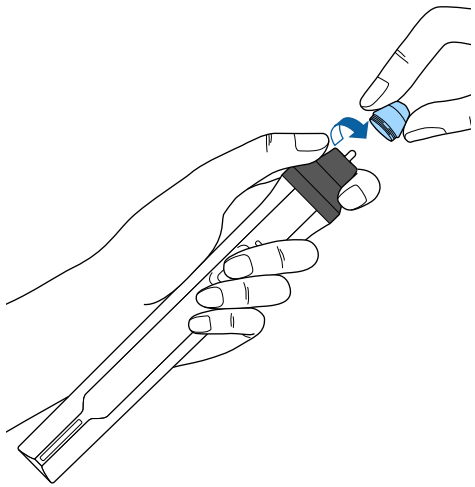
ハードペン先が傷ついたりすり減ったりしたときは、新しいハードペン先と交換してください。

関連項目

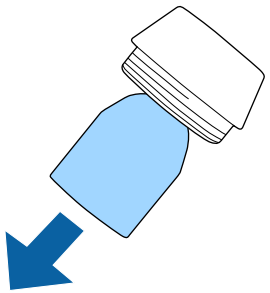
- 「ソフトペン先を交換する」 p.279
- 「ハードペン先に交換する」 p.280

ソフトペン先を交換する

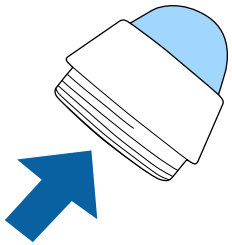
1 ペン先を回して外します。



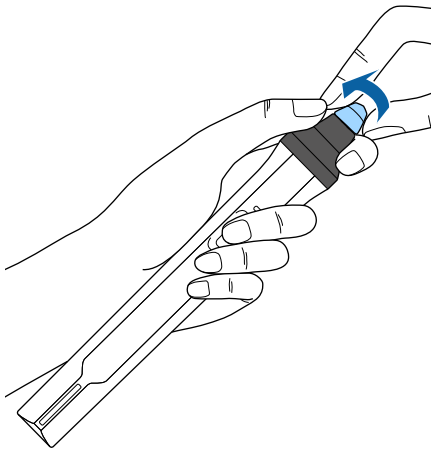
2 ソフトペン先を矢印の方向に取り外します。



3 新しいソフトペン先を取り付けます。

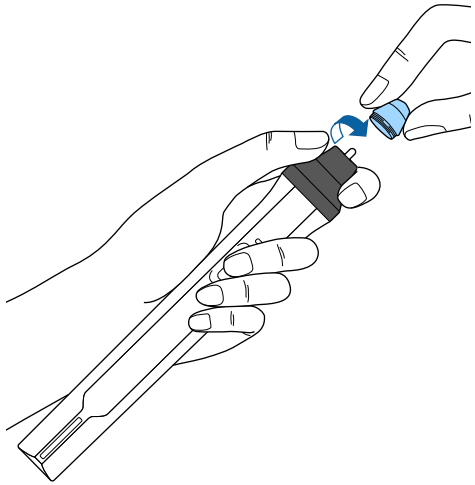


4 ペン先をインタラクティブペンに取り付けます。

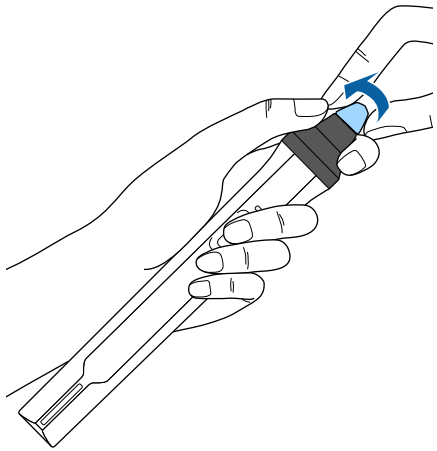


ハードペン先に交換する

1 ペン先を回して外します。



2 ハードペン先をインタラクティブペンに取り付けます。



［初期・全体設定］メニューの［ファームウェア更新］を選択すると、プロジェクターがファームウェア更新モードになります。USB-AまたはUSB-B端子を使用してファームウェアを更新します。

関連項目

- 「USBストレージを使ってファームウェアを更新する」 p.281
- 「コンピューターとUSBケーブルを使ってファームウェアを更新する」 p.282

USBストレージを使ってファームウェアを更新する

USBストレージを使って、プロジェクターのファームウェアを更新します。

ファームウェアの更新は、お客様の責任において行ってください。停電や通信異常などが原因でファームウェアの更新に失敗したときは、修理費用が有償となることがあります。

1. エプソンのホームページからお使いのプロジェクター用のファームウェアファイルをダウンロードします。

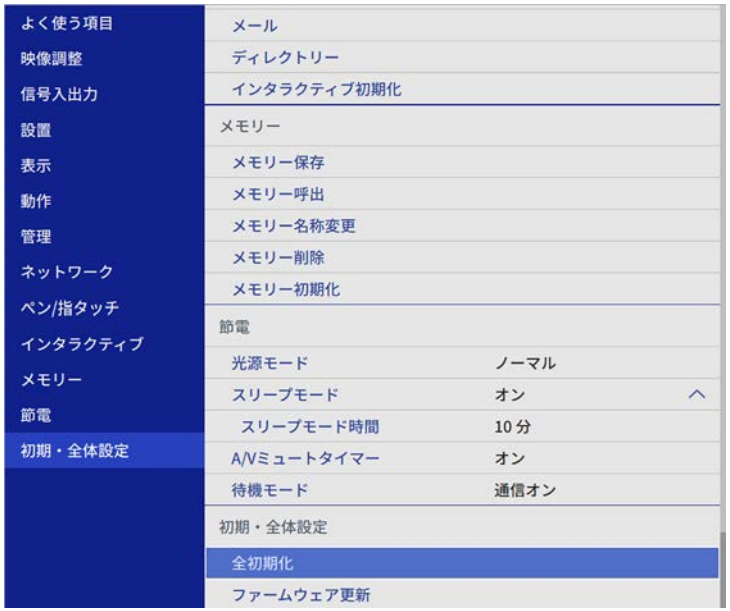
2. ダウンロードしたファームウェアファイルを、USBストレージのルート（最上位のフォルダー）にコピーします。

- USBストレージはFAT形式でフォーマットしたものを使用してください。
- USBストレージ内に、ファームウェアファイル以外のファイルをコピーしないでください。
- ファームウェアファイルのファイル名は変更しないでください。ファイル名を変更すると、ファームウェアの更新が開始されません。
- USBストレージにコピーしたファームウェアファイルが、お使いのプロジェクター用のファイルであることを確認してください。ファームウェアファイルが正しくないときは、ファームウェアの更新は始まりません。

3. 本機のUSB-A端子にUSBストレージを接続します。

USBストレージは、プロジェクターに直接接続してください。USBハブを介してUSBストレージを接続すると、ファームウェアの更新が正常に行われないことがあります。

4 【メニュー】ボタンを押し、［初期・全体設定］を選択して、【決定】ボタンを押します。



5 ［ファームウェア更新］を選択し、【決定】ボタンを押します。

6 ［はい］を選択して、ファームウェア更新を開始します。

- ファームウェアの更新中は、プロジェクターから電源コードを外さないでください。電源コードを外すと、プロジェクターが正常に起動しないことがあります。
- ファームウェアの更新中は、プロジェクターからUSBストレージを外さないでください。USBストレージを取り外すと、ファームウェアの更新が正常に行われないことがあります。

プロジェクターのインジケーターがすべて点灯から点滅に変わり、ファームウェアの更新が開始されます。更新が正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。［動作］メニューの［ダイレクトパワーオン］が［オン］に設定されているときは、更新後に自動で電源が入ります。

更新が終わったら、［管理］メニューの［情報表示］を選択し、［バージョン］が正しく更新されているかを確認します。

すべてのインジケーターが高速で点滅するときは、ファームウェアの更新が失敗した可能性があります。プロジェクターから電源コードを抜いて、もう一度差し直してください。電源コードを差し直しても点滅するときは、コンセントから電源プラグを抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

コンピューターとUSBケーブルを使ってファームウェアを更新する

コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して、プロジェクターのファームウェアを更新します。

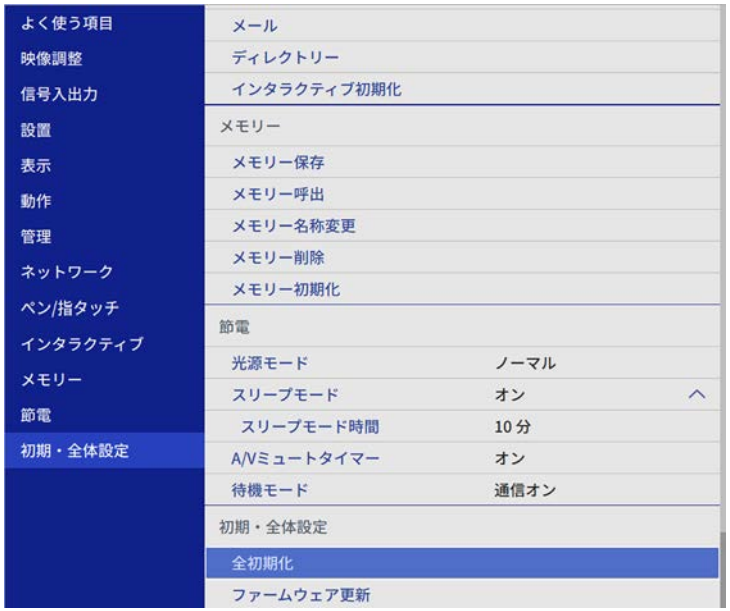
- ファームウェアの更新は、お客様の責任において行ってください。停電や通信異常などが原因でファームウェアの更新に失敗したときは、修理費用が有償となることがあります。
- ファームウェアを更新するには、お使いのコンピューターのOSが以下のいずれかである必要があります。
  - Windows 8.1（32/64ビット）
  - Windows 10（32/64ビット）
  - macOS 10.13.x (64ビット)
  - macOS 10.14.x (64ビット)
  - macOS 10.15.x (64ビット)

1 エプソンのホームページからお使いのプロジェクター用のファームウェアファイルをダウンロードします。

- ファームウェアファイルのファイル名は変更しないでください。ファイル名を変更すると、ファームウェアの更新が開始されません。
- ダウンロードしたファームウェアファイルが、お使いのプロジェクター用のファイルであることを確認してください。ファームウェアファイルが正しくないときは、ファームウェアの更新は始まりません。

2 コンピューターのUSB端子とコピー元のプロジェクターのUSB-B1またはUSB-B端子を、USBケーブルで接続します。

3 【メニュー】ボタンを押し、［初期・全体設定］を選択して、【決定】ボタンを押します。



4 ［ファームウェア更新］を選択し、【決定】ボタンを押します。

5 ［はい］を選択して、ファームウェア更新を開始します。

ファームウェアの更新中は、プロジェクターから電源コードを外さないでください。電源コードを外すと、プロジェクターが正常に起動しないことがあります。

プロジェクターのインジケーターがすべて点灯し、ファームウェア更新モードになります。コンピューターでは、プロジェクターをリムーバブルデスクとして認識されます。

6 コンピューター上で、リムーバブルディスクのルート（最上位のフォルダー）にファームウェアファイルをコピーします。

- ファームウェア以外のファイルやフォルダーをリムーバブルディスクにコピーしないでください。ファイルやフォルダーが失われる可能性があります。
- ファームウェアファイルがリムーバブルディスクにコピーされていない状態でUSBケーブルまたは電源ケーブルが抜けたときは、自動的に電源がオフになります。はじめから操作をやり直してください。

7 コンピューター上で、USB デバイスの取り外しを行い、プロジェクターからUSBケーブルを外します。

プロジェクターのインジケーターがすべて点灯から点滅に変わり、ファームウェアの更新が開始されます。更新が正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。［動作］メニューの［ダイレクトパワーオン］が［オン］に設定されているときは、更新後に自動で電源が入ります。

更新が終わったら、［管理］メニューの［情報表示］を選択し、［バージョン］が正しく更新されているかを確認します。

- すべてのインジケーターが高速で点滅するときは、ファームウェアの更新が失敗した可能性があります。プロジェクターから電源コードを抜いて、もう一度差し直してください。電源コードを差し直しても点滅するときは、コンセントから電源プラグを抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
- ファームウェア更新モードのまま20 分間操作が行われないと、自動的に電源がオフになります。はじめから操作をやり直してください。

困ったときに

想定されるトラブルと、その対処方法について説明します。

関連項目

- 「トラブルの対処方法」 p.286
- 「インジケーターの見方」 p.287
- 「映像や音声に関するトラブル」 p.290
- 「プロジェクター、リモコンの操作に関するトラブル」 p.297
- 「インタラクティブ機能に関するトラブル」 p.299
- 「コンテンツ再生モードに関するトラブル」 p.303
- 「ネットワークに関するトラブル」 p.304
- 「HDMIリンクで操作できない」 p.307

プロジェクターが正しく動作しないときは、一度電源を切り、電源コードを差し直してから再度電源を入れます。

問題が解決しないときは、以下を確認します。

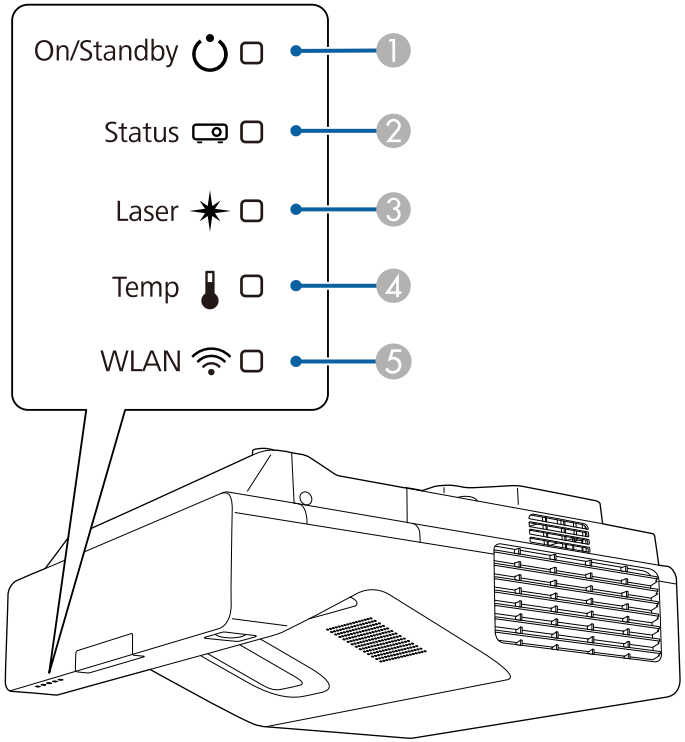
- インジケーターで本機の状態を確認する。
- 本書のトラブル一覧で対処方法を確認する。

問題が解決しないときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

インジケーターの見方

インジケーターは、本機の状態をお知らせします。インジケーターの色と状態を確認し、以下の表から対処方法を確認してください。

- 各インジケーターがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
- ［動作］メニューの［インジケーター表示］が［オフ］に設定されている場合は、正常な投写中にインジケーターがすべて消灯しています。



1. 電源インジケーター
2. ステータスインジケーター
3. レーザーインジケーター
4. 温度インジケーター
5. 無線LANインジケーター

プロジェクターの状態

インジケーターの状態	状態と対処方法
電源： 青点灯 ステータス： 青点灯 レーザー： 消灯 温度： 消灯	投写中の状態です。
電源： 青点灯 ステータス： 青点滅 レーザー： 消灯 温度： 消灯	ウォームアップ中、シャットダウン中、またはクールダウン中です。 ウォームアップ中の場合は、約30秒経つと映像が表示されます。 ウォームアップ中、シャットダウン中、またはクールダウン中は、すべてのボタン操作が無効になります。
電源： 青点灯 ステータス： 消灯 レーザー： 消灯 温度： 消灯	スタンバイ状態、スリープモード、ネットワーク監視状態のいずれかの状態です。 電源ボタンを押すと、投写を開始します。
電源： 青点滅 ステータス： 消灯 レーザー： 消灯 温度： 消灯	ネットワーク監視、または高速起動モードの準備状態のため、すべての操作が無効になります。

インジケーターの状態	状態と対処方法
電源： 状態依存 ステータス： 青点滅 レーザー： 橙点滅 温度： 状態依存	リフレッシュモード動作中です。 ☛ ［管理］ > ［リフレッシュモード］
電源： 青点滅 ステータス： 状態依存 レーザー： 状態依存 温度： 橙点滅	内部温度が高くなっています。 • エアフィルターや排気口がふさがれていないか、周辺の物や壁で通気が妨げられていないか確認します。 • エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換します。 • 高温にならない環境で使用するようにします。
電源： 消灯 ステータス： 青点滅 レーザー： 消灯 温度： 橙点灯	内部高温異常（オーバーヒート）状態です。自動的に消灯し、投写できなくなります。電源を切った状態で5分間待ち、温度を下げます。 • エアフィルターや排気口がふさがれていないか、周辺の物や壁で通気が妨げられていないか確認します。 • 高温にならない環境で使用するようにします。 • エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換します。 • 標高1,500m以上の場所でお使いのときは、［設置］メニューの［高地モード］を［オン］にします。 • 問題が解決しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
電源： 青点滅 ステータス： 状態依存 レーザー： 橙点滅 温度： 状態依存	レーザー警告です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

インジケーターの状態	状態と対処方法
電源： 消灯 ステータス： 青点滅 レーザー： 橙点灯 温度： 消灯	レーザー異常です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
電源： 消灯 ステータス： 青点滅 レーザー： 消灯 温度： 橙点滅	ファン異常またはセンサー異常状態です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
電源： 消灯 ステータス： 青点滅 レーザー： 橙点滅 温度： 消灯	内部異常状態です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
電源： 青点滅 ステータス： 状態依存 レーザー： 橙点滅 温度： 橙点滅	障害物検知警告です。警告音が鳴り、「投写窓付近の障害物を取り除いてください。」と表示されます。 • 投写窓付近に障害物がないか確認します。障害物があるときは取り除きます。 • 障害物がないときは、障害物検知センサーを掃除します。 そのままにしておくと、自動的に電源がオフになります。
電源： 消灯 ステータス： 青点滅 レーザー： 橙点灯 温度： 橙点灯	障害物検知異常です。投写窓付近に障害物がないときは、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

無線LANの状態

無線LANインジケーターの状態	状態と対処方法
青点灯	無線LANを使用できます。
速い青点滅	機器に接続中です。
遅い青点滅	異常状態です。本機の電源を切り、再度電源を入れます。
消灯	無線LANを使用できません。［管理］メニューの［無線LAN電源］を［オン］にします。

関連項目

- 「管理メニュー」 p.242
- 「エアフィルターを清掃する」 p.275
- 「エアフィルターを交換する」 p.276
- 「障害物検知センサーを清掃する」 p.273

投写映像や音声に関するトラブルの対処方法を確認してください。

関連項目

- 「映像が表示されない」 p.290
- 「USB Displayの映像が表示されない」 p.290
- 「「映像信号が入力されていません」というメッセージが表示される」 p.291
- 「「この信号は本プロジェクターでは受けられません」というメッセージが表示される」 p.292
- 「映像の一部が表示されない」 p.292
- 「映像がゆがむ」 p.293
- 「映像にノイズが入る、乱れる」 p.293
- 「映像がぼやける」 p.294
- 「映像の明るさや色合いが違う」 p.294
- 「映像に残像が残る（焼き付き）」 p.295
- 「音が出ない、小さい」 p.295
- 「マイクの音が出ない」 p.296
- 「PC Freeで画像ファイル名が正しく表示されない」 p.296

映像が表示されない

映像が表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- リモコンの【A/Vミュート】ボタンを押して、映像が一時的に消されていないか確認します。
- 必要なケーブルがすべて接続されていること、本機の電源が入っていること、接続された映像機器の電源が入っていることを確認します。
- スタンバイ状態、スリープモードから復帰するには、本機の電源ボタンを押します。また、接続されたコンピューターがスリープ状態でないか、黒一色のスクリーンセーバーが表示されていないか確認します。
- 操作パネルのボタンを押してもプロジェクターが反応しないときは、ボタン操作がロックされている可能性があります。［管理］メニューで［操作ボタンロック］を解除するか、リモコンを使用して本機の電源を入れます。
- Computer2/Monitor Out端子に接続して投写するときは、［信号入出力］メニューの［モニター出力端子］を［コンピューター2］に設定します。
- ［映像調整］メニューの［明るさ］を調整します。
- 光源の明るさを設定します。
  ☛ ［動作］ > ［光源明るさ制御］
- ［表示］メニューの［メッセージ表示］を［オン］に設定します。
- 著作権保護された動画をコンピューターで再生すると、プロジェクターから投写されないことがあります。詳しくは、コンピューターの取扱説明書をご覧ください。
- Windows Media Centerで映像を投写するときは、全画面表示を使用せず、縮小画面表示にしてください。
- Windows DirectXを使用するアプリケーションは、正しく表示されないことがあります。

関連項目

- 「管理メニュー」 p.242
- 「信号入出力メニュー」 p.231
- 「映像調整メニュー」 p.228
- 「動作メニュー」 p.239
- 「表示メニュー」 p.237
- 「操作ボタンロックを解除する」 p.175

USB Displayの映像が表示されない

USB Displayで映像が正しく表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- リモコンの【USB】ボタンを押します。
- USBケーブルを一度外し、再度接続します。

- ［信号入出力］メニューの［USB Display］が［オン］に設定されていることを確認します（EB-735Fi/EB-725Wi）。
- Epson USB Displayドライバーが正しくインストールされていることを確認します。
  お使いのOSまたはコンピューターの設定によっては、ドライバーが自動でインストールされない場合があります。以下のWebサイトから最新のドライバーをダウンロードし、インストールしてください。
  epson.jp/download
- Macの場合：［Dock］の［USB Display］アイコンを選択します。USB Displayアイコンが［Dock］に表示されないときは、［アプリケーション］フォルダーの［USB Display］をダブルクリックします。
  ［Dock］の［USB Display］アイコンメニューで［終了］を選択すると、次回USBケーブルを接続したときにUSB Displayは自動的に起動しません。
- マウスカーソルがちらつくときは、［Epson USB Displayの設定］で、［デスクトップ画面のマウスカーソルをきれいにする］を選択します。
- ［Epson USB Displayの設定］で、［レイヤードウィンドウの転送］をオフにします。
- 投写中にコンピューターの解像度を変更すると、映像の品質が低下することがあります。
- Windows Media Centerで映像を投写するときは、全画面表示を使用せず、縮小画面表示にしてください。
- Windows DirectXを使用するアプリケーションは、正しく表示されないことがあります。

関連項目

- 「USBケーブルを接続して映像と音声を出力する」 p.36

「映像信号が入力されていません」というメッセージが表示される

「映像信号が入力されていません」というメッセージが表示されるときは、次の対処方法を確認してください。

- 【入力検出】ボタンを押し、映像が表示されるまで数秒待ちます。
- 接続された映像機器の電源を入れ、必要な場合はプレゼンテーションや動画の再生を開始します。
- 投写に必要なケーブルがすべて接続されているか確認します。
- ノート型コンピューターから投写するときは、コンピューターの画面出力を切り替えて、プロジェクターに映像を表示します。
- 必要に応じて、本機および接続された映像機器の電源を一度切ってから、再度電源を入れます。
- HDMIケーブルで接続しているときは、より短いケーブルに交換して試してください。
- HDMIケーブルで接続しているときは、［信号入出力］メニューの［HDMI EQ 設定］を変更します。
- スティック型端末を接続しているときは、［信号入出力］メニューの［HDMI EQ 設定］を［1］に設定します。

関連項目

- 「Windowsのノートパソコンから映像を出力する」 p.291
- 「Macのノート型コンピューターから映像を出力する」 p.292

Windowsのノートパソコンから映像を出力する

ノート型コンピューターからの投写時に「映像信号が入力されていません」というメッセージが表示されるときは、コンピューターの画面出力を切り替えて、プロジェクターに映像を表示します。

1. キーボードのWindowsキーを押しながら**P**キーを押し、［複製］を選択します。

2 ノート型コンピューターとプロジェクターで同じ映像が表示されないときは、Windowsの［ディスプレイ］ユーティリティで、外部モニター端子が有効であるか、拡張ディスプレイが無効になっているかを確認します。

3 必要に応じて、ビデオカードの設定を確認し、マルチディスプレイオプションを［ミラー］または［複製］に設定します。

Macのノート型コンピューターから映像を出力する

Macのノート型コンピューターからの投写時に、「映像信号が入力されていません」というメッセージが表示されるときは、コンピューターの設定でディスプレイをミラーリングします。（詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。）

1 ［システム環境設定］を開き、［ディスプレイ］を選択します。

2 必要に応じて、［ディスプレイ］または［カラーLCD］を設定します。

3 ［調整］または［アレンジメント］をクリックします。

4 ［ディスプレイをミラーリング］を選択します。

「この信号は本プロジェクターでは受けられません」というメッセージが表示される

「この信号は本プロジェクターでは受けられません」というメッセージが表示されるときは、次の対処方法を確認してください。

- ［信号入出力］メニューで正しい入力信号方式が選択されているか確認します。
- コンピューターのディスプレイ解像度が本機の対応解像度、周波数と合っているか確認します。必要に応じて、コンピューターのディスプレイ解像度を変更します。

関連項目

- 「信号入出力メニュー」 p.231
- 「対応解像度」 p.315

映像の一部が表示されない

映像が部分的にしか表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- コンピューターケーブルを使ってコンピューターから映像を投写しているときは、リモコンの【自動調整】ボタンを押して、映像信号を最適化します。
- お使いのスクリーンに合わせて、［設置］メニューの［スクリーンタイプ］が正しく設定されているか確認します。
  映像を表示する領域と映像との間に余白が生じたときは、映像の位置を調整します。
- ［映像調整］メニューの［表示倍率］がオフになっていることを確認します（EB-755F/EB-750F）。
- ［映像調整］メニューの［表示位置］で映像の表示位置を調整します。
  ☛ ［映像調整］ > ［アナログ信号調整］ > ［表示位置］
  ワイド・テレボタンで映像の大きさを調整済み、または台形補正を実施済みの場合は、デジタルピクチャーシフトで映像の表示位置を調整します。
  ☛ ［設置］ > ［デジタルズーム］ > ［デジタルピクチャーシフト］
- リモコンの【アスペクト】ボタンを押して、アスペクト比を変更します。
- 接続された機器の信号に応じて、［映像調整］メニューの［入力解像度］を設定します。

- 【Eズーム】ボタンで映像をズームしたときは、【戻る】ボタンを押してEズームを解除します。
- コンピューターのディスプレイ設定でデュアルディスプレイが無効になっているか、本機の対応解像度に合った設定がされているか確認します。
- プレゼンテーションファイルが本機の対応解像度を超えていないか確認します。
- コンテンツ再生モードで投写しているときは、［エフェクト］機能の設定を確認してください（EB-755F/EB-750F）。
  ☛ ［動作］ > ［コンテンツ再生］ > ［エフェクト］
- ［設置］メニューで［設置モード］を正しく設定します。

関連項目

- 「設置メニュー」 p.234
- 「映像調整メニュー」 p.228
- 「対応解像度」 p.315
- 「映像の位置を調整する（スクリーン位置）」 p.60
- 「映像に効果を加える（エフェクト機能）」 p.148

映像がゆがむ

投写画面がゆがむときは、次の対処方法を確認してください。

- 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。
- 操作パネルの台形補正ボタンを押して映像のゆがみを補正します。
- Quick Cornerを使って、コーナーの形状を個別に補正します。
  ☛ ［設置］ > ［幾何学歪み補正］ > ［Quick Corner］
- 湾曲したスクリーンに投写するときは、［湾曲補正］で映像の形状を補正します。
  ☛ ［設置］ > ［幾何学歪み補正］ > ［湾曲補正］
- ［ポイント補正］機能を使用して部分的に発生するわずかなゆがみを補正します。
  ☛ ［設置］ > ［幾何学歪み補正］ > ［ポイント補正］

関連項目

- 「台形補正ボタンで映像のゆがみを補正する」 p.66
- 「Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する」 p.67
- 「湾曲補正で映像のゆがみを補正する」 p.70
- 「ポイント補正で映像のゆがみを補正する」 p.72

映像にノイズが入る、乱れる

投写映像に電子的な干渉（ノイズ）や妨害が入るときは、次の対処方法を確認してください。

- 本機と映像機器を接続しているケーブルの状態を確認します。ケーブルが以下の状態であることを確認してください。
  - 干渉を受けないように、電源コードから離れている
  - ケーブルの両端が確実に接続されている
  - 延長ケーブルを使用していない
- ［映像調整］メニューの［ノイズリダクション］、［MPEGノイズリダクション］、［プログレッシブ変換］を設定します。
  ☛ ［画質］ > ［イメージ強調］ > ［ノイズリダクション］
  ☛ ［画質］ > ［イメージ強調］ > ［MPEGノイズリダクション］
  ☛ ［画質］ > ［イメージ強調］ > ［プログレッシブ変換］
- ［映像調整］メニューの［入力解像度］を［自動］に設定してください。
- コンピューターのディスプレイ解像度やリフレッシュレートが本機の対応解像度、リフレッシュレートと合っているか確認します。
- コンピューターケーブルを使ってコンピューターから映像を投写しているときは、リモコンの【自動調整】ボタンを押して、［トラッキング］と［同期］の設定を最適化します。映像が正しく調整されないときは、［映像調整］メニューで［トラッキング］と［同期］を設定します。
  ☛ ［映像調整］ > ［アナログ信号調整］ > ［トラッキング］

☛ ［映像調整］ > ［アナログ信号調整］ > ［同期］

- 映像のゆがみを補正したときは、［映像調整］メニューの［シャープネス］を低い値に設定して、投写映像の画質を向上させます。
- 延長ケーブルを使用して電源に接続しているときは、延長ケーブルを使わずに投写して、映像にノイズが入らないか確認します。
- ［信号入出力］メニューで、［入力信号フォーマット］や［EDID］を正しく設定します。
- USB Displayを使って投写するときは、［Epson USB Displayの設定］で［レイヤードウィンドウの転送］をオフにします。

関連項目

- 「映像調整メニュー」 p.228
- 「対応解像度」 p.315
- 「信号入出力メニュー」 p.231

映像がぼやける

投写映像がぼやけるときは、次の対処方法を確認してください。

- テストパターンを表示して、フォーカスレバーでピントを調整します。
- 投写距離の推奨範囲内に設置します。
- 映像の高さ調整のために本機の傾斜角度を大きくすると映像がゆがみます。傾斜角度を小さくして台形補正の調整値を小さくします。
- 本機の投写窓を掃除します。

> 寒い場所から暖かい場所に持ち込んだときは、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間くらい前に本機を設置するようにします。

- ［映像調整］メニューの［シャープネス］を調整して、投写映像の画質を向上させます。
- コンピューターケーブルを使ってコンピューターから映像を投写しているときは、リモコンの【自動調整】ボタンを押して、［トラッキング］と［同期］の設定を最適化します。映像に縦の縞模様が出たり、全体的にぼやけるときは、均一なパターン画面を表示し、［トラッキング］と［同期］を設定します。

  ☛ ［映像調整］ > ［アナログ信号調整］ > ［トラッキング］

  ☛ ［映像調整］ > ［アナログ信号調整］ > ［同期］
- コンピューターから映像を投写しているときは、解像度を下げるか、本機の解像度に合わせて解像度を変更します。

関連項目

- 「映像調整メニュー」 p.228
- 「信号入出力メニュー」 p.231
- 「対応解像度」 p.315
- 「ピントを調整する」 p.62
- 「投写窓を清掃する」 p.272

映像の明るさや色合いが違う

投写映像が暗すぎたり明るすぎるとき、また色合いが正しく表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- リモコンの【カラーモード】ボタンを押して、映像と投写環境に合うカラーモードを選択します。
- お使いのビデオ機器の設定を確認します。
- ［映像調整］メニューで［明るさ］、［コントラスト］、［色合い］、［色の濃さ］、［RGBCMY］などを設定します。
- ［信号入出力］メニューで、［入力信号フォーマット］や［EDID］を正しく設定します。
- 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。ケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。
- 投写距離の推奨範囲内に設置します。

- 本機を複数台並べて投写しているときは、［管理］メニューの［光源キャリブレーション］が、すべてのプロジェクターで正しく設定されているか確認します。一部のプロジェクターでのみ光源キャリブレーションが実行されると、ホワイトバランスや明るさレベルのずれが生じることがあります。

関連項目

- 「映像調整メニュー」 p.228
- 「信号入出力メニュー」 p.231
- 「管理メニュー」 p.242
- 「映像を最適化する（カラーモード）」 p.85

映像に残像が残る（焼き付き）

投写映像に残像（焼き付き）が残るときは、［リフレッシュモード］を使って解消します。［管理］メニューで、［リフレッシュモード］ > ［開始］を選択します。

関連項目

- 「管理メニュー」 p.242

音が出ない、小さい

音が出ない、小さすぎるなどの問題があるときは、次の対処方法を確認してください。

- 本機の音量設定を調整します。
- 一時的に映像と音を消したときは、リモコンの【A/Vミュート】ボタンを押して、映像と音を再開します。
- コンピューター、ビデオ機器の音量が大きくなっているか、音声出力が正しく設定されているか確認します。
- プロジェクターとビデオ機器のケーブルが正しく接続されているか確認します。
- 接続するオーディオケーブルは「抵抗なし」と表記されているものを使用します。
- USB Displayを使って投写するときは、［Epson USB Displayの設定］で［音声をプロジェクターで出力する］をオンにします。
- 正しい音声入力端子を選択します。
  ☛ ［信号入出力］ > ［音声出力］
  ☛ ［信号入出力］ > ［HDMI音声出力］
- 本機で投写していないときも、接続しているオーディオ機器の音声を出力するときは、以下の設定をします。
  - ［動作］メニューの［高速起動］をオフにする。
  - ［信号入出力］メニューの［A/V出力］を［常時］に設定する。
- ［音声出力機器］を正しい音声出力に設定します。
  ☛ ［信号入出力］ > ［HDMIリンク］ > ［音声出力機器］
- HDMIケーブルで接続している機器の音声が出ないときは、接続機器の音声出力をPCMに設定します。
- MacとプロジェクターをHDMIケーブルで接続していて音が出ないときは、MacがHDMI端子からの音声出力に対応しているか確認します。対応していない場合はオーディオケーブルを接続します。
- コンピューターの音量を最小、プロジェクターの音量を最大に設定していると、ノイズが入ることがあります。コンピューターの音量を上げて、プロジェクターの音量を下げてください。（Epson iProjection (Windows/Mac)またはUSB Displayを使用する場合）

関連項目

- 「プロジェクターを接続する」 p.35
- 「信号入出力メニュー」 p.231
- 「音量ボタンで音量を調整する」 p.97

マイクの音が出ない

プロジェクターに接続したマイクの音が出ないときは、次の対処方法を確認してください（EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W）。

- マイクが正しく接続されていることを確認します。
- ［信号入出力］メニューの［マイク入力レベル］を確認します。マイク入力レベルを上げすぎると、その他の接続機器からの音声が聞こえなくなります。

関連項目

- 「信号入出力メニュー」 p.231
- 「マイクを接続する」 p.44

PC Freeで画像ファイル名が正しく表示されない

ファイル名の文字数が表示幅を超える場合や、非対応の記号が含まれている場合は、PC Free機能ではファイル名が短縮または変更されます。ファイル名を短縮もしくは変更してください。

プロジェクター、リモコンの操作に関するトラブルの対処方法を確認してください。

関連項目

- 「電源が入らない、予期せず切れる」 p.297
- 「リモコンで操作できない」 p.297
- 「パスワードが入力できない」 p.298
- 「「時刻を保持する電池残量が低下しています」というメッセージが表示される」 p.298

電源が入らない、予期せず切れる

電源ボタンを押しても本機の電源が入らない、予期せず電源が切れるときは、次の対処方法を確認してください。

- 電源コードが本機とコンセントに確実に接続されていることを確認します。
- リモコンの電源ボタンを押しても本機の電源が入らないときは、リモコンの電池を確認します。また、［設置］メニューの［リモコン受光部］で、いずれかの受光部がオンになっていることを確認します。
- 本機のボタンはセキュリティー上の目的でロックされていることがあります。［管理］メニューで［操作ボタンロック］を解除するか、リモコンを使用して本機の電源を入れます。
- 本機の光源が予期せず消えるときは、一定時間操作が行われずスリープモードになっている可能性があります。いずれかのボタンを押して、スリープモードから復帰します。スリープモードを無効にするには、［動作］メニューの［スリープモード］を［オフ］にします。
- 本機の光源が予期せず消えるときは、A/Vミュートタイマーが有効になっている可能性があります。［動作］メニューの［A/Vミュートタイマーク］を［オフ］に設定してください。
- 本機の光源が消え、ステータスインジケーターが点滅して温度インジケーターが点灯しているときは、本機の内部高温異常（オーバーヒート）で電源がオフになっています。
- プロジェクターの設定によって、スタンバイ状態でもファンが回転することがあります。また、スタンバイ状態から電源をオンにしたときに、ファンが大きな音を立てて回転することがありますが、異常ではありません。
- 電源コードが故障している可能性があります。電源コードを抜いて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

関連項目

- 「管理メニュー」 p.242
- 「動作メニュー」 p.239
- 「設置メニュー」 p.234
- 「操作ボタンロックを解除する」 p.175

リモコンで操作できない

本機がリモコン操作に反応しないときは、次の対処方法を確認してください。

- リモコンの電池が正しくセットされていること、電池が切れていないことを確認します。必要に応じて、電池を交換します。
- リモコン信号が届く距離、角度からリモコンを操作します。
- 本機がウォームアップ中またはシャットダウン中でないか確認します。
- リモコンのボタンが押し込まれた状態になっていないか確認します。その状態ではリモコンが操作できないことがあります。ボタンを元の状態に戻してください。
- 蛍光灯の強い光、直射日光、赤外線機器の信号が、本機のリモコン受光部に干渉することがあります。照明の明るさを落とす、または

直射日光や赤外線干渉を避けられる場所に本機を移動してください。

- ［設定］メニューの［リモコン受光部］で、いずれかの受光部がオンになっていることを確認します。
- ［リモコン受光部］がオフに設定されているときは、リモコンの【メニュー】ボタンを15秒以上押したままにして、この設定を初期値に戻します。
- プロジェクターIDを設定しているときは、プロジェクターIDと同じ番号をリモコンで選択してリモコン操作を有効にします。
- リモコンの【ID】ボタンを押しながら、［0］（ゼロ）ボタンを押します。IDを［0］に設定すると、プロジェクターIDの設定に関わらず、すべてのプロジェクターを操作できます。
- リモコンを紛失した場合は、新たにリモコンをお買い求めいただけます。

関連項目

- 「リモコンを操作する」 p.49
- 「設置メニュー」 p.234
- 「リモコンに電池を取り付ける」 p.47
- 「操作対象のプロジェクターIDをリモコンで選択する」 p.159

パスワードが入力できない

パスワードを入力できない、または忘れたときは、次の対処方法を確認してください。

- パスワードを設定せずに、パスワードプロテクトを有効にしていることがあります。初期パスワード**0000**を入力します。
- 誤ったパスワードを何度も入力すると、問い合わせコードを示すメッセージが表示されます。そのコードをメモして、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。パスワードに関してお問い合わせをいただいた際は、お客様のお名前や連絡先をお聞きし、ご本人であることを確認させていただきます。
- Web制御パスワードを忘れたときは、以下を入力してみてください。
  - ユーザー名：**EPSONWEB**
  - デフォルトのパスワード：**admin**
- Remoteパスワードを忘れたときは、以下を入力してみてください。
  - ユーザー名：**EPSONREMOTE**
  - デフォルトのパスワード：**guest**
- リモコンを紛失したときはパスワードを入力できません。新たにリモコンをお買い求めください。

「時刻を保持する電池残量が低下しています」というメッセージが表示される

「時刻を保持する電池残量が低下しています」というメッセージが表示される場合は、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

インタラクティブ機能を使用するときに想定されるトラブルの対処方法を確認してください（EB-735Fi/EB-725Wi）。

関連項目

- 「「Easy Interactive Functionにエラーが発生しました。」というメッセージが表示される」 p.299
- 「インタラクティブペンが動作しない」 p.299
- 「投写画面上でコンピューターを操作できない」 p.300
- 「インタラクティブペンの位置が正しくない」 p.300
- 「インタラクティブペンの反応が遅い、使いにくい」 p.300
- 「指タッチ操作がうまくできない」 p.301
- 「キャプチャー、貼り付け、印刷、保存、スキャンができない」 p.301
- 「ホワイトボードで時刻の設定が正しくない」 p.302
- 「ホワイトボードが表示されない」 p.302

「Easy Interactive Functionにエラーが発生しました。」というメッセージが表示される

「Easy Interactive Functionにエラーが発生しました。」というエラーメッセージが表示されるときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください

インタラクティブペンが動作しない

インタラクティブペンが正しく動作しないときは、次の対処方法を確認してください。

- ペン先の黒い部分を持たないでください。
- 手が信号を妨げないように、ペンを持つ角度を変えてみてください。
- ペン側面のボタンを押して、電池残量を確認します。バッテリーインジケーターが点灯しないときは、電池を交換します。
- ペン先がしっかりと取り付けられていることを確認します。
- ペン先がすり減ったり壊れたりしているときは、新しいペン先と交換します。
- ペンとインタラクティブペン受光部との間に障害物がないか確認します。
- ケーブル類が信号を妨げないよう、ケーブルカバーが正しく取り付けられているか確認します。
- 室内の照明を暗くします。蛍光灯類は消灯します。投写画面とインタラクティブペン受光部に、直射日光や強い光が当たっていないか確認します。
- インタラクティブペン受光部が汚れていないか、ホコリがたまっていないか確認します。
- 赤外線リモコン、赤外線マウス、赤外線マイクなど、赤外線を使う機器からの干渉がないか確認します。
- インタラクティブペンを初めて使うときは、ペン位置を本機に正しく認識させるため、必ずペン位置合わせを行ってください。詳しくは、本機の『設置工事説明書』をご覧ください。
- 同じ部屋で本機を2台以上使用しているときは、インタラクティブペン同士が干渉して、動作が不安定になることがあります。オプションのワイヤードリモコンケーブルでプロジェクター同士を接続し、［複数台同期］を［有線］に設定してください。
  ☛ ［ペン/指タッチ］ > ［複数台設置］ > ［複数台同期］
  ワイヤードリモコンケーブルをお持ちでない方は、［ペン/指タッチ］メニューの［赤外線強度］を［強い］に設定してください。
  ☛ ［ペン/指タッチ］ > ［複数台設置］ > ［赤外線強度］
- ソフトペン先をお使いの場合は、ハードペン先に交換してみてください。本機以外のプロジェクターはソフトペン先に対応していない場合があります。

関連項目

- 「インタラクティブペンのペン先を交換する」 p.279

- 「インタラクティブペンを使う」 p.101
- 「インタラクティブペンに電池を取り付ける」 p.48
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11
- 「ペン/指タッチメニュー」 p.255

投写画面上でコンピューターを操作できない

投写画面上でコンピューターを操作できないときは、次の対処方法を確認してください。

- インタラクティブペンを初めて使うときは、ペン位置を本機に正しく認識させるため、必ずペン位置合わせを行ってください。詳しくは、本機の『設置工事説明書』をご覧ください。
- USBケーブルが正しく接続されているか確認します。USBケーブルを一度外し、再度接続します。
- ツールバーの［PC操作］がオンになっているか確認します。
- Screen Mirroringで接続しているときは、コンピューターの設定が必要です。キーボードのWindows キーを押したまま**K**キーを押して、［このデバイスからのマウス、キーボード、タッチ、ペン入力を許可する］にチェックを入れます。

関連項目

- 「インタラクティブペンのペン先を交換する」 p.279
- 「アノテーションモードのツールバー」 p.114
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11
- 「USBケーブルを接続して映像と音声を出力する」 p.36
- 「ウォールプレートに設置したミニPCを接続する」 p.38

インタラクティブペンの位置が正しくない

インタラクティブペンの位置が正しく認識されないときは、次の対処方法を確認してください。

- インタラクティブペンを初めて使うときは、ペン位置を本機に正しく認識させるため、必ずペン位置合わせを行ってください。自動位置合わせを行っても、ペンを押し当てた位置と描画される位置がずれるときは、手動位置合わせを行います。詳しくは、本機の『設置工事説明書』をご覧ください。
- ペン操作エリアを調整します。
  ☛ ［ペン/指タッチ］ > ［PC操作］ > ［操作エリア手動調整］
- リモコンの【Eズーム】ボタンで映像を拡大しているときは、ペン位置が正しく認識されません。映像を元のサイズに戻します。

関連項目

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11
- 「ペン操作エリアを調整する」 p.126

インタラクティブペンの反応が遅い、使いにくい

インタラクティブペンの反応が遅いときや使いにくいときは、次の対処方法を確認してください。

- 投写画面に対してペンを垂直に持ちます。
- インタラクティブ機能の動作を安定させるために、コンピューターとプロジェクターを接続するときは、映像投写用にはコンピューターケーブルまたはHDMIケーブル、インタラクティブ機能用にはUSBケーブルの使用をお勧めします。
- USB Displayを使ってWindowsコンピューターの映像を投写するときは、［Epson USB Displayの設定］でWindows Aeroを無効にします。

関連項目

- 「プロジェクターを接続する」 p.35

指タッチ操作がうまくできない

指タッチ操作がうまくできないときは、次の対処方法を確認してください。

- タッチユニットが正しく設置されているか、電源コードが確実に接続されているか確認してください。詳しくは、本機の『設置工事説明書』をご覧ください。
- ［タッチ無効］になっていると、指タッチ操作ができません。ツールバーの［タッチ有効］を選択してください。
- タッチユニットのインジケーターが点灯していないときは、［ペン/指タッチ］メニューの［電源］が［オン］になっているか確認してください。
  ☛ ［ペン/指タッチ］ > ［タッチユニット］ > ［電源］
- タッチユニットの角度調整を行います。詳しくは、本機の『設置工事説明書』をご覧ください。
- タッチユニットのレーザー照射口と投写画面の間に、ケーブル類やペンスタンドなどの障害物がないか確認します。投写画面の周囲に移動できない障害物があるときは、スクリーンに赤外線ディフレクターを取り付けます。詳しくは、『設置工事説明書』をご覧ください。
- 赤外線リモコン、赤外線マウス、赤外線マイクなど、赤外線を使う機器からの干渉がないか確認します。
- 指で描画している位置と実際に描画される位置がずれるときは、［ペン/指タッチ］メニューから［指タッチ位置合わせ］を行ってください。
  ☛ ［ペン/指タッチ］ > ［タッチユニット］ > ［指タッチ位置合わせ］
- 位置合わせを行っても指タッチ操作がうまくできないときは、［ペン/指タッチ］メニューの［タッチ補正範囲］で設定を確認します。
  ☛ ［ペン/指タッチ］ > ［タッチユニット］ > ［タッチ補正範囲］
  - 指タッチがドラッグになってしまうときは、［広い］を選択します。
  - なめらかにマウス操作ができないときは、［狭い］を選択します。
- 投写画面の前や周囲（約10cm以内）に人が立っていたり障害物があったりすると、指タッチが操作がうまくできないことがあります。
- 衣服の袖や身体の一部が投写画面に近づいたり接触したりすると、指タッチ操作がうまくできないことがあります。投写画面から1 cm以上離れてください。

関連項目

- 「ホワイトボードモードのツールバー」 p.107
- 「アノテーションモードのツールバー」 p.114
- 「指を使って操作する」 p.103
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11
- 「ペン/指タッチメニュー」 p.255

キャプチャー、貼り付け、印刷、保存、スキャンができない

キャプチャー、貼り付け、印刷、保存、スキャンができないときは、次の対処方法を確認してください。

- キャプチャーした画像を貼り付けられないときは、画像が保護されていないことを確認します。
- 貼り付けた画像の周囲に黒い枠が表示されるときは、画像の位置やサイズが変わっていないか確認します。
- 印刷、スキャンができないときは、プリンターのインク切れ、紙詰まり、その他の問題がないことを確認します。
- プリンターをUSBケーブルで接続しているときは、プロジェクターのUSB-A端子とプリンターのUSB-B端子がUSBケーブルで接続されていることを確認します。
- プリンターをUSBケーブルで接続しているときは、別のUSBケーブルに交換してみてください。5メートル未満のケーブルをお使いください。

- 同時に複数のプリンターや複合機を接続しないでください。プリンターや複合機がプロジェクターに対応していることを確認してください。
- ［インタラクティブ］メニューの設定を確認します。

関連項目

- 「インタラクティブメニュー」 p.257
- 「プリンターを接続する」 p.42

ホワイトボードで時刻の設定が正しくない

ホワイトボードモードで内部ストレージの時刻設定が正しくないときは、［管理］メニューで［日付＆時刻］を設定し直してください。

関連項目

- 「管理メニュー」 p.242

ホワイトボードが表示されない

ホワイトボードが表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- ［インタラクティブ］メニューの［描画機能を利用する］をオンにしてください。
- Easy Interactive Toolsが既に起動しているときは、ホワイトボードは表示できません。

関連項目

- 「ホーム画面」 p.52

プレイリストを再生できないときは、次の対処法を確認してください（EB-755F/EB-750F）。

- ［コンテンツ再生］を［オン］に設定します。
  ☛ ［動作］ > ［コンテンツ再生］
- プレイリストがUSBメモリーに保存されていることを確認します。
- USBメモリーが直接本機に接続されていることを確認します。マルチカードリーダーやUSBハブを使用しないでください。
- お使いのUSBメモリーに複数のパーティションが作成されていると、プレイリストが正しく再生されないことがあります。パーティションをひとつにしてからプレイリストを保存してください。
- 解像度の異なるプロジェクターで同じプレイリストを再生しないでください。［エフェクト］機能を使って追加された色や形の装飾が正しく再生されないことがあります。
  ☛ ［動作］ > ［コンテンツ再生］ > ［エフェクト］

関連項目

- 「動作メニュー」 p.239
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.11

ネットワーク経由でプロジェクターを使用するときに想定されるトラブルの対処方法を確認してください。

関連項目

- 「無線LAN認証できない」 p.304
- 「Webブラウザーを使って設定を変更できない」 p.304
- 「異常が起きたときにメール通知されない」 p.304
- 「ネットワーク経由で投写した映像が乱れる」 p.305
- 「Screen Mirroringで接続できない」 p.305
- 「Screen Mirroringソースを2系統使用できない」 p.305
- 「Screen Mirroringの映像・音声が乱れる」 p.306
- 「共有画面を受信できない」 p.306

無線LAN認証できない

無線LANの認証に失敗するときは、次の対処方法を確認してください。

- 無線LANが正しく設定されていても認証できないときは、［管理］メニューの［日付＆時刻］を設定し直してください。
- ［ネットワーク］メニューで［セキュリティー］の設定を確認します。
  ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［無線LAN］ > ［セキュリティー］
- アクセスポイントのセキュリティーがWPA3-EAPに設定されているときは、WPA2/WPA3-EAPに設定します。

関連項目

- 「管理メニュー」 p.242
- 「ネットワーク設定 - 無線LANメニュー」 p.247

Webブラウザーを使って設定を変更できない

Webブラウザーを使って本機の設定を変更できないときは、正しいユーザー名とパスワードを確認します。

- ユーザー名には**EPSONWEB**と入力します。（ユーザー名は変更できません。）
- パスワードには、［ネットワーク］メニューで設定しているパスワードを入力します。デフォルトのパスワードは**admin**です。
- インフラストラクチャーモードの場合、プロジェクターが接続しているネットワークへのアクセス権を持っていることを確認します。
- お使いのWebブラウザーで、プロキシサーバーを使用して接続するように設定されていると、［Epson Web Control］画面を表示できません。プロキシサーバーを使用しないで接続するように設定してください。
- ［動作］メニューの［待機モード］が［通信オン］のスタンバイ状態のとき、接続しているネットワーク機器の電源が入っていることを確認します。ネットワーク機器の電源を入れた後、プロジェクターを再起動してください。

ユーザー名、パスワードの大文字小文字は区別されます。

関連項目

- 「ネットワーク設定メニュー」 p.246
- 「動作メニュー」 p.239

異常が起きたときにメール通知されない

プロジェクターの異常/警告を通知するメールが受け取れないときは、次の対処方法を確認してください。

- 本機の電源が入っているか、ネットワークに正しく接続されているか確認します。本機に致命的な異常が発生し、瞬時に起動停止状態になったときは、メールが送信できないことがあります。
- ［メール通知］メニューまたはネットワークソフトウェアでメール通知機能を正しく設定していることを確認します。
- 本機がスタンバイ状態のときもプロジェクターを監視できるように、［動作］メニューの［待機モード］を［通信オン］に設定します。
  お使いのネットワーク環境に応じて、［通信ポート］の設定を変更します。

関連項目

- 「ネットワーク設定 - メール通知メニュー」 p.251
- 「動作メニュー」 p.239

ネットワーク経由で投写した映像が乱れる

ネットワーク経由で投写した映像が乱れるときは、次の対処方法を確認してください。

- アクセスポイントとコンピューターやモバイルデバイス、プロジェクターの間に障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
- アクセスポイントとコンピューターやモバイルデバイス、プロジェクターが離れすぎていないか確認します。離れすぎているときは、近づけて接続します。
- Bluetoothを使用する機器や電子レンジなどからの干渉がないか確認してください。干渉の可能性のある機器を遠ざけるか、無線帯域を確保します。
- 映像の表示が遅いときは、接続している機器の数を減らしてください。

Screen Mirroringで接続できない

Screen Mirroringでプロジェクターに接続できないときは、次の対処方法を確認してください。

- プロジェクターの設定を確認します。
  - ［シンプルAP］を［オン］に設定します。
    ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［シンプルAP］
  - ［Screen Mirroring］を［オン］に設定します。
    ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［ネットワーク投写］ > ［Screen Mirroring］
  - ［Screen Mirroring］を［オフ］設定し、再度［オン］に設定します。
    ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［ネットワーク投写］ > ［Screen Mirroring］
- モバイルデバイスの設定を確認します。
  - モバイルデバイスの設定が正しいことを確認します。
  - 接続を終了した直後に再接続するときは、接続までに時間がかかることがあります。しばらくしてから再接続します。
  - モバイルデバイスを再起動します。
  - 一度Screen Mirroringで接続すると、モバイルデバイスに本機の接続情報が記録されることがありますが、この画面からは再接続できないことがあります。接続可能なデバイスの一覧から、再度本機を選択してください。

関連項目

- 「ネットワーク設定メニュー」 p.246
- 「ネットワーク設定 - ネットワーク投写メニュー」 p.253

Screen Mirroringソースを2系統使用できない

Screen Mirroringソースを2系統同時に使用できないときは、［割り込み接続］を［オフ］にします。

☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［ネットワーク投写］ > ［Screen Mirroring］

関連項目

- 「ネットワーク設定 - ネットワーク投写メニュー」 p.253

Screen Mirroringの映像・音声が乱れる

Screen Mirroringでモバイルデバイスから投写した映像・音声が乱れるときは、次の対処方法を確認してください。

- モバイルデバイスのWi-Fiアンテナ部分を隠さないようにします。
- モバイルデバイスでScreen Mirroringとインターネット接続を同時に行うと、映像が止まったり、ノイズが入ったりすることがあります。無線帯域を確保し、モバイルデバイスの通信速度を向上させるために、インターネット接続を停止します。
- Screen Mirroringで投写できるコンテンツであることを確認します。
- モバイルデバイスの設定によっては、パワーセーブ時に接続が切れることがあります。デバイスの省電力設定などを確認します。
- モバイルデバイスの無線ドライバーやファームウェアを最新の状態に更新します。

共有画面を受信できない

他のプロジェクターから配信された画面を受信できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 画面を共有しているプロジェクターと同じネットワークに接続してください。
- ［画面共有］の設定を［オン］にします。
  ☛ ［ネットワーク］ > ［ネットワーク設定］ > ［ネットワーク投写］ > ［画面共有］
- Epson iProjectionで接続しているコンピューターやモバイルデバイスがないことを確認します。
- 画面を共有しているプロジェクターとファームウェアのバージョンが異なるときは、ファームウェアの更新が必要になることがあります。

関連項目

- 「ネットワーク設定 - ネットワーク投写メニュー」 p.253

HDMIリンクで操作できない

HDMIリンクで接続機器を操作できないときは、次の対処方法を確認してください。

- お使いのケーブルがHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。
- 接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMIリンクを使うために必要なケーブルがすべて接続されていることを確認します。
- 接続機器の電源がスタンバイ状態になっているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- スピーカーを接続しているときは、PCM出力に設定します。
- 新しく機器を接続したり、接続を変更した後に操作できないときは、接続機器のCEC機能を設定し直して、再起動します。
- 4台以上のマルチメディアプレイヤーを接続しないでください。HDMI CEC規格で同時に接続できるプレイヤーは3台までです。
- HDMI CEC規格に準拠していない機器は接続機器一覧に表示されません。HDMI CEC規格に準拠した機器をお使いください。

関連項目

- 「マルチプロジェクションメニュー」 p.262

付録

本機の仕様や使用上の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

関連項目

- 「オプション・消耗品一覧」 p.309
- 「スクリーンサイズと投写距離」 p.312
- 「対応解像度」 p.315
- 「本機仕様」 p.321
- 「外形寸法図」 p.324
- 「USB Displayのシステム要件」 p.326
- 「Easy Interactive Driverシステム動作条件」 p.327
- 「安全規格対応シンボルマークと説明」 p.328
- 「レーザー製品を安全にお使いいただくために」 p.330
- 「用語解説」 p.331
- 「一般のご注意」 p.333

下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。

これらのオプション品は2020年5月現在のものです。

予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

関連項目

- 「スクリーン」 p.309
- 「ケーブル」 p.309
- 「設置用金具」 p.309
- 「インタラクティブ用オプション」 p.310
- 「外付けオプション」 p.310
- 「消耗品」 p.310
- 「無線LAN用オプション」 p.310
- 「使用可能な旧オプション品」 p.310

スクリーン

これらのオプション品はEB-735Fi/EB-725Wiでのみ使用できます。

53型スクリーン ELPSC30
携帯型マグネットスクリーンです。（アスペクト比4:3）

64型スクリーン ELPSC31
携帯型マグネットスクリーンです。（アスペクト比4:3）

50型スクリーン ELPSC32/ES1000
持ち運びに便利なコンパクトスクリーンです。（アスペクト比4:3）

ケーブル

コンピューターケーブル ELPKC02 （ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用1.8m）
コンピューターケーブル ELPKC09 （ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 3m）
コンピューターケーブル ELPKC10 （ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 20m）
Computer端子に接続するときに使います。

ワイヤードリモコンケーブル ELPKC28 （EB-735Fi/EB-725Wi）
インタラクティブ機能に対応した複数台のプロジェクターを接続するためのケーブルです。

USB延長ケーブル ELPKC31
USBケーブルの長さが足りないときに、USBケーブルに接続して延長します。

設置用金具

セッティングプレート ELPMB62
壁に取り付けるときに使います。

天吊金具 ELPMB23
天井に取り付けるときに使います。

パイプ450（450mm） ELPFP13
パイプ700（700mm） ELPFP14
高天井および化粧天井に取り付けるときに使います。

テーブル投写金具 ELPMB29 （EB-735Fi/EB-725Wi）
机に取り付けるときに使います。

アタッチメントプレート ELPPT06S
本機に天吊り金具を取り付けるときに使います。

タッチユニット取り付け金具 **ELPMB63（EB-735Fi/EB-725Wi）**
タッチユニットを壁に取り付けるときに使います。

天吊り設置には特別な技術が必要です。詳細はお買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

インタラクティブ用オプション

インタラクティブ機能は、EB-735Fi/EB-725Wiでのみ使用できます。

インタラクティブペン **ELPPN05A**
インタラクティブペン **ELPPN05B**
投写画面上で描画をするときや、コンピューター画面を操作するときに使います。

交換用ハードペン先 **ELPPS03**
交換用ソフトペン先 **ELPPS04**
インタラクティブペンの交換用ペン先です。

外付けオプション

書画カメラ **ELPDC21**
書画カメラ **ELPDC13**
書画カメラ **ELPDC07**
書籍やOHP原稿、スライドなどを投写するときに使います。

スピーカー **ELPSP02**
電源内蔵の外付けスピーカーです。

ワイヤレスマイク **ELPMC02（EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W）**
ケーブルで接続しないマイクです。

インターフェースボックス **ELPCB03**
本機を天井や壁に取り付けて使うときに、本機の操作を手元で行うために設置するリモコンです。

タッチユニット **ELPFT01（EB-735Fi/EB-725Wi）**
指を使ってタッチ操作をするときに取り付けます。

消耗品

エアフィルター **ELPAF60**
使用済みエアフィルターと交換します。

無線LAN用オプション

無線LANユニット **ELPAP11**
無線LAN接続で投写するときに使います。

使用可能な旧オプション品

下記のオプション品は本機でも使用できます。

設置用金具

セッティングプレート **ELPMB53**
セッティングプレート **ELPMB46**
セッティングプレート **ELPMB43**
セッティングプレート **ELPMB28**
壁に取り付けるときに使います。

インタラクティブ用オプション（**EB-735Fi/EB-725Wi**）

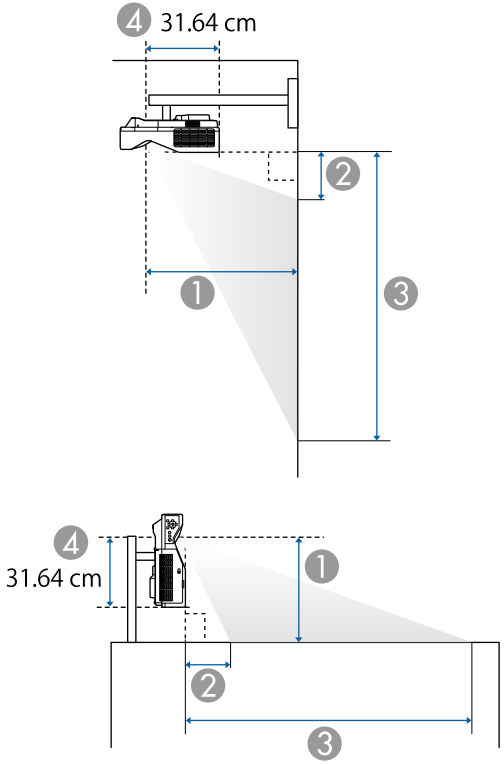
インタラクティブペン **ELPPN04A/B**
インタラクティブペン **ELPPN03A/B**
投写画面上でコンピューター画面の操作をするときに使います。

外付けオプション

書画カメラ **ELPDC20**
書画カメラ **ELPDC12**
書画カメラ **ELPDC11**
書画カメラ **ELPDC06**
書籍やOHP原稿、スライドなどを投写するときに使います。

インターフェースボックス **ELPCB02**
インターフェースボックス **ELPCB01**
本機を天井や壁に取り付けて使うときに、本機の操作を手元で行うために設置するリモコンです。

この表に従って、スクリーンからプロジェクターまでの距離を、投写映像の大きさに応じて決めます。



1. 投写距離（cm）
2. 本機からスクリーン上端までの長さ（壁掛け・天吊り・縦に設置する場合）（cm）
3. 本機からスクリーン下端までの長さ（壁掛け・天吊り・縦に設置する場合）（cm）
4. レンズ中心から本機の背面までの長さ（cm）

EB-755F/EB-750F/EB-735Fi

16:9スクリーンサイズ		1	2	3
		最短（ワイド）	最短（ワイド）	最短（ワイド）
65型	143.9 × 80.9	37.2	13.9	94.8
70型	155.0 × 87.2	40.2	15.4	102.6
75型	166.0 × 93.4	43.3	17.0	110.4
80型	177.1 × 99.6	46.3	18.5	118.2
85型	188.2 × 105.8	49.3	20.1	126.0
90型	199.2 × 112.1	52.3	21.7	133.7
100型	221.4 × 124.5	58.3	24.8	149.3
110型 *	243.5 × 137.0	64.3	27.9	164.9
120型 *	265.7 × 149.4	70.3	31.0	180.4

4:3スクリーンサイズ		1	2	3
		最短（ワイド）	最短（ワイド）	最短（ワイド）
54型	109.7 × 82.3	37.9	14.2	96.5
55型	111.8 × 83.8	38.6	14.6	98.4
60型	121.9 × 91.4	42.3	16.5	107.9
65型	132.1 × 99.1	46.0	18.4	117.5
70型	142.2 × 106.7	49.7	20.3	127.0
75型	152.4 × 114.3	53.3	22.2	136.5
80型	162.6 × 121.9	57.0	24.1	146.0
85型	172.7 × 129.5	60.7	26.0	155.6
90型	182.9 × 137.2	64.4	27.9	165.1

4:3スクリーンサイズ		❶	❷	❸
		最短（ワイド）	最短（ワイド）	最短（ワイド）
98型	199.1 × 149.4	70.3	31.0	180.3

16:10スクリーンサイズ		❶	❷	❸
		最短（ワイド）	最短（ワイド）	最短（ワイド）
65型	140.0 × 87.5	40.4	15.5	103.0
70型	150.8 × 94.2	43.7	17.2	111.4
75型	161.5 × 101.0	46.9	18.9	119.8
80型	172.3 × 107.7	50.2	20.6	128.3
85型	183.1 × 114.4	53.4	22.2	136.7
90型	193.9 × 121.2	56.7	23.9	145.1
100型	215.4 × 134.6	63.1	27.3	161.9
110型 *	236.9 × 148.1	69.6	30.6	178.7

16:6スクリーンサイズ		❶	❷	❸
		最短（ワイド）	最短（ワイド）	最短（ワイド）
60型	142.7 × 53.5	36.9	27.1	80.6
65型	154.6 × 58.0	40.1	29.9	87.9
70型	166.5 × 62.4	43.4	32.7	95.1
75型	178.4 × 66.9	46.6	35.4	102.3
80型	190.3 × 71.3	49.8	38.2	109.6
85型	202.2 × 75.8	53.1	41.0	116.8

16:6スクリーンサイズ		❶	❷	❸
		最短（ワイド）	最短（ワイド）	最短（ワイド）
90型	214.0 × 80.3	56.3	43.8	124.1
100型	237.8 × 89.2	62.7	49.4	138.6
110型	261.6 × 98.1	69.2	54.9	153.0

* EB-755F/EB-750Fのみ

EB-725Wi/EB-725W

16:10スクリーンサイズ		❶	❷	❸
		最短（ワイド）	最短（ワイド）	最短（ワイド）
65型	140.0 × 87.5	38.5	11.9	99.4
70型	150.8 × 94.2	41.6	13.3	107.6
75型	161.5 × 101.0	44.7	14.7	115.7
80型	172.3 × 107.7	47.7	16.1	123.8
85型	183.1 × 114.4	50.8	17.5	132.0
90型	193.9 × 121.2	53.9	18.9	140.1
100型	215.4 × 134.6	60.1	21.7	156.4
110型 *	236.9 × 148.1	66.3	24.5	172.6
120型 *	258.5 × 161.5	72.5	27.3	188.9

4:3スクリーンサイズ		❶	❷	❸
		最短（ワイド）	最短（ワイド）	最短（ワイド）
58型	117.9 × 88.4	38.9	12.1	100.5

4:3スクリーンサイズ		❶	❷	❸
		最短（ワイド）	最短（ワイド）	最短（ワイド）
60型	121.9 × 91.4	40.3	12.7	104.2
65型	132.1 × 99.1	43.8	14.3	113.4
70型	142.2 × 106.7	47.3	15.9	122.6
75型	152.4 × 114.3	50.8	17.5	131.8
80型	162.6 × 121.9	54.3	19.1	141.0
85型	172.7 × 129.5	57.8	20.7	150.2
90型	182.9 × 137.2	61.3	22.3	159.4
100型	203.2 × 152.4	68.3	25.4	177.8
106型 *	215.4 × 161.5	72.5	27.3	188.9

16:9スクリーンサイズ		❶	❷	❸
		最短（ワイド）	最短（ワイド）	最短（ワイド）
64型	141.7 × 79.7	39.0	16.6	96.3
65型	143.9 × 80.9	39.6	16.9	97.9
70型	155.0 × 87.2	42.8	18.7	105.9
75型	166.0 × 93.4	45.9	20.5	113.9
80型	177.1 × 99.6	49.1	22.3	121.9
85型	188.2 × 105.8	52.3	24.1	129.9
90型	199.2 × 112.1	55.5	25.9	137.9
100型	221.4 × 124.5	61.8	29.4	154.0
110型	243.5 × 137.0	68.2	33.0	170.0
116型 *	256.8 × 144.5	72.0	35.2	179.6

* EB-725Wのみ

入力信号の形式ごとのリフレッシュレートと解像度を示します。

PC

コンパチブルモード

Mode	Computer		HDMI			
	YCbCr	RGBHV	YCbCr			RGB
			4:2:0	4:2:2	4:4:4	
			8	8	8	8
VGA60		✓				✓
VGA72		✓				
VGA75		✓				
VGA85		✓				
SVGA60		✓				✓
SVGA72		✓				
SVGA75		✓				
SVGA85		✓				
XGA60		✓				✓
XGA70		✓				
XGA75		✓				
XGA85		✓				
WXGA60-1		✓				
WXGA60		✓				✓
WXGA75		✓				
WXGA85		✓				
WXGA60-3		✓				✓
WXGA+60		✓				✓

Mode	Computer		HDMI			
	YCbCr	RGBHV	YCbCr			RGB
			4:2:0	4:2:2	4:4:4	
			8	8	8	8
WXGA+75		✓				
WXGA+85		✓				
WXGA++		✓				✓
SXGA1_70		✓				
SXGA1_75		✓				
SXGA1_85		✓				
SXGA2_60		✓				✓
SXGA2_75		✓				
SXGA2_85		✓				
SXGA3_60		✓				✓
SXGA3_75		✓				
SXGA3_85		✓				
SXGA+60		✓				✓
SXGA+75		✓				
WSXGA+60		✓*				✓
UXGA60		✓				✓
1920×1080_50		✓				✓
1920×1080_60		✓				✓
WUXGA60 (Reduced Blanking)		✓				✓
QXGA						✓
WQHD						✓

Mode	Computer		HDMI			
	YCbCr	RGBHV	YCbCr			RGB
			4:2:0	4:2:2	4:4:4	
			8	8	8	8
WQXGA (Reduced Blanking)						✓

* ［映像調整］メニューの［入力解像度］で［ワイド］を選択しているときのみ

モード情報

Mode	解像度 (dot)		水平同期信号 (KHz)	リフレッシュレート（Hz）	ドットクロック（MHz）	走査方式
VGA60	640	480	31.47	60	25.175	Progressive
VGA72	640	480	37.86	72	31.500	Progressive
VGA75	640	480	37.50	75	31.500	Progressive
VGA85	640	480	43.27	85	36.000	Progressive
SVGA60	800	600	37.88	60	40.000	Progressive
SVGA72	800	600	48.08	72	50.000	Progressive
SVGA75	800	600	46.88	75	49.500	Progressive
SVGA85	800	600	53.67	85	56.250	Progressive
XGA60	1024	768	48.36	60	65.000	Progressive
XGA70	1024	768	56.48	70	75.000	Progressive
XGA75	1024	768	60.02	75	78.750	Progressive
XGA85	1024	768	68.68	85	94.500	Progressive
WXGA60-1	1280	768	47.78	60	79.500	Progressive
WXGA60	1280	800	49.70	60	83.500	Progressive

Mode	解像度 (dot)		水平同期信号 (KHz)	リフレッシュレート（Hz）	ドットクロック（MHz）	走査方式
WXGA75	1280	800	62.80	75	106.500	Progressive
WXGA85	1280	800	71.55	85	122.500	Progressive
WXGA60-3	1366	768	47.71	60	85.500	Progressive
WXGA+60	1440	900	55.94	60	106.500	Progressive
WXGA+75	1440	900	70.64	75	136.750	Progressive
WXGA+85	1440	900	80.43	85	157.000	Progressive
WXGA++	1600	900	60.00	60	108.000	Progressive
SXGA1_70	1152	864	63.85	70	94.500	Progressive
SXGA1_75	1152	864	67.50	75	108.000	Progressive
SXGA1_85	1152	864	77.09	85	121.500	Progressive
SXGA2_60	1280	960	60.00	60	108.000	Progressive
SXGA2_75	1280	960	75.00	75	126.000	Progressive
SXGA2_85	1280	960	85.94	85	148.500	Progressive
SXGA3_60	1280	1024	63.98	60	108.000	Progressive
SXGA3_75	1280	1024	79.98	75	135.000	Progressive
SXGA3_85	1280	1024	91.15	85	157.500	Progressive
SXGA+60	1400	1050	65.32	60	121.750	Progressive
SXGA+75	1400	1050	82.28	75	156.000	Progressive
WSXGA+60	1680	1050	65.29	60	146.250	Progressive
UXGA60	1600	1200	75.00	60	162.000	Progressive
1920×1080_50	1920	1080	56.25	50	148.500	Progressive
1920×1080_60	1920	1080	67.50	60	148.500	Progressive

Mode	解像度 (dot)		水平同期信号 (KHz)	リフレッシュレート（Hz）	ドットクロック（MHz）	走査方式
WUXGA60 (Reduced Blanking)	1920	1200	74.04	60	154.000	Progressive
QXGA	2048	1536	95.45	60	267.250	Progressive
WQHD	2560	1440	88.79	60	241.500	Progressive
WQXGA (Reduced Blanking)	2560	1600	98.71	60	268.500	Progressive

Video

コンパチブルモード

Mode	解像度 (dot)		水平同期信号 (KHz)	リフレッシュレート（Hz）	ドットクロック（MHz）	走査方式
NTSC	720	480	15.73	60	13.500	Interlace
NTSC4.43	720	480	15.73	60	13.500	Interlace
PAL	720	576	15.63	50	13.500	Interlace
M-PAL	720	576	15.73	60	13.500	Interlace
N-PAL	720	576	15.63	50	13.500	Interlace
PAL60	720	576	15.73	60	13.500	Interlace
SECAM	720	576	15.63	50	13.500	Interlace

SD

コンパチブルモード

Mode	Computer		HDMI			
	YCbCr	RGBHV	YCbCr			RGB
			4:2:0	4:2:2	4:4:4	
			8	8	8	8
SDTV (480i)				✓	✓	✓
SDTV (576i)				✓	✓	✓
SDTV (480p)		✓		✓	✓	✓
SDTV (576p)		✓		✓	✓	✓

モード情報

Mode	解像度 (dot)		水平同期信号 (KHz)	リフレッシュレート（Hz）	ドットクロック（MHz）	走査方式
SDTV (480i)	720	480	15.73	59.94	13.500	Interlace
SDTV (576i)	720	576	15.63	50	13.500	Interlace
SDTV (480p)	720	480	31.47	59.94	27.000	Progressive
SDTV (576p)	720	576	31.25	50	27.000	Progressive

HD

コンパチブルモード

Mode	Computer		HDMI			
	YCbCr	RGBHV	YCbCr			RGB
			4:2:0	4:2:2	4:4:4	
			8	8	8	8
HDTV (720p)_50		✓		✓	✓	✓

Mode	Computer		HDMI			
	YCbCr	RGBHV	YCbCr			RGB
			4:2:0	4:2:2	4:4:4	
			8	8	8	8
HDTV (720p)_59.94		✓		✓	✓	✓
HDTV (720p)_60		✓		✓	✓	✓
HDTV (1080i)_50				✓	✓	✓
HDTV (1080i)_59.94				✓	✓	✓
HDTV (1080i)_60				✓	✓	✓
HDTV (1080p)_23.98				✓	✓	✓
HDTV (1080p)_24				✓	✓	✓
HDTV (1080p)_29.97				✓	✓	✓
HDTV (1080p)_30				✓	✓	✓
HDTV (1080p)_50		✓		✓	✓	✓
HDTV (1080p)_59.94		✓		✓	✓	✓
HDTV (1080p)_60		✓		✓	✓	✓

モード情報

Mode	解像度 (dot)		水平同期信号 (KHz)	リフレッシュレート（Hz）	ドットクロック（MHz）	走査方式
HDTV (720p)_50	1280	720	37.50	50	74.250	Progressive
HDTV (720p)_59.94	1280	720	44.96	59.94	74.176	Progressive
HDTV (720p)_60	1280	720	45.00	60	74.250	Progressive
HDTV (1080i)_50	1920	1080	28.13	50	74.250	Interlace
HDTV (1080i)_59.94	1920	1080	33.72	59.94	74.176	Interlace
HDTV (1080i)_60	1920	1080	33.75	60	74.250	Interlace
HDTV (1080p)_23.98	1920	1080	26.97	23.98	74.176	Progressive
HDTV (1080p)_24	1920	1080	27.00	24	74.250	Progressive
HDTV (1080p)_29.97	1920	1080	33.72	29.97	74.176	Progressive
HDTV (1080p)_30	1920	1080	33.75	30	74.250	Progressive
HDTV (1080p)_50	1920	1080	56.25	50	148.500	Progressive
HDTV (1080p)_59.94	1920	1080	67.43	59.94	148.352	Progressive
HDTV (1080p)_60	1920	1080	67.50	60	148.500	Progressive

4K

コンパチブルモード

Mode	HDMI			
	YCbCr			RGB
	4:2:0	4:2:2	4:4:4	
	8	8	8	8
4K (3840×2160)_23.98		✓	✓	✓
4K (3840×2160)_24		✓	✓	✓
4K (3840×2160)_25		✓	✓	✓
4K (3840×2160)_29.97		✓	✓	✓
4K (3840×2160)_30		✓	✓	✓
4K (3840×2160)_50	✓			
4K (3840×2160)_59.94	✓			
4K (3840×2160)_60	✓			
4K(4096×2160) (SMPTE)_23.98		✓	✓	✓
4K(4096×2160) (SMPTE)_24		✓	✓	✓
4K(4096×2160) (SMPTE)_50	✓			
4K(4096×2160) (SMPTE)_59.94	✓			
4K(4096×2160) (SMPTE)_60	✓			

モード情報

Mode	解像度 (dot)		水平同期信号 (KHz)	リフレッシュレート（Hz）	ドットクロック（MHz）	走査方式
4K (3840×2160)_23.98	3840	2160	53.95	23.98	296.703	Progressive
4K (3840×2160)_24	3840	2160	54.00	24	297.000	Progressive
4K (3840×2160)_25	3840	2160	56.25	25	297.000	Progressive
4K (3840×2160)_29.97	3840	2160	67.43	29.97	296.703	Progressive
4K (3840×2160)_30	3840	2160	67.50	30	297.000	Progressive
4K (3840×2160)_50	3840	2160	112.50	50	297.000	Progressive
4K (3840×2160)_59.94	3840	2160	134.87	59.94	296.703	Progressive
4K (3840×2160)_60	3840	2160	135.00	60	297.000	Progressive
4K(4096×2160) (SMPTE)_23.98	4096	2160	53.95	23.98	296.703	Progressive
4K(4096×2160) (SMPTE)_24	4096	2160	54.00	24	297.000	Progressive
4K(4096×2160) (SMPTE)_50	4096	2160	112.50	50	297.000	Progressive
4K(4096×2160) (SMPTE)_59.94	4096	2160	134.87	59.94	296.703	Progressive

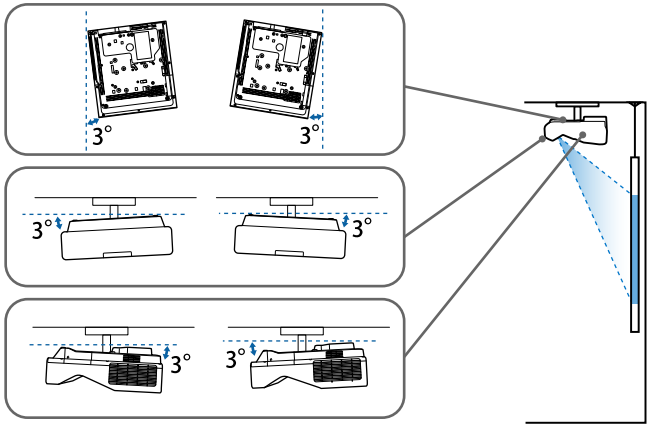
Mode	解像度 (dot)		水平同期信号 (KHz)	リフレッシュレート（Hz）	ドットクロック（MHz）	走査方式
4K(4096×2160)(SMPTE)_60	4096	2160	135.00	60	297.000	Progressive

商品名	EB-755F/EB-750F/EB-735Fi/EB-725Wi/EB-725W
外形サイズ	幅356 × 高さ133 × 奥行き395 mm（突起部を含まず）
液晶パネルサイズ	**EB-755F/EB-750F/EB-735Fi**： 0.61型 **EB-725Wi/EB-725W**： 0.59型
表示方式	ポリシリコンTFT アクティブマトリクス
解像度	**EB-755F/EB-750F/EB-735Fi**： 2,073,600ドット 1080p（横1920 × 縦1080ドット） × 3 **EB-725Wi/EB-725W**： 1,024,000ドット WXGA（横1280 × 縦800ドット） × 3
フォーカス調整	手動
ズーム調整	1.0 - 1.35（デジタル）
光源	レーザーダイオード
光源出力	最大81 W
波長	449 - 461nm
光源寿命 *	光源モードがノーマルまたは静音の場合： 約20,000時間 光源モードがロングの場合： 約30,000時間
音声最大出力	16 W
スピーカー	1個
電源	100-240V AC±10% 50/60Hz 2.7 - 1.2 A
定格消費電力（100-120Vエリア）	光源モードがノーマルまたはカスタムの場合： 267 W 光源モードが静音またはロングの場合：206 W
定格消費電力（220-240Vエリア）	光源モードがノーマルまたはカスタムの場合： 255 W 光源モードが静音またはロングの場合：197 W
待機時消費電力	通信オン：2.0 W 通信オフ：0.5 W
動作高度	標高 0〜3,048 m
動作温度範囲（1台で使用時）**	標高0〜2,286 m：0〜+40°C（結露しないこと） 標高2,287〜3,048 m：0〜+35°C（湿度20〜80%、結露しないこと）
動作温度範囲（複数台使用時）**	標高 0〜2,286 m：0〜+35°C（結露しないこと） 標高2,287〜3,048 m：0〜+30°C（湿度20〜80%、結露しないこと）
保存温度範囲	-10〜+60°C（湿度10〜90%、結露しないこと）
質量	**EB-755F/EB-750F/EB-725W**： 約5.7 kg **EB-735Fi/EB-725Wi**： 約5.8 kg

* 光源の明るさが半減するまでの目安時間です。（大気中に含まれる粒子物質が0.04〜0.2mg/m3の環境下での使用を想定しています。使用条件や使用環境によって目安時間は変動します。）

** 使用する環境の温度が高くなったときは、光源の明るさを自動的に落とします。（標高0〜2,286mでは約35℃、標高2,287〜3,048mでは約30℃を目安としますが、使用環境等によって異なります。）

インタラクティブ機能を使うときの傾斜角度（**EB-735Fi/EB-725Wi**）



プロジェクターの設置位置に関わらず、3°以上傾けてお使いになると、故障や事故の原因となります。

インタラクティブ機能を使わないときの傾斜角度

インタラクティブ機能を使わない、またはお使いのプロジェクターにインタラクティブ機能がない場合は、さまざまな角度で映像を投写できます。垂直、水平方向ともに設置角度に制限はありません。

関連項目

- 「接続端子」 p.322

接続端子

EB-755F/EB-750F

Computer1端子	1系統	ミニD-Sub 15pin（メス）
Computer2/Monitor Out端子	1系統	ミニD-Sub 15pin（メス）
Video端子	1系統	RCAピンジャック
HDMI端子	3系統	HDMI（音声はPCMにのみ対応）
Audio端子	3系統	ステレオミニピンジャック
Audio Out端子	1系統	ステレオミニピンジャック
RS-232C端子	1系統	ミニD-Sub 9pin（オス）
USB-A端子	2系統	USBコネクター（Aタイプ）
USB-B端子	1系統	USBコネクター（Bタイプ）
LAN端子	1系統	RJ-45

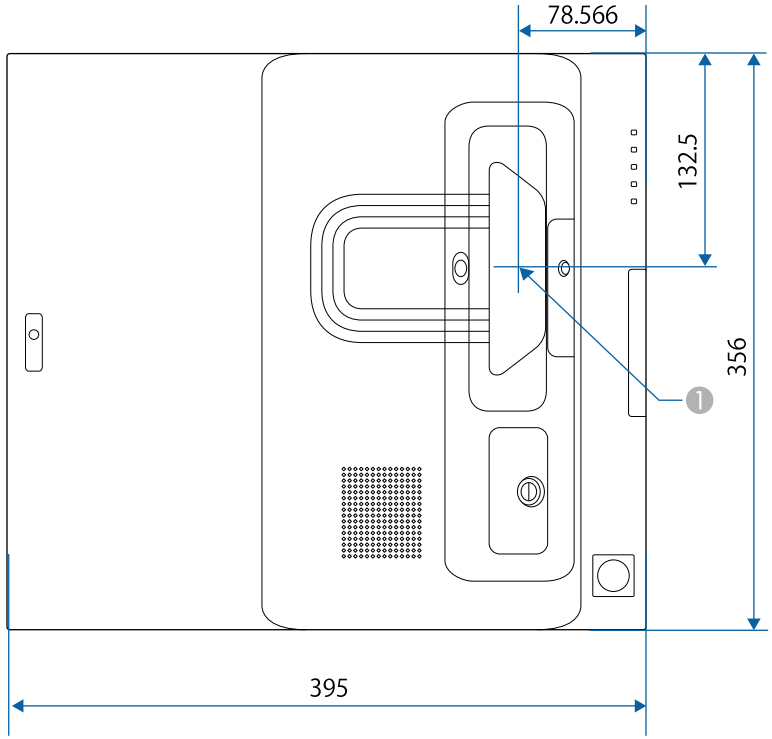
EB-735Fi/EB-725Wi

Computer1端子	1系統	ミニD-Sub 15pin（メス）
Computer2/Monitor Out端子	1系統	ミニD-Sub 15pin（メス）
Video端子	1系統	RCAピンジャック
HDMI端子	3系統	HDMI（音声はPCMにのみ対応）
Audio端子	3系統	ステレオミニピンジャック
Audio Out端子	1系統	ステレオミニピンジャック
Mic端子	1系統	ステレオミニピンジャック
RS-232C端子	1系統	ミニD-Sub 9pin（オス）
SYNC端子	2系統	ステレオミニピンジャック
TCH端子	1系統	ミニDIN 8pin
USB-A端子	2系統	USBコネクター（Aタイプ）
USB-B端子	2系統	USBコネクター（Bタイプ）
LAN端子	1系統	RJ-45

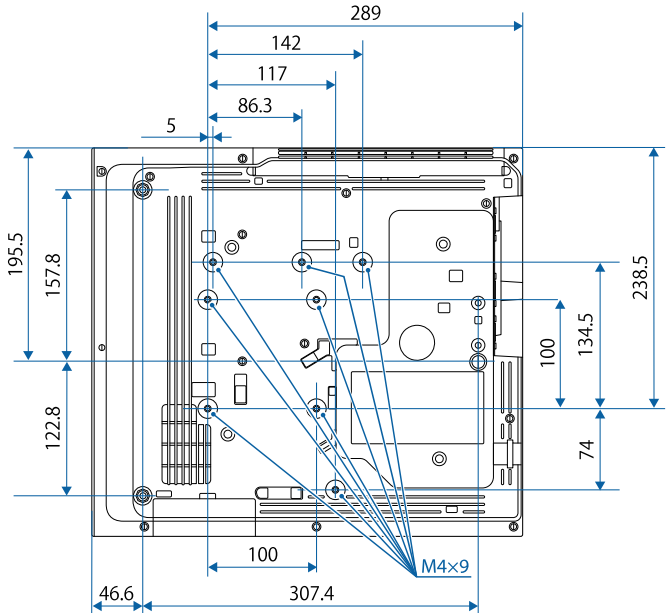
EB-725W

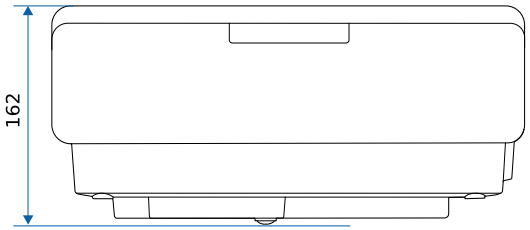
Computer1端子	1系統	ミニD-Sub 15pin（メス）
Computer2/Monitor Out端子	1系統	ミニD-Sub 15pin（メス）
Video端子	1系統	RCAピンジャック
HDMI端子	3系統	HDMI（音声はPCMにのみ対応）
Audio端子	3系統	ステレオミニピンジャック
Audio Out端子	1系統	ステレオミニピンジャック
Mic端子	1系統	ステレオミニピンジャック
RS-232C端子	1系統	ミニD-Sub 9pin（オス）
USB-A端子	2系統	USBコネクター（Aタイプ）
USB-B端子	1系統	USBコネクター（Bタイプ）
LAN端子	1系統	RJ-45

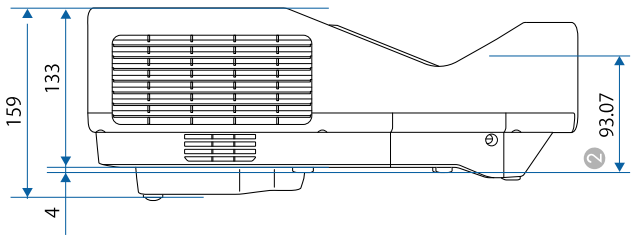
- USB-A端子とUSB-B端子はUSB2.0に対応しています。ただし、USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。
- USB-B端子はUSB 1.1には対応していません。


78.566
132.5
356
395
1

1 投写レンズの中心


289
142
117
86.3
5
195.5
157.8
122.8
238.5
134.5
100
74
100
M4×9
46.6
307.4


162


159
133
4
93.07
2

❷ 投写レンズの中心から天吊り金具固定部まで

単位： mm

USB Displayのシステム要件

USB Displayは以下の条件を満たすコンピューターで使用できます。

条件	Windows	Mac
OS	Windows 7 • Ultimate（32/64ビット） • Enterprise（32/64ビット） • Professional（32/64ビット） • Home Premium（32/64ビット） • Home Basic（32ビット） • Starter（32ビット）	OS X • 10.11.x（64ビット）
	Windows 8.1 • Windows 8.1（32/64ビット） • Windows 8.1 Pro（32/64ビット） • Windows 8.1 Enterprise（32/64ビット）	macOS • 10.12.x（64ビット） • 10.13.x（64ビット） • 10.14.x（64ビット） • 10.15.x（64ビット）
	Windows 10 • Windows 10 Home（32/64ビット） • Windows 10 Pro（32/64ビット） • Windows 10 Enterprise（32/64ビット）	
CPU	Intel Core2Duo 以上 （推奨：Intel Core i3以上）	Intel Core2Duo 以上 （推奨：Intel Core i5以上）
メモリー容量	2 GB以上 （推奨：4 GB以上）	

条件	Windows	Mac
ハードディスク空き容量	20 MB 以上	
ディスプレイ	640 × 480から1,920 × 1,200までの解像度 16ビットカラー以上	

マウス操作機能を使用するには、お使いのMacにEasy Interactive Driverをインストールする必要があります。動作条件を確認してください。

Easy Interactive DriverのインストールはEB-735Fi/EB-725Wiをお使いの場合のみ必要です。

条件	Mac
OS	macOS • 10.12.x（64ビット） • 10.13.x（64ビット） • 10.14.x（64ビット） • 10.15.x（64ビット）
CPU	Core2 Duo 1.2 GHz以上 （推奨：Core i5以上）
メモリー容量	2 GB以上 （推奨：4 GB以上）
ハードディスク空き容量	100 MB以上
ディスプレイ	XGA（1024 x 768）以上、WUXGA（1920 x 1200）以下の解像度 16ビットカラー以上

製品上にシンボルマークが表示されている場合は、それぞれ以下の意味を持っています。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
❶		IEC60417 No. 5007	電源ON 電源への接続を示す。
❷		IEC60417 No. 5008	電源OFF 電源からの切り離しを示す。
❸		IEC60417 No. 5009	スタンバイ 機器・装置の一部だけを通電状態にし、機器・装置を待機状態にするためのスイッチまたはその位置を示す。
❹		ISO7000 No. 0434B, IEC3864-B3.1	注意 製品取扱時の全般的な注意を示す。
❺		IEC60417 No. 5041	注意（高温） 高温の可能性があり、不注意に触れない方がよい箇所であることを示す。
❻		IEC60417 No. 6042 ISO3864-B3.6	注意（感電危険） 感電（電撃）の危険性がある機器・装置であることを示す。
❼		IEC60417 No. 5957	屋内専用 屋内使用専用を目的とする電気機器・装置であることを表す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
❽		IEC60417 No. 5926	直流電源コネクタ極性 直流電源を接続してもよい機器のプラスおよびマイナス電極の接続を示す。
❾		—	No. 8と同じ
❿		IEC60417 No. 5001B	電池（一般） 電池を電源とする機器・装置に使用する。電池装着部分のカバーまたは接続端子を示す。
⓫		IEC60417 No. 5002	電池の向き 電池ケース本体および電池ケース内での向きを示す。
⓬		—	No. 11と同じ
⓭		IEC60417 No. 5019	保護接地 障害発生時の電撃（感電）保護用外部導体への接続端子または保護接地極の端子であることを示す。
⓮		IEC60417 No. 5017	アース No. 13の使用が明示的に要請されない場合の接地（アース）端子であることを示す。
⓯		IEC60417 No. 5032	交流 交流専用の機器・装置であり、交流に対応する端子であることを示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
⑯		IEC60417 No. 5031	直流 直流専用の機器・装置であり、直流に対応する端子であることを示す。
⑰		IEC60417 No. 5172	クラスII機器 JIS C 9335-1/JIS C 8105-1でクラスII機器と規定した安全性要求事項に適合する機器・装置であることを示す。
⑱		ISO 3864	一般的な禁止 特定しない一般的な禁止通告を示す。
⑲		ISO 3864	接触禁止 機器の特定の場所に触れることによって傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。
⑳		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止を示す。
㉑		—	プロジェクターの上に物を置いてはならないことを示す。
㉒		ISO3864 IEC60825-1	注意（レーザー放射） 製品上に注意が必要なレベルのレーザー放射部があることを示す。
㉓		ISO 3864	分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
㉔		IEC60417 No. 5266	待機、一部待機 機器・装置の一部が準備状態であることを示す。
㉕		ISO3864 IEC60417 No. 5057	注意（可動部品） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
㉖		IEC60417 No. 6056	注意（可動ファンのブレード） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
㉗		IEC60417 No. 6043	注意（鋭利な角） 保護規定上、鋭利な角には触れてはいけないことを指示する。
㉘		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗き込み禁止。
㉙		ISO7010 No. W027 ISO 3864	警告、光放射（UV、可視光、IRなど） 光放射の近くにいるときは、目や肌に負傷を与えないように注意してください。
㉚		IEC60417 No. 5109	居住区域使用禁止 居住区域での使用に適さない電気機器・装置であることを示す。

以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

⚠ 警告

- 本機のケースを開けないでください。内部に高出力レーザー製品が組み込まれています。
- 本機の光源を直接見ないでください。強い光が視力障害などの原因となります。

⚠ 注意

本機を廃棄する場合は分解しないでください。国や地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

本機の光源はレーザーを使用しています。レーザーには以下のような特性があります。

- 使用環境によって、光源の輝度が低下します。温度が高くなるほど、輝度の低下が大きくなります。
- 使用時間の経過にともない、光源の輝度が低下します。使用時間と輝度低下の関係は明るさ設定で変更できます。

関連項目

- 「レーザー警告ラベル」 p.330

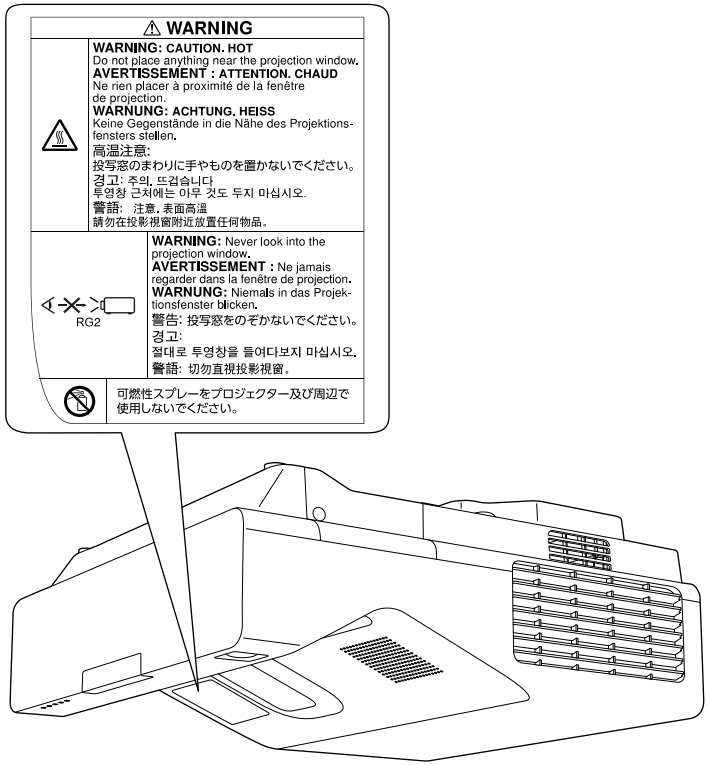
レーザー警告ラベル

本機の内部および側面にはレーザー警告ラベルが貼られています。

本製品は JIS C 6802:2014に基づくクラス1レーザー製品です。

以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

投写中は、光源から放射されるレーザービームをのぞかないでください。（RG2 IEC/EN 62471-5:2015に準拠）



IEC 62471-5: Ed. 1.0で定義されたリスクグループ2 LIPとしての準拠を除き、レーザー製品のFDA性能基準に準拠しています。詳細については、2019年5月8日付のレーザー通知No.57を参照してください。

本書で使用している用語で、本文中に説明がないものや難しいものを簡単に説明します。詳細は市販の書籍などでご確認ください。

AMX Device Discovery	AMX Device Discoveryとは、AMX社のコントロールシステムとその対象機器の構成を容易にする、AMX社の提唱する技術です。 エプソンでは、その技術のプロトコルを導入して、そのプロトコル機能を有効（ON）にできる設定を用意しました。 詳細に関しては、AMX社のWebサイトを参照してください。 URL：http://www.amx.com/
アスペクト比	画面の横と縦の比率をいいます。 横：縦の比率が16:9の、HDTVなどの画面をワイド画面といいます。 SDTVや、一般的なコンピューターのディスプレイのアスペクト比は4:3です。
コンポジットビデオ	映像信号の輝度信号や色信号を、1本のケーブルで伝送する方式です。
コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がはっきり見えたり、ソフトに見えたりすることです。この調整をコントラストの調整といいます。
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocolの略で、ネットワークに接続する機器に、IPアドレスを自動的に割り当てるプロトコルのことです。
DICOM	Digital Imaging and Communication in Medicineの略称です。 医用画像の画像規格および通信プロトコルを定義した世界標準規格です。
ゲートウェイアドレス	サブネットマスクによって分割したネットワーク（サブネット）を超えて通信するためのサーバー（ルーター）のことです。

HDCP	High-bandwidth Digital Content Protectionの略です。 DVIやHDMI端子を経由して送受信するデジタル信号を暗号化し、不正なコピーを防止する著作権保護技術です。 本機のHDMI端子はHDCPに対応しているため、HDCP技術で保護されたデジタル映像を投写できます。 ただし、HDCPの規格変更等が行われたときは、変更後の規格で保護されたデジタル映像を投写できなくなる場合があります。
HDMI™	High Definition Multimedia Interfaceの略で、デジタル家電やコンピューター向けの規格です。 HD映像とマルチチャンネルオーディオ信号をデジタル伝送できます。 デジタル信号を圧縮せず高品質のまま転送できます。デジタル信号の暗号化機能もあります。
HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 • 垂直解像度720p、1080i以上（pはプログレッシブ走査、iはインターレース走査） • 画面のアスペクト比は16：9
インフラストラクチャーモード	無線LANの通信方式の一つで、各機器がアクセスポイントを経由して通信を行います。
インターレース	1つの画面を作り出す情報を上から下へ1つ飛ばしに伝送します。 1フレームの表示が1ラインおきとなるため、ちらつき（フリッカー）が出やすくなります。
IPアドレス	ネットワークに接続されたコンピューターを識別するための数字のことです。
プログレッシブ	1つの画面を作り出す情報を一度で映し出して1フレーム分の映像を表示します。 そのため走査線の本数が同じでもインターレースと比べて時間あたりの情報量が2倍になるためちらつきが少ない映像になります。

リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。 そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。 その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ（Hz）で表します。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、HDTVの条件を満たさない標準テレビ放送のことです。
SNMP	Simple Network Management Protocolの略で、TCP/IPネットワークにおいてルーターやコンピューターなどネットワークに接続された通信機器をネットワーク経由で監視・制御するためのプロトコルです。
sRGB	各画像装置が表現する色をコンピューターのオペレーティングシステム（OS）やインターネットで簡単に扱うために規定された、色空間に関する国際標準です。接続している機器にsRGBモードがある場合、本機と接続機器の両方ともsRGBに設定します。
SSID	SSIDは、無線LANの環境で相手と接続するための識別データです。SSIDが一致している機器同士で無線通信できます。
サブネットマスク	IPアドレスから、分割したネットワーク（サブネット）のネットワークアドレスに使用するビット数を定義する数値のことです。
SVGA	画面サイズの規格で、横800ドット × 縦600ドットのものを呼びます。
SXGA	画面サイズの規格で、横1,280ドット × 縦1,024ドットのものを呼びます。

同期	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。 その周波数にプロジェクターの周波数を合わせないと、きれいな映像になりません。 信号の位相（山のずれ）を合わせることを「同期を合わせる」といいます。 同期が合っていないと映像にちらつき、ぼやけ、横方向のノイズが出ます。
トラッキング	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。 その周波数にプロジェクターの周波数を合わせないと、きれいな映像になりません。 信号の周波数（山の数）を合わせることを「トラッキングを合わせる」といいます。 トラッキングが合っていないと映像に幅広の縦の縞模様が出ます。
トラップIPアドレス	SNMPで異常を通知する場合の、通知先のコンピューターのIPアドレスのことです。
VGA	画面サイズの規格で、横640ドット × 縦480ドットのものを呼びます。
XGA	画面サイズの規格で、横1,024ドット × 縦768ドットのものを呼びます。
WXGA	画面サイズの規格で、横1,280ドット × 縦800ドットのものを呼びます。
WUXGA	画面サイズの規格で、横1,920ドット × 縦1,200ドットのものを呼びます。

本機をお使いの際の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

関連項目

- 「使用限定について」 p.333
- 「本機を日本国外へ持ち出す場合の注意」 p.333
- 「瞬低（瞬時電圧低下）基準について」 p.333
- 「JIS C 61000-3-2適合品」 p.333
- 「表記について」 p.333
- 「商標について」 p.334
- 「ご注意」 p.334
- 「著作権について」 p.335

使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認のうえ、ご判断ください。

本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

- 日本国内向けの本製品を海外で利用した場合は、保証の対象外となります。国内で販売する本製品は、日本国内使用を意図した安全規格基準のみ対応しているため、日本国以外でのご使用は違法となる場合があります。また、国や地域によっては電波使用制限があるため、ネットワーク機能を海外で使った場合、罰せられることがあります。
- 電源コードは日本国内向けの電源仕様に基づき同梱されています。本機を日本国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源コードを現地にてお求めください。

瞬低（瞬時電圧低下）基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。 電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお薦めします。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

表記について

- Microsoft® Windows® 7 operating system
- Microsoft® Windows® 8.1 operating system
- Microsoft® Windows® 10 operating system
- Microsoft® Windows Server® 2012 operating system
- Microsoft® Windows Server® 2016 operating system

本書中では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「Windows 7」、「Windows 8.1」、「Windows 10」、「Windows Server 2012」、「Windows Server 2016」と表記しています。また、これらを総称する場合は「Windows」と表記します。

- OS X 10.11.x
- macOS 10.12.x
- macOS 10.13.x
- macOS 10.14.x
- macOS 10.15.x

本書中では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「OS X 10.11.x」、「macOS 10.12.x」、「macOS 10.13.x」、「macOS 10.14.x」、「macOS 10.15.x」と表記しています。またこれらを総称する場合は「Mac」と表記します。

商標について

「EPSON」はセイコーエプソン株式会社の登録商標です。「EXCEED YOUR VISION」およびそのロゴはセイコーエプソン株式会社の登録商標または商標です。

Mac、OS X、macOSは、Apple Inc.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows Serverは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標、または登録商標です。

Wi-Fi™, WPA2™, WPA3™、Miracast™はWi-Fi Alliance®の登録商標です。

App Storeは、Apple Inc.のサービスマークです。

Chrome、Chromebook、Google PlayはGoogle LLC.の商標です。

HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia InterfaceはHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標、または登録商標です。

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

PJLinkは、日本、米国、その他の国や地域における商標、または登録商標です。

Foxit PDF SDK Copyright ©2011, Foxit Software Company
www.foxitsoftware.com, All rights reserved.

Crestron®、Crestron Connected®、Crestron Fusion®、Crestron Control®、およびCrestron RoomView®は、Crestron Electronics, Inc.の登録商標です。

Art-Net™ Designed by and Copyright Artistic Licence Holdings Ltd.

UbuntuとCanonicalは、Canonical Ltdの登録商標です。

Intel®は、米国およびその他の国におけるIntel Corporationの登録商標です。

Eneloop®はパナソニックグループの登録商標です。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

ご注意

(1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。

(2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。

(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

(5) 本製品がお客様により不適当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者(「お問い合わせ先」参照)以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

(6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

(7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

著作権について

本書の内容は予告なく変更することがあります。

© 2020 Seiko Epson Corporation

2020.5 413960700JA